

授 業 概 要

平成27年度

群馬医療福祉大学

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

目 次

授 業 内 容

基礎教養科目

【30回】

韓国語Ⅰ	2
韓国語Ⅱ	3
基礎演習Ⅰ	4
基礎演習Ⅱ	6
情報処理演習	8
スポーツ及びレクリエーション実技	10
専門演習Ⅰ	12
専門演習Ⅱ	14
中国語Ⅰ	16
中国語Ⅱ	17
ボランティア活動Ⅰ	18
ボランティア活動Ⅱ(社会福祉専攻)	20
ボランティア活動Ⅱ(子ども専攻)	22
レクリエーション活動援助法	24
レクリエーション活動援助法	26

【15回】

英会話	28
英語Ⅰ	29
英語Ⅱ	30
英語Ⅱ	31
英語Ⅲ	32
英語Ⅳ	33
教育原理(社会福祉専攻)	34
教育原理(子ども専攻)	35
経済学	36
健康論	37
児童文学	38
社会理論と社会システム	39
生涯学習概論	40
心理学的理論と心理的支援	41
政治学Ⅰ(世界と日本の関わり)	42
政治学Ⅱ(世界と日本の関わり)	43
世界史	44
地理学	45

哲学	46
道徳教育研究	47
読書指導と文芸	48
特設科目・論語	49
日本国憲法	50
日本史Ⅰ	51
日本史Ⅱ	52
人間と宗教	53
福祉情報処理	54
ボランティア活動Ⅲ	55
ボランティア活動Ⅳ	56
マスメディア論	57
倫理学	58

専門科目

【30回】

アクティビティ・サービス援助技術	60
介護技術Ⅰ	62
介護技術Ⅱ	64
教育実習事前事後指導(中・高)2年	66
教育実習事前事後指導(中・高)3年	68
教育実習事前・事後指導(特支)	70
教員採用試験対策講座(小学校)	72
現代社会と福祉	74
公民科教育法	76
高齢者に対する支援と介護保険	78
子どもの保健Ⅰ	80
児童文化(演習)	82
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	84
社会科教育法Ⅰ	86
社会科教育法Ⅱ	88
社会福祉特講Ⅱ	90
社会福祉特講Ⅲ	92
社会福祉特講Ⅳ	94
社会保障	96
障害者教育総論	98
小学校教科教育法(音楽)	100

小学校教科教育法(家庭)	102
小学校教科教育法(国語)	104
小学校教科教育法(算数)	106
小学校教科教育法(社会)	108
小学校教科教育法(図工)	110
小学校教科教育法(生活)	112
小学校教科教育法(体育)	114
小学校教科教育法(理科)	116
初等教育実習事前・事後指導(3年)	118
心理学実験実習Ⅰ	120
心理統計学	122
精神医学	124
精神保健福祉に関する制度とサービス	126
精神保健の課題と支援	128
精神保健福祉援助演習基礎	130
精神保健福祉援助演習専門	132
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	134
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	136
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	138
相談援助演習Ⅱ	140
相談援助演習Ⅲ	142
相談援助実習指導Ⅱ	144
相談援助の基盤と専門職	146
相談援助の理論と方法Ⅰ	148
相談援助の理論と方法Ⅱ	150
乳児保育	152
発達心理学 a	154
福祉科教育法	156
福祉サービスの組織と経営	158
保育原理	160
保育実習指導Ⅰ(施設)	162
保育実習指導Ⅰ(保育所)	164
保育の表現技術Ⅰ(音楽)	166
保育の表現技術Ⅰ(図画工作①)	168
保育の表現技術Ⅰ(図画工作②)	169
保育の表現技術Ⅱ(幼児美術指導法)	170

保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）	172
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）	174
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）	176

【15回】

LD 等教育総論	178
音楽概論	179
カウンセリング（社会福祉専攻）	180
カウンセリング（子ども専攻）	181
学習指導と学校図書館	182
学習心理学	183
学校経営と学校図書館	184
学校図書館メディアの構成	185
家庭科概論	186
家庭支援論	187
教育課程論	188
教育実習事前事後指導（幼稚園）	189
教育社会学	190
教育心理学	191
教育相談論	192
教育方法論	193
教育方法論	194
教職概論	195
教職実践演習（小学校）	196
教職実践演習（中・高）	197
教職対策講座	198
権利擁護と成年後見制度	199
公衆衛生学	200
更生保護制度	201
高等学校教育実習（公民科）	202
高等学校教育実習（福祉）	203
国語科概論	204
国際福祉論	205
子どもの食と栄養	206
子どもの保健Ⅱ	207
肢体不自由教育Ⅰ	208
肢体不自由教育Ⅱ	209

肢体不自由者（児）の心理生理病理	210
社会科概論	211
社会心理学	212
社会調査の基礎（社会福祉専攻）	213
社会調査の基礎（子ども専攻）	214
社会的養護Ⅰ	215
社会的養護Ⅱ	216
社会的養護内容	217
社会福祉史	218
社会福祉特講Ⅰ	219
社会福祉法制	220
住環境福祉論	221
就職指導	222
就労支援サービス	223
障害児教育総論	224
障害児（者）心理学	225
障害児保育	226
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	227
小学校教育実習	228
情報メディアの活用	229
初等教育実習事前・事後指導（4年）	230
人格心理学	231
人権教育論	232
人体の構造と機能及び疾病	233
心理学研究法	234
心理学実験実習Ⅱ	235
心理学実験実習Ⅲ	236
心理療法	237
数学概論	238
生活科概論	239
青少年の理解と援助	240
精神障害者の生活支援システム	241
精神保健福祉援助実習	242
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	243
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	244
生徒指導論	245

青年心理学	246
相談援助演習 I	247
相談援助実習	248
相談援助実習指導 I	249
相談心理学	250
卒業研究	251
体育概論	252
地域子育て支援論	253
地域福祉の理論と方法	254
知的障害教育 I	255
知的障害教育 II	256
知的障害者の生理・病理	257
中学校教育実習(社会科)	258
重複障害教育	259
低所得者に対する支援と生活保護制度	260
読書と豊かな人間性	261
特別活動研究	262
特別支援学校(肢体不自由・知的障害・病弱)教育実習	263
人間関係論	264
認知心理学	265
発達心理学(保育の心理学 I)	266
発達心理学特講	267
美術概論	268
病弱教育	269
病弱児の心理・生理・病理	270
福祉行財政と福祉計画	271
福祉事務所運営論	272
福祉心理学	273
保育教職実践演習	274
保育実習 I(保育所)	275
保育実習 II(保育所)	276
保育実習(施設)	277
保育実習指導 I(施設)事後指導	278
保育実習指導 II(保育所)	279
保育者論	280
保育内容(環境)	281

保育内容（健康）	282
保育内容（言葉）	283
保育内容（総論）	284
保育内容（人間関係）	285
保育内容（表現）	286
保育の心理学Ⅱ（教育心理学）	287
保育の表現技術Ⅰ（体育）	288
保健医療サービス	289
幼児理解	290
幼稚園教育実習	291
理科概論	292
臨床心理学（社会福祉専攻）	293
臨床心理学（子ども専攻）	294
臨床心理学特講	295
老人心理学	296
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（基礎教養科目）	297
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（専門科目）	298
平成27年度 社会福祉学部 カリキュラム一覧	301
教科書の購入について	306

基礎教養科目

科目名	韓国語 I	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	韓国語 I				

■授業の目的・到達目標

ハングル(文字)の成り立ちや発音を学習し、文字を読み、書けるようにする。韓国語の基礎会話力を身につける。韓国に興味を持ち、韓国と日本の社会・文化を比較して理解を深める。

■授業の概要

ハングルの特徴、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを、日常生活及び一般的な話題を通して学び、簡単な会話ができるように、何度も口に出して練習する。視聴覚教材なども用いる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ハングルの母音/出会いの挨拶
第3回	ハングルの子音1/別れの挨拶
第4回	ハングルの子音2/基本会話-「感謝」
第5回	ハングルの二重母音/基本会話-「謝罪」
第6回	ハングルの濃音/基本会話-「食事の時」
第7回	ハングルの激音/基本会話-「お願いの時」
第8回	ハングルのパッチム1/「分かる・分からない」の表現
第9回	ハングルのパッチム2/「ある・ないの」表現
第10回	映像で学ぶハングル1
第11回	ハングルの発音の規則
第12回	ハングルの日本語表記/ハングルでの動物の鳴き声
第13回	自己紹介/「～は～です」文型
第14回	指示代名詞1/「助詞～が」
第15回	指示代名詞2/「～が何ですか」の文型

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Iに引き続き、韓国語IIの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、出席・授業態度(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞/柳圭相/芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

なし

科目名	韓国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	韓国語Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、「聴く」「読む」「書く」「話す」の四つの技能のうち、「話す」こと、「聴く」ことにやや比重をおいて授業を進めていく。そのことにより、「会話力」を身につける。

■授業の概要

教材の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら、韓国語と日本語の発想の違いなどを確認していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	否定文/「助詞～も」
第17回	疑問詞/「～は～ではありません」の文型
第18回	家族の呼び方/「～も～です」の文型
第19回	丁寧な会話体/「助詞～に」
第20回	位置を表す言葉/「～に～があります」の文型
第21回	時を表す言葉1/「助詞～で」
第22回	曜日の言い方/「～で～をします」の文型
第23回	漢数詞1/時を表す言葉2
第24回	映像で学ぶハングル2
第25回	漢数詞2/「番号・値段の言い方」
第26回	漢数詞3/「～月～日です」の文型
第27回	用言の「です・ます形」1/「助詞～と」
第28回	用言の「です・ます形」2/「～と～をします」の文型
第29回	否定・不可能の表現/「あまり～くありません」の文型
第30回	まとめ・復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに引き続き、韓国語Ⅱの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、出席・授業態度(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞/柳圭相/芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

なし

科目名	基礎演習 I	担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神と実践教育、学士力養成、進路・資格取得、地域貢献、心身の健康				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習 I においては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。
- 2 基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成など学習スキルを身につける。
- 3 昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。

■授業の概要

授業を、①建学の精神と実践教育、②学士力養成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する、人間としての基礎的能力教養力と自律的实践能力を学習するとともに、基礎的学習スキルを身につけることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	前期オリエンテーション:(大講義室) 学長訓話、学部長講話 建学の精神と実践教育プログラム①
第2回	心身の健康プログラム①健康管理についてI(親睦スポーツ大会準備)
第3回	心身の健康プログラム②生活の充実についてI(防犯講座)
第4回	学士力養成プログラム①大学での授業の受け方I(講義、演習、実習、実技、試験説明)
第5回	進路、資格取得プログラム①個人面談についてI(面談表、キャリアサポートカルテ作成)
第6回	建学の精神と実践プログラム②生活を科学するI(雑巾作成)
第7回	学士力養成プログラム②レポートの作成I(レポートと作文との違い)
第8回	学士力養成プログラム③レポートの作成II(基本的な型や構成)
第9回	学士力養成プログラム④レポートの作成III(レポート作成)
第10回	学士力養成プログラム⑤図書館利用指導及びインターネットについてI(図書館の利用の仕方)
第11回	学士力養成プログラム⑥図書館利用指導及びインターネットについてII(インターネットの利用の仕方)
第12回	地域貢献プログラム①地域とのかかわりI(昌賢祭の意義と内容)
第13回	地域貢献プログラム②地域とのかかわりII(昌賢祭での資料収集)
第14回	地域貢献プログラム③地域とのかかわりIII(障害者スポーツの理解と大会補助)
第15回	前期総括(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取り組み内容(60%)、提出物(40%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。
『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習 I	担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神と実践教育、学士力養成、進路・資格取得、地域貢献、心身の健康				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習 I においては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。
- 2 基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成など学習スキルを身につける。
- 3 昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。

■授業の概要

授業を、①建学の精神と実践教育、②学士力養成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する、人間としての基礎的能力教養力と自律的实践能力を学習するとともに、基礎的学習スキルを身につけることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期オリエンテーション:(大講義室) 学長訓話、学部長講話 建学の精神と実践教育プログラム ③
第17回	地域貢献プログラム④地域とのかかわりⅣ(昌賢祭:テーマ策定、研究班編成)
第18回	地域貢献プログラム⑤地域とのかかわりⅤ(昌賢祭:各研究班調査資料収集)
第19回	地域貢献プログラム⑥地域とのかかわりⅥ(昌賢祭:各研究班資料分析、発表検討)
第20回	地域貢献プログラム⑦地域とのかかわりⅦ(昌賢祭:各研究班発表準備)
第21回	地域貢献プログラム⑧地域とのかかわりⅧ(昌賢祭:各研究班発表)
第22回	地域貢献プログラム⑨地域とのかかわりⅨ(昌賢祭:総括)
第23回	心身の健康プログラム③生活の充実についてⅡ(デートDV防止)
第24回	心身の健康プログラム④生活の充実についてⅢ(消費者被害防止)
第25回	心身の健康プログラム⑤生活の充実についてⅣ(災害に学ぶ)
第26回	建学の精神と実践プログラム④ボランティア、環境美化についてまとめⅠ(冬季休業中の諸注意)
第27回	建学の精神と実践プログラム⑤一年間の活動実践を振り返って
第28回	進路、資格取得プログラム②進路を学ぶⅠ(日本語能力試験)
第29回	進路、資格所得プログラム③進路を学ぶⅡ(4年生講話)
第30回	基礎演習Ⅰの総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取り組み内容(60%)、提出物(40%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2学年担当者	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動、学士力、研究発表力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を確実なものとする。基礎演習における学習の集大成である研究小論文の作成を行い、学士力の向上を図る。研究テーマを自主的に設定し、そのテーマを深めるのに適した研究方法に基づき、収集した資料を駆使して問題の構造等を明らかにしていく。同時に読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行なうことができる。
- 2 基礎演習における学習の集大成である研究小論文の完成を目指す。
- 3 昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を学習すると共に、研究小論文を作成することにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践プログラム① 前期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、各委員会より、基礎演習Ⅱの内容等
第2回	心身の健康プログラム① 体力の育成についてⅠ(親睦スポーツ大会準備)
第3回	心身の健康プログラム② 体力の育成についてⅡ(親睦スポーツ大会準備)
第4回	心身の健康プログラム③ 体力の育成についてⅢ(親睦スポーツ大会)
第5回	建学の精神と実践プログラム② 生活を科学するⅡ(雑巾作成)
第6回	建学の精神と実践プログラム③ ボランティア活動、環境美化活動の重要性についてⅡ
第7回	進路・資格取得プログラム① 一般常識テスト(大講義室)
第8回	学士力育成プログラム① 図書館、ネット利用等講話 研究小論文作成について
第9回	学士力育成プログラム② 研究小論文:個人またはグループ研究、研究目的、研究テーマ選定、活動報告レポート作成等
第10回	学士力育成プログラム③ 研究小論文:研究テーマ選定、資料収集、活動報告レポート作成等
第11回	心身の健康プログラム④ 命の大切さについて
第12回	地域貢献プログラム① 地域との連携についてⅠ(昌賢祭 研究発表テーマ選定、資料収集、活動報告レポート作成等)
第13回	地域貢献プログラム② 地域との連携についてⅡ(昌賢祭 研究発表に向けて:資料収集、活動報告レポート作成等)
第14回	進路・資格取得プログラム② 進路ガイダンス キャリアサポートセンター 2年次・キャリアサポートカルテの作成
第15回	建学の精神と実践プログラム④ 前期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、夏期休暇中の活動について等

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

研究小論文、研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取組・内容等(30%)、研究小論文(40%)、クラス課題等の提出物(30%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。
『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会(編著)『知へのステップ』くろしお出版、2002年

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2学年担当者	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動、学士力、研究発表力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を確実なものとする。基礎演習における学習の集大成である研究小論文の作成を行い、学士力の向上を図る。研究テーマを自主的に設定し、そのテーマを深めるのに適した研究方法に基づき、収集した資料を駆使して問題の構造等を明らかにしていく。同時に読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行なうことができる。
- 2 基礎演習における学習の集大成である研究小論文の完成を目指す。
- 3 昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を学習すると共に、研究小論文を作成することにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	建学の精神と実践プログラム⑤ 後期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、各委員会より、連絡事項等
第17回	学士力育成プログラム④ 研究小論文・中間発表、活動報告レポート作成等
第18回	進路・資格取得プログラム③ 外部講師による講話
第19回	地域貢献プログラム③ 地域との連携についてⅢ (昌賢祭 研究発表に向けて:研究発表の仕上げ、活動報告レポート作成等)
第20回	地域貢献プログラム④ 地域との連携についてⅣ (昌賢祭 研究発表に向けて:研究発表の仕上げ、活動報告レポート作成等)
第21回	地域貢献プログラム⑤ 地域との連携についてⅤ (昌賢祭準備)
第22回	地域貢献プログラム⑥ 地域との連携についてⅥ (昌賢祭 研究発表)
第23回	進路・資格取得プログラム④ 日本語能力テスト
第24回	進路・資格取得プログラム⑤ 先輩学生(4年生)から伝えたいこと
第25回	学士力育成プログラム⑤ 研究小論文作成、活動報告レポート作成等
第26回	学士力育成プログラム⑥ 研究小論文作成、活動報告レポート作成等
第27回	学士力育成プログラム⑦ 研究小論文作成、活動報告レポート作成等
第28回	学士力育成プログラム⑧ 研究小論文作成、活動報告レポート作成等
第29回	学士力育成プログラム⑨ 研究小論文発表
第30回	建学の精神と実践プログラム⑥ 後期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、春期休暇中の活動について等

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

研究小論文、研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取組・内容等(30%)、研究小論文(40%)、クラス課題等の提出物(30%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。
『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会(編著)『知へのステップ』くろしお出版、2002年

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、Word、Excel、PowerPoint、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現代社会において欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

レポート作成・研究発表において必要不可欠なWord・Excel・PowerPointを活用できるようにする。

■授業の概要

本講義では、情報処理をコマンドの習得と捉えるのではなく、大学で「学習すること」の一環として捉え、ひとつのテーマに関し、レポート作成・分析・発表などの場面を通して具体的に習得していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、自己紹介スライド作成（タイピング練習をしておくこと）
第2回	情報化社会とリテラシー
第3回	ソフトウェアの基本操作、Wordによる文書処理（1）文書処理について
第4回	Wordによる文書処理（2）Wordの基本操作、演習「レポート」について
第5回	Wordによる文書処理（3）文章の入力・編集 ①
第6回	Wordによる文書処理（4）文章の入力・編集 ②
第7回	Wordによる文書処理（5）表・図表・図形の作成・編集 ①
第8回	Wordによる文書処理（6）表・図表・図形の作成・編集 ②
第9回	Wordによる文書処理（7）数式の挿入・段組みの設定
第10回	Wordによる集客広告（チラシ・ポスター）の作成
第11回	表計算ソフトウェアとは、Excelの基本操作
第12回	「表」の作成
第13回	ワークシートの書式設定
第14回	表の拡張
第15回	関数の使用方法（1）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・USBフラッシュメモリー（1～2GB程度で良い）を各自用意し、毎回必ず持参すること。

・復習をしっかりと行い、操作内容・手順を習得しておくこと。

〔受講ルール〕

・演習は、毎回が成果の積み重ねとなる為、欠席で成果が途切れることのないよう心がけること。

・テキスト、USBメモリーは必ず持参すること。

・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話、スマホ）の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・日々タイピングを練習し、技術向上に努めること。

・前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、全ての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。（欠席時も同様）

■オフィスアワー

なし

■評価方法

①試験（60%）

②課題の提出状況（40%）

■教科書

別に指示する。

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、Word、Excel、PowerPoint、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

現代社会において欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。

[到達目標]

レポート作成・研究発表において必要不可欠なWord・Excel・PowerPointを活用できるようにする。

■授業の概要

本講義では、情報処理をコマンドの習得と捉えるのではなく、大学で「学習すること」の一環として捉えひとつのテーマに関し、レポート作成・分析・発表などの場面を通して具体的に習得していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	関数の使用方法 (2)
第17回	関数の使用方法 (3)
第18回	グラフの作成
第19回	関数・グラフを使った実践問題
第20回	データベース機能 (1)
第21回	データベース機能 (2)
第22回	Excel 総復習、実践問題
第23回	プレゼンテーションとは、よいプレゼンテーションをするために
第24回	プレゼンテーションの計画策定
第25回	PowerPointを使ったプレゼンテーション (1)
第26回	PowerPointを使ったプレゼンテーション (2)
第27回	PowerPointを使ったプレゼンテーション (3)
第28回	スライドショーの設定
第29回	発表の準備 (リハーサル)
第30回	プレゼンテーション実施

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・USBフラッシュメモリー (1~2GB程度で良い) を各自用意し、毎回必ず持参すること。

・復習をしっかり行い、操作内容・手順を習得しておくこと。

[受講ルール]

・演習は、毎回が成果の積み重ねとなる為、欠席で成果が途切れることのないよう心がけること。

・テキスト、USBメモリーは必ず持参すること。

・他の受講生の迷惑になる行為 (私語、携帯電話、スマホ) の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・日々タイピングを練習し、技術向上に努めること。

・前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、全ての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。(欠席時も同様)

■オフィスアワー

なし

■評価方法

①試験 (60%)

②課題の提出状況 (40%)

■教科書

別に指示する。

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解
第2回	アイスブレイキング（実践）
第3回	ニュースポーツ1-① チャレンジ・ザ・ゲーム
第4回	ニュースポーツ1-② チャレンジ・ザ・ゲーム
第5回	基礎理論 レクリエーションの意義について①
第6回	基礎理論 レクリエーションの意義について②
第7回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-1
第8回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-2
第9回	支援活動実習Ⅰ レクリエーション評価とまとめ①
第10回	事業論 レクリエーション事業の実施と計画・評価について
第11回	ニュースポーツ2-① キンボール
第12回	ニュースポーツ2-② キンボール
第13回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-1
第14回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-2
第15回	支援活動実習Ⅱ レクリエーション評価とまとめ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

火曜日 2時間目

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。
（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	ニュースポーツ 3-① レクリエーションダンス
第17回	ニュースポーツ 3-② レクリエーションダンス
第18回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは
第19回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティの示し方
第20回	ニュースポーツ 4-① ユニバーサルホッケー
第21回	ニュースポーツ 4-② ユニバーサルホッケー
第22回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-1
第23回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-2
第24回	支援活動実習Ⅲ レクリエーション評価とまとめ③
第25回	コミュニケーション・ワーク アイスプレーキングの意義と基本技術
第26回	コミュニケーション・ワーク アイスプレーキングのプログラミング
第27回	コミュニケーション・ワーク 演習
第28回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-1
第29回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-2
第30回	支援活動実習Ⅳ レクリエーション評価とまとめ④

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

火曜日 2時間目

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。

（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
(財)日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	3学年担任	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路の明確化、卒業研究・制作、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学力を養成する。また、専門演習における集大成である卒業研究・制作では、専門演習Ⅱにおいて完成するべく、テーマの設定や資料収集等を積極的に行う。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通して、進路を明確化し、具体化させる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながらテーマを設定し、資料収集等を積極的に行う。
- ③昌賢祭での総合的な活動を通して、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム① 前期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、各委員会より、専門演習Ⅰの内容等	
第2回	建学の精神と実践教育プログラム② 生活を科学する(雑巾作成)Ⅲ	
第3回	進路・資格取得プログラム① 進路決定に向けて(1)、三者面談計画、各種試験対策、学生指導	二者面談
第4回	心身の健康プログラム① 心身の充実について(1) 親睦スポーツ大会準備	三者面談
第5回	心身の健康プログラム② 心身の充実について(2) 親睦スポーツ大会	
第6回	進路・資格取得プログラム② 進路決定に向けて(2) 就職模擬試験(自己表現テスト)	
第7回	地域貢献プログラム① 地域との深まりについて(1) 昌賢祭発表テーマ選定、資料収集、活動計画作成等	
第8回	学士力育成プログラム① 卒業研究・制作(1) グループについて	
第9回	学士力育成プログラム② 卒業研究・制作(2) 研究内容について	
第10回	心身の健康プログラム③ 救命講習(1) AEDの使用法等	
第11回	心身の健康プログラム④ 救命講習(2) AEDの使用法等	
第12回	進路・資格取得プログラム③ 進路決定に向けて(3) 施設長講話	
第13回	進路・資格取得プログラム④ 進路決定に向けて(4) 卒業生講話	
第14回	建学の精神と実践教育プログラム③ マナー教室	
第15回	建学の精神と実践教育プログラム④ 前期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、夏期休暇中の活動について等	
第16回	進路・資格取得プログラム⑤ 進路決定に向けて(5) 群馬県介護就職面接会	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に関わる情報〕

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

各担当教員に確認すること。

■評価方法

提出物(40%)、演習への取り組み・内容等(60%)を総合して評価する。

■教科書

「咸有一徳」中央法規、「初編 伝習録」明治書院、「知のナビゲーター」くろしお出版

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	3学年担任	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路の明確化、卒業研究・制作、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、専門演習における集大成である卒業研究・制作では、専門演習Ⅱにおいて完成するべく、テーマの設定や資料収集等を積極的に行う。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通して、進路を明確化し、具体化させる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながらテーマを設定し、資料収集等を積極的に行う。
- ③昌賢祭での総合的な活動を通して、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第17回	建学の精神と実践教育プログラム⑤ 後期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、各委員会より、連絡事項等
第18回	学士力育成プログラム③ プレゼンテーションについて(1) 読書の楽しみ(読書感想文等)
第19回	学士力育成プログラム④ プレゼンテーションについて(2) 読書の楽しみ(意見交流等)
第20回	建学の精神と実践教育プログラム⑥ ボランティア・環境美化についてⅢ
第21回	地域貢献プログラム② 地域との深まりについて(2) 昌賢祭発表準備等
第22回	地域貢献プログラム③ 地域との深まりについて(3) 昌賢祭発表準備等
第23回	地域貢献プログラム④ 地域との深まりについて(4) 昌賢祭発表準備等
第24回	地域貢献プログラム⑤ 地域との深まりについて(5) 昌賢祭発表
第25回	進路・資格取得プログラム⑥ 進路決定に向けて(6) 就職模擬試験(論文試験)
第26回	学士力育成プログラム⑤ 卒業研究・制作(3) 文献収集等
第27回	心身の健康プログラム⑤ 歯周疾患検診(唾液検査による早期歯周病発見)
第28回	進路・資格取得プログラム⑦ 進路決定に向けて(7) 進路ガイダンス、進路希望調査、キャリアサポートカルテ作成
第29回	進路・資格取得プログラム⑧ 進路決定に向けて(8) 各種試験対策、学生指導
第30回	建学の精神と実践教育プログラム⑦ 後期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、春期休暇中の活動について等

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に関わる情報〕

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

各担当教員に確認すること。

■評価方法

提出物(40%)、演習への取り組み・内容等(60%)を総合して評価する。

■教科書

「咸有一徳」中央法規、「初編 伝習録」明治書院、「知のナビゲーター」くろしお出版

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	4学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路決定、卒業研究・制作、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、専門演習Ⅰで行った3年次教育のステップアップを行う。専門演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、卒業研究・制作、進路決定等に自主的に取り組み、学士力を養成する。特に、専門演習における集大成である卒業研究・制作では、テーマを自主的に設定し、資料収集、分析・考察等論理的な記述ができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動について自主的に取り組むことができる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながら作成することができる。
- ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキル習得、福祉施設等で働く外部講師による講義を予定している。クラス単位での授業では、「卒業研究・制作」と題し、4年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論文・制作等をグループ単位で追究する。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①(学長訓話・学部長講話、演習Ⅱの計画、履修届等の確認)
第2回	進路・資格取得プログラム①(キャリアサポートカルテ、専門演習ノートⅡ進路関係の頁記入、二者面談計画)
第3回	心身の健康プログラム-心身のバランス①(親睦スポーツ大会に向けて、種目ごとの練習・注意事項)
第4回	心身の健康プログラム-心身のバランス②(親睦スポーツ大会の参加)
第5回	建学の精神と実践教育プログラム②(生活を科学する-雑巾縫い、二者面談)
第6回	進路・資格取得プログラム②(小論文テスト、二者面談)
第7回	進路・資格取得プログラム③(福祉施設長等の講話)
第8回	進路・資格取得プログラム④(面接の作法: DVD視聴)
第9回	進路・資格取得プログラム⑤(面接練習の実践)
第10回	進路・資格取得プログラム⑥(面接練習の実践)
第11回	学士力育成プログラム①(卒業研究・制作: 3年次の卒業研究・制作の省察)
第12回	学士力育成プログラム②(卒業研究・制作: 4年次の卒業研究・制作の計画立案)
第13回	進路・資格取得プログラム⑦(卒業生による講話)
第14回	学士力育成プログラム③(卒業研究・制作: 論文の作法、論文執筆要領、全体発表会等)
第15回	建学の精神と実践教育プログラム③(前期総括、環境美化の実施)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている内容を予習し、わからない部分について授業にて解決するよう努力すること。卒業研究・制作についてはグループの進行状況を確認し、計画を立てて、わからないことは担当者へ相談に行くこと。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

卒業研究・制作(40%)、演習への取組・内容等(30%)、提出物(30%)の総合点とする。

■教科書

「咸有一徳」中央法規、「初編 伝習録」明治書院、「知のナビゲーター」くろしお出版

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	4学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路決定、卒業研究・制作、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、専門演習Ⅰで行った3年次教育のステップアップを行う。専門演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、卒業研究・制作、進路決定等に自主的に取り組み、学士力を養成する。特に、専門演習における集大成である卒業研究・制作では、テーマを自主的に設定し、資料収集、分析・考察等論理的な記述ができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動について自主的に取り組むことができる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながら作成することができる。
- ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキル習得、福祉施設等で働く外部講師による講義を予定している。クラス単位での授業では、「卒業研究・制作」と題し、4年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論文・制作等をグループ単位で追究する。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	建学の精神と実践教育プログラム④(学長訓話・学部長講話、演習Ⅱ後期の計画、進路指導)
第17回	進路・資格取得プログラム⑧(就職説明会)
第18回	心身の健康プログラム-心身のバランス③(ストレス社会にどう生きるか)
第19回	学士力育成プログラム④(卒業研究・制作)
第20回	学士力育成プログラム⑤(卒業研究・制作)
第21回	進路・資格取得プログラム⑨(租税教室)
第22回	地域貢献プログラム①(地域貢献について、地域の環境美化)
第23回	地域貢献プログラム②(地域貢献について、昌賢祭の運営補助)
第24回	地域貢献プログラム③(地域貢献について、地域の環境美化)
第25回	学士力育成プログラム⑥(卒業研究・制作、クラス内中間発表会)
第26回	学士力育成プログラム⑦(卒業研究・制作)
第27回	学士力育成プログラム⑧(卒業研究・制作、全体発表会1)
第28回	学士力育成プログラム⑨(卒業研究・制作、全体発表会2)
第29回	進路・資格取得プログラム⑩(特別講話:「社会人としての心構え」)
第30回	建学の精神と実践教育プログラム⑤(後期総括、環境美化活動)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている内容を予習し、わからない部分について授業にて解決するよう努力すること。卒業研究・制作についてはグループの進行状況を確認し、計画を立てて、わからないことは担当者へ相談に行くこと。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

卒業研究・制作(40%)、演習への取組・内容等(30%)、提出物(30%)の総合点とする。

■教科書

「咸有一徳」中央法規、「初編 伝習録」明治書院、「知のナビゲーター」くろしお出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中国語 I	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を習得することにより、自己に関する簡単な事柄を言えるようにする。
- ②中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、(教科書P2・3を読んでおくこと)
第2回	第1課 你好(こんにちは) 中国語の音節 声調 ドリル
第3回	第2課 明天见(また明日) 単母音 複母音 ドリル
第4回	第3課 谢谢(ありがとう) 子音(1)ドリル
第5回	第4課 好久不见(お久しぶり) 子音(2) 鼻音 ドリル
第6回	第5課 迎接(出迎える) 名前の言い方尋ね方
第7回	第6課 欢迎会(歓迎パーティー) 動詞「是」・助詞「的」の使い方
第8回	第7課 打的(タクシーに乗る) 基本語順S+V+O 連動文
第9回	第8課 住宿(宿泊する) 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞
第10回	第9課 问路(道をたずねる) 動詞「在」・前置詞「从」「往」の使い方
第11回	第10課 买东西(ショッピングする) 数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方。形容詞述語文
第12回	第11課 聊天儿(おしゃべりをする) 年月日・曜日の言い方、年齢の言い方
第13回	第12課 点菜(料理を注文する) 量詞、動詞の重ね方
第14回	第13課 买足球票(サッカーのチケットを買う) 時刻の言い方、状態の変化を表す文末の「了」
第15回	前期総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Iに続けて中国語IIも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、勘違いも甚だしいです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験 70%、平常点(小テスト、課題など) 30%

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月

科目名	中国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習、異文化理解				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を習得することにより、身の回りの日常的な事柄を表現できるようになります。
- ②中国語の学習を通じて、日本語及び日本文化の差異に着目します。
- ③真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。
- ④語学学習を通じて、異文化理解の方法を学びます。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。中国語Ⅱは中国語だけでなく、中国の文化・歴史にも着目し、授業を進めます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	第14課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表わす「了」
第2回	第15課 网吧（インターネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「给」、助動詞「可以」「能」
第3回	第16課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」
第4回	第17課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」、二重目的語をとる動詞
第5回	第18課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文
第6回	第19課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文
第7回	第20課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）結果補語、様態補語
第8回	中国の日本事情
第9回	第21課 全家照（家族写真）「是～的」構文、比較表現-前置詞「比」
第10回	第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語、「有点儿」と「一点儿」
第11回	第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語
第12回	第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語、可能補語
第13回	第25課 看病（診察を受ける）主述述語文、受け身表現
第14回	第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現
第15回	総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、大間違いです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験 70%、平常点（小テスト、課題など）30%

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂他『Why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月、
倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月

科目名	ボランティア活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、体験学習、人間形成				

■授業の目的・到達目標

対人援助職の養成課程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけではなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Ⅰでは、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①本学におけるボランティア活動について理解している。
- ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。
- ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を明確化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動のねらいやこれまでの活動の歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義および演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ボランティア活動とは①（本学における位置づけ・意義、授業内容）
第3回	ボランティア活動とは②（活動の種類、各施設の説明、etc.）
第4回	継続ボランティアに向けて①（依頼の仕方、電話のかけ方）
第5回	継続ボランティアに向けて②（ボランティア紹介票の記入）
第6回	継続ボランティアに向けて③（報告書の書き方）
第7回	ボランティア活動で求められる基礎知識①車いすの体験
第8回	ボランティア活動で求められる基礎知識②ブラインドウォークの体験
第9回	七夕祭りボランティアに向けての準備①
第10回	七夕祭りボランティアに向けての準備②
第11回	七夕祭りボランティアに向けての準備③
第12回	七夕祭りボランティアに向けての準備④
第13回	前期中に行ったボランティア活動の報告
第14回	障害者スポーツ大会について
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習に準じ、責任をもって活動すること。また、施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。継続ボランティア活動のボランティア先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。「依頼ボランティア」、「行事ボランティア」、「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

依頼ボランティアに関する掲示板（1号館2F）、ボランティアセンター（2号館3F）で、各自が主体的にボランティアに関する情報に接触するように心がけること。

■オフィスアワー

授業時に伝える。

■評価方法

受講態度（発表、提出物、レポート）60%、ボランティア先での活動40%で、総合的に評価する。詳細については、授業内で説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定 監修、足立勤一 編著）

■参考書

適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア活動Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

対人援助職の養成課程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけではなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Ⅰでは、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①本学におけるボランティア活動について理解している。
- ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。
- ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を明確化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動のねらいやこれまでの活動の歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義および演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	夏季休業中のボランティア活動についての報告・反省
第17回	ボランティア活動で困っていることや疑問点について①
第18回	ボランティア活動で困っていることや疑問点について②
第19回	地域の高齢者施設について
第20回	地域高齢者施設へのプレゼント製作①（プレゼントの選定）
第21回	地域高齢者施設へのプレゼント製作②（役割分担、制作計画）
第22回	地域高齢者施設へのプレゼント製作③（制作活動）
第23回	地域高齢者施設へのプレゼント製作④（制作活動）
第24回	地域高齢者施設へのプレゼント製作⑤（制作活動）
第25回	ボランティア・フォーラム
第26回	継続ボランティア活動報告の発表準備
第27回	継続ボランティア活動報告会①（各クラスでの発表）
第28回	継続ボランティア活動報告会②（各クラスでの発表）
第29回	継続ボランティア活動報告会③（代表者による全体での発表）
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習に準じ、責任をもって活動すること。また、施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。継続ボランティア活動のボランティア先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。「依頼ボランティア」、「行事ボランティア」、「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

依頼ボランティアに関する掲示板（1号館2F）、ボランティアセンター（2号館3F）で、各自が主体的にボランティアに関する情報に接触するように心がけること。

■オフィスアワー

授業時に伝える。

■評価方法

受講態度（発表、提出物、レポート）60%、ボランティア先での活動40%で、総合的に評価する。詳細については、授業内で説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定 監修、足立勤一 編著）

■参考書

適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア活動Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動の企画及び実践を通して、対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。また、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

到達目標：

グループで地域ボランティアの企画及び実践、考察を踏まえた報告を遂行できる。

地域ボランティアのグループ活動で個々人の役割を全うできる。

グループで行った活動について振り返り、個々人の今後の学習課題を明確化し、言語化できる。

継続ボランティア等で実践した内容について振り返り、得られた成果や今後の学習課題について言語化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。また、後期には、それらの実践の振り返りを行った後、報告会を実施する。また、受講者個々人が実践した継続ボランティア等についても報告会を実施し、それぞれのボランティア活動で得られた成果や今後の学習課題の明確化を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション	本学におけるボランティア活動Ⅱの位置づけ、単位認定の基準等について
第2回	オリエンテーション②	本科目の単位認定の基準等について
第3回	地域福祉について①	ボランティア活動の意義と目的
第4回	地域福祉について②	ボランティア活動の実際
第5回	地域におけるボランティア活動①	企画の進め方について、個人での企画案作成
第6回	地域におけるボランティア活動②	グループ分けとグループでの企画案作成
第7回	地域におけるボランティア活動③	企画したボランティア活動の意義と目的を考える
第8回	地域におけるボランティア活動④	企画したボランティア活動の実行可能性と課題を整理し、解決策を導き出す
第9回	地域におけるボランティア活動⑤	企画したボランティア活動に活用できる社会資源を整理する
第10回	地域におけるボランティア活動⑥	企画したボランティア活動を実行する際の留意点
第11回	地域におけるボランティア活動⑦	企画書の作成と提出
第12回	地域ボランティア活動企画の発表①	
第13回	地域ボランティア活動企画の発表②	
第14回	地域ボランティア活動企画の発表③	
第15回	前期のまとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループでの活動を実施するため、メンバー同士で協力し合い、それぞれの役割を全うすること。また、企画の各段階でワークシートの提出を指示する。成績評価にも含めるため期日を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

学外でのボランティア活動は、以下の事柄に留意して実施する事。

①実習に準じ、責任を持って活動を行う事

②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること

③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない

④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること

■オフィスアワー

第1回オリエンテーションにて説明する。

■評価方法

講義・演習への参加態度(ボランティア活動報告書を含む)(60%)、ボランティア報告会でのプレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他編著)

■参考書

適宜、授業中に紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ（社会福祉専攻）	担当教員 （単位認定者）	ボランティア委員会教員	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア活動Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動の企画及び実践を通して、対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。また、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

到達目標：

グループで地域ボランティアの企画及び実践、考察を踏まえた報告を遂行できる。

地域ボランティアのグループ活動で個々人の役割を全うできる。

グループで行った活動について振り返り、個々人の今後の学習課題を明確化し、言語化できる。

継続ボランティア等で実践した内容について振り返り、得られた成果や今後の学習課題について言語化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。また、後期には、それらの実践の振り返りを行った後、報告会を実施する。また、受講者個々人が実践した継続ボランティア等についても報告会を実施し、それぞれのボランティア活動で得られた成果や今後の学習課題の明確化を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション	
第17回	地域ボランティア活動の振り返り①	グループで実践した活動の反省
第18回	地域ボランティア活動の振り返り②	企画したボランティア活動の意義と目的を達成できたか考察する
第19回	地域ボランティア活動報告の準備①	
第20回	地域ボランティア活動報告の準備②	
第21回	地域ボランティア活動報告の準備③	
第22回	地域ボランティア活動報告①	
第23回	地域ボランティア活動報告②	
第24回	地域ボランティア活動報告③	
第25回	継続ボランティア活動報告①	
第26回	継続ボランティア活動報告②	
第27回	継続ボランティア活動報告③	
第28回	継続ボランティア活動報告④	
第29回	地域ボランティア及び継続ボランティア活動の振り返り	
第30回	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループでの活動を実施するため、メンバー同士で協力し合い、それぞれの役割を全うすること。また、企画の各段階でワークシートの提出を指示する。成績評価にも含めるため期日を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

学外でのボランティア活動は、以下の事柄に留意して実施する事。

①実習に準じ、責任を持って活動を行う事

②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること

③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない

④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること

■オフィスアワー

第1回オリエンテーションにて説明する。

■評価方法

講義・演習への参加態度（ボランティア活動報告書を含む）（60%）、ボランティア報告会でのプレゼンテーション（40%）を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定監修/足立勤一他編著）

■参考書

適宜、授業中に紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ（子ども専攻）	担当教員 （単位認定者）	ボランティア委員会教員	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア 子育て支援 地域貢献				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通して対人援助の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身につけることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを旨とする。

本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。

本学では学内における机上の研究（知識）、ボランティア活動（精神・心構え）、実習（技術）というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	「子育て支援ボランティア」について①
第3回	「子育て支援ボランティア」について②
第4回	前期ボランティア活動①前橋七夕まじりの説明
第5回	前期ボランティア活動②前橋七夕まじりの活動計画の検討
第6回	前期ボランティア活動③前橋七夕まじりの活動計画の検討
第7回	前期ボランティア活動④前橋七夕まじり活動準備
第8回	前期ボランティア活動⑤前橋七夕まじり活動準備
第9回	前期ボランティア活動⑥前橋七夕まじり活動準備
第10回	前期ボランティア活動⑦前橋七夕まじり活動準備
第11回	前期ボランティア活動の実施：前橋七夕まじり会場にて実施
第12回	前橋七夕まじり 活動報告会の準備
第13回	前橋七夕まじり 活動報告会
第14回	「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティア活動の説明
第15回	前期のまとめ・夏休み中のボランティア活動計画について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行うこと。
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育や子育て支援に関することに常に留意すること。
保育実技に関する知識・技術を高めておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

講義への参加態度（30%）前期ボランティア・後期ボランティアに関するレポート（20%）継続・依頼ボランティアの活動報告書（50%）等を総合して評価する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定監修/足立勤一他監修）

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア 子育て支援 地域貢献				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通して対人援助の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身につけることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習Ⅰ・Ⅱ(保育所) 幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。本学では学内における机上の研究(知識)、ボランティア活動(精神・心構え)、実習(技術)というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション
第17回	前期ボランティアの活動報告会①
第18回	前期ボランティアの活動報告会②
第19回	前期ボランティアの活動報告会③
第20回	前期ボランティアの活動報告会④
第21回	後期ボランティア活動①「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティアの活動計画の検討①
第22回	後期ボランティア活動②「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティアの活動計画の検討②
第23回	後期ボランティア活動③「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備①
第24回	後期ボランティア活動④「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備②
第25回	後期ボランティア活動⑤「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備③
第26回	後期ボランティア活動⑥「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備④
第27回	「前橋子ども図書館」での子育て支援ボランティア活動の実施
第28回	子育て支援ボランティア活動報告会の準備
第29回	子育て支援ボランティア活動報告会
第30回	1年間のまとめ: 継続ボランティア先への礼状送付について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行うこと。
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育や子育て支援に関することに常に留意すること。
保育実技に関する知識・技術を高めておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

講義への参加態度(30%) 前期ボランティア・後期ボランティアに関するレポート(20%) 継続・依頼ボランティアの活動報告書(50%)等を総合して評価する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他監修)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIE プロセス				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]:レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者(レクリエーション・インストラクター)として、実践できるようになることを目的とする。

[到達目標]:

- 1.レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
- 2.対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
- 3.レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
- 4.安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割
第2回	基礎理論 レクリエーションの意義
第3回	基礎理論 レクリエーション運動の歴史とその背景
第4回	基礎理論 レクリエーションと社会福祉
第5回	基礎理論 生活のレクリエーション化
第6回	基礎理論 レクリエーションの生活化
第7回	基礎理論 社会福祉の中でのレクリエーションの役割
第8回	日常生活におけるレクリエーションの捉え方
第9回	日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係
第10回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの意義と基本技術
第11回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの意義と基本技術
第12回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング
第13回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング
第14回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表
第15回	まとめ(評価・ふりかえり)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。
また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

火曜日 2時間目

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20%(詳細な評価基準はシラバス参照)

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト【レクリエーション支援の基礎】～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～(財)日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)【レクリエーション活動援助法】(中央法規)

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIE プロセス				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]:レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者(レクリエーション・インストラクター)として、自信をもって実践できるようになることを目的とする。

[到達目標]:

- 1.レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
- 2.対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
- 3.レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
- 4.安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	乳幼児期～児童期
第17回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	青年期～老年期
第18回	支援論	治療的意味合いを含めたレクリエーション	
第19回	目的に合わせたレクリエーションワーク	素材、アクティビティの選択	
第20回	目的に合わせたレクリエーションワーク	すり合わせのプロセス	
第21回	目的に合わせたレクリエーションワーク	ハードル設定	CSSプロセス
第22回	事業論	レクリエーション事業の展開方法	
第23回	事業論	アセスメントに基づいたプログラム計画	
第24回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(1)	
第25回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(2)	
第26回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(3)	
第27回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(4)	
第28回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(1)	
第29回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(2)	
第30回	一年間のまとめ(評価・ふりかえり)		

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。
- ・また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

火曜日 2時間目

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20%(詳細な評価基準はシラバス参照)

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～(財)日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会) 【レクリエーション活動援助法】(中央法規)

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会とレクリエーションの関わり、レクリエーション支援、事業、インストラクター資格取得				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的] 人々が元気で笑顔に満ちた、より豊かな生活を確立することを支えられる支援者になること。
 [到達目標] レクリエーションの意義を理解し、楽しさの技術・手法を身につけ、自信をもって様々なレクリエーションによる働きかけが展開できるようになる。それにより公認指導者資格(レクリエーション・インストラクター)も取得することができる。

■授業の概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方、基礎理論、支援論、事業論、指導方法などの学習を通し、支援者として実践能力を高め、レクリエーション財の獲得や楽しさの雰囲気づくり等を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目	オリエンテーション	コミュニケーション・ワーク	(ホスピタリティ・アイスブレイキング)
第2回		コミュニケーション・ワーク		(ホスピタリティとは)
第3回		コミュニケーション・ワーク		(ホスピタリティの示し方)
第4回		基礎理論		(レクリエーションの意義)
第5回		基礎理論		(レクリエーションの歴史と背景 ①)
第6回		基礎理論		(レクリエーションの歴史と背景 ②)
第7回		基礎理論		(レクリエーション運動を支える制度)
第8回		目的にあわせたレクリエーション・ワーク		(素材・アクティビティの選択)
第9回		目的にあわせたレクリエーション・ワーク		(ハードル設定)
第10回		目的にあわせたレクリエーション・ワーク		(相互作用の活用)
第11回		目的にあわせたレクリエーション・ワーク		(演習)
第12回		コミュニケーション・ワーク		(アイスブレイキングの意義)
第13回		コミュニケーション・ワーク		(アイスブレイキングのプログラミング)
第14回		コミュニケーション・ワーク		(演習)
第15回		半期のまとめ		(ふりかえり・評価)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は教科書に沿って進めるが、演習(実技)はグループ・ワークで、楽しさの体験学習を行うので、積極的な授業参加を前提とする。授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。
 課題は必ず提出すること。
 出席を常とし、遅刻をしないこと(遅刻3回で欠席1回とカウントする)。必要のないものは机上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

学校外で開催される各種大会や講習会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験・人間交流の中でレクリエーション活動支援の在り方、技術、手法を体験してください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 課題提出 20% 学習態度 10% (取り組み姿勢・積極性・コミュニケーション能力)

■教科書

レクリエーション支援の基礎 (公益財団法人) 日本レクリエーション協会発行

■参考書

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会とレクリエーションの関わり、レクリエーション支援、事業、インストラクター資格取得				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的] 人々が元気で笑顔に満ちた、より豊かな生活を確立することを支えられる支援者になること。
 [到達目標] レクリエーションの意義を理解し、楽しさの技術・手法を身につけ、自信をもって様々なレクリエーションによる働きかけが展開できるようになる。それにより公認指導者資格(レクリエーション・インストラクター)も取得することができる。

■授業の概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方、基礎理論、支援論、事業論、指導方法などの学習を通し、支援者として実践能力を高め、レクリエーション財の獲得や楽しさの雰囲気づくり等を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目	オリエンテーション	コミュニケーション・ワーク (アイスブレイキング・クラフト等)
第17回	支援論	(ライフスタイルとレクリエーション)	
第18回	支援論	(年代ごとの特徴と課題)	
第19回	支援論	(少子・高齢化社会の課題)	
第20回	支援論	(治療的意味合いを含めたレクリエーション)	
第21回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	(基本技術)	
第22回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	(アレンジの技術)	
第23回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	(演習、実技①)	
第24回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	(演習②)	
第25回	事業論	(レクリエーション事業とは)	
第26回	事業論	(プログラムの組み立て方)	
第27回	事業論	(事業計画 I)	
第28回	事業論	(事業計画 II)	
第29回	事業論	(安全管理の考え方)	
第30回	一年間の総まとめ	(ふりかえり・評価)	

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は教科書に沿って進めるが、演習(実技)はグループ・ワークで、楽しさの体験学習を行うので、積極的な授業参加を前提とする。授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。
 課題は必ず提出すること。
 出席を常とし、遅刻をしないこと(遅刻3回で欠席1回とカウントする)。必要のないものは机上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

学校外で開催される各種大会や講習会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験・人間交流の中でレクリエーション活動支援の在り方、技術、手法を体験してください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 課題提出 20% 学習態度 10% (取り組み姿勢・積極性・コミュニケーション能力)

■教科書

レクリエーション支援の基礎 (公益財団法人) 日本レクリエーション協会発行

■参考書

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	英会話	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英会話				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]
英語を通じたコミュニケーションができるようになる。
[到達目標]
Toeic 700

■授業の概要

読む 聞く 話す 書く の4技能をバランスよく学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Exchanging opinions. Clothes and fashion.
第2回	Planning a celebration. Planning a shopping trip.
第3回	Asking for permission. Using equipment in a building.
第4回	Review 1
第5回	Chance meetings. Accidents and injuries.
第6回	Vacation plans. School subjects.
第7回	Tourist information. Packing for a trip.
第8回	Review 2
第9回	At a hotel. At a restaurant.
第10回	Transportation and accommodations. Personal qualities needed for a job.
第11回	Problems on a vacation. Personality types.
第12回	Review 3
第13回	Exchanging news. Expressing emotions.
第14回	Responses to situations. Personal attitudes.
第15回	Home improvements. Changing your appearance.

■受講生に関わる情報および受講のルール

予習、復習を行い、授業では、積極的に発言する。

■授業時間外学習にかかわる情報

英語の新聞を読んだり映画を見たりして、英語に触れるチャンスを増やすことを心がける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（読む 書く）50%、実技（話す 聞く）50%

■教科書

Get Real 3

■参考書

Toeic 問題集 単語集

科目名	英語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

「英語を読む」ことと「日本語に訳す」ことを同一視している人を見うけられますが、本来の読解力とは、「自分の文法、単語力だけでなく、あらゆる知識を総動員して文の内容理解に取り組む」というきわめて積極的な作業であると考えられます。

■授業の概要

上記の考えに基づき、どのようにしたら「英語の総合力としての読解力」を伸ばせるかを念頭に置いて英語力の養成を図ります。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	長文の読み方
第3回	S(主語)とV(動詞)を正しくつかむ
第4回	未知の単語に出会ったら
第5回	登場人物をつかむ
第6回	意味の固まり(センスグループ)ごとに理解する
第7回	論理の流れを追う
第8回	パラグラフ単位に大意をつかむ
第9回	常識、既習の知識をはたらかす
第10回	パラグラフ単位に大意をつかむ
第11回	まずは直訳してみる
第12回	共通項を探す
第13回	thatの用法
第14回	単語の意味は文の中で決まる
第15回	省略されている語句を見つける

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験の成績(60%)、授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	五十嵐 久子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育英語				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕保育英語を通して子どもの成長を平易な英語で表現することを学びます。会話や歌を通して英語のリズムやイントネーションを身につけましょう。

〔到達目標〕

- ①基本的な英語の語彙を習得すること
- ②英語の構造を理解すること
- ③自分の持てる単語力でわからない単語の意味を類推する力を身につけること

■授業の概要

教科書の各章のリスニングを繰り返して耳を英語に慣らします。動詞を聞き取り文脈から何を言おうとしているかを類推する力をつけましょう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション自分の履歴書を英語で書いて自己紹介
第2回	第1章:子供の園 保育園(1) 不定冠詞
第3回	第1章:子供の園 保育園(2) 数量形容詞 所有格
第4回	第2章:えみの実習初日(1) 動詞の活用 規則動詞 不規則動詞
第5回	第2章:えみの実習初日(2) who whose の疑問文
第6回	第3章:さあ、出かけましょう(1) 接続詞 前置詞
第7回	第3章:さあ、出かけましょう(2) 前置詞と 副詞の違い
第8回	第4章:バシャバシャ、水しぶき(1) 不定詞 動名詞(主語・目的語)
第9回	第4章:バシャバシャ、水しぶき(2) 動名詞の作り方
第10回	第5章:ホットケーキの日(1) 原形不定詞
第11回	第5章:ホットケーキの日(2) 副詞“ly”の作り方
第12回	第6章:本を読んで、お話聞かせて 冠詞
第13回	第7章:すいかで遊ぼう 接続詞
第14回	第8章:お誕生日会 形容詞・副詞の比較
第15回	第9章:子どもと遊び 可算名詞と 不可算名詞

■受講生に関わる情報および受講のルール

定期試験を中間に実施するので、必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験 2回の合計

■教科書

Children's Garden 成美堂

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	グジェビック・マレク	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英会話				

■授業の目的・到達目標

受講生は初歩的で実地的な英語の知識を次の事柄に関連して習得する。

- (1) 単語同士がつながった場合の発音、文の中でのアクセント、イントネーション
- (2) 語彙 — 人間関係と社会に関する基本的な言葉と語句を練習する
- (3) 機能的な言語の構造 — さまざまな社会生活の場面で相手の人が反応してくれて、意思の疎通がはかれるもの
- (4) 文法 — 英語の文法の基本的な原則を勉強する

■授業の概要

さまざまな方法でこうした事柄を表す言い方を勉強する。自己紹介、自分の趣味や興味のあること、学校や仕事の話をする場面、自分の願いや計画を述べたり、能力を表す言い方、前の出来事を表す言い方、提案をしたり、約束をする場面などが扱われる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション Self-introduction. Introducing people	(自己紹介、他者紹介すること)
第2回	Talking about people-friends, relatives, etc. Pastimes and hobbies	(他の人について話す、趣味・興味)
第3回	Making offers. Names of drinks and fruits	(提供すること)
第4回	Making suggestions. Expressing wishes, desires	(提案すること、意図・意思を表す)
第5回	Inviting people. Stating purpose. Giving reason	(招待する、理由を説明すること)
第6回	Talking about professions	(仕事について話す)
第7回	Describing jobs. Expressing opinions	(仕事の描写をすること、意見を表現すること)
第8回	Action happening now. Telling the time	(いまのところ起る活動、時間を数える)
第9回	Talking about one's plans	(自分の経験について話す)
第10回	Expressing ability. Lack of ability	(能力を表す、能力不足を表す)
第11回	Possibility. Permission	(可能性、許可・同意する)
第12回	Talking about past events and experiences	(昔の出来事・経験について話す)
第13回	Which is better? Which is the best?	(どちらが良い?どちらが一番良い?)
第14回	Touring the States - have you ever?	(アメリカ(USA)を旅行する。行ったことがありますか?)
第15回	General review and test preparation	(一般的な復習と試験の準備)

■受講生に関わる情報および受講のルール

会話のコースなので、次の点がとても重要。

- 授業に出席すること
- 授業の事柄を準備すること
- 練習に参加すること

■授業時間外学習にかかわる情報

オリエンテーション時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

1. 学んだ語彙と文法に関する定期試験の成績(70%)
2. 授業への出席状況、積極的に参加しているかという点から総合的に評価する(30%)。

■教科書

『By Way of Review. A Short Course of English for University Students』グジェビック・マレク著(2015)

■参考書

授業時に指示する。

科目名	英語Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅲ				

■授業の目的・到達目標

英語圏に片寄らないさまざまな文化圏の人物が、日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際的な異文化コミュニケーションを学ぶ。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。

■授業の概要

日常英語表現の習得を念頭に置き、Dialogueで基本的な表現を学び、Expressionsではそれらを発信力の向上へつなげる。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	Toeicについて。
第3回	Convenience Stores 中国のコンビニエンス・ストアについて、日本との比較を食習慣の違いおよび接客態度の慣習の違いなどに着目する。
第4回	”
第5回	Norimaki 隣の国、韓国の食文化と日本との類似を知る。
第6回	”
第7回	“Hai” 外国語の一つとして、一般的に私達は「中国語」と分類するが、実際には多くの種類がある。その実状について学ぶ。
第8回	”
第9回	Ramen 穀物である小麦と米の文化の分布とその発展について学ぶ。
第10回	”
第11回	Flavors 特に東南アジアでは香辛料が重要な食文化の一部である。日本とは宗教的に異なる地域もあり、その違いを学ぶ。
第12回	”
第13回	Valentine's Day and International Women's Day 日本と韓国はバレンタイン・デーが定着したようであるが、他のアジア諸国では「国際婦人デー」の方がよく知られている。
第14回	Toeic Test練習。
第15回	”

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るのので、予習は欠かせない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験の成績(60%)・授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅳ				

■授業の目的・到達目標

何気なく接している物事について客観的に見直すきっかけを提供し、文化や社会制度の違い、その背景や理由を英語で理解し説明できることを目指す。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。

■授業の概要

クイズ形式の Introduction、異文化体験の Dialog、関連した話題を短い文章でまとめた Cultural Notes、表現練習の Expressions で構成。日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際的な異文化コミュニケーションを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	Car Names 「かっこいい」という感覚は国によって異なる。それは語感から来るものかもしれない。その理由を考えてみる。
第3回	Fakes にせものが出回る現状を考えてみる。にせものと「似た物」の違いについてもその出現の背景を考察してみる。
第4回	”
第5回	It Doesn't Mean That 「言葉通りの意味ではない」のは日本語だけではない。コミュニケーションのルールの難しさについて学ぶ。
第6回	”
第7回	The Draft 韓国の徴兵制について、最近では多くの日本人が知っている。
第8回	”
第9回	The University System オーストラリアの大学制度について学ぶ。アメリカの制度ではなく、イギリスの制度を基本にしている。
第10回	”
第11回	Job-hunting 日本の学生にとって「就職活動」は大人への入り口とも言える。アメリカの学生はどうなのだろうか。
第12回	”
第13回	Toeic Test 練習。
第14回	”
第15回	”

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験の成績(60%)・授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育原理（社会福祉専攻）	担当教員 （単位認定者）	江原 京子	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育思想の変遷、学校の歴史、義務教育の意義、「わかる」と「できる」、非言語・言語コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解し、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

〔到達目標〕

- 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。
- 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。
- 3 教育現場の実態を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業の概要

- 1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル(①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル)を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。
- 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）- 授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 教育における人間観-「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	生産モデル体制（閉鎖性）の諸問題
第9回	人間モデルによる体制（開放性）
第10回	「わかる」「できる」 ①「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-
第11回	「わかる」「できる」 ②「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-
第12回	非言語コミュニケーション ①人は気持ちをどう伝え合うのか-近言語的、非言語-
第13回	非言語コミュニケーション ②人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境-
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席した場合は定期試験の受験資格を喪失する。
- 2 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとしてまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート 30%、試験またはレポートを 70%として総合的に評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育原理（子ども専攻）	担当教員 （単位認定者）	江島 正子	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育原理の語源 教育の本質 教育目的の変遷 教育の場 わが国の学校教育 教育行政 教師像				

■授業の目的・到達目標

教育概念並びに教育に関する歴史的思想に触れ、今日のわが国における教育の根拠となる学習指導要領について学ぶ。具体的には、教育に関する社会的、制度的、または経営的要素を理解する。こどもの発達や教育に貢献した偉大な先人たちの考え方を学習し、大人としての、自立した人間像を探求する。

■授業の概要

新教育の代表者の一人であるマリア・モンテッソーリは1937年にコペンハーゲン世界会議において、こどもの権利を擁護する講演を行った。21世紀の現在こどもたちの状況はどのようなのであろうか。2015年のいま緊急に解決されなければならない教育問題とは何か。われわれはどのように教育の根本問題を解決できるかについて考察していきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 自己紹介と授業の進め方 「教育原理」の語源 教育とは何か
第2回	教育目的の変遷 古代ギリシア時代 ローマ時代 中世 ルネサンス 実学主義 啓蒙時代 新人文主義 現代
第3回	教育の場 家庭教育 就学前教育 学校教育 社会教育 生涯教育
第4回	わが国の学校教育 明治前期の教育 明治後期の教育 大正期の教育 昭和期の教育 平成期の教育
第5回	教育行政と学校制度 教育行政の組織 中央教育行政のしくみ 学校制度と学校経営 学級経営
第6回	教師 人間形成と教師 教育の本質における教師 教育愛 教師の威厳 教職の誕生
第7回	わが国における教師像の変遷 伝統的教育と聖職者の教師 教育の民主化と教育労働者 専門職としての教職
第8回	教員養成と免許制度 教員免許状更新講座
第9回	養成—採用—研修 教師の職務
第10回	学習指導法の類型 教師中心型 生徒中心型 プロジェクト法 ラボラトリ・メソッド
第11回	学習組織 グループ学習 個別学習 一斉学習
第12回	横割りクラス編成 縦割りクラス編成
第13回	現代の教育諸問題
第14回	教育情報 情報化の光と影
第15回	ディベート まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。授業中に課題として出されたレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる人として、授業中は私語を慎む。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験 レポート 授業出席 ディベートなどで総合的に判断する。

■教科書

岩田朝一編著 『教育学教程』 学苑社

■参考書

江島正子著 『世界のモンテッソーリ教育』 サンパウロ社 授業中にもそのつど紹介する。

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	経済学				

■授業の目的・到達目標

経済学は人間と物との関係を分析する学問であるが、経済社会の構造とその歴史的発展を理解することにより、現代の経済構造を理解させる。

■授業の概要

- 1) 経済の生成・発展を社会科学の一分野としてとらえ分析する。
- 2) 経済を人間生活の中でとらえ、又経済学の変遷を歴史の発展の中からとらえ分析する。
- 3) 現代経済についてケインズ経済学とマルクス経済学の比較から分析。
- 4) 国民所得と経済成長について理解させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	「経済」という用語の解説
第2回	経済学という学問は社会科学の一分野である。社会科学とは何か
第3回	社会科学の中でも政治は当初から経済と密接な関係にあった
第4回	人間生活と経済、経済の基本について
第5回	経済学の成立と歴史。A. スミスの経済学の成立
第6回	重商主義と重農主義
第7回	経済行為…限界効用の理論、メンガーとワルラス
第8回	現代の経済生活 所得、家計、企業、政府の関係について
第9回	現代の経済理論 マーシャル、ピグー、ケインズ、マルクス
第10回	市場と価格 需要と供給の法則 市場機構の限界
第11回	株式会社と株式資本 経営と資本の分離
第12回	国民所得 概念と基本 G.N.P及びG.D.P 経済の循環構造
第13回	家計と企業の循環 所得と経済の循環
第14回	三面等価の原則 所得・雇用・利子率等の関係 流動性選好
第15回	経済成長 概念と経済成長率 成長の要因 投資の二重効果

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を使用しない代わりに板書を大量に行う。ノートを用意し、しっかりと書きとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容の中で多くの著作が登場するのでのちに図書館などで参照すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(100%)

■教科書

なし

■参考書

授業時間中に示す。

科目名	健康論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	健康、疾病予防、メンタルヘルス、体力、運動処方、生涯スポーツ、食育				

■授業の目的・到達目標

生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康を実現することを図る。特に、日常生活の身体を通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。

■授業の概要

健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康との関わりと自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 健康を考える(意識、意義、人間の幸福)
第2回	疾病予防論(感染症、生活習慣病)
第3回	メンタルヘルス論①(心身相関、精神障害)
第4回	メンタルヘルス論②(健康増進と予防)
第5回	ヘルスマネジメント論①(意義、世界的潮流)
第6回	ヘルスマネジメント論②(わが国の動向)
第7回	体力論(体力とは、体力診断、加齢と体力)
第8回	運動処方論(考え方、方法、現実と課題)
第9回	運動文化論(身体運動と文化)
第10回	生涯スポーツ論①(地域社会とスポーツ行政)
第11回	生涯スポーツ論②(地域スポーツと健康)
第12回	健康つくりと運動①(ラジオ体操の基礎理論と実践)
第13回	健康つくりと運動②(ラジオ体操の応用理論と実践)
第14回	健康つくりと運動①(みんなの体操の理論と実践)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・生涯の健康つくりとして、日常生活に応用できる態度の受講。新聞、ニュースでの最新の健康に関する情報は特に意識するよう習慣づける。

[受講のルール]

・毎時間授業の「コメントカード」を提出する。健康つくりと運動では、運動のできる服装で受講する。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関する情報は特に意識するよう習慣づけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(70%) 日常の健康管理や授業態度などの平常点(30%)、総合評価はともに60%を超えていること。

■教科書

USC 健康・スポーツ科学部:「健康論(三訂版)」 道和本書院 平成22年

■参考書

健康・体力つくり財団:「健康日本21」 健康・体力つくり財団 2010

科目名	社会理論と社会システム	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会理論と社会システム				

■授業の目的・到達目標

社会学の歴史と人名について、理解して覚えることが期待される。学習効果として挙げられる。社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを授業の到達目標とする。

■授業の概要

ジェンダー、児童虐待、DVについては、ビデオ学習も取り入れる。社会福祉士の受験科目である社会理論と社会システムで必要とされる人名や業績について包括的に学習する。また人口動態や社会指標では具体的なデータを取り上げて、説明を行う。社会福祉士の過去問題も授業では取り上げて、演習形式で学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ジェンダー
第3回	児童虐待
第4回	ドメスティック・バイオレンス
第5回	高齢者虐待
第6回	まとめ
第7回	問題演習
第8回	問題演習解説
第9回	組織
第10回	役割理論
第11回	いじめ
第12回	人口動態
第13回	福祉国家の理論
第14回	社会学人名(1)
第15回	社会学人名(2)

■受講生に関わる情報および受講のルール

本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を事前に通読しておくことが望ましい。社会福祉士の試験では社会理論と社会システムは暗記すべき項目が比較的多いため、授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと暗記するように努めること。暗記は工夫すると覚えやすいので、授業の中でも紹介していく。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	生涯学習概論	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	秘められた宝 だれでも どこでも いつでも				

■授業の目的・到達目標

生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。

■授業の概要

生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	国際社会における議論
第3回	日本での議論・政策
第4回	生涯学習の理念と理論(その1)
第5回	生涯学習の理念と理論(その2)
第6回	生涯学習の内容と形態
第7回	学校教育と生涯学習
第8回	外国の生涯学習(その1)
第9回	外国の生涯学習(その2)
第10回	生涯学習の先駆け(その1)
第11回	生涯学習の先駆け(その2)
第12回	社会教育制度
第13回	生涯学習支援の動向と課題
第14回	まちづくりと生涯学習
第15回	グローバリゼーションと生涯学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
小論文、レポートは必ず提出すること。
5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということを意識して学習すること。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分。

■評価方法

定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。(目安)定期試験 70%、小論文・レポート 30%

■教科書

「テキスト生涯学習 新訂版」 学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学的理論と心理的支援	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	性格、感情、知覚、学習、認知、社会、発達、臨床				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

さまざまな領域の心理学を学びながら、心理学的な考え方を身につけ、人間に対する視野を広げることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解できる。
- ②人の成長・発達と心理との関係について理解できる。
- ③日常生活と心の健康との関係について理解できる。
- ④心理的支援の方法と実際について理解できる。

■授業の概要

心理学の各領域を網羅的に概説する。基礎心理学から応用心理学まで幅広い視点で学習を進め、心理学理論による人間理解と心理学的支援の方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、心理学とはなにか
第2回	性格—性格理論(類型論と特性論)と資格理解のためのアセスメント
第3回	感情—感情・情緒・情動・気分の定義と感情の発達と変化
第4回	欲求と動機づけ—動機づけの諸理論、葛藤と欲求不満、現実社会への適応
第5回	感覚・知覚・認知—刺激と感覚の関係、感覚と知覚の違いと特性
第6回	学習—条件付け、観察学習と模倣学習、洞察学習
第7回	記憶—記憶システムと記憶内容、短期記憶から作動記憶へ
第8回	知能・創造性・思考—知能の発達と思考過程の理解
第9回	人間関係と集団—対人認知と対人魅力、集団の特徴と集団形成
第10回	対人交流とコミュニケーション—言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第11回	発達の概念—発達の定義と発達段階、生涯発達心理学の考え方
第12回	適応とストレス—ストレスに関する理論とストレスの影響、日常生活とこころの健康
第13回	見立て・面接・心理療法—心理検査法の概要と面接技法(カウンセリング)
第14回	脳と心—脳機能障害による思考や精神の機能障害の特徴とリハビリテーション
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)、受講態度等(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援—心理学』第2版
中央法規出版 2009年

■参考書

梅本堯夫 大山正 岡本浩一 共著 『心理学 心のはたらきを知る』サイエンス社 2002年

科目名	政治学I（世界と日本の関わり）	担当教員 （単位認定者）	久山 宗彦	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	国際政治学、聖徳太子、中東、グローバル化				

■授業の目的・到達目標

国際平和を保っていくためには、国際的な考え方の育成、人間一人ひとりの心の国際化が必要である。そして、その土台は、一人ひとりが、ただ自分の国の市民だけではなく、世界の市民でもあるという自覚にある。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関わりを知り、自分の歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関わりがどのように発展したらよいかについても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	（オリエンテーション）国際社会を生きる人材を育てる 政治（学）とは
第2回	政治のことば
第3回	母国語と母語
第4回	国民と国家の相互関係
第5回	歴史から学ぶ国際政治学と日本の歩む道
第6回	日本外交の原点に位置する聖徳太子
第7回	日本外交の原点に位置する福沢諭吉
第8回	朝鮮半島と日本の深い関わり
第9回	日本と中東（1）
第10回	日本と中東（2）
第11回	グローバル化とナショナリズム（1）
第12回	グローバル化とナショナリズム（2）
第13回	日本人のアイデンティティ「神の文化に対する和の文化」（1）
第14回	日本人のアイデンティティ「神の文化に対する和の文化」（2）
第15回	世界と日本の間違い

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ 授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・ 授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々と関わる日本のニュースに、いつも関心を持って頂きたい。

■オフィスアワー

リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業時にお答えします。

■評価方法

最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。

科目名	政治学Ⅱ（世界と日本の関わり）	担当教員 （単位認定者）	久山 宗彦	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	マルティン・ブーバー、国際貢献、EU、中東問題、平和				

■授業の目的・到達目標

国際平和を保っていくためには、国際的な考え方の育成、人間一人ひとりの心の国際化が必要である。そして、その土台は、一人ひとりが、ただ自分の国の市民だけではなく、世界の市民でもあるという自覚にある。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関わりを知り、自分の歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関わりがどのように発展したらよいか、小さな発表もしていただく予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	（オリエンテーション）マルティン・ブーバーの「関係」の哲学（1）
第2回	マルティン・ブーバーの「関係」の哲学（2）
第3回	care と cure の共通性・相違性と、原点に立ち返って考え直す医療福祉
第4回	湾岸戦争後から行ったイラク乳幼児に対する救援活動—国際貢献とは？—
第5回	ホスピス発祥の地、ダブリンの聖母ホスピスを訪ねて
第6回	イスラエル・パレスチナ問題はなぜ解決しないのか（1）
第7回	イスラエル・パレスチナ問題はなぜ解決しないのか（2）
第8回	EUと東アジア共同体構想
第9回	真の平和へ向かう第一歩とは（1）
第10回	真の平和へ向かう第一歩とは（2）
第11回	真の平和へ向かう第一歩とは（3）
第12回	平和憲法の共有
第13回	学生による発表とコメント
第14回	学生による発表とコメント
第15回	科学的発想と宗教的発想、culture と cult

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ 授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・ 授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々と関わる日本のニュースに、いつも関心を持って頂きたい。

■オフィスアワー

リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業時にお答えします。

■評価方法

最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。

科目名	世界史	担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	世界史				

■授業の目的・到達目標

最初に世界史を通史として学習した上で、ヨーロッパの歴史を基盤に芸術が誕生した背景を学習し、社会人として求められる一般教養を身に付ける一助とする。

■授業の概要

前半の5回は、古代・中世・近代・現代をテーマとして世界史を概観し、後半の10回では、ヨーロッパ史の中から歴史的イベントと関係して作曲されたクラシック音楽が誕生した時代背景を学習し、必要に応じて音楽鑑賞を取り入れて授業を展開する。音楽鑑賞の基準は歴史に関係した事件から、古代と中世はそれぞれの時代を背景として作曲された音楽を、ルネサンス時代から現代までは作曲家の作品から歴史を概観する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 世界史の概要
第2回	古代の歴史 人類の誕生～西ローマ帝国の滅亡
第3回	中世の歴史 ゲルマン民族の移動～ビザンツ帝国の滅亡
第4回	近代の歴史 ルネサンス～市民革命
第5回	現代の歴史 帝国主義時代～21世紀の世界
第6回	古代オリエントと地中海世界-オリエント地方と地中海世界を舞台として作曲された音楽
第7回	中世キリスト教世界と封建制度-ローマ・カトリック教会の発展とクラシック音楽の誕生
第8回	ルネサンスと宗教改革-ルネサンス音楽の誕生
第9回	バロックと中央集権国家-バロック音楽の誕生
第10回	絶対主義国家の衰退と市民階級の台頭-古典派音楽(1)
第11回	市民革命と産業革命-古典派音楽(2)
第12回	近代市民社会の成立と発展-ロマン派音楽(1)
第13回	市民階級の成長と自由主義-ロマン派音楽(2)
第14回	帝国主義と民族主義-民族主義音楽
第15回	世紀末と現代世界-世紀末芸術と現代音楽

■受講生に関わる情報および受講のルール

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立つ場合は、注意をした上でも態度が改まらない場合は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義の際に必要な資料は、その都度作成して配布する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業への参加態度・小論文・試験などを総合して評価する。

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しないが、参考文献などは随時紹介する。

■参考書

世界史や音楽に関する書籍や、クラシック音楽の鑑賞に必要なコンパクト・ディスクは講義の中で紹介する。

科目名	地理学	担当教員 (単位認定者)	大島 登志彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地理学				

■授業の目的・到達目標

- ・地理の基礎教養を身につける。
- ・世界や日本の基本的地誌や地理的感覚を認識する。
- ・フィールド調査を通して、調査内容をレポートし、それを発表する素養を身につける。

■授業の概要

地理学の本質や中学校・高等学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。また、受講学生各自に、身近な地域においてフィールド調査によるレポートを書かせたうえで、要約して発表させ、地理学の調査活動の一端を実践させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	地理学の本質と中学校・高等学校における社会科・地歴科の教職
第2回	日本の文化財・遺産などの概況とレポート課題及びその調査方法
第3回	地球のあらましと世界地誌の概要
第4回	海外旅行に関する諸問題と世界観
第5回	世界の地形・国家と領域
第6回	世界の気候区分とその問題
第7回	最近の気候変化と温暖化
第8回	地図の基本と特徴
第9回	日本の地誌と地域区分
第10回	群馬県の地理概要
第11回	地震と自然災害
第12回	レポートの提出と授業での発表の目的と順序、留意事項など
第13回	身近な地域の調査の発表と考察(1)
第14回	身近な地域の調査の発表と考察(2)
第15回	身近な地域の調査の発表と考察(3)

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視します。すなわち、欠席・遅刻は減点し、おおむね欠席が4分の1を超過した場合、レポートや試験が良好でも、単位の取得は困難になります。健康に留意し、欠席しないようにして下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回、穴うめ作業・演習問題を含んだプリントを配布します。地図帳とプリントでよく復習して下さい。フィールド調査を含むレポートを課します。地図を用意して現地に行き、写真を撮り、レポートをしっかりと書いて下さい。

■オフィスアワー

非常勤講師なので、とくにありません。

■評価方法

定期試験(50%)、授業参加状況(25%)、レポートとそれを基にした授業中の発表(25%)を総合して評価します。

■教科書

ロム・インターナショナル編 日本地図の楽しい読み方 河出書房新社, 二宮書店 基本地図帳 二宮書店
(高校地理の授業で使った地図帳であれば、他社のものでも可(購入不要))

■参考書

講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	哲 学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを釈く。民を新に釈く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉へて国を治むるを釈く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ずる。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ずる。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:成績評価は、筆記試験(70%)・レポート(20%)・授業取組み状況(10%)を鑑み、評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	道徳教育研究	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人間力を育てる学び				

■授業の目的・到達目標

人が社会にあって、人としてどうあるべきなのを学び、実践できる力を身につける。
自己の考えを表現できる言語力・話力・能力をみがき、思考力・判断力を身につける。

■授業の概要

人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(講義内容・方法、授業時の留意事項、評価)・咸有一徳とは
第2回	事象の論説・事実把握・検証・論述すること(題材「ハチドリのひとつく」)
第3回	「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第4回	論語に見る「徳」「仁」の解釈。孔子の時代
第5回	小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第6回	〃
第7回	「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈)・「心」の字源
第8回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは・知行合一(五常・五倫)の解説
第9回	豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)
第10回	家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第11回	福祉界が望むマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第12回	学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第13回	〃
第14回	時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)
第15回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度であること。
日常生活において学びを実践すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について感心を持ってとらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

提出物と定期試験によって評価。それぞれが60%を超えていること。

■教科書

咸有一徳

■参考書

授業において紹介。

科目名	読書指導と文芸	担当教員 (単位認定者)	今年度は閉講	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	読書指導と文芸				

■授業の目的・到達目標

文字の出現が生んだ〈読書〉という行為は、人間の文化と精神に大きな変革をもたらした。しかし、〈読書〉は、いわば、〈読書〉以前の〈ことば〉と深く結び合っている。読書の意味と読書指導の方法を学び身に付ける。

■授業の概要

幼児・児童・生徒を対象とした読書指導の理論と実際が、そうした読書の本質や具体的文芸作品とどう関わっているかについて探求する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目ざす。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス 読書の意味
第2回	読書論
第3回	読書指導と発達段階
第4回	読書指導の方法
第5回	ブックトークの方法
第6回	ブックトークシナリオ作成(1)
第7回	ブックトークシナリオ作成(2)
第8回	ブックトーク試演準備
第9回	ブックトーク試演(1)
第10回	ブックトーク試演(2)
第11回	ブックトーク試演(3)
第12回	ブックトークの評価
第13回	読書と古典
第14回	読書と現代文芸
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

提出物(20%)、定期試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	特設科目・論語	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	論語・孔子・朱子・論語集注・王陽明・中国・江戸時代				

■授業の目的・到達目標

本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。仁とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。本講義では『論語』を通じて人としてのあるべき姿を考察していく。

■授業の概要

各時代の知識人がどのように『論語』を理解したか具体例を挙げ解説していく。論語という古典を用いて、「考える(思想)」とは何かを考察する。「己が思索するとはどういうことか?」を受講生に問う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、受講の際の注意。
第2回	論語概説
第3回	孔子の回想I(人生における「志」の重要性)為政篇第4章
第4回	孔子の回想II(孔子の「志」を人々はどのように理解したか)為政篇第4章、王陽明「示弟立志説」
第5回	論語に見る日常漢語(日本語の語彙として論語の言葉を読む)
第6回	己を見限るのは己自身(自己の限界とは)雍也篇第10章、「教」の可能性(人には出来不出来などない)衛霊公篇第38章
第7回	人は変わることが可能か、陽貨篇第2・3章
第8回	孔子と障害者、衛霊公篇第41章。孔子と不治の病、雍也篇第8章
第9回	論語に見る「悪」I(「悪」の字をどう読むか)里仁篇第3・4章
第10回	論語に見る「悪」II(仁者は「悪が無い」のか「悪むことが無いのか」里仁篇第3・4章
第11回	仁者とは如何なる人かI(三者三様の行動から)微子篇第1章
第12回	仁者とは如何なる人かII(司馬遷の疑問)述而篇第14章、『史記』伯夷列伝
第13回	仁者の気象I、雍也篇第8章
第14回	仁者の気象II、(宋明性理学に於ける「仁」の展開-万物一体の仁-)雍野篇第8章
第15回	論語と自己陶冶(社会福祉・看護に従事する者として、如何に自己を向上させるか)顔淵篇第1章

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、「人が学び続けるとはどういう意義か」を、自己に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ②周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①論語を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学に於ける学問様式を理解すること。
- ②授業計画に示されている章は必ず一読し、理解をして授業に臨むこと。不明の部分は授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験 70%、平常点(小テスト、課題など) 30%

■教科書

鈴木利定監修・中田勝編著『注解 書き下し 論語全文く付・原文』明治書院、平成16年10月

■参考書

宇野哲人『論語新釈』講談社学術文庫、1980年1月。金谷治『論語』新訂版、岩波文庫、1999年11月。他は講義中に適宜紹介する。

科目名	日本国憲法	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	基本的人権、自由権、社会権、国会、内閣、裁判所、地方自治				

■授業の目的・到達目標

日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

まずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律（特に行政法）の紹介も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、人権①（～前文）
第2回	人権②（天皇～私人間効力）
第3回	人権③（包括的基本権・法の下での平等）
第4回	人権④（精神的自由（1））
第5回	人権⑤（精神的自由（2））
第6回	人権⑥（経済的自由）
第7回	人権⑦（人身の自由）
第8回	人権⑧（生存権・教育を受ける権利）
第9回	人権⑨（労働権・参政権・国務請求権・国民の義務）
第10回	統治①（統治機構・国会）
第11回	統治②（内閣）
第12回	統治③（裁判所Ⅰ）
第13回	統治④（裁判所Ⅱ（裁判員制度含む））
第14回	統治⑤（財政・地方自治）
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験（60%）、授業時間に行う小テスト（40%）を総合して評価する。

■教科書

森長秀 編著「法学入門」光生館、2015年

■参考書

小六法（例：「ポケット六法」有斐閣、平成25）

科目名	日本史 I	担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	日本のあけぼの・古代国家の形成・武家社会の形成と転換				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 社会科の指導者として歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会・将来についてのあり方を考え、実践できる資質を養う。

〔到達目標〕

- ①日本史・原始時代から中世までの流れを基本的に理解する。
- ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識する。
- ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 「歴史を学ぶ」ことの意義について理解する。
第2回	人物で学ぶ歴史…野口英世
第3回	日本列島と日本人
第4回	縄文時代
第5回	弥生時代
第6回	古墳と大和王権
第7回	飛鳥の宮廷
第8回	大化の改新
第9回	平城京の政治
第10回	摂関政治
第11回	院政
第12回	鎌倉幕府
第13回	蒙古襲来
第14回	室町幕府
第15回	応仁の乱～戦国の世

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・講義の進度にあわせ、予習・復習を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

・ノートをしっかりとり積極的に授業に臨むこと。

・講義中に配布される資料・プリントをよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

岩宿遺跡・かみつけの里博物館・上野国分寺遺跡・県立歴史博物館等を巡検しレポートを提出する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(60%)、講義への参加態度(40%)を総合して評価する。

■教科書

もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	日本史Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	戦国大名・江戸幕府・三大改革・明治維新政府・戦争と現代日本				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会科の指導者として歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会・将来についてのあり方を考え、実践できる資質を養う。

〔到達目標〕

- ①日本史・戦国の世から近世・近代・現代までの流れを基本的に理解する。
- ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識する。
- ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 「ヨーロッパ人の来航」から世界の動きと日本史を考察する。
第2回	織田信長
第3回	豊臣秀吉
第4回	江戸幕府
第5回	将軍と大名
第6回	幕政の改革Ⅰ…享保の改革
第7回	幕政の改革Ⅱ…寛政の改革
第8回	幕政の改革Ⅲ…天保の改革と幕末
第9回	明治維新
第10回	廃藩置県
第11回	殖産興業
第12回	文明開化
第13回	自由民権運動
第14回	帝国議会
第15回	戦争と現代日本

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・講義の進度にあわせ、予習・復習を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・ノートをしっかりとり積極的に授業に臨むこと。
- ・講義中に配布される資料・プリントをよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

県立歴史博物館・世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」等を巡検しレポートを提出する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、講義への参加態度(40%)を総合して評価する。

■教科書

もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

全集 日本の歴史(小学館) 岩波講座 日本歴史(岩波書店)

科目名	人間と宗教	担当教員 (単位認定者)	相澤 伸央	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共に生きる				

■授業の目的・到達目標

物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教がそれぞれ主力です。「自分の全てを投げだしてはじめて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の宗教に共通する根源でもあります。世界各地の宗教を理解し、特に日本の宗教を深く理解し、共に生きられる人間性を身につけたいものです。

■授業の概要

グローバルな現代社会では多種多様な人間と接する機会が多くあります。このような日常の中で、互いに理解し合える人間関係を作ることが大切です。その根底にある互いの宗教心を理解し、広い視野で共生の道を歩めるようにしたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 評価の方法と人間としての体験の重要性
第2回	宗教の基礎知識として人間の特徴と弱点
第3回	宗教の基礎知識 縄文人と現代人との比較を通し、現代日本人の特性と弱さを知る
第4回	宗教の基礎知識 科学と宗教および芸術や哲学との比較により、宗教の特性を知る
第5回	世界の宗教1 アジアの自然環境の中で活動する宗教としての仏教の特性を見る
第6回	世界の宗教2 インド社会の中で成立した仏教と釈迦の生涯の特長を見る
第7回	世界の宗教3 オリент地域の自然環境と社会の中で育まれたユダヤ教を見る
第8回	世界の宗教4 ユダヤ教とキリスト教をその環境・社会を通じ比較する
第9回	世界の宗教5 キリスト教の成長と西欧社会の背景をさぐる
第10回	世界の宗教6 イスラム教の成立する社会とタリバンの特性を知る
第11回	日本の宗教1 空海の生涯を通し、当時の社会と密教の特徴を知る
第12回	日本の宗教2 鎌倉仏教の特性と日本社会への仏教の浸透を見る
第13回	日本の宗教3 近世以降の日本社会の特性や文化と仏教の関係を見る
第14回	日本の宗教4 現代日本の社会的文化の中で仏教はどんな状態かを知る
第15回	まとめ 人間として現代社会を力強く生きるための智慧を考える

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・自分の現在まで生きてきた状況を見つめなおし、今後の生き方をしっかり考えてみる。

[受講のルール]

・自分の生き方として何かを得るように、積極的に受講する。

・当然一人の社会人として、人に迷惑をかけるのではなく、共生に努める。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストを中心として各時間の予習を行ない、積極的に授業に参加する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度(積極的な授業参加)を30%とし、筆記試験(自分の生き方の問題を中心)を70%として評価します。

■教科書

相澤貞順著「人間と宗教」ノンブル社出版(平成19年)

■参考書

教科書に多数あります。

科目名	福祉情報処理	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、PowerPoint、プレゼンテーション、スピーチ、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

福祉現場のみならず、実社会でも不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的とする。

〔到達目標〕

- ①「プレゼンテーション」本来の意味を理解し、実践できる。
- ②PowerPointを利活用できる。

■授業の概要

本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、スピーチ、グループワークなども取り入れ、「聞く力」「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、スライド作成
第2回	プレゼンテーションの基本、インタビュー
第3回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(1)
第4回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(2)
第5回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(3)
第6回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(4)
第7回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(5)
第8回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(1)
第9回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(2)
第10回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(3)
第11回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(4)
第12回	紙面づくりの基本と作成(1)
第13回	紙面づくりの基本と作成(2)
第14回	プレゼンテーションの実施
第15回	プレゼンテーションの実施

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・USBフラッシュメモリー(1～2GB程度で良い)を各自用意し、毎回必ず持参すること。
- ・復習をしっかり行い、操作内容・手順を習得しておくこと。

〔受講ルール〕

- ・毎回が成果の積み重ねとなる為、欠席で成果が途切れることのないよう心がけること。
- ・テキスト、USBメモリーは必ず持参すること。
- ・グループワークは積極的に参加すること。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話、スマホ)の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、全ての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。(欠席時も同様)
- ・授業で学んだ「伝える技術」は、本授業以外でも実践するよう心がけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ①試験(60%)
- ②課題の提出状況(40%)

■教科書

別に指示する。

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	ボランティア活動Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	足立 勤一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	活動リーダー・コーディネータ・インターンシップ				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅲの到達目標は、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱで培った体験を基に、ボランティア活動のリーダー養成とコーディネータとしての基礎的資質や能力を身に付けることにある。
専門科目・実習そして就職までを踏まえたインターンシップ(専門職体験)として活動し、その能力を体得する。

■授業の概要

建学の精神である『仁』に基づいた人間教育の場である。「人を動かす」「社会に有為な活動とは何か？」を探求し、実践しその能力を身に付けることである。又、現在の社会情勢から、「何が求められているのか?」「どうすれば、福祉社会の実現に貢献できるのか?」を実践的に活動し体験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーションⅠ。①ボランティア活動Ⅲの狙いと目標。②活動グループ編成③活動計画その1
第2回	研究・調査活動①：学生ボランティア活動の歴史(世界・日本・本学)研究。及び活動計画その2
第3回	活動報告会①：その月内の活動内容を「まとめ」、報告発表し、討議する。
第4回	研究・調査活動②：グループ活動(反省・改善)。地域社会や福祉施設等の要望について調査。
第5回	活動報告会②：主にグループ活動の進捗状況を中心に、質疑応答を進める。
第6回	研究・調査活動③：活動計画のため、各施設や団体等との連携を行う。協力者も募る。
第7回	研究・調査活動④：各施設や団体等からの要望を入れた実行可能な計画を再構築する。
第8回	活動報告会③：前期の活動「まとめ」を作成し、夏季休業中の活動計画を発表する。
第9回	オリエンテーションⅡ。①前期の活動見直し。②後期の活動計画を発表する。③協力者に感謝する。
第10回	研究・調査活動⑤：グループ活動の情宣活動。協力者(学内・外)への要請と養成活動。
第11回	活動報告会④：活動発表と質疑応答。次月及び冬季休業中の活動計画を発表する。
第12回	研究・調査活動⑥：活動内容の自己省察と再構築。活動の「場」を拡げ、質の向上を目指す。
第13回	研究・調査活動⑦：活動の実践報告と質疑応答。年間活動報告書の説明と作成作業「その1」。
第14回	活動報告書作成①：報告書の作成形式や添付資料の整理及び作成作業「その2」。
第15回	活動報告書作成②：活動の社会的評価についてグループ内討議。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①活動メンバーで協議し、活動計画書を作成、実践・評価・改善する。(P.D.C.A.に基づく活動)
- ②毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
- ③活動に伴う経費負担については、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ、ボランティアセンターで保管する。
- ④受講希望者が10名以下の場合は開講しない。

■授業時間外学習にかかわる情報

福祉職の将来像を描き、学外での活動が多い。活動計画書を提出し、指導教員の許可を得て実践する事。

■オフィスアワー

事前予約すること。

■評価方法

- ①活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。(40%)
- ②各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。(20%)
- ③「年間活動報告書」の内容を評価する。(30%)
- ④活動先施設・団体への御礼及び感謝の礼を尽くすこと。(10%)

■教科書

講義初めの授業内で適宜紹介する。

■参考書

講義初めの授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	足立 勤一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	活動リーダー・コーディネータ・インターンシップ・新職域開拓 (NPO)				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設や関係団体等への就職後の任務（活動）を想定し、実践力を高める。具体的には、ボランティア活動のリーダーシップとコーディネータとしての基礎的資質や能力を身に付けることにある。インターンシップの体験も取り入れ、身に付けた能力を新たに社会に貢献することも視野に入れることが目的である。

■授業の概要

建学の精神である『仁』に基づいた人間教育育成の場である。「人を動かす」・「社会に有為な活動とは何か？」を探求・実践し、その能力を身に付けることである。又、現在の社会情勢を見極めながら、「どうすれば地域福祉の向上に貢献できるのか？」・「どうすれば、福祉社会の実現に貢献できるのか？」を実践的に活動し体験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーションⅠ。①ボランティア活動Ⅳの狙いと目標。②活動グループ編成③活動計画その1
第2回	研究・調査活動①：日本における地域福祉活動の歴史。及び活動計画その2
第3回	活動報告会①：その月内の活動内容を「まとめ」、報告発表し、討議。協力者を募る方策を検討する。
第4回	研究・調査活動②：グループ活動（反省と改善）。地域社会や福祉施設等の要望について調査。
第5回	活動報告会②：主にグループ活動の進捗状況を中心に、質疑応答を進める。
第6回	研究・調査活動③：活動計画を実現できるように各施設や団体等との連携を行う。又、協力者を募る。
第7回	研究・調査活動④：施設や団体等の要望を入れた可能な計画を再構築し、必要な人材を集める。
第8回	活動報告会③：前期の活動「まとめ」を作成し、夏季休業中の活動計画を発表する。
第9回	オリエンテーションⅡ。①前期活動の見直す。②後期活動計画を発表する。③前期の協力者に感謝する。
第10回	研究・調査活動⑤：グループ活動の情宣活動。協力者（学内・外）への要請と養成計画作成し活動。
第11回	活動報告会④：グループ活動発表と質疑応答。次月及び冬季休業中の活動計画を発表する。
第12回	研究・調査活動⑥：活動内容の自己省察と再構築。活動の「場」を拡げ且つ、活動の質の向上を目指す。
第13回	研究・調査活動⑦：グループ活動の実践報告と質疑応答。年間活動報告書の説明と作成作業「その1」。
第14回	活動報告書作成①：報告書の作成形式や添付資料の整理及び作成作業「その2」。
第15回	活動報告書作成②：活動の社会的評価について、福祉施設や関係団体等からの評価を頂くこと。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①活動メンバーで協議し、活動計画書を作成、実践・評価・改善する。(P.D.C.A.に基づく活動)
- ②毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
- ③活動に伴う経費負担については、原則として自己負担で実践すること。但し、『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ、ボランティアセンターで保管する。
- ④受講希望者が7名以下の場合には開講しない。

■授業時間外学習にかかわる情報

福祉職の将来像を描き、学外活動が中心なので、事前に活動計画書を提出し、指導教員の許可を得てから実践する事。

■オフィスアワー

担当教員の出講日及び出張等あるので、確認の上事前予約すること。

■評価方法

- ①活動計画書に沿った、毎月の発表資料や内容を評価する。(40%)
- ②各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。(20%)
- ③「年間活動報告書」の内容を評価する。(30%)
- ④活動先施設・団体への御礼及び感謝の礼を尽くすこと。(10%)

■教科書

講義初めの授業内で適宜紹介する。

■参考書

指導教員から、必要に応じ適宜。

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション、マスメディア、メディア・リテラシー、情報、客観性				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これからの人生で自分を輝かせていくには、どうしたらよいか。マスメディアの正しい理解や豊かなコミュニケーションの探求を通して、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①グローバル社会が進む中、マスメディアが危機を迎えていることを理解する。
- ②マスメディアやジャーナリズムの特性を考え、メディア・リテラシーの重要性を深める。
- ③コミュニケーションを起源から掘り起こし、人間社会の営みの中で「ありがとう」の認識がいかに大切かを体得する。

■授業の概要

マスメディアの現状と課題を取り上げるとともに、情報やジャーナリズムの特性を具体的に学習し、多様化するメディアをいかに生活に生かすかを考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	講義のオリエンテーション・複眼という視点
第2回	公正と利他
第3回	冷静と時代感覚
第4回	「学ぶ」ということ
第5回	マスメディアの危機① グローバル化の中で
第6回	マスメディアの危機② テレビと新聞のもたれ合い
第7回	マスメディアの危機③ マニュアル化という暴走
第8回	マスメディアの危機④ 市場原理に埋没
第9回	メディア・リテラシー① ニュースとは何か
第10回	メディア・リテラシー② 客観報道とは何か
第11回	メディア・リテラシー③ ジャーナリズムの特性
第12回	メディア・リテラシー④ 批判と疑いの精神
第13回	メディア・リテラシー⑤ 自らの感度を磨く
第14回	まとめ① たくましく情熱的に生きる
第15回	まとめ② メディアの未来と私たち

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げて、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

〔受講のルール〕

社会の動きや身の回りの出来事に関心を持って、自分の見方や考え方を整理しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストは熟読し、予習を实践しよう。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

内田 樹 『街場のメディア論』(光文社新書) 外岡 秀俊 『情報のさばき方』(朝日新書)

■参考書

日々の新聞

科目名	倫理学	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理学				

■授業の目的・到達目標

社会とは人間と人間の関係性の中で構築されている。その中で我々は日々決断を求められているが、その際に確固たる基準はあるのだろうか。我々が普段下す判断を倫理的に考察することにより、よりよく生活をおくることが可能である。

■授業の概要

人間の判断基準や思考が具体的な場でどのように変化したりするのか。倫理学の思考に基づき考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	授業オリエンテーション、諸注意、人を助けるために嘘をつくことは許されるか
第2回	10人の命を救うために1人の命を殺すことは許されるか
第3回	10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかない時、誰にわたすか
第4回	エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか
第5回	どうすれば幸福の計算ができるか
第6回	判断能力の判断は誰がするか
第7回	〈……である〉から〈……べきである〉を導き出すことはできないか
第8回	正義の原理は純粋な形式で決まるのか、共同の利益で決まるのか
第9回	思いやりだけで道徳の原則ができるか
第10回	正直者が損をすることはどうしたら防げるか
第11回	他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか
第12回	貧しい人を助けるのは豊かな人の義務であるか
第13回	現在の人間には未来の人間に対する義務はあるか
第14回	正義は時代によって変わるか
第15回	科学の発達に限界を定めることができるか、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、「人が学び続けるとはどういう意義か」を、自己に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ②周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。
- ③本人の責に帰す遅刻早退は認めない。ただし公共機関の遅れによるものはその限りではない。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義に臨む前に、指定箇所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。

■オフィスアワー

なし。ただし随時質問は受け付けます。

■評価方法

期末試験 70%、平常点(小テスト・課題など) 30%

■教科書

加藤尚武『現代倫理学入門』(講談社学術文庫1997年2月)

■参考書

新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』(世界思想社、2000年9月)

專 門 科 目

科目名	アクティビティ・サービス援助技術	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アクティビティ、生活の快、余暇と余暇活動、生活支援、自立支援、人間の尊厳、現代史(生活史と文化史)				

■授業の目的・到達目標

福祉サービス利用者（高齢者施設、障害者施設、保育所、医療機関等）の心身と生活の活性化を支援するための知識と技術を身に付けるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を体得し、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指すことを目的とする。

■授業の概要

近年、福祉施設や医療機関の分野で使われるようになってきた『アクティビティ』という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳の保持』『自立支援・自律支援』『その人らしい生き方に対する支援』の視点から、実践的な知識と技術を身に付けるために、講義と演習による授業を展開する。特にレクリエーションとアクティビティの違いについて基本的な言葉の誤解からきめ細かく説明し、生活支援としての福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション：履修上の注意と授業の受け方、学習の進め方について説明する。
第2回	『レクリエーションからアクティビティ・サービスへ』
第3回	垣内理論の成り立ち：生活の快論と社会福祉
第4回	ワークショップ：お年寄りと自分の人生の比較/日本の文化
第5回	アクティビティ・サービスとは何か
第6回	日常生活支援とコミュニケーション
第7回	ワークショップ：高齢者の知識と生きてきた道を知る/コミュニケーション・ギャップ
第8回	アクティビティ・サービスの効果について
第9回	アクティビティ・ワーカーの資質
第10回	ワーク・ショップ：DVD鑑賞
第11回	援助のための人間理解：高齢者とは
第12回	高齢者を理解する：心理的側面、身体的側面、社会的側面
第13回	高齢者を理解する：心理的側面、身体的側面、社会的側面
第14回	演習 特別養護老人ホームにおける個別支援
第15回	アクティビティ・サービスの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃より高齢者に関する情報や明治、大正、昭和の歴史に興味・関心を持つ。また、障害者スポーツなどの記事や報道にも注意を払うこと。

■オフィスアワー

火曜日 2時限

■評価方法

筆記試験 60%、授業中レポート 20%、グループワーク及び発表 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。

■教科書

アクティビティ・サービス（心身と生活の活性化を支援する）：中央法規出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	アクティビティ・サービス援助技術	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アクティビティ、生活の快、余暇と余暇活動、生活支援、自立支援、人間の尊厳、現代史(生活史と文化史)				

■授業の目的・到達目標

福祉サービス利用者（高齢者施設、障害者施設、保育所、医療機関等）の心身と生活の活性化を支援するための知識と技術を身に付けるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を体得し、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指すことを目的とする。

■授業の概要

近年、福祉施設や医療機関の分野で使われるようになってきた『アクティビティ』という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳の保持』『自立支援・自律支援』『その人らしい生き方に対する支援』の視点から、実践的な知識と技術を身に付けるために、講義と演習による授業を展開する。特にレクリエーションとアクティビティの違いについて基本的な言葉の誤解からきめ細かく説明し、生活支援としての福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	生活環境の全体整備とは何か
第17回	情報の提供について
第18回	リアリティ・オリエンテーション:認知症について考える
第19回	アクティビティサービスにおけるICFと支援の基本について
第20回	演習 通所介護の個別支援
第21回	アクティビティサービスにおける計画とは
第22回	アクティビティプログラムの計画を立てる前の確認
第23回	アクティビティ・サービス計画論
第24回	ワークショップ アクティビティ・プログラムの作成
第25回	ワークショップ アクティビティ・プログラムの作成
第26回	ワークショップ アクティビティ・プログラムの作成
第27回	アクティビティ・プログラム 発表
第28回	演習 介護老人保健施設の行事
第29回	アクティビティサービスと死
第30回	アクティビティ・サービスのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・支援者として好感もてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃より高齢者に関する情報や明治、大正、昭和の歴史に興味・関心を持つ。また、障害者スポーツなどの記事や報道にも注意を払うこと。

■オフィスアワー

火曜日 2時限

■評価方法

筆記試験 60%、授業中レポート 20%、グループワーク及び発表 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。

■教科書

アクティビティ・サービス（心身と生活の活性化を支援する）：中央法規出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術 専門的コミュニケーション こころとからだのしくみ ボディメカニクス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護を必要とする人たちが、尊厳をもって日々その人らしく暮らしていけるように支援するための、全人的な介護の知識と技術を習得し実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①介護とは何か、介護と生活支援との関係について理解することができる。
- ②専門的コミュニケーションの目的と役割および技術のポイントを理解することができる。
- ③生活行為に関連したこころとからだのしくみについて理解し、具体的援助方法が実践できる。
- ④ボディメカニクスを活用した、安全で安楽な介護技術を実践することができる。
- ⑤要介護者の意欲を引き出し、残存機能を生かした介護技術を実践することができる。

■授業の概要

介護対象者の「人間理解」と「自立支援」の観点から、基本的な日常の「生活支援技術」に焦点をあて、介護技術の根拠となる人体の構造と機能などを理解した上で、具体的な介護場面を想定した介護の技法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	介護と生活支援の関係
第3回	介護場面におけるコミュニケーション技術
第4回	ベッドメイキングとリネン類のたたみ方
第5回	ベッドメイキング シーツ交換の方法
第6回	移動に関連したこころとからだのしくみ
第7回	自立に向けた移動の介護
第8回	ベッド上での移動・移乗動作の援助 ①
第9回	ベッド上での移動・移乗動作の援助 ②
第10回	車いす使用時の基礎知識 車いすの移乗方法
第11回	車いすの移動方法 杖歩行の技法と援助
第12回	総合演習①
第13回	総合演習②
第14回	睡眠の援助
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は学校指定の運動着とシューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。長い爪とマニキュアは禁止。長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。演習時の教材の準備、後片付けは、グループメンバーと協力して行うこと。教材は大切に使用し、整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み、社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 50% 実技試験 30% グループワーク 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規、「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	脳の機能 誤嚥予防 自助具 排尿障害 脱健着患 入浴に伴う事故予防				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護を必要とする人たちが、尊厳をもって日々その人らしく暮らしていけるように支援するための、全人的な介護の知識と技術を習得し実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①介護を必要とする人のこととからだのしくみについて理解することができる。
- ②生活行為に関連したこととからだのしくみについて理解し、具体的援助方法が実践できる。
- ③ボディメカニクスを活用した、安全で安楽な介護技術を実践することができる。
- ④要介護者の意欲を引き出し、残存機能を活かした介護技術を実践することができる。

■授業の概要

介護対象者の「人間理解」と「自立支援」の観点から、基本的な日常の「生活支援技術」に焦点をあて、介護技術の根拠となる人体の構造と機能などを理解した上で、具体的な介護場面を想定した介護の技法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	生活行為に関連したからだのしくみ 「脳のはたらき」
第18回	食事に関連したこととからだのしくみ
第19回	食事介護の実際 ①
第20回	食事介護の実際 ②
第21回	排泄に関連したこととからだのしくみ
第22回	排泄介護の実際 ①
第23回	排泄介護の実際 ②
第24回	入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみ
第25回	安全な入浴・清潔保持の援助の方法
第26回	清潔保持の援助の実際
第27回	身だしなみに関連したこととからだのしくみ
第28回	衣服の着脱の援助
第29回	総合演習
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は学校指定の運動着とシューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。長い爪とマニキュアは禁止。長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。演習時の教材の準備、後片付けは、グループメンバーと協力して行うこと。教材は大切に使用し、整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み、社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 50% 実技試験 30% グループワーク 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規、「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	老化現象 生活の質(QOL) バイタルサイン 感染症 身体障害 重複障害 内部障害				

■授業の目的・到達目標

介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要とする幅広い対象者に質の高い実践的な介護が提供できるよう、基礎的な知識と具体的な援助方法を修得することを目的とする。

[到達目標]

- ①加齢に伴う身体機能低下と生活状況の変化について理解することができる。
- ②バイタルサインの基本的な医療知識と観察方法、その対応について理解し実践することができる。
- ③高齢者や障害のある人におこりやすい感染症対策について理解することができる。
- ④身体、重複障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法を理解することができる。

■授業の概要

高齢者の病気の特徴と老化が生活に及ぼす影響や身体障害、重複障害のある人への関わり方、また医療や他職種との連携など介護や医療の関係性や介護の方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	老化現象と生活への影響
第3回	生活の質(QOL)と介護
第4回	心身状態とバイタルサインの観察
第5回	身体不調時、異常時の介護 ①
第6回	身体不調時、異常時の介護 ②
第7回	医療機関と他職種との連携
第8回	感染症対策
第9回	身体障害のある人への理解 ①
第10回	身体障害のある人への理解 ②
第11回	重複障害のある人への理解 ①
第12回	重複障害のある人への理解 ②
第13回	内部障害のある人への理解 ①
第14回	内部障害のある人への理解 ②
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

演習は学校指定の運動着とシューズを着用すること。

イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。

長い爪とマニキュアは禁止。長い髪は束ねること。

[受講のルール]

他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

挨拶や身だしなみを整えること。

演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。

教材は大切に使用し、整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は、人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク 20% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規

「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	認知症 応急手当 介護と医行為 終末期 グリーフケア				

■授業の目的・到達目標

介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要とする幅広い利用者に対し、質の高い実践的な介護が提供できるよう、基礎的な知識と具体的な援助方法を修得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①認知症に伴うこころとからだの変化と介護の方法について理解することができる。
- ②予想される高齢者の事故とその予防、応急手当のポイントについて説明することができる。
- ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。
- ④薬剤使用時や医行為など医療対応時における介護について理解することができる。

■授業の概要

本講義では、系統的な知識で介護実践の根拠を理解し、視聴覚教材や演習などで「介護の本質」と「人間関係形成技術」を再確認する。主に社会問題でもある「認知症」「終末期介護」に焦点を当て、介護の現状と支援方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	認知症の医学的理解
第18回	認知症のある人の暮らしと生活
第19回	認知症に対する介護技術
第20回	介護過程の意義
第21回	緊急事故時の対応 ①
第22回	緊急事故時の対応 ② 応急手当
第23回	緊急事故時の対応 ③ 応急手当
第24回	介護と医療行為
第25回	薬剤使用時の介護
第26回	終末期の介護 ①
第27回	終末期の介護 ②
第28回	介護サービスの概要
第29回	介護従事者の安全と健康管理
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は、学校指定の運動着とシューズを着用のこと。
イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。長い爪とマニキュアは禁止。
長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。
演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。教材は大切に使用し整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は、人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 50% 実技試験 30% 授業中レポート 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉講座 介護技術論」 第一法規
「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育実習事前事後指導(中・高)2年	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習の意義と目的、教育実習生の心構え、学習指導案、模擬授業、授業研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習の事前と事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。
- 2 学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。
- 3 生徒理解に努めることができる。

■授業の概要

- 1 3年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。
- 2 中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ること、本実習に向けての意識を高める。
- 3 学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 教職への招待・ガイダンス 大学の事前指導で何を学ぶか
第2回	教育実習の意義と目的
第3回	教育実習の課題と実習生としての心構え
第4回	先輩の研究授業・模擬授業の視聴
第5回	観察実習の書き方、学習指導案の作成 ①
第6回	中学校授業参観(朝の会、社会科、意見交換会)
第7回	中学校授業参観の検討会(朝の会、社会科、意見交換会)
第8回	学習指導案の作成②
第9回	模擬授業の実践 ①
第10回	模擬授業の実践 ②
第11回	模擬授業の実践 ③
第12回	授業研究 ①
第13回	模擬授業の実践 ④
第14回	模擬授業の実践 ⑤
第15回	授業研究 ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で実習を認めない)や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。KJ法のまとめは授業者が行い、次回の授業日までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時間内に提示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート(30%)、模擬授業の実践(30%)、試験またはレポート(40%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育実習事前事後指導(中・高)2年	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習の意義と目的、教育実習生の心構え、学習指導案、模擬授業、授業研究				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

教育実習の事前と事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。

[到達目標]

- 1 学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。
- 2 学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。
- 3 生徒理解に努めることができる。

■授業の概要

- 1 3年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。
- 2 中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ること、本実習に向けての意識を高める。
- 3 学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	模擬授業の実践	⑥
第17回	模擬授業の実践	⑦
第18回	高等学校授業参観 (福祉、公民、意見交換会)	
第19回	高等学校授業参観の検討会 (福祉、公民、意見交換会)	
第20回	模擬授業の実践	⑧
第21回	授業研究	③
第22回	模擬授業の実践	⑨
第23回	模擬授業の実践	⑩
第24回	模擬授業の実践	⑪
第25回	授業研究	④
第26回	模擬授業の実践	⑫
第27回	模擬授業の実践	⑬
第28回	模擬授業の実践	⑭
第29回	授業研究	⑤
第30回	まとめ 本実習に向けて	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で実習を認めない)や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。KJ法のまとめは授業者が行い、次回の授業日までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時間内に提示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート(30%)、模擬授業の実践(30%)、試験またはレポート(40%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育実習事前事後指導(中・高)3年	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員の資質、教育実習の留意事項、教育実習、教育実習録、教育実習報告				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念を意識しながら教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。

〔到達目標〕

- 1 学校の組織・運営や生徒指導および学習(教科)指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることができる。
- 2 本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。

■授業の概要

- 1 2年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。
- 2 生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。
- 3 後期は教員採用試験に向けて、主に教職教養・専門教養を中心に教員採用試験対策講座を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明)	教育実習に臨み	-教育実習の範囲と内容-
第2回	実習を受け入れる立場から ①	-中学校の立場から-	
第3回	実習を受け入れる立場から ②	-高等学校の立場から-	
第4回	教育実習で留意すること		
第5回	観察実習、教育実習録の書き方		
第6回	教育実習の実際 ①		
第7回	教育実習の実際 ②		
第8回	本実習前オリエンテーション		
第9回	研究授業案の作成		
第10回	模擬授業の実際 ①		
第11回	模擬授業の実際 ②		
第12回	教育実習報告・検討会	①	
第13回	教育実習報告・検討会	②	
第14回	教育実習報告・検討会	③	
第15回	教育実習報告・検討会	④	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で単位認定を認めない)や授業態度の悪い学生は、本実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時間内に提示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート 30%、提出物 30%、試験またはレポートを 40%として総合的に評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学、2012年
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 3 東京教友会編著 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店、2012年度版

■参考書

東京教友会編著 『一般教養ランナー』 一ツ橋書店、各自治体が出版している過去問題等

科目名	教育実習事前事後指導(中・高)3年	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員採用試験、教職教養、専門教養、教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念を意識しながら教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。

〔到達目標〕

- 1 学校の組織・運営や生徒指導および学習(教科)指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることができる。
- 2 本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。

■授業の概要

- 1 2年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。
- 2 生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。
- 3 後期は教員採用試験に向けて、主に教職教養・専門教養を中心に教員採用試験対策講座を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	教員採用試験対策 ① (主に教職教養・専門教養科目)
第17回	教員採用試験対策 ② (主に教職教養・専門教養科目)
第18回	教員採用試験対策 ③ (主に教職教養・専門教養科目)
第19回	教員採用試験対策 ④ (主に教職教養・専門教養科目)
第20回	教員採用試験対策 ⑤ (主に教職教養・専門教養科目)
第21回	教員採用試験対策 ⑥ (主に教職教養・専門教養科目)
第22回	教員採用試験対策 ⑦ (主に教職教養・専門教養科目)
第23回	教員採用試験対策 ⑧ (主に教職教養・専門教養科目)
第24回	教員採用試験対策 ⑨ (主に教職教養・専門教養科目)
第25回	教員採用試験対策 ⑩ (主に教職教養・専門教養科目)
第26回	教員採用試験対策 ⑪ (主に教職教養・専門教養科目)
第27回	教員採用試験対策 ⑫ (主に教職教養・専門教養科目)
第28回	教員採用試験対策 ⑬ (主に教職教養・専門教養科目)
第29回	教員採用試験対策 ⑭ (主に教職教養・専門教養科目)
第30回	教員採用試験対策 ⑮ (主に教職教養・専門教養科目)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で単位認定を認めない)や授業態度の悪い学生は、教育実習の取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教員採用試験に向けて、受験を希望する自治体の過去問題から苦手分野を克服し、一般教養、教職教養、専門教養に熱心に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時間内に提示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート 30%、提出物 30%、試験またはレポートを 40%として総合的に評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学、2012年
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 3 東京教友会編著 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店、2012年度版

■参考書

東京教友会編著 『一般教養ランナー』 一ツ橋書店、各自治体が出版している過去問題等

科目名	教育実習事前・事後指導（特支）	担当教員 （単位認定者）	今井 雅巳	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援学校の実習の意義、実習の基本的知識、障害児理解、指導案、指導技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援学校の教育実習にあたり、実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通し特別支援学校の教員となる資質と意欲を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。
- ②障害児について、指導目標を立て、実際に授業を組み立て指導することができる。

■授業の概要

教育実習を行うために必要な、障害のある児童生徒の理解の仕方、実習への取り組む姿勢などを学ぶ。指導案の書き方を学んだり、模擬授業などを行う。実習後は反省やまとめなどの中で教員になるための資質を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 実習に臨むために必要なこと
第2回	実習の意義と心得について
第3回	実習校の組織、教育課程の理解を資料から把握する 教員採用試験対策
第4回	授業観察、授業参加、実習録について資料で学ぶ 教員採用試験対策
第5回	学習指導案について理解する 教員採用試験対策
第6回	学習指導案作り（各教科、日生、遊び、生単、作業、自立活動）1 教員採用試験対策
第7回	学習指導案作り（各教科、日生、遊び、生単、作業、自立活動）2 教員採用試験対策
第8回	学習指導案作り（各教科、日生、遊び、生単、作業、自立活動）3 教員採用試験対策
第9回	学習指導案作り（各教科、日生、遊び、生単、作業、自立活動）4 教員採用試験対策
第10回	学習指導案作り（各教科、日生、遊び、生単、作業、自立活動）5 教員採用試験対策
第11回	模擬授業・授業研究会1
第12回	模擬授業・授業研究会2
第13回	模擬授業・授業研究会3
第14回	模擬授業・授業研究会4
第15回	模擬授業・授業研究会5

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届け出る。
- ・教師になる意思を固めておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。
- ・学習指導要領、解説書を読んでおくこと。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

学習指導案、模擬授業（50%）、定期試験（50%）。

■教科書

文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領」「要領解説総則等編」「要領解説自立活動編」

■参考書

（独法）「特別支援教育の基礎・基本」 著作 国立特別支援教育総合研究所 ジアーズ教育新社

科目名	教育実習事前・事後指導(特支)	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援学校の実習の意義、実習の基本的知識、障害児理解、指導案、指導技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援学校の教育実習にあたり、実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通し特別支援学校の教員となる資質と意欲を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。
- ②障害児について、指導目標を立て、実際に授業を組み立て指導することができる。

■授業の概要

教育実習を行うために必要な、障害のある児童生徒の理解の仕方、実習への取り組み姿勢などを学ぶ。指導案の書き方を学んだり、模擬授業などを行う。実習後は反省やまとめなどの中で教員になるための資質を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	話の聴き方1
第17回	話の聴き方2
第18回	学校の今日的問題1
第19回	学校の今日的問題2
第20回	学級経営1
第21回	学級経営2
第22回	特別支援学校教諭について考える1
第23回	特別支援学校教諭について考える2
第24回	教育実習報告・研究会1
第25回	教育実習報告・研究会2
第26回	教育実習報告・研究会3
第27回	教育実習報告・研究会4
第28回	教育実習報告・研究会5
第29回	「特別支援学校教諭として」 グループディスカッション
第30回	「特別支援学校教諭として」 グループディスカッション

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届け出る。
- ・教師になる意思を固めておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。
- ・学習指導要領、解説書を読んでおくこと。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

- ・学習指導案・模擬授業(50%)・実習報告書・発表(50%)

■教科書

文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領」「要領解説総則等編」「要領解説自立活動編」

■参考書

(独法)「特別支援教育の基礎・基本」 著作 国立特別支援教育総合研究所 ジアーズ教育新社

科目名	教員採用試験対策講座(小学校)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	0 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	採用試験、一般教養、基礎学力の向上				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

教員採用試験における一般教養の力量を高めることを目的とする。

[到達目標]

- ①一般教養5科目の基礎知識を身に付けることができる。
- ②指定問題集の予習復習、採用試験過去問を解くこと等、自学自習の態度を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 一般教養5科目(国語、数学、社会、理科、英語)について、各教科6時間ずつの講義を受ける。5人の教員がオムニバス形式で指導する。
- 2 指定問題集に則り、担当教員からの講義及び学生の学び合いを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、数学①(基本)
第2回	数学②(基本)
第3回	数学③(基本)
第4回	数学④(応用)
第5回	数学⑤(応用)
第6回	数学⑥(自己課題)
第7回	国語①(基本)
第8回	国語②(基本)
第9回	国語③(基本)
第10回	国語④(応用)
第11回	国語⑤(応用)
第12回	国語⑥(自己課題)
第13回	社会①(基本)
第14回	社会②(基本)
第15回	社会③(基本)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

・初回の授業で明示する。

■評価方法

評価しません。

■教科書

「2016年度版 一般教養完全攻略」協同出版

■参考書

自治体別教員採用試験過去問題集

科目名	教員採用試験対策講座(小学校)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	0 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	採用試験、一般教養、基礎学力の向上				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

教員採用試験における一般教養の力量を高めることを目的とする。

[到達目標]

- ①一般教養5科目の基礎知識を身に付けることができる。
- ②指定問題集の予習復習、採用試験過去問を解くこと等、自学自習の態度を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 一般教養5科目(国語、数学、社会、理科、英語)について、各教科6時間ずつの講義を受ける。5人の教員がオムニバス形式で指導する。
- 2 指定問題集に則り、担当教員からの講義及び学生の学び合いを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	社会④(応用)
第17回	社会⑤(応用)
第18回	社会⑥(自己課題)
第19回	理科①(基本)
第20回	理科②(基本)
第21回	理科③(基本)
第22回	理科④(応用)
第23回	理科⑤(応用)
第24回	理科⑥(自己課題)
第25回	英語①(基本)
第26回	英語②(基本)
第27回	英語③(基本)
第28回	英語④(応用)
第29回	英語⑤(応用)
第30回	英語⑥(自己課題)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

・初回の授業で明示する。

■評価方法

評価しません。

■教科書

「2016年度版 一般教養完全攻略」協同出版

■参考書

自治体別教員採用試験過去問題集

科目名	現代社会と福祉	担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会と福祉				

■授業の目的・到達目標

・社会福祉の役割と意義を中心に指導する。主に、概念・理念、歴史、政策・制度、実践・技術、実践体験等や最近の社会動向・展望等である。さらに、専門職資格をいかに取得するかも重要な課題である。

■授業の概要

現代社会に対応できる社会福祉の原理や基本的な知識・技術等の分野を研究する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	社会福祉の新たな展開
第2回	福祉政策理解の枠組み
第3回	福祉国家の変容
第4回	現代社会の変化と福祉
第5回	社会福祉の拡大と限定
第6回	市場の論理と倫理
第7回	福祉の思想
第8回	社会政策のなかの福祉政策
第9回	福祉政策の体系
第10回	近代化と福祉政策
第11回	高度経済成長期の福祉政策
第12回	1990年代以降の福祉政策
第13回	福祉政策における必要と資源
第14回	福祉政策の理念
第15回	福祉政策資源の配分システム

■受講生に関わる情報および受講のルール

要点は板書するのでノートをとること。授業の進み具合でシラバスと異なる事もある。原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

配布資料、新聞、インターネット、福祉関連参考書等を自主的に読むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度等(20%) (無断欠席、遅刻、ミニテストを含む)・テスト(80%)により総合評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規出版(株)2014年2月

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	現代社会と福祉	担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会と福祉				

■授業の目的・到達目標

社会福祉の役割と意義を中心に指導する。主に、概念・理念、歴史、政策・制度、実践・技術、実践体験等や最近の社会動向・展望等である。さらに、専門職資格をいかに取得するかも重要な課題である。

■授業の概要

現代社会に対応できる社会福祉の原理や基本的な知識・技術等の分野を研究する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	人権擁護と福祉政策
第17回	保健医療と福祉政策
第18回	教育と福祉政策
第19回	社会福祉制度と福祉サービス
第20回	福祉サービスの利用過程
第21回	福祉サービスの利用過程援助過程
第22回	地域福祉の展開
第23回	福祉政策の国際比較
第24回	欧米の福祉政策
第25回	東アジアの福祉政策
第26回	社会不安と福祉政策の課題
第27回	地域福祉の政策と計画
第28回	福祉国家・福祉社会
第29回	福祉社会の福祉政策の展望
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

要点は板書するのでノートをとること。授業の進み具合でシラバスと異なる事もある。原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

配布資料、新聞、インターネット、福祉関連参考書等を自主的に読むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度等(20%) (無断欠席、遅刻、ミニテストを含む)・テスト(80%)により総合評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規出版(株)2014年2月

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	公民科教育法	担当教員 (単位認定者)	教職課程教員	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公民科教育法				

■授業の目的・到達目標

高等学校における公民科の免許を取得するための単位授業である。
高等学校における教育全般及び社会科全般の教育目的を理解させ文部省指導要領から公民科教科書の内容を中心に理解を深めさせる。

■授業の概要

- 1) 文部科学省の指導要領についてその目的、内容を説明する。
- 2) 高等学校における「公民科」の教科書(政治・経済・倫理・現代社会)で書かれている項目をとり上げる。
- 3) 個別的には古代ギリシャ哲学から神話、宗教など、その他人間の社会生活の全般について分析。
- 4) 日本国憲法全般と現代の経済生活について分析する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	高等学校教員及び免許状についての概要
第2回	「公民」の定義、「公民科」教育の始まりと内容
第3回	文部科学省による「公民」教育の指導方針(学習指導要領)の解説
第4回	科目毎の指導内容(現代社会)、(倫理)、(政治・経済)について
第5回	人間としての自覚、1. ギリシャ思想と神話 1) ギリシャ神話
第6回	2) 日本の神話 意義と内容
第7回	3) ギリシャ哲学 ソクラテス
第8回	ギリシャ哲学 プラトン、アリストテレス
第9回	宗教と思想 1. 宗教の原理 宗教の誕生、定義、変化について
第10回	2. 各種の宗教 1) 仏教 開祖、聖典、構成要素
第11回	2) 日本の仏教 天台宗、浄土宗、浄土真宗、真言宗など
第12回	3) キリスト教 開祖、旧約聖書(モーゼの十戒など)
第13回	キリスト教 新約聖書 教義、教会など
第14回	4) イスラム教 開祖と聖典 教義(コーラン) イスラムの戒律など
第15回	人間の社会生活 1. 政治の基本、定義 政治現象など

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書として使用しないが高等学校「公民科」の教科書は購入して貰いたい。
- 2) 板書を大量に行うのでノートを用意しよく書きとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容の中で多数の著作が登場するので、のちに図書館などで参照すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(50%)、授業参加状況(25%)、レポートとそれをもとにした授業中の発表(25%)を総合して評価します。

■教科書

なし

■参考書

授業時間中に随時示す。

科目名	公民科教育法	担当教員 (単位認定者)	教職課程教員	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公民科教育法				

■授業の目的・到達目標

高等学校における公民科の免許を取得するための単位授業である。
高等学校における教育全般及び社会科全般の教育目的を理解させ文部省指導要領から公民科教科書の内容を中心に理解を深めさす。

■授業の概要

- 1) 文部科学省の指導要領についてその目的、内容を説明する。
- 2) 高等学校における「公民科」の教科書(政治・経済・倫理・現代社会)で書かれている項目をとり上げる。
- 3) 個別的には古代ギリシャ哲学から神話、宗教など、その他人間の社会生活の全般について分析。
- 4) 日本国憲法全般と現代の経済生活について分析する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	IV人間の社会生活	政治の基本、定義・現象など	
第17回	〃	近代の政治理論	ブライズとトックビル、デモクラシー
第18回	〃	近代政治理論の歴史的発展	マチャベリーとポーダン
第19回	〃	〃	ホツプスとJ・ロック
第20回	〃	〃	モンテスキューとJ. J. ルソー
第21回	〃	〃	ベンサムとJ. S. ミル
第22回	〃	〃	19cc社会主義理論の登場
第23回	V日本国憲法に基づく日本の政治		憲法概論
第24回	〃	日本国憲法の基本と内容	三権の分
第25回	〃	立法と行政	憲法41条
第26回	〃	裁判所	最高裁判所と下級裁判所
第27回	〃	地方自治～地方政治について	地方自治法
第28回	VI現代の経済生活	財政理論と財政政策	A. スミス～ケインズ
第29回	〃	金融のはたらき	貨幣理論
第30回	〃	銀行～中央銀行のはたらき	外国貿易

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書として使用しないが高等学校「公民科」の教科書は購入して貰いたい。
- 2) 板書を大量に行うのでノートを用意しよく書きとめておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容の中で多数の著作が登場するので、のちに図書館などで参照すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(50%)、授業参加状況(25%)、レポートとそれをもとにした授業中の発表(25%)を総合して評価します。

■教科書

なし

■参考書

授業時間中に随時示す。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険	担当教員 (単位認定者)	眞下 誠治	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢者に対する支援と介護保険制度				

■授業の目的・到達目標

高齢者を取り巻く諸環境問題を理解し、またそれに係わる法・諸施策を把握して、支援方法を考える。

■授業の概要

我が国の急速に進む高齢化の現状を把握し、介護保険制度をはじめとした諸制度を理解することは、高齢者支援にとって極めて重要なことである。そこで、福祉専門職者(社会福祉士)として押さえておくべき下記事項を中心に概説していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション(授業の進め方等概説)
第2回	高齢者の特性(社会的理解・身体的理解)
第3回	高齢者の特性(精神的理解・総合的理解)
第4回	少子高齢社会と高齢者①
第5回	少子高齢社会と高齢者②
第6回	高齢者保健福祉の発展①
第7回	高齢者保健福祉の発展②
第8回	高齢者支援の関係法規①
第9回	高齢者支援の関係法規②
第10回	高齢者支援の関係法規③
第11回	第1回～第10回までのおさらい
第12回	介護保険制度の基本的枠組み①
第13回	介護保険制度の基本的枠組み②
第14回	介護保険制度の基本的枠組み③
第15回	前期授業の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、積極的に受講すること。授業の理解度を確保するため、小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習をし授業に臨むこと。わからない部分についてはコメントカード等で質問し解決すること。高齢者介護施設等のボランティア体験を通し、理解を深めることを期待する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期・後期筆記試験 100%

■教科書

新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」(第3版) 中央法規

■参考書

わかりやすい介護保険制度(洪川市発行)を配布します。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険	担当教員 (単位認定者)	眞下 誠治	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢者に対する支援と介護保険				

■授業の目的・到達目標

高齢者を取り巻く諸環境問題を理解し、またそれに係わる法・諸施策を把握して、支援方法を考える。

■授業の概要

我が国の急速に進む高齢化の現状を把握し、介護保険制度をはじめとした諸制度を理解することは、高齢者支援にとってきわめて重要なことである。そこで、福祉専門職(社会福祉士)としておさえておくべき下記事項を中心に概説していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	介護保険制度の仕組み①
第17回	介護保険制度の仕組み②
第18回	介護保険制度の仕組み③
第19回	介護保険制度の総括
第20回	介護保険サービスの体系①
第21回	介護保険サービスの体系②
第22回	介護保険サービスの体系③
第23回	高齢者を支援する組織と役割①
第24回	高齢者を支援する組織と役割②
第25回	高齢者支援の方法と実際①
第26回	高齢者支援の方法と実際②
第27回	高齢者を支援する専門職に役割と実際
第28回	介護の概念と対象①
第29回	介護の概念と対象②
第30回	後期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、積極的に受講すること。授業の理解度を確保するため、小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習をし授業に臨むこと。わからない部分についてはコメントカード等で質問し解決すること。高齢者介護施設等のボランティア体験を通し、理解を深めることを期待する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期・後期筆記試験 100%

■教科書

新・社会福祉士養成講座「高齢者の支援と介護保険制度」(第3版) 中央法規

■参考書

わかりやすい介護保険制度(洪川市発行)を配布します。

科目名	子どもの保健Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	健康、発育、発達、評価				

■授業の目的・到達目標

子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につけている。子ども保健の講義で学んだことを、社会人(母親、保育士)になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。更に、卒業後も自ら勉学を続けることができる。

■授業の概要

子ども保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。子ども保健Ⅰ(1)では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、子どもの健康概念
第2回	健やか親子21
第3回	子どもの保健の実践と課題
第4回	子どもの身体発育の経過と発育曲線
第5回	新生児期、乳児期の身体発育
第6回	幼児期、学童期、思春期の身体発育
第7回	身体発育とその評価
第8回	呼吸機能・循環機能の発達
第9回	免疫機能・消化機能の発達
第10回	尿排泄機能・体温調節機能の発達
第11回	内分泌機能の発達、睡眠リズム
第12回	感覚機能の発達
第13回	神経機能の発達
第14回	精神機能・情緒・行動の発達
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末筆記試験(80%)と授業態度(20%)を総合的に評価する。

■教科書

佐藤益子編著 子どもの保健Ⅰ ななみ書房 最新版

■参考書

適宜指示及びプリントを配布する。

科目名	子どもの保健Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	感染症、先天疾患、後天疾患、事故、発達障害、事故防止、安全対策				

■授業の目的・到達目標

子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につけている。子ども保健の講義で学んだことを、社会人(母親、保育士)になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。更に、卒業後も自ら勉学を続けることができる。

■授業の概要

子ども保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。子ども保健Ⅰ(2)では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	オリエンテーション、子どもの病気の特徴
第17回	ウイルス性感染症
第18回	細菌性感染症
第19回	先天異常
第20回	アレルギー性疾患
第21回	消化器疾患
第22回	呼吸器・循環器・血液系の疾患
第23回	神経系・泌尿器・皮膚の疾患
第24回	眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患
第25回	人畜共通感染症、乳幼児突然死症候群
第26回	子どもの精神保健
第27回	発達障害
第28回	保育現場の事故防止と安全対策
第29回	主な母子保健対策と保育
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末筆記試験(80%)と授業態度(20%)を総合的に評価する。

■教科書

佐藤益子編著　子どもの保健Ⅰ　ななみ書房　最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会の子ども家庭の現状・問題・課題、子ども家庭の福祉の理念、子育てのニーズ、子ども家庭福祉の法体系・実施体制・財政・専門職・権利擁護				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

子どもや家庭の現状と課題を理解し、子どもや家庭に対する支援のあり方や福祉制度を学ぶことにより、児童福祉等の社会福祉業務に携わる者に必要な知識や技能を身につけることを目的とする。

[到達目標]

- ①現代社会の子ども家庭の現状と課題、子ども家庭福祉の理念、子ども家庭福祉の関係法令・実施体制・財政・専門職・権利保障が理解できる。
- ②社会福祉士や児童指導員等の有資格者として必要な子ども家庭福祉の基本的な知識を身につけることができる。
- ③社会福祉士国家試験対策としての必要な知識を身につけることができる。
- ④自己研究のための知識を修得することができる。

■授業の概要

- ①前期は、教科書、福祉小六法及び参考資料により、少子高齢化社会における子育ての現状と課題、次世代育成支援策の展開状況、子ども家庭福祉のニーズ、子ども家庭の福祉の原理と理念、子ども家庭の権利保障、児童福祉の発展及び子ども家庭福祉の法体系・実施体制・財政・専門職・権利擁護等について講義を行う。
- ②講義内容の理解度の確認及び社会福祉士国家試験対策の一環として教科書の単元毎にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・少子高齢化社会と次世代育成支援①
第2回	少子高齢化社会と次世代育成支援②
第3回	現代社会と子ども家庭の問題
第4回	子どもの育ち、子育てのニーズ
第5回	子どものための福祉の原理・子ども家庭福祉の理念
第6回	子ども家庭の権利保障
第7回	児童福祉の発展
第8回	子ども家庭福祉の法体系
第9回	子ども家庭福祉の実施体制①
第10回	子ども家庭福祉の実施体制②
第11回	子ども家庭福祉の財政
第12回	子ども家庭福祉の専門職①
第13回	子ども家庭福祉の専門職②
第14回	苦情解決と権利擁護
第15回	母子保健

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・福祉小六法は必ず持参すること。
- ・授業は教科書に沿って進めるので教科書、レジュメ及び参考資料の予習と復習は必ず行うこと。
- ・レジュメ及びミニテスト問題用紙・解答用紙を整理するため、A4版ファイルを用意すること。

[受講のルール]

- ・聴覚・視覚に障害がある者を除き、クラス単位で座席を指定する。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・スマホ等の使用等)は行わないこと。
- ・遅刻・欠席をする場合は、事務局に事前に連絡をすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教科書内容以外の参考資料を用意するので自己学習に心掛けること。
- ・授業の冒頭若しくは終了間際にミニテストを行うので、指示された範囲について気持ちを集中して学習すること。

■オフィスアワー

(*非常勤のため登校日が少ないので、確認・不明な点についてはコメントカードを積極的に活用すること。)

■評価方法

期末試験(記述・選択) 60% ミニテスト(記述・選択) 35% 受講態度 5% 総合評価は期末試験、ミニテスト及び受講態度の合計点により行い、60%以上を確保することにより単位取得となる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」第5版中央法規出版 2015「福祉小六法」みらい 2015

■参考書

授業時に指示する。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会の子ども家庭の現状・問題・課題、子ども家庭の福祉の理念、子育てのニーズ、子ども家庭福祉の法体系・実施体制・財政・専門職・権利擁護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもや家庭の現状と課題を理解し、子どもや家庭に対する支援のあり方や福祉制度を学ぶことにより、児童福祉等の社会福祉業務に携わる者に必要な知識や技能を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①障害や難病のある児童、保育にかける児童、ひとり親家庭の児童、社会的養護を受ける児童、非行児童、情緒障害のある児童及び虐待を受けている児童の現状・ニーズ・具体的な支援策について理解できる。
- ②社会福祉士や児童指導員等の有資格者として必要な子ども家庭福祉の具体的な支援策について理解できる。
- ③社会福祉士国家試験対策としての必要な知識を身につけることができる。
- ④自己研究のための知識を修得することができる。

■授業の概要

- ①後期は、教科書、福祉小六法及び参考資料により、障害・難病のある児童、児童の健全育成、保育にかける児童、子育て支援、ひとり親家庭、社会的養護児童、非行児童、情緒障害児及び被虐待児童等の現状・課題並びに支援策の詳細について講義を行う。
- ②講義内容の理解度の確認及び社会福祉士国家試験対策の一環として教科書の単元毎にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて説明します。

第16回	障害・難病のある子どもと家族への支援①
第17回	障害・難病のある子どもと家族への支援②
第18回	児童健全育成
第19回	保育①
第20回	保育②
第21回	子育て支援
第22回	ひとり親家庭の福祉①
第23回	ひとり親家庭の福祉②
第24回	児童の社会的養護サービス①
第25回	児童の社会的養護サービス②
第26回	非行児童・情緒障害児への支援①
第27回	非行児童・情緒障害児への支援②
第28回	児童虐待対策
第29回	子どもと家庭にかかわる女性福祉
第30回	子ども家庭への援助活動

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・福祉小六法は必ず持参すること。
- ・授業は教科書に沿って進めるので教科書、レジュメ及び参考資料の予習と復習を必ず行うこと。
- ・レジュメ及びミニテスト問題用紙・解答用紙を整理するため、A4版ファイルを用意すること。

〔受講のルール〕

- ・聴覚や視覚に障害がある者を除き、クラス単位で座席を指定する。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマホ等の使用等）は行わないこと。
- ・遅刻或いは欠席をする場合は、事務局に事前に連絡すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教科書内容以外の参考資料を用意するので、自己学習に心掛けること。
- ・授業の冒頭若しくは終了間際にミニテストを行うので、指示された範囲について気持ちを集中して学習すること。

■オフィスアワー

(*非常勤のため登校日が少ないので、確認・不明な点についてはコメントカードを積極的に活用すること。)

■評価方法

期末試験（記述・選択）60%、ミニテスト（記述・選択）35%、受講態度5% 総合評価は期末試験、ミニテスト及び受講態度の合計点により行い、60%以上を確保することにより単位取得となる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」第5版中央法規出版2015「福祉小六法」みらい2015

■参考書

授業時に指示する。

科目名	社会科教育法 I	担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会科教育法 I				

■授業の目的・到達目標

中学校・高等学校の社会科の教員として必要な基礎的・基本的な素養を身に付ける。

■授業の概要

教育実習に必要な知識を教授した上で、模擬授業を実施する。また、戦前・戦後の社会科の歴史と学習指導要領について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 大学の歴史
第2回	社会科の授業展開論①
第3回	社会科の授業展開論②
第4回	社会科の模擬授業
第5回	教育とは何か
第6回	日本の社会科教育
第7回	アメリカの社会科教育
第8回	戦前の社会科教育の歴史①
第9回	戦前の社会科教育の歴史②
第10回	戦前の社会科教育の歴史③
第11回	戦後の社会科教育の歴史①
第12回	戦後の社会科教育の歴史②
第13回	社会科学学習指導要領の誕生
第14回	社会科学学習指導要領の改訂①
第15回	社会科学学習指導要領の改訂②

■受講生に関わる情報および受講のルール

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りが目立ち注意をした上でも態度が改まらない場合は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義の際に必要な資料は、その都度作成して配布する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業への参加態度・小論文・試験などを総合して評価する。

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しない。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	社会科教育法 I	担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会科教育法 I				

■授業の目的・到達目標

中学校・高等学校の社会科の教員として必要な基礎的・基本的な素養を身に付ける。

■授業の概要

教育の目標と地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容と関係法令や教科書検定と教科書採択制度について学習する。また、小論文の書き方、読書法、現在の教育がかかえる問題などについても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	社会科教育の目標論①
第17回	社会科教育の目標論②
第18回	地理の教科内容①
第19回	地理の教科内容②
第20回	歴史の教科内容①
第21回	歴史の教科内容②
第22回	公民の教科内容①
第23回	公民の教科内容②
第24回	教育基本法
第25回	学校教育法
第26回	教科書検定と教科書採択
第27回	文章表現論①
第28回	文章表現論②
第29回	読書論
第30回	学校教育論

■受講生に関わる情報および受講のルール

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りが目立ち注意をした上でも態度が改まらない場合は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義の際に必要な資料は、その都度作成して配布する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業への参加態度・小論文・試験などを総合して評価する。

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しない。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業検討会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「社会科学学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」についての理解をすることができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、社会科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1、社会科（公民的分野等）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2、実際の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等「実践的な授業」について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解①、社会科学学習ゲーム
第2回	社会科教師の基礎基本①（地理的分野）、学習指導要領と解説の理解②
第3回	社会科教師の基礎基本②（歴史的分野）
第4回	社会科教師の基礎基本③（公民的分野）
第5回	教材研究①「弥生文化と邪馬台国」、学習指導案略案の書き方
第6回	教材研究②「弥生文化と邪馬台国」プレゼンテーション
第7回	教材研究③「弥生文化と邪馬台国」授業準備
第8回	模擬授業①「弥生文化と邪馬台国」、授業研究会①
第9回	学習指導案細案の書き方①（生徒の実態、指導方針）
第10回	学習指導案細案の書き方②（目標、指導計画）
第11回	学習指導案細案の書き方③（本時の学習、板書、ワークシート）
第12回	模擬授業②（公民的分野）、授業研究会②
第13回	模擬授業③（公民的分野）、授業研究会③
第14回	模擬授業④（公民的分野）、授業研究会④
第15回	採用試験対策

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

- ・初回の授業で明示する。

■評価方法

- ・学年末試験（50%）、学習指導案作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）

■教科書

- ①中学校生徒用教科書「新版 新しい社会 公民」東京書籍、②「中学校学習指導要領（社会編）」日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業検討会				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

[到達目標]

- ①「社会科学学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」についての理解をすることができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、社会科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1、社会科（公民的分野等）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2、実際の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等「実践的な授業」について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期オリエンテーション、社会科学学習ゲーム
第17回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（公民的分野）①
第18回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（公民的分野）②
第19回	学習指導案事前検討会
第20回	模擬授業⑤、授業研究会⑤
第21回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（歴史的分野）①
第22回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（歴史的分野）②
第23回	学習指導案事前検討会
第24回	模擬授業⑥、授業研究会⑥
第25回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（地理的分野）①
第26回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（地理的分野）②
第27回	学習指導案事前検討会
第28回	模擬授業⑦、授業研究会⑦
第29回	採用試験について
第30回	1年間のまとめ（含む教育理論）

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

- ・初回の授業で明示する。

■評価方法

- ・学年末試験（50%）、学習指導案作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）

■教科書

- ①中学校生徒用教科書「新版 新しい社会 公民」東京書籍、②中学校生徒用教科書「新しい社会 歴史」東京書籍、③中学校生徒用教科書「社会科中学生の地理」帝国書院、④「中学校学習指導要領解説（社会編）」日本文教出版、⑤その他授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。

■参考書

- その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉特講Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

社会福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、社会福祉士として適切な役割を果たせる力を身につけることを到達目標とします。

〔到達目標〕

- ①1年次に履修した科目(2年次前期に履修した科目)の基本的事項を説明できる。
- ②課題の内容をグループ全員に理解してもらえるように、資料をまとめ、説明ができる。

■授業の概要

社会福祉士国家試験を合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るために、グループワークでの学習を進める。

特に1年次に履修した科目を中心に行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション	社会福祉士の受験を目指す、意義・目的を考える。
第2回	人体の構造と機能及び疾病(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第3回	心理学理論と心理的支援(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第4回	社会理論と社会システム(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第5回	福祉行財政と福祉計画(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第6回	保健医療サービス(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第7回	相談援助の基盤と専門職(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第8回	高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第9回	人体の構造と機能及び疾病(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第10回	心理学理論と心理的支援(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第11回	社会理論と社会システム(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第12回	福祉行財政と福祉計画(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第13回	保健医療サービス(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第14回	相談援助の基盤と専門職(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第15回	まとめ	夏季休暇中の勉強の計画を立てる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容はその日のうちにしっかりと暗記するように努めること。

確認テストや月例テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(70%)、授業中の課題(30%)を総合して評価する。

■教科書

1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉特講Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

社会福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、社会福祉士として適切な役割を果たせる力を身につけることを到達目標とします。

〔到達目標〕

- ①1年次に履修した科目(2年次前期に履修した科目)の基本的事項を説明できる。
- ②課題の内容をグループ全員に理解してもらえるように、資料をまとめ、説明ができる。

■授業の概要

社会福祉士国家試験を合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るために、グループワークでの学習を進める。

特に1年次に履修した科目を中心に行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション	社会福祉士の受験を目指す、意義・目的を考える。
第17回	高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第18回	人体の構造と機能及び疾病(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第19回	心理学理論と心理的支援(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第20回	社会理論と社会システム(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第21回	福祉行財政と福祉計画(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第22回	保健医療サービス(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第23回	相談援助の基盤と専門職(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第24回	高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第25回	人体の構造と機能及び疾病(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第26回	心理学理論と心理的支援(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第27回	社会理論と社会システム(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第28回	福祉行財政と福祉計画(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第29回	保健医療サービス(グループワーク)	課題を行い、グループワークにおいて発表できるようにする。
第30回	まとめ	1年次に行った科目の総復習をする。

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容はその日のうちにしっかりと暗記するように努めること。

確認テストや月例テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(70%)、授業中の課題(30%)を総合して評価する。

■教科書

1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。

■授業の概要

社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲で、学習を進める上で重要となる点について焦点化し授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	人体の構造と機能及び疾病
第3回	地域福祉の理論と方法
第4回	心理学理論と心理的支援
第5回	権利擁護と成年後見制度
第6回	社会理論と社会システム
第7回	社会調査の基礎
第8回	低所得者に対する支援と生活保護制度
第9回	月例テスト
第10回	福祉行財政と福祉計画
第11回	現代社会と福祉
第12回	月例テスト
第13回	保健医療サービス
第14回	相談援助の基盤と専門職
第15回	前期のまとめのテスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各月の最終週での授業において、月例テストを実施する。社会福祉特講Ⅳと一体的に実施するため、日程の詳細については、第1回オリエンテーションにおいて説明する。また、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

この授業では、国家試験対策として学習すべき内容を焦点化することを目的としており、受講者自身が学習を進めるための目標の明確化と学習材料を増やす事を主眼に置いている。したがって、重要事項について解説し切れない領域が多くなるため、受講者自身が自らの意欲と方法で学習を進めることが前提となる。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションにて説明する。

■評価方法

試験(60%)、月例テスト(後期分のみ)(20%)、授業中の課題や提出物及び受講態度(20%)

■教科書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士」(最新版)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。

■授業の概要

社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲で、学習を進める上で重要となる点について焦点化し授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	相談援助の理論と方法
第17回	高齢者に対する支援と介護保険制度
第18回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度
第19回	月例テスト
第20回	就労支援サービス
第21回	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
第22回	社会保障
第23回	月例テスト
第24回	更生保護制度
第25回	福祉サービスの組織と経営
第26回	月例テスト
第27回	国家試験重要ポイント 解説 ①
第28回	国家試験重要ポイント 解説 ②
第29回	月例テスト
第30回	まとめ 総括テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各月の最終週での授業において、月例テストを実施する。社会福祉特講Ⅳと一体的に実施するため、日程の詳細については、第1回オリエンテーションにおいて説明する。また、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

この授業では、国家試験対策として学習すべき内容を焦点化することを目的としており、受講者自身が学習を進めるための目標の明確化と学習材料を増やす事を主眼に置いている。したがって、重要事項について解説し切れない領域が多くなるため、受講者自身が自らの意欲と方法で学習を進めることが前提となる。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションにて説明する。

■評価方法

試験(60%)、月例テスト(後期分のみ)(20%)、授業中の課題や提出物及び受講態度(20%)

■教科書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士」(最新版)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉特講				

■授業の目的・到達目標

毎時間の演習問題と月例テストにより、自分自身の学習進捗状況を知り学習課題を焦点化し、学習に繋げる。試験時間や試験の問題内容になれることにより国家試験の問題を読み解くことになる。
社会福祉士国家試験に合格を到達目標とする。

■授業の概要

この授業では、毎時間の演習問題と月例テストを行い、社会福祉士国家試験の問題と解答時間になれていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	問題演習
第3回	問題演習
第4回	月例テスト
第5回	問題演習
第6回	問題演習
第7回	月例テスト
第8回	問題演習
第9回	問題演習
第10回	問題演習
第11回	月例テスト
第12回	問題演習
第13回	問題演習
第14回	問題演習
第15回	月例テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回試験を行うため、自分自身での学習が大切となる。試験の結果によって課題を課すので、課題を提出する事。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版） その他自分にあった参考書

科目名	社会福祉特講Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉特講				

■授業の目的・到達目標

毎時間の演習問題と月例テストにより、自分自身の学習進捗状況を知り学習課題を焦点化し、学習に繋げる。試験時間や試験の問題内容になれることにより国家試験の問題を読み解くことになる。
社会福祉士国家試験に合格を到達目標とする。

■授業の概要

この授業では、毎時間の演習問題と月例テストを行い、社会福祉士国家試験の問題と解答時間になれていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	問題演習
第17回	月例テスト
第18回	問題演習
第19回	問題演習
第20回	月例テスト
第21回	問題演習
第22回	問題演習
第23回	問題演習
第24回	月例テスト
第25回	問題演習
第26回	問題演習
第27回	問題演習
第28回	月例テスト
第29回	問題演習
第30回	問題演習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容はその日のうちにしっかりと暗記するように努めること。
毎時間、確認テスト(小テスト)を実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

個人での学習とグループ学習を併用し最後までモチベーションを維持し国家試験に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、(最新版) その他自分にあった参考書

科目名	社会保障	担当教員 (単位認定者)	社会福祉課程教員	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会保障論				

■授業の目的・到達目標

この授業は1年間通して「社会保障制度」全般について考察するものです。現在国で進められている『社会保障と税の一体改革』の動向も見ながら、これからの社会保障制度や具体的な保険、医療や福祉の動向を学び、社会保障制度の基本理念等を習得することとする。

■授業の概要

学習においては理論の習得は大事なことですが、併せてそれぞれの社会保障制度の実態がどのような状況であることを具体例や映像等も活用しながら『現場』を把握できるように努めます。授業ではパワーポイントで資料説明等しながら問題点の把握、今後の学習の狙い等を深めていくこととする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション	
第2回	社会保障と税の一体改革	
第3回	第1章 現代社会と社会保障	
第4回	第2章 社会保障の歴史	
第5回	第3章 社会保障の構造	
第6回	第4章 社会保障の財源と費用	
第7回	第5章 年金保険制度	(1) 沿革と概要
第8回		(2) 国民年金保険
第9回		(3) 厚生年金保険等
第10回	第6章 医療保険制度	(1) 沿革と概要
第11回		(2) 健康保険や国民健康保険等
第12回		(3) 国民医療費をめぐる動向
第13回	第7章 介護保険制度	(1) 経緯と概要
第14回		(2) 介護保険制度をめぐる動向
第15回	第8章 労働保険制度	(前期のまとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

特にないが、学生が自主的に学ぶことの大切さを自覚すると共に、予習・復習を欠かさず、授業に出席して積極的に取り組んでほしい。

■授業時間外学習にかかわる情報

疑問点等はいつでも照会してほしい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート(100%)

■教科書

別に指示する。

■参考書

- ①『国民の福祉と介護の動向』(厚生労働統計協会)
- ②『社会保障の手引』(中央法規)
- ③『福祉6法』(各社)

科目名	社会保障	担当教員 (単位認定者)	社会福祉課程教員	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会保障論				

■授業の目的・到達目標

この授業は1年間通して「社会保障制度」全般について考察するものです。現在国で進められている『社会保障と税の一体改革』の動向も見ながら、これからの社会保障制度や具体的な保険、医療や福祉の動向を学び、社会保障制度の基本理念等を習得することとする。

■授業の概要

学習においては理論の習得は大事なことです。併せてそれぞれの社会保障制度の実態がどのような状況であることを具体例や映像等も活用しながら『現場』を把握できるように努めます。授業ではパワーポイントで資料説明等しながら問題点の把握、今後の学習の狙い等を深めていくこととする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	第9章 社会福祉制度の沿革と概要
第17回	(2)生活保護制度(公的扶助)A
第18回	(3)生活保護制度(公的扶助)B
第19回	(4)児童福祉A
第20回	(5)児童福祉B・母子寡婦福祉
第21回	(6)障害福祉A
第22回	(7)障害福祉B
第23回	(8)高齢者福祉A
第24回	(9)高齢者福祉B
第25回	(10)保険・医療・福祉の連携
第26回	(11)社会手当制度
第27回	第10章 社会保険と民間保険
第28回	第11章 社会保障が当面する課題
第29回	第12章 諸外国の制度
第30回	(後期のまとめ)等

■受講生に関わる情報および受講のルール

特にないが、学生が自主的に学ぶことの大切さを自覚すると共に、予習・復習を欠かさず、授業に出席して積極的に取り組んでほしい。

■授業時間外学習にかかわる情報

疑問点等はいつでも照会してほしい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート(100%)

■教科書

別に指示する。

■参考書

- ①『国民の福祉と介護の動向』(厚生労働統計協会)
- ②『社会保障の手引』(中央法規)
- ③『福祉6法』(各社)

科目名	障害者教育総論	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ノーマライゼーション 国際生活機能分類 (ICF) リハビリテーション 障害特性 共生社会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕教員は、教育実践とともに学校・家庭・地域社会の連携を広い視野から意識することが求められています。その資質・力量の向上には、多様な価値観や福祉ニーズの存在に気づき、その本質を理解することが不可欠です。本授業では、特に、障害を有するひとたちの個別の障害特性と福祉ニーズについて解説、かかえる問題群を科学的に理解し、福祉ニーズへの支援のあり方を具体的に考える基礎を醸成します。

〔到達目標〕1) ICFにもとづいて、かかる障害を階層的・相互連関的に整理することができる。2) リハビリテーションの本質の意味を説明することができる。3) 各身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、老化について、その障害特性の概要を述べるすることができる。4) 各障害を、生活障害の視点からとらえ直し、当事者がかかえる福祉ニーズへの支援のあり方を例示することができる。

■授業の概要

1) 社会における障害観の変遷をたどり、ノーマライゼーション/インクルージョン/共生社会の思潮をふまえたうえで、2) 障害者をめぐる世界・日本の動向を概観します。3) 国際生活機能分類 (ICF) にもとづいて、障害を構造的に理解することの意義と有用性を学んだのち、4) いわゆる機能回復練習を含め、リハビリテーションの本質の意味を理解します。さらに、5) 障害者基本法の定義を基礎に、各身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、老化の障害特性を科学的に整理し、あわせて、当事者がかかえる福祉ニーズへの支援を具体的に考えます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 障害観の変遷 ノーマライゼーション思潮 脱施設化・地域福祉
第2回	障害者をめぐる世界の動向 障害者をめぐる日本の動向 日本における障害者の現況
第3回	国際障害分類 (ICIDH) 国際生活機能分類 (ICF) 障害の構造的理解
第4回	リハビリテーションの本質の意味 バリアフリー アクセシビリティ ユニバーサルデザイン 共生社会
第5回	障害者基本法 障害の分類
第6回	身体障害 1 視覚障害の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第7回	身体障害 2 聴覚障害の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第8回	身体障害 3 内部障害/平衡機能障害の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第9回	身体障害 4 音声・言語障害/摂食・嚥下障害の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第10回	身体障害 5 運動機能障害 (肢体不自由) の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第11回	知的障害の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第12回	発達障害の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第13回	精神障害の特性と生涯発達上の影響、および支援のあり方
第14回	高齢者の諸機能の特性 加齢と老化 高齢者がかかえる諸問題と支援のあり方
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

この授業では、主に成人期における障害をテーマとしますが、後期「障害児教育総論」の導入ともなるものです。特に、障害特性の理解は、特別支援学校教員にとって必須であり、人間生物学 (医学) 的な側面についての知識も欠かせません。身体および精神に対する科学的な観点を意識して授業に臨みましょう。とりわけ、復習は重要です。

■授業時間外学習にかかわる情報

1年次配当科目「人体の構造と機能および疾病」の履修内容が関連します。適宜参照するようにしましょう。

■オフィスアワー

第1回授業時に、2015年度の案内をする予定です。

■評価方法

学期末試験期間中に実施予定の筆記試験成績 (100%) で理解度を評定します。なお、欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評定を受ける資格を失います。

■教科書

齋藤友介ほか編著 大学生のための福祉教育入門: 介護体験ハンドブック ナカニシヤ出版 2009年

■参考書

中村隆一、佐直信彦編 入門リハビリテーション概論 第7版増補 医歯薬出版 2009年

科目名	障害児教育総論	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育 発達 障害特性 自立活動 個別指導計画				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕前期「障害者教育総論」を基礎に、より発達学的な視点を必要とする小児領域における各障害特性を理解し、学校における教育的支援のあり方について学びます。今後の障害別教育指導各論への導入を図るとともに、その根底に共通する包括的な障害児支援のための観点・柔軟な発想を習得します。

〔到達目標〕1) 特別支援教育の基本的な考え方を説明できる。2) 特別支援学校が担うセンター的機能や特別支援教育コーディネーターの存在を含め、特別支援学校教員に期待される役割実践について具体的に述べるができる。3) 各障害特性と小児発達期へのその影響について述べるができる。4) 3)をふまえて、学校における教育的支援の概要を、自立活動を主軸に説明できる。

■授業の概要

1) 特殊教育から特別支援教育への転換が図られた社会的背景を理解します。2) いわゆる普通教育や通級指導も含めて、学校教育の全ての現場に浸透する特別支援教育の考え方、特別支援学校のセンター的機能や特別支援コーディネーター、特別支援学校教員に期待される役割について学びます。3) 他の授業では取り上げられることが少ない視覚障害、聴覚障害、言語障害、摂食嚥下障害等について、その機能病態特性と教育的支援の実際を解説します。4) 特別支援学校独自の指導領域である「自立活動」について、事例を読み解きます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 特殊教育から特別支援教育へ 特別支援教育の基本的考え方 ICF ノーマライゼーション
第2回	特別支援教育の場 就学基準 認定就学者 就学指導 特別支援学校のセンター的機能 特別支援教育コーディネーター
第3回	特別支援教育の教育課程 「自立活動」総説 個別の指導計画
第4回	視覚障害の定義 視覚機能の解剖生理と機能評価 視覚障害の原因と臨床分類 小児発達期における視覚障害の影響
第5回	視覚障害児の心理特性 視覚障害児教育の基本的考え方 視覚障害児への学習指導と生活指導
第6回	聴覚障害の定義 聴覚機能の解剖生理と機能評価 聴覚障害の原因と臨床分類 小児発達期における聴覚障害の影響
第7回	聴覚障害児の心理特性 聴覚障害児教育の基本的考え方 聴覚障害児への学習指導と生活指導
第8回	言語障害の定義 言語行動の解剖生理と機能評価 全体発達と言語発達の相関・バランス 小児言語障害の臨床分類
第9回	言語障害児の治療教育
第10回	自閉症スペクトラム/情緒障害/発達障害児の治療教育
第11回	摂食嚥下機能の解剖生理と機能評価 摂食嚥下機能の正常発達
第12回	小児発達期における摂食嚥下障害の影響 摂食嚥下障害児への食事介助(肢体不自由児を中心に)
第13回	「自立活動」各論 学習指導要領解説を読み解く 1
第14回	「自立活動」各論 学習指導要領解説を読み解く 2
第15回	まとめ 特別支援学校教員としての豊かな発想

■受講生に関わる情報および受講のルール

特別支援学校教員に求められる、豊かな情緒性、障害特性の把握・理解と適切なリスク管理=根拠にもとづいた支援・指導力、多様な個を尊重する価値観を養うため、しばしば詳細な内容となります。欠席するとその穴は大きい。しっかり出席して、都度まめに復習をしましょう。

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動などで障害児とかかわりをもつ機会には、前項の養うべき自らの側面を意識して臨むこと。その子を理解するためには、いわゆるコミュニケーションを図らなければなりません、そのコミュニケーションがすぐにうまくいかず、こちらからあきらめてしまつては、元も子もありません。障害特性を配慮しながら、豊かな発想でかかわる工夫を試みて下さい。

■オフィスアワー

第1回授業時に、2015年度の案内をする予定です。

■評価方法

学期末試験期間中に実施予定の筆記試験の成績(100%)で理解度を評定します。なお、欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評定を受ける資格を失います。

■教科書

佐藤泰正編 特別支援教育概説 改訂版 学芸図書 2011年
 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部) 海文堂出版 2009年

■参考書

柘植雅義編 小・中特別支援教育コーディネーターのための実践・新指導要領 教育開発研究所 2009年

科目名	小学校教科教育法（音楽）	担当教員 （単位認定者）	奈良 紀子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領 基礎能力の育成 学習指導案 模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践を出来ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラムの構造と内容を理解出来る。
- ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得することが出来る。
- ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につけることが出来る。
- ④音楽活動に積極的に関わることが出来る。

■授業の概要

小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を実践や演習を通して学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価の説明等）
第2回	音楽科の目標と指導内容
第3回	音楽科の学習指導計画と評価
第4回	授業実践にあたって
第5回	歌唱の学習と指導について（1）
第6回	歌唱の学習と指導について（2）
第7回	歌唱の学習と指導について（3）
第8回	器楽の学習と指導について（1）
第9回	器楽の学習と指導について（2）
第10回	器楽の学習と指導について（3）
第11回	音楽づくりの学習と指導について（1）
第12回	音楽づくりの学習と指導について（2）
第13回	音楽づくりの学習と指導について（3）
第14回	鑑賞の学習と指導について（1）
第15回	鑑賞の学習と指導について（2）

■受講生に関わる情報および受講のルール

ソプラノ・リコーダーと五線紙を各自用意しておくこと。

実習にはグループ活動も取り入れるので、協力しながら授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

歌唱共通教材に親しみ、日ごろから弾き歌いの練習をしておくこと。

さまざまな音楽に触れ、幅広く音楽に関わるよう心がけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

学習指導案の作成および提出と筆記試験（70%）実技試験（30%）

■教科書

「最新 初等科音楽教育法[改訂版]」音楽之友社

小学校の教科書「小学生の音楽1～6年」教育芸術社

■参考書

小学校学習指導要領解説音楽編 文部科学省

科目名	小学校教科教育法（音楽）	担当教員 （単位認定者）	奈良 紀子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領 基礎能力の育成 学習指導案 模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践を出来ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラムの構造と内容を理解出来る。
- ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得することが出来る。
- ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につけることが出来る。
- ④音楽活動に積極的に関わることが出来る。

■授業の概要

小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を実践や演習を通して学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価の説明等）
第17回	学習指導案について
第18回	教材研究の視点とその実践
第19回	模擬授業（1）
第20回	模擬授業（2）
第21回	模擬授業（3）
第22回	模擬授業（4）
第23回	模擬授業（5）
第24回	模擬授業（6）
第25回	模擬授業（7）
第26回	模擬授業（8）
第27回	日本の伝統音楽について
第28回	音楽科における幼・小の連携について
第29回	他教科等との関連について
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ソプラノ・リコーダーの学習をするため、各自用意しておくこと。
実習にはグループ活動も取り入れるので、協力しながら授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

学習指導案の作成および提出と筆記試験（70%）実技試験（30%）

■教科書

「最新 初等科音楽教育法[改訂版]」音楽之友社 小学校の教科書「小学生の音楽1～6年」教育芸術社

■参考書

小学校学習指導要領解説音楽編 文部科学省

科目名	小学校教科教育法（家庭）	担当教員 （単位認定者）	山岸 裕美子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭経済 家庭経営				

■授業の目的・到達目標

家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を実践において発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。

■授業の概要

家庭科は、実践学習をとおして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイデア豊かな教材開発も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス：家庭科教育の意義（家庭科の歴史・家庭科教育の性格・家庭科と他領域との関係・今日の児童と家庭科教育）
第2回	家庭科教育の目標： 家庭・地域社会との関連 現代の家族
第3回	家庭生活と家族： 家族の生活と役割しらべ
第4回	家庭生活と家族： ライフコースの作成
第5回	物や金銭の使い方と買い物： 賢い消費者になるための工夫
第6回	衣服への関心： 衣服の形態・素材の観察
第7回	衣服への関心： 洗濯に関する実験
第8回	生活に役立つものの製作①
第9回	生活に役立つものの製作②
第10回	食事への関心： 献立作り
第11回	簡単な調理： 調理実習（計画）
第12回	簡単な調理： 調理実習（実践）
第13回	住まいへの関心： 汚れ調べと清掃に関する実験
第14回	住まいへの関心： 明るさ・風通し・暖かさ（涼しさ）に関する実験・実践
第15回	家庭生活の工夫： 家族との団らんの工夫

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動が中心となる形態の授業なので、積極的に活動すること。ワークシート・製作品・実験レポートの提出が頻繁にあるので期限を厳守して提出するとともに、返却された提出物の管理もきちんと行うこと。また製作に関しては、教師となった際の提示見本とするつもりで作品を仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各実習に際しては、各自で材料を準備すること。日々、日常生活に関する知識と技術を身につけるようこころがけること（食事作り・家庭生活に必要な買い物・洗濯・家庭内の整理整頓や清掃などを行うこと）。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実践活動に関する積極性（20%） 提出物（80%）・・・全て期限までに提出しなかったものは受け付けない。また、返却されたワークシート・配布された印刷物等は1冊のファイルにまとめること（指定された日時に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領家庭編』『小学校 わたしたちの家庭科5・6』（開隆堂） ワークシートを配布

■参考書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）

科目名	小学校教科教育法（家庭）	担当教員 （単位認定者）	山岸 裕美子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭経済 家庭経営				

■授業の目的・到達目標

家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。

■授業の概要

家庭科は、実践学習をととして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイデア豊かな教材開発も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	家庭科教育の特徴をふまえた学習指導①： 指導の形態（一斉指導・グループ学習・個別学習など）
第17回	家庭科教育の特徴をふまえた学習指導②： 様々な学習指導の方法と効果的な領域
第18回	家庭科教育の学習指導計画①： 種類と形式・年間指導計画
第19回	家庭科教育の学習指導計画②： 題材指導計画・時案
第20回	家庭科教育の評価： 目的と対象・手順など
第21回	実践研究（1）： 衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実施する
第22回	実践研究（2）： 被服製作の基礎技能を楽しく身につけるための学習の指導例を考え、実施する
第23回	実践研究（3）： 調理に関する、2年間を見通しての学習計画を立案する
第24回	実践研究（4）： 調理の基礎技能を、体験を通して身につけるための学習指導例を考え、実施する
第25回	実践研究（5）： 住まいや住まい方について、問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する
第26回	実践研究（6）： 環境に配慮した生活の工夫について、体験的学習の指導例を考え、実施する
第27回	実践研究（7）： 家庭生活と家族の内容と、日常の食事・調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する
第28回	実践研究（8）： 被服等の製作と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え実施する
第29回	実践研究（9）： 身近な消費生活と環境について、課題意識を持たせるための指導例を考え、実施する
第30回	まとめ： 衣・食・住・家庭経済の内容を盛り込んだ会食を企画し、実施する

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動が中心となる形態の授業なので、積極的に活動すること。ワークシート・製作品・実験レポートの提出が頻繁にあるので期限を厳守して提出するとともに、返却された提出物の管理もきちんと行うこと。また製作に関しては、教師となった際の提示見本とするつもりで作品を仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各実習に際しては、各自で材料を準備すること。日々、日常生活に関する知識と技術を身につけるようこころがけること（食事作り・家庭生活に必要な買い物・洗濯・家庭内の整理整頓や清掃などを行うこと）。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実践活動に関する積極性（20%） 提出物（80%）・・・全て期限までに提出しなかったものは受け付けない。また、返却されたワークシート・配布された印刷物等は1冊のファイルにまとめること（指定された日時に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領家庭編』『小学校 わたしたちの家庭科5・6』（開隆堂） ワークシートを配布

■参考書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）

科目名	小学校教科教育法（国語）	担当教員 （単位認定者）	時田 詠子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業検討会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校国語科の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「国語科学習指導要領の目標と内容」、「解説」について理解することができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の児童用の教科書を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解①
第2回	学習指導要領と解説の理解②、配当漢字
第3回	国語科教師の基礎基本①、教員採用試験専門教養（国語科）
第4回	国語科教師の基礎基本②、ことわざ・慣用句・故事成語、漢字・平仮名・片仮名の由来、教員採用試験専門教養（国語科）
第5回	国語科教師の基礎基本③、音読と黙読、範読、読み聞かせ
第6回	教材研究の仕方①、学習指導案の書き方①（細案、児童の実態の把握方法）
第7回	教材研究の仕方②、学習指導案の書き方②（細案、児童の実態の書き方）
第8回	教材研究の仕方③、学習指導案の書き方②（細案、考察・評価規準以降の書き方）
第9回	学習指導案事前検討会①（説明文「めだか」）
第10回	模擬授業、授業研究会①
第11回	学習指導案事前検討会②（物語文「一つの花」）
第12回	模擬授業、授業研究会②
第13回	学習指導案事前検討会③（話す・聞く「根拠や理由を明らかにして話し合う～討論会をしよう～」）
第14回	模擬授業、授業研究会③
第15回	書写の指導

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

・初回の授業で明示する。

■評価方法

・学年末試験（50%）、学習指導案作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）

■教科書

- 1 文部科学省：小学校学習指導要領 「国語編」東洋館出版社、2008年8月。
- 2 田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉 1年上、2年上、3年上、4年上、5年上、6年上、計6冊」教育出版

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（国語）	担当教員 （単位認定者）	時田 詠子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校国語科の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「国語科学習指導要領の目標と内容」、「解説」について理解することができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の児童用の教科書を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	学習指導案事前検討会④（文化「春はあけぼの」）
第17回	模擬授業、授業研究会④
第18回	模擬授業、授業研究会⑤
第19回	模擬授業、授業研究会⑥
第20回	模擬授業、授業研究会⑦
第21回	模擬授業、授業研究会⑧
第22回	模擬授業、授業研究会⑨
第23回	採用試験について①（小論文）
第24回	採用試験について②（専門教養、国語）
第25回	採用試験について③（小論文）
第26回	採用試験について④（話し方・聞き方、面接）
第27回	採用試験について⑤（コミュニケーション力の向上、集団討議）
第28回	採用試験について⑥（コミュニケーション力の向上、集団討議）
第29回	採用試験について⑦（専門教養、国語）
第30回	1年間のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

- ・初回の授業で明示する。

■評価方法

- ・学年末試験（50%）、学習指導案作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）

■教科書

- 1 文部科学省：小学校学習指導要領「国語編」東洋館出版社、2008年8月。
- 2 田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉 1年上、2年上、3年上、4年上、5年上、6年上、計6冊」教育出版

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（算数）	担当教員 （単位認定者）	星野 吉也	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	小学校算数科指導内容、数量・図形・数量関係等領域別指導法、算数教書教材の研究、算数授業技術の方法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 小学校の教材に即した指導方法を実践的に深めて模擬授業ができるようにし、さらに算数教師として必要な数学の知識・技能等の演習を通して、教員採用試験の数学の問題に対応できる能力をつけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①算数教育の目標・内容についての法的根拠を理解できる。
- ②算数の教材研究に小学校学習指導要領（算数）解説書を活用できる。
- ③模擬授業の指導案の作成の仕方を理解し、自分が実施する学習指導案が作成できる。
- ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、充実した指導をするための創意工夫の仕方がわかる。

■授業の概要

小学校学習指導要領の目標・内容について理解を深め、それらの目標・内容に基づく教科書教材等を具体的に究明する。さらに、これらの学習成果をもとにして模擬授業を実施・授業分析等を通して、小学校教師としての算数指導力を磨き合う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、前期の学習内容や学習上の留意点について
第2回	講義・演習 第1・2学年の「数と計算」
第3回	講義・演習 第3・4学年の「数と計算」
第4回	講義・演習 第5・6学年の「数と計算」
第5回	講義・演習 第1・2学年の「量と測定」
第6回	講義・演習 第3・4学年の「量と測定」
第7回	講義・演習 第5・6学年の「量と測定」
第8回	講義・演習 第1・2学年の「図形」
第9回	講義・演習 第3・4学年の「図形」
第10回	講義・演習 第5・6学年の「図形」
第11回	講義・演習 第1・2学年の「数量関係」
第12回	講義・演習 第3・4学年の「数量関係」
第13回	講義・演習 第5・6学年の「数量関係」
第14回	講義・演習 算数師範ビデオ教材による授業分析
第15回	講義・演習 算数学習指導案の構成要素

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ及び、USBメモリーは、常に持参すること。
- ・毎時間テキスト「小学校学習指導要領解説（算数）」を持参すること。
- ・講義は、小学校の授業を想定し、授業の前後は起立・礼をし、受講中は私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。
- ・課題の解答を積極的に発表しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教員採用試験問題に関する資料を配付するので、これに市販の参考書などを参考にして教員採用試験の準備をしておこう。
 - ・また、模擬授業の実施に当たっては、先輩の模擬授業のビデオ等を参考にしよう。
- ※模擬授業はDVDにして全先輩に贈呈しているので適宜借り活用すること。

■オフィスアワー

・質問・要望は毎時間の最後に配布する「学習カード」に記入し、後日メモで解答します。また放課後、1階の講師室でも説明可能。

■評価方法

○毎時間の学習ノートを含むレポート（70%）、授業への積極性（30%）
総合評価は60%を超えていることが前提となる。

■教科書

※基本的には配布したテキストを中心に進めます。

■参考書

- 「小学校学習指導要領解説（算数編）」（文部科学省刊 東洋館出版）
- 文部科学省検定済算数教科書〔講師持参〕
- 公立学校教員採用試験の準備資料〔講師持参〕

科目名	小学校教科教育法（算数）	担当教員 （単位認定者）	星野 吉也	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	算数科の数と計算・量と測定・図形・数量関係等領域別指導法、教書書教材の研究、授業技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校の教材に即した指導方法を実践的に深めて模擬授業ができるようにし、さらに算数教師として必要な数学の知識・技能等の演習を通して、教員採用試験の数学の問題に対応できる能力をつけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①算数教育の目標・内容についての法的根拠を理解できる。
- ②算数の教材研究に小学校学習指導要領（算数）解説書が活用できる。
- ③模擬授業の指導案の作成の仕方を理解し、自分が実施する学習指導案が作成できる。
- ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、充実した指導をするための創意工夫の仕方がわかる。

■授業の概要

小学校学習指導要領の目標・内容について理解を深め、それらの目標・内容に基づく教科書教材等を具体的に究明する。さらに、これらの学習成果をもとにして模擬授業を実施・授業分析等を通して、小学校教師としての算数指導力を磨き合う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション、模擬授業のビデオ鑑賞1と授業分析①
第17回	模擬授業のビデオ鑑賞2と授業分析②
第18回	模擬授業の分担計画の作成
第19回	指導案の作成準備
第20回	指導案作成の実際①
第21回	指導案作成の実際②
第22回	※「数と計算」領域に関する模擬授業の展開①
第23回	※「数と計算」領域に関する模擬授業の展開②
第24回	※「量と測定」領域に関する模擬授業の展開①
第25回	※「量と測定」領域に関する模擬授業の展開②
第26回	※「図形」領域に関する模擬授業の展開①
第27回	※「図形」領域に関する模擬授業の展開②
第28回	※「数量関係」領域に関する模擬授業の展開①
第29回	※「数量関係」領域に関する模擬授業の展開②
第30回	模擬授業に活用した指導案・模擬授業の反省、レポート記録用紙等の提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ及び、USBメモリーは、常に持参すること。
- ・毎時間テキスト「小学校学習指導要領解説（算数）」を持参すること。
- ・講義は、小学校の授業を想定し、授業の前後は起立・礼をし、受講中は私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。
- ・課題の解答を積極的に発表しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教員採用試験問題に関する資料を配付するので、これに市販の参考書などを参考にして教員採用試験の準備をしておこう。
 - ・また、模擬授業の実施に当たっては、先輩の模擬授業のビデオ等を参考にしよう。
- ※模擬授業はDVDにして全先輩に贈呈しているので適宜借りられます。

■オフィスアワー

・質問・要望は毎時間の最後に配布する「学習カード」に記入し提出、後日回答します。また放課後、1階の講師室でも説明可能。

■評価方法

○毎時間の学習ノートを含むレポート（50%）、模擬授業の充実度（40%）、授業への積極性（10%）
総合評価は60%を超えていることが前提となる。

■教科書

※基本的には配布したテキストを中心に進めます。

■参考書

- 「小学校学習指導要領解説(算数編)」(文部科学省刊 東洋館出版)
- 文部科学省検定済算数教科書〔講師持参〕
- 公立学校教員採用試験の準備資料〔講師持参〕

科目名	小学校教科教育法（社会）	担当教員 （単位認定者）	梅山 文秀	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	問題解決学習 見学・調査 表現活動 複線型授業 博物館・資料館の活用				

■授業の目的・到達目標

小学校社会科の学習方法や教材・教具について理解すること。

■授業の概要

授業とはどのようなものなのかについて考え、学習指導者としての観点から授業をとらえられるようにすること。
様々な学習方法や教材・教具について理解すること。
実際に博物館・郷土資料館等を見学し、その活用方法を身につけること。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、授業とは①・・・授業の組み立て
第2回	授業とは②・・・動機付け、主体性と指導性
第3回	授業とは③・・・社会的事象の意味を考える授業
第4回	授業とは④・・・主体的に調べて考える授業
第5回	授業とは⑤・・・能力や技能を育てる授業
第6回	授業とは⑥・・・社会的な見方や考え方を育てる授業、望ましい学習環境のあり方
第7回	社会科の学習方法①・・・個別学習、グループ学習、一斉学習、系統学習、問題解決学習
第8回	社会科の学習方法②・・・見学・調査・面接①
第9回	社会科の学習方法③・・・見学・調査・面接②
第10回	社会科の学習方法④・・・講義法、ごっこ・劇化・構成活動、作業学習
第11回	社会科の学習方法⑤・・・支援、シミュレーションゲーム、体験学習、探究学習
第12回	社会科の学習方法⑥・・・ティーム・ティーチング、ディベート、プログラム学習、プロジェクトメソッド
第13回	社会科の学習方法⑦・・・問答・討議法、複線型授業、表現活動、ロールプレイング
第14回	教材・教具について①・・・教科書、学習ノート、郷土資料、現物資料
第15回	教材・教具について②・・・統計資料、年表、博物館・郷土資料館の活用

■受講生に関わる情報および受講のルール

小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。
社会科概論を履修していること。
配付資料やワークシートは必ず保管すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞を毎日読むこと。「子どもを理解する」とはどのようなことなのかを常に考えながら学習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70%、学習指導案 20%、その他提出物 10%を目安として総合的に評価する。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（社会）	担当教員 （単位認定者）	梅山 文秀	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地図を読む 地図をつくる 4 観点 評価と指導の一体化（形成的評価） 発問				

■授業の目的・到達目標

地図の基礎的事項を理解し、地図を読むことができるようになること。
 大学周辺を実地調査し、簡略的な地図を作製すること。
 学習評価について理解すること。
 指導案を作成し、模擬授業・授業研究を行い、授業実践力を養うこと。

■授業の概要

地図を読むことができるよう、その基礎を学ぶ。また、教材開発の実践として大学周辺を実地調査し、簡略的な地図を作製すること。
 社会科における学習評価について学ぶ。
 指導案の作成方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	教材・教具について③・・・副読本、放送利用、コンピュータ利用
第17回	教材・教具について④・・・地図指導 様々地図について知る。地図を読む。
第18回	社会科における学習評価①・・・学習評価の分類、観点別学習状況の評価（4 観点）
第19回	社会科における学習評価②・・・評価規準と評価基準、指導計画・評価計画の作成
第20回	社会科における学習評価③・・・具体的な評価方法、学習評価の記録法、学習評価の課題
第21回	学習過程とその指導①・・・本時の授業をつくる。求められる授業技術。（発問）
第22回	学習過程とその指導②・・・求められる授業技術。（板書・ノート）
第23回	指導案の作成①
第24回	指導案の作成②
第25回	指導案の作成③
第26回	模擬授業及び授業研究①
第27回	模擬授業及び授業研究②
第28回	博物館・郷土資料館見学
第29回	博物館・郷土資料館見学
第30回	博物館・郷土資料館見学

■受講生に関わる情報および受講のルール

小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。
 社会科概論を履修していること。
 配付資料やワークシートは必ず保管すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞を毎日読むこと。「子どもを理解する」とはどのようなことなのかを常に考えながら学習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70%、学習指導案 20%、その他提出物 10%を目安として総合的に評価する。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（図工）	担当教員 （単位認定者）	宗 幸子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	指導要領 領域 目標 項目 事項 A表現 B鑑賞〔共通事項〕指導案 模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校図画工作科を指導する上で必要な造形的な理論と技能を講義や演習、模擬授業体験等を通して習得する。

〔到達目標〕

- ①小学校図画工作科の授業構成に関する基礎的な知識が理解できる。
- ②製作実技（デッサン、紙工作、水彩画）を通して表現の基礎を学び、自己の個性を生かした表現ができる。
- ③模擬授業体験から子どもの創造性を伸ばす楽しい授業のあり方について指導能力が身に付く。

■授業の概要

造形教育の基礎理論として、指導要領の解説を中心に講義を行う。デッサン練習、紙工作の基礎基本、淡彩画の描き方等の製作実技を行い、表現力を高める。模擬授業を通して指導の実際を学び、子どもへの指導能力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	造形活動の意義 指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容）
第3回	指導要領の概要（各領域及び〔共通事項〕の内容）
第4回	指導要領の概要（指導計画の作成と内容の取扱い）
第5回	デッサンの基礎練習（立方体、円柱）
第6回	授業の組み立てと学習指導案
第7回	教育評価の考え方と方法
第8回	「造形遊び」の指導の展開
第9回	「造形遊び」の指導の展開（指導案の作成）
第10回	「造形遊び」の指導の展開（指導案の作成）
第11回	「造形遊び」の展開 模擬授業
第12回	「工作に表す」の指導の展開
第13回	「工作に表す」の指導の展開（教材開発 ポップアップカード）
第14回	「工作に表す」の指導の展開（教材開発 ポップアップカード）
第15回	「工作に表す」の指導の展開（教材開発 ポップアップカード）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。

・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。

〔受講のルール〕

・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。

・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（50%）、製作実技作品、指導案、資料等の提出（40%）、出席・授業態度（10%）

■教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」文部科学省、「小学校図画工作科の指導」新井哲夫編 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（図工）	担当教員 （単位認定者）	宗 幸子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	指導要領 目標 領域 事項 項目 A表現 B鑑賞〔共通事項〕 指導案 模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校図画工作科を指導する上で必要な造形的な理論と技能を講義や演習、模擬授業体験等を通して習得する。

〔到達目標〕

- ①小学校図画工作科の授業構成に関する基礎的な知識が理解できる。
- ②製作実技（デッサン、紙工作、水彩画）を通して表現の基礎を学び、自己の個性を生かした表現ができる。
- ③模擬授業体験から子どもの創造性を伸ばす楽しい授業のあり方について指導能力が身に付く。

■授業の概要

造形教育の基礎理論として、指導要領の解説を中心に講義を行う。デッサン練習、紙工作の基礎基本、淡彩画の描き方等の製作実技を行い、表現力を高める。模擬授業を通して指導の実際を学び、子どもへの指導能力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	「工作に表す」指導の展開（教材開発 ポップアップカード）
第17回	「絵に表す」指導の展開
第18回	水彩画の指導のあり方
第19回	「立体に表す」指導の展開
第20回	「鑑賞」の指導
第21回	指導案作成
第22回	指導案作成
第23回	模擬授業「工作に表す」
第24回	模擬授業「絵に表す」
第25回	模擬授業「立体に表す」
第26回	模擬授業「鑑賞」
第27回	模擬授業「導入段階の指導」
第28回	模擬授業「導入段階の指導」
第29回	児童画の見方・育て方①
第30回	児童画の見方・育て方② 図画工作科と教師の役割

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。
- ・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（50%）、製作実技作品、指導案、資料等の提出（40%）、出席・授業態度（10%）

■教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」文部科学省、「小学校図画工作科の指導」新井哲夫編 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（生活）	担当教員 （単位認定者）	山岸 裕美子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然 社会 家庭 文化（行事）				

■授業の目的・到達目標

児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。

■授業の概要

生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりについて学ぶ教科であるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき実践体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス（生活科の目標・生活科の内容）
第2回	実践研究：春の景色（四季の変化を理解するために適する場所を選んで、スケッチする）
第3回	実践研究：植物の栽培と観察（植物の栽培に必要な材料・物品を準備し、実践する）〈開始〉
第4回	実践研究：春を探そう（春の植物を探し、それをもとに研究する）
第5回	実践研究：春を探そう（春に特徴のある生きものを探し、それをもとに研究する）
第6回	実践研究：生きものも採集と飼育・観察（学校周辺に生息している生きものについて調べる）
第7回	実践研究：植物の栽培と観察〈経過と検討〉
第8回	実践研究：夏の景色（春の景色と夏の景色の違いを理解する）
第9回	実践研究：夏を探そう（夏の植物を探し、それをもとに研究する）
第10回	実践研究：夏を探そう（夏に特徴のある生きものを探し、それをもとに研究する）
第11回	課題研究：家族の生活について考えよう（「自分の家族」「家族の中の自分」について気づかせる方法を考える）
第12回	課題研究：自分を取り巻く環境について考えよう（学校生活の中でお世話になっている人たち・地域の生活などについて気づかせる方法を考える）
第13回	実践研究：地域（学校）マップの作成（学校周辺の地域について調べ、マップを作成する）
第14回	実践研究：地域（学校）マップの作成（学校周辺の地域について調べ、マップを作成する）
第15回	実践研究：植物の栽培と観察のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動を中心に据えている科目であるため、常に積極的に活動し、意欲的に調べること。毎回ワークシートを提出することになるが、必ず時間内に仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

植物の栽培や製作などの前には、各自で材料を準備すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実践活動に対する積極性（30%）、提出物（70%）…全ての提出物は、期限が過ぎたものについては受け付けない。また、返却されたワークシートや配布されたプリントは整理し、1冊のファイルにまとめること（指定された期日に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領生活編』、『あたらしいせいかつ上』（東京書籍）、『新しい生活下』（東京書籍）、ワークシートを配布。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（生活）	担当教員 （単位認定者）	山岸 裕美子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然 社会 家庭 文化（行事）				

■授業の目的・到達目標

児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。

■授業の概要

生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりについて学ぶ教科であるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき実践体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	生活科の指導計画（指導計画作成の要点と配慮事項・学習の基本課程・単元構成・年間計画等）
第17回	実践研究： 不要になったものを使って、遊ぶものを作ろう（生活の中で生じる不要品を用いて、おもちゃなどを作る）
第18回	実践研究： 前回作ったおもちゃを使った遊びを考えよう（各グループが製作した手作りおもちゃを用いて、遊びを工夫する）
第19回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（公共交通機関を調べ、マナーについて考える）
第20回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（秋の植物を探し検討する）
第21回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（秋の生きものを探し検討する）
第22回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（秋の景色の概観をとらえ、自然を理解する）
第23回	実践研究： 秋の植物や実を使った製作（集中講義の際に入手した自然の産物で、おもちゃ・生活用品等を作る）
第24回	実践研究： 冬の植物・生きものを探そう（冬の植物や生きものの様子を観察し、研究する）
第25回	課題研究： 学校生活を楽しく有意義に過ごすための学習指導を考案する
第26回	課題研究： 植物の栽培・動物の飼育についての学習指導を考案する
第27回	実践研究： 冬の景色（冬の景色をスケッチする） 冬の暮らし（冬ならではの暮らし方・遊び・行事を検討する）
第28回	課題研究： 季節の変化と生活についての学習指導を考案する
第29回	課題研究： 家庭と生活・地域と生活についての学習指導を考案する
第30回	課題研究： 公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する
	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動を中心に据えている科目であるため、常に積極的に活動し、意欲的に調べること。毎回ワークシートを提出するため、必ず時間内に仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

植物の栽培や製作などの前には、各自で材料を準備すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実践活動に対する積極性（30%）、提出物（70%）…全ての提出物は、期限が過ぎたものについては受け付けない。また、返却されたワークシートや配布されたプリントは整理し、1冊のファイルにまとめること（指定された期日に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領生活編』、『あたらしいせいかつ上』（東京書籍）、『新しい生活下』（東京書籍）、ワークシートを配布。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（体育）	担当教員 （単位認定者）	櫻井 秀雄	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心と体、健康と安全、体育とスポーツ、発育発達、運動に親しむ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕小学校体育教科の指導について必要な知識・技能を学び、実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解ができる。
- ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的におこなえる。
- ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけることができる。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で事例研究を通しながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	総則と体育
第3回	体育の目標
第4回	体育の内容
第5回	体育の指導計画
第6回	体育の学習指導
第7回	体育の学習評価
第8回	選択制授業、男女共修授業
第9回	体づくり運動① 体力を高める運動
第10回	体づくり運動② 体ほぐし運動
第11回	器械運動系①マット運動
第12回	器械運動系②鉄棒運動
第13回	器械運動系③跳び箱運動
第14回	表現運動系①リズム運動
第15回	表現運動系②創作運動

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・前半は基礎基本的内容を学習、後半は実技を通して実践的な学習。運動着、運動靴の準備。実技でもメモの用意。夏季に水泳の集中講座を実施。

〔受講のルール〕

- ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。
- ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

小学校のボランティア活動を積極的に実施、野外活動やプール指導等で、子ども達の状況を理解しておく。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前後期とも筆記試験・レポート（50%）実技試験（50%）総合評価で60%以上とする。

■教科書

文部科学省：小学校学習指導要領解説「体育編」：東洋館出版社：平成20年

■参考書

杉山重利：保健体育科教育法：大修館：平成21年

科目名	小学校教科教育法（体育）	担当教員 （単位認定者）	櫻井 秀雄	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心と体、健康と安全、体育とスポーツ、発育発達、運動に親しむ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕小学校体育教科の指導について必要な知識・技能を取得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解ができる。
- ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的におこなえる。
- ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけられる。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で事例研究を通しながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	水泳系① 基本泳法
第17回	水泳系② 応用泳法
第18回	陸上運動系① 走る
第19回	陸上運動系② 跳ぶ
第20回	陸上運動系③ 自然とのふれあい（野外走）
第21回	ボール運動① バスケットボール型
第22回	ボール運動② ベースボール型
第23回	ボール運動③ サッカー型
第24回	保健 総則と健康、目標、内容
第25回	保健 指導計画、学習指導、学習評価
第26回	課題研究：準備運動の作成①
第27回	課題研究：準備運動の作成②
第28回	課題研究：準備運動の作成③
第29回	課題研究：発表と評価
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

- ・前半は実技を通して実践的な学習、後半は講義、課題研究（作品制作と発表）を実施。運動着、運動靴の準備。実技でもメモの用意。

〔受講のルール〕

- ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。
- ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力する。

■授業時間外学習にかかわる情報

小学校のボランティア活動を積極的に実施する。野外活動やプール指導等で、子ども達の状況を理解しておく。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前後期とも筆記試験・レポート（50%）実技試験（50%）総合評価で60%以上とする。

■教科書

文部科学省：小学校学習指導要領解説「体育編」：東洋館出版社：平成20年

■参考書

杉山重利：保健体育科教育法：大修館：平成21年

科目名	小学校教科教育法（理科）	担当教員 （単位認定者）	初等教育コース教員	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	理科教育、初等科理科、理科カリキュラム、理科の授業、生物、地学、化学の基礎				

■授業の目的・到達目標

小学校で理科を指導する際に不可欠な基礎知識や指導上の留意点などについて学び、小学校で授業を行なうための指導力の育成、楽しい授業を展開する為の指導法を習得する。

■授業の概要

この授業には超高倍率・超スローモーション、超高速カメラ等による映像が紹介されるので学習内容の理解が深まる。前期 第1～15回では主としてB区分「生命」（生物）、「地球」（地学）の分野を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 1. 理科教育の意義と役割 2. 理科教育の目標と内容 3. 理科教育の指導法と評価				
第2回	学習：桜の美しさの秘密、桜のクローン	指導法：教材、小4「さくら」			
第3回	学習：学習指導案の作成				
第4回	B区分「生命」の学習：1. ねらいと内容 2. 教材研究と授業づくり 3. 実践 教材、小3「種からなーんだ」				
第5回	学習：身近な植物の種、発芽、成長、結実	指導法：左記のテーマにおける小3と小5児童の指導の相違			
第6回	学習：植物の生活と水	指導法：教材、小6「植物の養分と水の通り道」			
第7回	学習：光合成	指導法：教材、小4「植物の成長と季節」			
第8回	学習：植物の環境への適応、植物ホルモン、花芽形成				
第9回	学習：世界に生息する蟻	指導法：教材、小3「蟻の観察」、「アリの世界」			
第10回	学習：擬態	指導法：教材、小3「昆虫の育ち方」、「野原の虫」			
第11回	学習：蝶の羽の不思議、昆虫の能力とその利用、理科工作：送風ゴムの力で動く昆虫おもちゃの作成				
第12回	体験学習：博物館の効果的な利用法				
第13回	体験学習：博物館バックヤード（収蔵庫等）の見学				
第14回	体験学習：博物館内展示物の見学と問題演習 その1				
第15回	体験学習：博物館内展示物の見学と問題演習 その2				

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度を望む。学習内容をよく理解し、判断力・思考力の養成に努力してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回配布されるプリントに基づいて十分に復習をする。

■オフィスアワー

授業終了後1時間

■評価方法

受講態度 15%、定期試験 85%、欠席回数が全授業日の1/3を超えた時点で失格となる。

■教科書

別に指示する。

■参考書

「理科概論」で用いた教科書：身近な現象の物理と化学、鈴木智恵子著 東海大学出版部、その他授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（理科）	担当教員 （単位認定者）	初等教育コース教員	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	理科教育、初等科理科、理科カリキュラム、理科の授業、学習指導案、地学、化学				

■授業の目的・到達目標

小学校で理科を指導する際に不可欠な基礎知識や指導上の留意点などについて学び、小学校で授業を行なうための指導力の育成、楽しい授業を展開する為の指導法を習得する。

■授業の概要

後期 第15～30回ではB区分「生命」（生物）と「地球」（地学）の分野に加え、A区分「物質」（化学）の分野も学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション、1.栽培と飼育、2.学習：秋の虫、虫の音	指導法：教材 小3「たんけん秋の森」
第17回	学習：小学校理科地学分野の構成、各学年地学分野の目標と内容。	指導法：教材 小5「移り変わる天気」、小5「秋の天気と台風」
第18回	学習：豪雨の際の注意、大峡谷の成因	指導法：教材 小5「大地をけずる水」
第19回	学習：風雨の働きと地形	指導法：教材 小5「水の恵みと災害」、小5「かたちを変える川」
第20回	学習：紅葉、黄葉のメカニズム、種子の散布、小学校理科工作：遠くへ飛ぶことの出来る植物の種の模型づくり	
第21回	学習：地殻変動のあかし	指導法：教材 小6「地層の出来方と化石」
第22回	学習：活断層と地震、プレートの動き	指導法：教材 小6「ゆれる大地」
第23回	学習：海溝形地震、地震と揺れの周期、東日本大震災と神戸・淡路大震災の違いと原因	
第24回	学習：津波への対応	
第25回	学習：火山活動とその影響、世界の活火山	指導法：教材 小6「火を噴く山」
第26回	学習：プレートは動く、大地溝帯（エチオピア、アイスランド）、小学校理科化学分野の構成、各学年化学分野の目標と内容。	
第27回	学習：酸と塩基	指導法：教材 小6「酸とアルカリ」
第28回	学習：水素イオン濃度と pH	指導法：教材 小6「役に立つ化学」
第29回	学習：日本における新エネルギー開発	指導法：教材 小6「未来のエネルギー」
第30回	授業における安全管理	

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度を望む。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回配布されるプリントに基づいて十分に復習をする。

■オフィスアワー

授業終了後1時間と 14:15～15:15

■評価方法

受講態度 15%、定期試験 85%、欠席回数が全授業日の1/3を超えた時点で失格となる。

■教科書

別に指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	初等教育実習事前・事後指導(3年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	スクールサポートボランティア、教育実習の理解、模擬授業、授業検討会				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

[到達目標]

- ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。
- ②スクールサポートボランティアを行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。
- ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力を身に付けることができる。
- ④教員採用試験の概要を理解し、第一次試験、第二次試験に合格する力量を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導、生活指導等の基礎基本について学ぶ。
- 2 現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。
- 3 模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、教育実習の理解①
第2回	教育実習の理解②、スクールサポートボランティアについて、教員採用試験対策①(各自治体の特徴、大学推薦)
第3回	小学校教師の基礎基本①、教員採用試験対策②(一般教養)
第4回	小学校教師の基礎基本②、教員採用試験対策③(教職教養)
第5回	スクールサポートボランティアの実施①
第6回	スクールサポートボランティアの実施②
第7回	スクールサポートボランティアの実施③
第8回	スクールサポートボランティアの実施④
第9回	スクールサポートボランティアの実施⑤
第10回	スクールサポートボランティアの実施⑥
第11回	スクールサポートボランティアの報告会①
第12回	スクールサポートボランティアの報告会②
第13回	スクールサポートボランティアの報告会③
第14回	教員採用試験対策④(一般教養、教職教養)
第15回	教員採用試験対策⑤(一般教養、教職教養)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

・初回の授業で明示する。

■評価方法

・スクールサポートボランティアの実施・報告会(20%)、教員採用試験対策への取り組み(50%)、ミニテスト(30%)

■教科書

・群馬医療福祉大学:「実習へのガイドブック」2012年

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	初等教育実習事前・事後指導(3年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。
- ②スクールサポートボランティアを行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。
- ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力を身に付けることができる。
- ④教員採用試験の概要を理解し、第一次試験、第二次試験に合格する力量を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導、生活指導等の基礎基本について学ぶ。
- 2 現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。
- 3 模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	模擬授業、授業研究会①(理科)、教員採用試験対策⑥(個人面接)
第17回	模擬授業、授業研究会②(体育)、教員採用試験対策⑦(集団面接)
第18回	模擬授業、授業研究会③(道徳)、教員採用試験対策⑧(集団討議)
第19回	模擬授業、授業研究会④(外国語活動)、教員採用試験対策⑨(場面指導)
第20回	教員採用試験対策⑩(一般教養、教職教養)
第21回	教員採用試験対策⑪(一般教養、教職教養)
第22回	教員採用試験対策⑫(一般教養、教職教養)
第23回	教員採用試験対策⑬(模擬試験)
第24回	教員採用試験対策⑭(教職教養、専門教養)
第25回	教員採用試験対策⑮(教職教養、専門教養)
第26回	教員採用試験対策⑯(教職教養、専門教養)
第27回	教員採用試験対策⑰(教職教養、専門教養)
第28回	教員採用試験対策⑱(論文)
第29回	教員採用試験対策⑲(面接)
第30回	教員採用試験対策⑳(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

・初回の授業で明示する。

■評価方法

・スクールサポートボランティアの実施・報告会(20%)、教員採用試験対策への取り組み(50%)、ミニテスト(30%)

■教科書

・群馬医療福祉大学:「実習へのガイドブック」2012年

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理学実験、質問紙、実験レポート、量的データ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになることを目的とする。

[到達目標]

実験の手続きを理解できるようになる。

独立変数・従属変数を操作・測定する方法を学ぶ。

実験改善を提案する力を得る。

実験レポートを作成できるようになる。

■授業の概要

通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス・相関と因果関係
第2回	相関と因果関係
第3回	錯視実験
第4回	錯視実験
第5回	錯視実験
第6回	統計グラフの書き方
第7回	ストループ課題(解説)
第8回	ストループ課題(実験)
第9回	ストループ課題(解説)
第10回	ストループ課題(説明)
第11回	レポートの書き方
第12回	記憶実験(解説)
第13回	記憶実験(実験)
第14回	記憶実験(解説)
第15回	記憶実験(解説)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。

[受講のルール]

各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

レポート(70%)、授業内小テスト(30%)

■教科書

なし。講義中に資料を配布する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習 I	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理学実験、質問紙、実験レポート、量的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

実験の手続きを理解できるようになる。

独立変数・従属変数を操作・測定する方法を学ぶ。

実験改善を提案する力を得る。

実験レポートを作成できるようになる。

■授業の概要

通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	ガイダンス
第17回	アクションスリップ(解説)
第18回	アクションスリップ(実験)
第19回	アクションスリップ(分析解説)
第20回	アクションスリップ(分析解説)・課題提出
第21回	漢字とかなの処理過程(解説)
第22回	漢字とかなの処理過程(実験)
第23回	漢字とかなの処理過程(解説・分析)
第24回	漢字とかなの処理過程(解説・分析)・課題提出
第25回	統計グラフの書き方・ミニ課題提出
第26回	スキーマ課題(解説)
第27回	スキーマ課題(実験)
第28回	スキーマ課題(解説・分析)
第29回	スキーマ課題(解説・分析)・課題提出
第30回	まとめおよびミニ課題提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。

〔受講のルール〕

各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

レポート(60%)、授業内小テスト(30%)、授業内でのコメント(10%)

■教科書

なし。授業中にプリントを配布する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理統計学	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計学、心理学研究法				

■授業の目的・到達目標

本講義は、心理データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的としている。そのため、単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく、人の心や行動に関する情報を統計的根拠に則して読み解ける素養の育成に力点を置くことになる。

■授業の概要

授業は講義形式での説明のほか、模擬データを配布して実際に分析を行い、その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 心理学研究の基礎としての統計学
第2回	統計学の初歩I 「統計をとる」ことの意義
第3回	統計学の初歩II 変数と尺度、シグマ(Σ)記号の意味
第4回	度数分布I 質的変数の度数分布
第5回	度数分布II 量的変数の度数分布
第6回	基本統計量I 代表値(平均値、中央値、最頻値)
第7回	基本統計量II 散布度(分散、標準偏差)
第8回	基本統計量III 分布型(歪度、尖度、正規性)
第9回	基本統計量IV 標準正規分布の使い方
第10回	相関と回帰I 散布図、相関関係の理解
第11回	相関と回帰II ピアソンの積率相関係数
第12回	相関と回帰III 相関行列、多変数間の相関分析
第13回	相関と回帰IV 回帰分析
第14回	相関と回帰V 回帰分析の応用(重回帰分析)
第15回	前期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

数学的素養はほとんど必要ありませんが、数値情報を読解するための根気と思考力を要します。十分に検討した上で履修の採否を決定することをお勧めします。また、受講に際しては必ず恒常的に出席して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期・後期の筆記試験の結果(70%)に、平常点(30%)(出席及び受講態度)を加味した総合評価を行います。

■教科書

吉田寿夫(著)「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房,1998年

■参考書

適宜紹介

科目名	心理統計学	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計学、心理学研究法				

■授業の目的・到達目標

本講義は、心理データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的としている。そのため、単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく、人の心や行動に関する情報を統計的根拠に則して読み解ける素養の育成に力点を置くことになる。

■授業の概要

授業は講義形式での説明のほか、模擬データを配布して実際に分析を行い、その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	統計的検定Ⅰ 母集団と標本
第17回	統計的検定Ⅱ 統計的検定の考え方
第18回	カイ2乗検定Ⅰ ピアソンの適合度の検定
第19回	カイ2乗検定Ⅱ ピアソンの独立性の検定
第20回	t検定Ⅰ 対応のある標本の平均値の差の検定
第21回	t検定Ⅱ 独立した2標本の平均値の差の検定
第22回	t検定Ⅲ ウェルチの方法による平均値の差の検定
第23回	分散分析Ⅰ 分散分析の考え方
第24回	分散分析Ⅱ 一元配置の分散分析
第25回	分散分析Ⅲ 多重比較検定
第26回	その他の検定 中央値の検定 ほか
第27回	統計的検定をめぐる諸問題 その限界と適用上の留意点
第28回	多変量解析の概説Ⅰ 因子分析
第29回	多変量解析の概説Ⅱ クラスター分析
第30回	後期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

数学的素養はほとんど必要ありませんが、数値情報を読解するための根気と思考力を要します。十分に検討した上で履修の採否を決定することをお勧めします。また、受講に際しては**必ず恒常的に出席して下さい**。

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期・後期の筆記試験の結果(70%)に、平常点(30%)(出席及び受講態度)を加味した総合評価を行います。

■教科書

吉田寿夫(著)「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房,1998年

■参考書

適宜紹介

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	重田 理佐	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神医学				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学的知識を身につける。

[到達目標]

- 1、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。
- 2、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。
- 3、精神医学の概念、診断の基本について理解する。
- 4、代表的な精神障害について理解する。
- 5、精神障害の治療の概要について理解する。
- 6、病院精神医学および地域精神医学について理解する。

■授業の概要

精神医学についての基本的な知識の習得を目指すと共に、精神科病院勤務医としての経験から精神医療の現状と課題についても触れていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	授業オリエンテーション
第2回	精神医学と精神医療の歴史
第3回	精神現象の生物学的基礎
第4回	精神障害の概念
第5回	精神疾患の症状と診断1
第6回	精神疾患の症状と診断2
第7回	心理検査と身体的検査
第8回	器質性精神障害
第9回	精神作用物質使用による精神及び行動の障害
第10回	統合失調症1
第11回	統合失調症2
第12回	躁うつ病1
第13回	躁うつ病2
第14回	神経症性障害1
第15回	神経症性障害2

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

予習復習を行う。分かりづらいことについては積極的に質問する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期末にレポート課題を行う。後期末に筆記試験を行い、筆記試験で評価を行う。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業において適宜紹介する。

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	重田 理佐	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神医学				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学的知識を身につける。

[到達目標]

- 1、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。
- 2、脳及び神経の生理、解剖の基礎的理解。
- 3、精神医学の概念、診断の基本について理解する。
- 4、代表的な精神障害について理解する。
- 5、精神障害の治療の概要について理解する。
- 6、病院精神医学および地域精神医学について理解する。

■授業の概要

精神医学についての基本的な知識の習得を目指すと共に、精神科病院勤務医としての経験から精神医療の現状と課題についても触れていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	生理的障害および身体的要因に関連した障害
第17回	成人のパーソナリティ及び行動の障害
第18回	精神遅滞、発達障害
第19回	小児期のおよび青年期に通常発症する行動および情緒の障害
第20回	神経系の疾患、てんかん
第21回	治療法1 薬物療法
第22回	治療法2 電気けいれん療法、身体療法
第23回	治療法3 環境社会療法、リハビリテーション
第24回	精神医療の現状
第25回	医療観察法と司法精神医学
第26回	人権擁護、精神科救急医療
第27回	産業精神医学
第28回	復習
第29回	復習
第30回	復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

予習復習を行う。分かりづらいことについては積極的に質問する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期末にレポート課題を行う。後期末に筆記試験を行い、筆記試験で評価を行う。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業において適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の生活支援				

■授業の目的・到達目標

- 1) 精神障害者の人権について理解させる。障害に配慮した生活支援について理解させる。
- 2) 精神保健福祉法、障害者自立支援法、医療観察法に関する法律の意義を理解させる。
- 3) 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。

■授業の概要

精神障害者の理解のために、障害者福祉の理念基本施策を学ぶ。社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえて精神保健福祉士としての支援ができるようになることを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷
第3回	精神保健福祉法の内容①
第4回	同 ② と精神保健福祉士の役割
第5回	精神保健福祉制度と障害者自立支援法①
第6回	同 ②
第7回	同 ③
第8回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討
第9回	精神保健福祉に関する行政組織
第10回	医療観察法成立の経緯と背景
第11回	更生保護制度と精神保健福祉
第12回	映画①
第13回	感想レポート
第14回	関連施策、医療保険制度・介護保険制度
第15回	年金保険制度と障害者年金

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)
内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポート(100%)による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神障害者の生活支援一制度・システムとサービス へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の生活支援				

■授業の目的・到達目標

- 1) 精神障害者の人権について理解させる。障害に配慮した生活支援について理解させる。
- 2) 精神保健福祉法、障害者自立支援法、医療観察法に関する法律の意義を理解させる。
- 3) 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。

■授業の概要

精神障害者の理解のために、障害者福祉の理念基本施策を学ぶ。社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえて精神保健福祉士としての支援ができるようになることを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	雇用保険・労災保険制度
第17回	公的扶助その他経済的負担の軽減
第18回	地域生活支援と退院促進(地域移行・地域定着)
第19回	生活支援システムのパラダイムシフト
第20回	医学モデルから社会モデル
第21回	精神障害者の実態把握
第22回	家族調査、精神障害者自身の体験
第23回	イギリスのコミュニティーケアから学ぶもの、精神科デイケア
第24回	心理家族教室 ピアサポーター 他
第25回	実態からの提言・課題
第26回	精神障害者の居住支援
第27回	精神障害者の雇用・就労
第28回	映画②感想レポート
第29回	生活支援システム①
第30回	生活支援システム②

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)
内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポート(100%)による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神障害者の生活支援一制度・システムとサービス へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健の課題と支援	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健学				

■授業の目的・到達目標

精神保健についての基本的知識について理解させる。ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。

■授業の概要

精神保健を縦軸（ライフサイクル）と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	精神保健とは何か? 保健とメンタルヘルス
第3回	ライフサイクルと精神保健
第4回	ライフサイクルと精神保健
第5回	ライフサイクルと精神保健
第6回	ライフサイクルと精神保健
第7回	ライフサイクルと精神保健
第8回	ライフサイクルと精神保健
第9回	精神保健の実際
第10回	精神保健の実際
第11回	精神保健福祉法と精神保健
第12回	精神科治療とリハビリテーションの特殊性
第13回	薬物依存、アルコール依存と精神保健
第14回	自殺、いじめと精神保健
第15回	世界の精神保健の動向

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポート（100%）による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神保健学 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健の課題と支援	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健学				

■授業の目的・到達目標

精神保健についての基本的知識について理解させる。ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。

■授業の概要

精神保健を縦軸（ライフサイクル）と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	精神保健の歴史①（異常とは？量、質）
第17回	精神保健の歴史②ベルギー、ゲールの地域活動
第18回	大脳、中枢神経、記憶の障害
第19回	知能の異常、知覚の異常
第20回	感情の異常、不安、パニック、抑うつ
第21回	不眠と精神保健
第22回	精神障害者対策、精神障害者の現状
第23回	精神保健福祉法の成立と見直し
第24回	障害者自立支援法
第25回	医療観察法
第26回	更生保護との関連
第27回	生活保護法との関連
第28回	地域保健と地域精神保健
第29回	世界の精神保健、アメリカ、イギリスの現状と実際
第30回	精神保健学の新しい取り組み

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポート（100%）による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神保健学 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉援助演習基礎	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の理解、自己覚知、他者理解、記述方法、表現方法、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 対人援助専門職を目指す学生として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕 ①対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。②基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。③対人援助専門職を目指す学生として、自己理解し、自己表現できるようになる。④対人援助専門職を目指す学生として、他者を理解し、受容できるようになる。⑤精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。

■授業の概要

対人援助専門職としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。また、相談援助実習の振り返りをとおして、記録の具体的な記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、次年度の精神保健福祉援助実習に活かせる援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション
第2回	援助者としての自己覚知 ①
第3回	援助者としての自己覚知 ②
第4回	援助者としての自己覚知 ③
第5回	援助者としての自己覚知 ④
第6回	コミュニケーションと対人関係 ①
第7回	コミュニケーションと対人関係 ②
第8回	コミュニケーションと対人関係 ③
第9回	コミュニケーションと対人関係 ④
第10回	コミュニケーションと対人関係 ⑤
第11回	倫理と守秘義務について ①
第12回	倫理と守秘義務について ②
第13回	援助者としての自己覚知 ⑤
第14回	援助者としての自己覚知 ⑥
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。②授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

①授業への取り組み（授業への参加状況）25% ②授業レポート（内容および提出状況含む）40% ③定期試験および課題レポート 35% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015 / ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子著 みらい 2011

■参考書

「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習基礎	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の理解、自己覚知、他者理解、記述方法、表現方法、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 対人援助専門職を目指す学生として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。
 〔到達目標〕 ①対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。②基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。③対人援助専門職を目指す学生として、自己理解し、自己表現できるようになる。④対人援助専門職を目指す学生として、他者を理解し、受容できるようになる。⑤精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。

■授業の概要

対人援助専門職としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。また、相談援助実習の振り返りをとおして、記録の具体的な記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、次年度の精神保健福祉援助実習に活かせる援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション
第17回	記録の記述方法 ① 個別事例の検討
第18回	記録の記述方法 ② 個別事例の検討
第19回	記録の記述方法 ③ 個別事例の検討
第20回	記録の記述方法 ④ 個別事例の検討
第21回	記録の記述方法 ⑤ 個別事例の検討
第22回	記録の記述方法 ⑥ 個別事例の検討
第23回	記録の記述方法 ⑦ 個別事例の検討
第24回	記録の記述方法 ⑧ 個別事例の検討
第25回	記録の記述方法 ⑨ 個別事例の検討
第26回	記録の記述方法 ⑩ 個別事例の検討
第27回	観察と考察 ①
第28回	観察と考察 ②
第29回	振り返りと今後の課題
第30回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。②授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

①授業への取り組み（授業への参加状況）25% ②授業レポート（内容および提出状況含む）40% ③定期試験および課題レポート 35% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015 / ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子著 みらい 2011

■参考書

「相談援助演習」 社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習専門	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	記述方法、表現方法、面接技法、自己覚知、他者理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕精神保健福祉士として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕①話す、聴く、書く、観ることを含めた基本的な面接技法を身につけ、実践できるようになる。②対人援助専門職として、自己理解し、自己表現できるようになる。③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間とその家族を理解し、受容できるようになる。④精神保健福祉士として相談、確認、報告ができるようになる。

■授業の概要

精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。また、配属実習の振り返りをおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、今後の現場での実践に活かせる専門的援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	講義オリエンテーションおよび見学実習の振り返り
第2回	援助者としての自己覚知 ①
第3回	援助者としての自己覚知 ②
第4回	倫理と秘密保持について ① 精神保健福祉士の倫理綱領
第5回	倫理と秘密保持について ② 実習先での守秘義務
第6回	倫理と秘密保持について ③ 誓約書について
第7回	コミュニケーションと対人関係 ① 精神病患者との対応方法
第8回	コミュニケーションと対人関係 ② 精神疾患について
第9回	コミュニケーションと対人関係 ③ 面接方法
第10回	コミュニケーションと対人関係 ④ ロールプレイ
第11回	コミュニケーションと対人関係 ⑤ ロールプレイ
第12回	援助者としての自己覚知 ③
第13回	援助者としての自己覚知 ④
第14回	倫理と秘密保持について ④
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は謹んでください。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

① 授業への取り組み(授業への参加状況)30% ② 授業レポート(内容および提出状況含む)40% ③ 定期試験および課題レポート30% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版
日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 /
「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007

■参考書

精神疾患の面接 熊倉伸宏 新興医学出版社 2003 /
実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011 /
実習へのガイドブック(学生用) 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 /
「相談援助演習」 社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習専門	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	記述方法、表現方法、面接技法、自己覚知、他者理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕精神保健福祉士として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕①話す、聴く、書く、観ることを含めた基本的な面接技法を身につけ、実践できるようになる。②対人援助専門職として、自己理解し、自己表現できるようになる。③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間とその家族を理解し、受容できるようになる。④精神保健福祉士として相談、確認、報告ができるようになる。

■授業の概要

精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。また、配属実習の振り返りをとおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、今後の現場での実践に活かせる専門的援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション
第17回	配属実習の振り返り ① 個別事例の検討
第18回	配属実習の振り返り ② 個別事例の検討
第19回	配属実習の振り返り ③ 個別事例の検討
第20回	配属実習の振り返り ④ 個別事例の検討
第21回	配属実習の振り返り ⑤ 個別事例の検討
第22回	配属実習の振り返り ⑥ 個別事例の検討
第23回	配属実習の振り返り ⑦ 個別事例の検討
第24回	実習報告会 ①
第25回	実習報告会 ②
第26回	実習報告会 ③
第27回	実習報告会 ④
第28回	実習報告会 ⑤
第29回	振り返りと今後の課題
第30回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。②授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

①授業への取り組み（授業への参加状況）30% ②授業レポート（内容および提出状況含む）40% ③定期試験および課題レポート 30% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版
日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 /
「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007

■参考書

精神疾患の面接 熊倉伸宏 新興医学出版社 2003 /
実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011 /
実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 /
「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、アイデンティティ、精神障害者の理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。

〔達成目標〕①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え
第2回	精神保健福祉現場実習について 配属施設の決定
第3回	自己紹介表の意義と目的および作成
第4回	実習計画書の作成 ① 実習先施設の情報収集及び概要書作成指導
第5回	実習計画書の作成 ② 作成の意義・目的
第6回	実習計画書の作成 ③ 内容の検討
第7回	実習計画書の作成 ④ 内容の検討
第8回	現場実習に係わる留意事項 ①
第9回	現場実習に係わる留意事項 ②
第10回	現場実習に係わる留意事項 ③
第11回	実習記録・日誌の記述方法 ①
第12回	実習記録・日誌の記述方法 ②
第13回	実習先への事前訪問について
第14回	自らの課題検討
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は謹んでください。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。②授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

①授業への取り組み(授業への参加状況)30% ②授業レポート(内容および提出状況含む)40% ③定期試験および課題レポート30% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習及び「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 実習へのガイドブック(学生用) 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 / 精神疾患の面接 熊倉伸宏 新興医学出版社 2003/ 実習生必携ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、アイデンティティ、精神障害者の理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。

〔達成目標〕①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について	オリエンテーション	配属実習の振り返り	① レポートの作成方法について
第17回	配属実習の振り返り	②	個別事例の検討	
第18回	配属実習の振り返り	③	個別事例の検討	
第19回	配属実習の振り返り	④	個別事例の検討	
第20回	配属実習の振り返り	⑤	個別事例の検討	
第21回	配属実習の振り返り	⑥	個別事例の検討	
第22回	配属実習の振り返り	⑦	個別事例の検討	
第23回	配属実習の振り返り	⑧	個別事例の検討	
第24回	自らの課題検討	実習報告会	①	
第25回	自らの課題検討	実習報告会	②	
第26回	自らの課題検討	実習報告会	③	
第27回	自らの課題検討	実習報告会	④	
第28回	自らの課題検討	実習報告会	⑤	
第29回	振り返りと今後の課題			
第30回	全体のまとめ			

■受講生に関わる情報および受講のルール

①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は謹んでください。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。②授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

①授業への取り組み(授業への参加状況)30% ②授業レポート(内容および提出状況含む)40% ③定期試験および課題レポート30% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習及び「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 実習へのガイドブック(学生用) 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 / 精神疾患の面接法 熊倉伸宏 新興医学出版社 2003/実習生必携ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開I	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開				

■授業の目的・到達目標

精神障害者を中心とした社会福祉サービスと支援活動について理解させる。社会福祉援助活動における専門的技術の体系について理解させる。精神保健福祉と専門技術について理解させる。

■授業の概要

障害に配慮した援助技術を理解するためにグループワークから入る。初めにSST(生活技能練習)を学び次に個別支援に入る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	
第2回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第3回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第4回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第5回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第6回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第7回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第8回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第9回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第10回	ストレス脆弱性モデルとSST	
第11回	シナリオロールプレイ	
第12回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	
第13回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	
第14回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	
第15回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	教科書の事例

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポート(100%)による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 へるす出版

■参考書

1年時使用の「精神保健福祉相談援助の基盤」、常時持参すること。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開I	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開				

■授業の目的・到達目標

精神障害者を中心とした社会福祉サービスと支援活動について理解させる。社会福祉援助活動における専門的技術の体系について理解させる。精神保健福祉士と専門技術について理解させる。

■授業の概要

障害に配慮した援助技術を理解するためにグループワークから入る。初めにSST(生活技能練習)を学び次に個別支援に入る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	支援計画を立てる
第17回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	支援計画を立てる
第18回	地域生活支援援助技術(コミュニティーワーク)	コミュニティーミーティング
第19回	地域生活支援援助技術(コミュニティーワーク)	コミュニティーミーティング
第20回	地域生活支援援助技術(コミュニティーワーク)	コミュニティーミーティング
第21回	地域生活支援援助技術(コミュニティーワーク)	コミュニティーミーティング
第22回	地域生活支援援助技術(コミュニティーワーク)	コミュニティーミーティング
第23回	地域生活支援援助技術(コミュニティーワーク)	コミュニティーミーティング
第24回	地域生活支援援助技術(コミュニティーワーク)	コミュニティーミーティング
第25回	コミュニティーケアからデイケア・家族心理教室プログラム	
第26回	障害者自立支援法による地域生活支援	
第27回	障害者自立支援法による地域生活支援	
第28回	障害者自立支援法による地域生活支援	
第29回	障害者自立支援法による地域生活支援	
第30回	障害者自立支援法による地域生活支援	

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポート(100%)による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

精神保健福祉の専門的な援助技法を精神科リハビリテーションの視点で理解させる。新しい視点に立った相談援助の実際の適用分野を具体的事例を持って理解させる。

■授業の概要

前年の「理論と展開Ⅰ」で学んだ理論、実践方法を前提にさらに具体的事例を持って内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神科リハビリテーションの概念
第2回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士の役割
第3回	精神科リハビリテーションの対象
第4回	精神科リハビリテーションの実施機関（精神科病院、診療所、社会復帰施設等）
第5回	精神科リハビリテーションのプロセス
第6回	ソーシャルワークと精神科リハビリテーション（ストレングス モデル、エンパワーメントアプローチ他）
第7回	「理論と展開」とライフサイクル
第8回	援助技法・作業療法①
第9回	援助技法・作業療法②
第10回	就労支援①
第11回	就労支援②
第12回	集団療法、グループプロセス SST
第13回	認知行動療法、 SST
第14回	認知行動療法、 SST
第15回	心理家族教育プログラム、 SST

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントを、学習面の助言が多い）
内容理解には遠慮なく質問紙、精神保健福祉の特殊性を体感すること。適宜、小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡する。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他放課後 6時過ぎ

■評価方法

3分の2以上の出席、試験レポート（100%）による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開-2（精神保健福祉におけるリハビリテーション） へるす出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

精神保健福祉の専門的な援助技法を精神科リハビリテーションの視点で理解させる。新しい視点に立った相談援助の実際の適用分野を具体的事例を持って理解させる。

■授業の概要

前年の「理論と展開Ⅰ」で学んだ理論、実践方法を前提にさらに具体的事例を持って内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	SST・シナリオロールプレイ
第17回	チームアプローチ・医療チーム・アウトリーチチーム他
第18回	デイケア、ナイトケア、デイ・ナイトケア
第19回	居住支援
第20回	就労支援、IPSと準備性
第21回	障害者雇用促進法と就労支援
第22回	地域を基盤にしたケアマネジメント
第23回	地域生活支援と障害者総合支援法
第24回	セルフヘルプグループ（アノニマス系と障害系）
第25回	無力、ハイヤーパワー
第26回	ピア活動、ピアヘルパーの役割
第27回	リカバリーと精神科リハビリテーション
第28回	コミュニティーワーク訪問支援
第29回	精神保健福祉ボランティア
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントを、学習面の助言が多い）内容理解には遠慮なく質問紙、精神保健福祉の特殊性を体感すること。適宜、小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡する。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他放課後6時過ぎ

■評価方法

3分の2以上の出席、試験レポート（100%）による評価。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開-2（精神保健福祉におけるリハビリテーション） へるす出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	相談援助演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・宮本雅央・ 松永尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理綱領、行動規範、面接技法、記録技法、ケースワーク				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。
- ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等の基本を養う。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。
- ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。
- ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。
- ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループにより実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ソーシャルワークの価値と倫理 倫理綱領
第3回	ソーシャルワークの価値と倫理 行動規範
第4回	ソーシャルワーク実践 面接技法①
第5回	ソーシャルワーク実践 面接技法②
第6回	ソーシャルワーク実践 面接技法③
第7回	ソーシャルワーク実践 面接技法④
第8回	ソーシャルワーク実践 面接技法⑤
第9回	ソーシャルワーク実践 記録技法①
第10回	ソーシャルワーク実践 記録技法②
第11回	ソーシャルワーク実践 記録技法③
第12回	ソーシャルワーク実践 記録技法④
第13回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク
第14回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク
第15回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク 個別支援計画

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1) 履修上の注意

グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2) 学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。

(3) 予備知識や技能

相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかりと行うことが望まれる。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し習得する事

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験またはレポート(40%) 授業への参加態度、提出物(60%)

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法(最新版のもの) 社会福祉用語辞典

科目名	相談援助演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・宮本雅央・ 松永尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	展開過程、ストレングス、エンパワーメント、ソーシャルインクルージョン				

■授業の目的・到達目標

相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。

本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等の基本を養う。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループにより実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク 個別援助計画
第17回	ソーシャルワークの展開過程 グループワーク
第18回	ソーシャルワークの展開過程 グループワーク
第19回	ソーシャルワークの展開過程 グループワーク
第20回	地域を基盤とした相談援助演習
第21回	地域を基盤とした相談援助演習
第22回	地域を基盤とした相談援助演習
第23回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 治療モデル・環境モデル・生活モデル
第24回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について ストレングスモデル
第25回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 心理社会的アプローチ
第26回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 問題解決アプローチ
第27回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 危機介入アプローチ
第28回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 行動変容アプローチ
第29回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について エンパワーメントアプローチ
第30回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 家族システム論

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1) 履修上の注意

グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2) 学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。

(3) 予備知識や技能

相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかりと行うことが望まれる。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し習得する事

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験またはレポート(40%) 授業への参加態度(60%)

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助演習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・宮本雅央・ 松永尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助演習Ⅲ				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。

〔到達目標〕

1. 実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。
2. グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。
3. 実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。
4. 総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。
5. ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。

■授業の概要

- ・グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。
- ・実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	社会問題を基盤とした相談援助について 就労支援
第3回	社会問題を基盤とした相談援助について 就労支援 退院支援
第4回	社会問題を基盤とした相談援助について 就労支援 退院支援
第5回	社会問題を基盤とした相談援助について 虐待
第6回	社会問題を基盤とした相談援助について 虐待 DV
第7回	社会問題を基盤とした相談援助について 虐待 DV
第8回	対象者別にみた相談援助について 低所得者の相談援助
第9回	対象者別にみた相談援助について 低所得者・ホームレスの相談援助
第10回	対象者別にみた相談援助について 低所得者・ホームレスの相談援助
第11回	対象者別にみた相談援助について 高齢者への相談援助
第12回	対象者別にみた相談援助について 高齢者への相談援助
第13回	対象者別にみた相談援助について 障害者への相談援助
第14回	対象者別にみた相談援助について 障害者への相談援助
第15回	対象者別にみた相談援助について 障害者への相談援助

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1) 履修上の注意

本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2) 学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。

(3) 予備知識や技能

上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかりと行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験またはレポート（40％） 演習課題への取り組み及び提出物（60％）

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典

科目名	相談援助演習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・宮本雅央・ 松永尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	展開過程、ストレングス、エンパワーメント、ソーシャルインクルージョン				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。

〔到達目標〕

1. 実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。
2. グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。
3. 実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。
4. 総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。
5. ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。

■授業の概要

- ・グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。
- ・実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	事例研究 成年後見制度と相談援助
第18回	事例研究 成年後見制度と相談援助
第19回	事例研究 成年後見制度と相談援助
第20回	事例研究 苦情解決の対処方法
第21回	事例研究 苦情解決の対処方法
第22回	実習での学びを基に事例検討
第23回	実習での学びを基に事例検討
第24回	実習での学びを基に事例検討
第25回	実習での学びを基に事例検討
第26回	実習での学びを基に事例検討
第27回	実習での学びを基に事例検討
第28回	実習での学びを基に事例検討
第29回	実習での学びを基に事例検討
第30回	演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1) 履修上の注意

本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2) 学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。

(3) 予備知識や技能

上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかり行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験またはレポート(40%) 演習課題への取り組み及び提出物(60%)

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・宮本雅央・ 松永尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ① [相談援助実習指導Ⅰ]を踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。
- ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。
- ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項(姿勢、倫理、技能等)を総合的に修得する。
- ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ① 社会福祉士(ソーシャルワーカー)の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。
- ② 実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。
- ③ 実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。

■授業の概要

前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集(根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等)を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。

後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	前期オリエンテーション(シラバス説明、授業方法と留意事項、実習先の確認)
第2回	実習の意義と目的の理解(事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法)
第3回	実習体験者(先輩)の講話(実習への心構え・事前学習の必要性)
第4回	実習先機関・施設の基本的理解①(設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容)
第5回	実習先機関・施設の基本的理解②(地域の場合、機関・施設の課題)*「実習機関(施設)の概要」の完成
第6回	実習プログラムの理解①(実習委託契約書の理解)
第7回	実習計画書作成の理解①(実習の目的・実習先選定の動機)
第8回	実習計画書作成の理解②(実習の目標・実習課題)
第9回	実習計画書作成の理解③*「実習計画書」の完成、*「実習生紹介票」、「誓約書」
第10回	実習プログラムの理解②(個別支援プログラムの作成)
第11回	事前訪問(事前オリエンテーション)の理解(連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項)
第12回	実習受け入れ体制の理解(実習指導者の講話(全体))
第13回	記録方法の理解①(実習記録)
第14回	実習生に求められる基本姿勢の理解(職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理)
第15回	全体オリエンテーション(学長講話・巡回指導及び帰学日指導等)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ② 提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。
- ③ 欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学(027-253-0294)に連絡を入れること。
- ④ 無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習部会では対応について協議する。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。

■オフィスアワー

各実習担当教員により異なるため、各教員に確認すること。

■評価方法

試験又はレポート(30%)、課題への取り組み(巡回及び帰学日指導状況を含む)(50%)、提出物の提出状況及び内容(20%)を総合して評価する。ただし、相談援助実習資格履修試験に合格しなかった場合および相談援助実習の単位が不認定になった場合は単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学 2012年

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編 社会福祉シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導 弘文堂 2014年/社会福祉小六法、社会福祉用語辞典

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・宮本雅央・ 松永尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ① [相談援助実習指導Ⅰ] を踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。
- ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。
- ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項(姿勢、倫理、技能等)を総合的に修得する。
- ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ① 社会福祉士(ソーシャルワーカー)の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。
- ② 実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。
- ③ 実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。

■授業の概要

前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集(根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等)を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。

後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション(シラバス説明、授業方法と留意事項)
第17回	記録方法の理解②(実習報告書、実習レポート等・礼状作成)
第18回	実習評価の理解(自己評価、実習先評価、実習指導者の講評)
第19回	実習の振り返り①(事前学習*グループ討議と発表)
第20回	実習の振り返り②(自己理解、自己覚知、職業倫理*グループ討議と発表)
第21回	実習の振り返り③(クライアントとの関わり、職員との関わり*グループ討議と発表)
第22回	実習後の個別スーパービジョン①(実習レポート等の作成)
第23回	実習後の個別スーパービジョン②(実習レポート等の作成)
第24回	実習後の個別スーパービジョン③(実習レポート等の作成)
第25回	実習の総括①(※実習レポート等の完成)
第26回	実習の総括②(クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術)
第27回	実習の総括③(クラス内実習報告会)
第28回	実習の総括④(クラス内実習報告会)
第29回	実習の総括⑤(クラス内実習報告会)
第30回	全体実習報告会

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ② 提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。
- ③ 欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学(027-253-0294)に連絡を入れること。
- ④ 無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習部会で対応について協議する。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。

■オフィスアワー

各実習担当教員により異なるため、各教員に確認すること。

■評価方法

試験又はレポート(30%)、課題への取り組み(巡回及び帰学日指導状況を含む)(50%)、提出物の提出状況及び内容(20%)を総合して評価する。ただし、相談援助実習資格履修試験に合格しなかった場合および相談援助実習の単位が不認定になった場合は単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学 2012年

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編 社会福祉シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導 弘文堂 2014年/社会福祉小六法、社会福祉用語辞典

科目名	相談援助の基盤と専門職	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルワーカー、社会福祉士、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論的体系的に理解するとともに、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解し説明することができる。

■授業の概要

社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素や形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。また、地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	第1章 社会福祉士の役割と意義①
第3回	第1章 社会福祉士の役割と意義②
第4回	第1章 社会福祉士の役割と意義③
第5回	第1章 社会福祉士の役割と意義④
第6回	第2章 相談援助の定義と構成要素①
第7回	第2章 相談援助の定義と構成要素②
第8回	第2章 相談援助の定義と構成要素③
第9回	第2章 相談援助の定義と構成要素④
第10回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ①
第11回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ②
第12回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ③
第13回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ①
第14回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ②
第15回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ③、前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎時間、授業ノートを提出することになっている。ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述することを求めている。授業ノートは評価対象である。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめ、提出することになっている。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくことになっている。これらをノートにまとめ提出する。用語調べは評価対象である。

■オフィスアワー

講義初回時に伝える。

■評価方法

定期試験 60%、授業ノート・課題への取り組み 40%

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版、
- ②山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	相談援助の基盤と専門職	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルワーカー、社会福祉士、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論的体系的に理解するとともに、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解し説明することができる。

■授業の概要

社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素や形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。また、地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	第5章 相談援助の理念Ⅰ①
第17回	第5章 相談援助の理念Ⅰ②
第18回	第5章 相談援助の理念Ⅰ③
第19回	第6章 相談援助の理念Ⅱ①
第20回	第6章 相談援助の理念Ⅱ②
第21回	第7章 専門職倫理と倫理的ジレンマ①
第22回	第7章 専門職倫理と倫理的ジレンマ②
第23回	第8章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像①
第24回	第8章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像②
第25回	第9章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論①
第26回	第9章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論②
第27回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲①
第28回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲②
第29回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①
第30回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②、後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎時間、授業ノートを提出することになっている。ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述することを求めている。授業ノートは評価対象である。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめ、提出することになっている。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくことになっている。これらをノートにまとめ提出する。用語調べは評価対象である。

■オフィスアワー

講義初回時に伝える。

■評価方法

定期試験 60%、授業ノート・課題 40%とする。

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版、
- ②山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	相談援助の理論と方法 I	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助 needs 援助関係 人と環境の全体性 展開過程				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 clientは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、clientの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてclientと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、clientその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づき必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

- 1) clientとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。
- 2) 社会福祉士が認識し呼応すべきclientのneedsの種類を述べるができる。
- 3) client-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。
- 4) caseの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べるができる。

■授業の概要

1) 相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2) client-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3) 実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いながら、その各々の目的や意義についてていねいに説明します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 現代社会の諸相と福祉 needs 相談援助活動の定義と構成要素
第2回	client-環境-社会資源-社会福祉士 clientのneedsの種類
第3回	人と環境の相互作用 client-社会福祉士間援助関係の形成過程
第4回	相談援助の構造 援助関係の質と自己覚知
第5回	相談援助の展開過程 1 ケース発見
第6回	相談援助の展開過程 2 受理面接
第7回	相談援助の展開過程 3 問題の把握 needsの確定
第8回	相談援助の展開過程 4 評価 目標設定
第9回	相談援助の展開過程 5 支援計画の立案と実施
第10回	相談援助の展開過程 6 経過観察
第11回	相談援助の展開過程 7 再評価
第12回	相談援助の展開過程 8 支援終結
第13回	相談援助の展開過程 9 支援の効果測定
第14回	個別援助 地域支援 予防的対応 サービス開発
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・needsをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずですが、ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、2015年度の案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(100%)で理解度を評定します。なお、欠席が前期授業回数数の1/3を超えた場合は、評定を受ける資格を失います。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法I 第2版 新・社会福祉士養成講座7 中央法規 2010年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助の理論と方法 I	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	client-社会福祉士関係 経過観察 介入 コミュニケーション 記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 clientは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、clientの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてclientと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、clientその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

- 1) 相談援助活動における outreachの意義と必要性を説明できる。
- 2) client-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。
- 3) 相談援助活動での assessmentと monitoringの着目項を具体的に述べるができる。
- 4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。

■授業の概要

1) 来談対応と対をなす outreachによる clientへの接近について解説を追加し、2) client-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3) 連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	ガイダンス 前期の復習
第17回	地域福祉と outreach
第18回	相談援助活動における契約
第19回	相談援助活動における assessment 1 多面的かつ統合的な問題のとらえ方
第20回	相談援助活動における assessment 2 得べき情報項目 情報理解のための視覚化の手法
第21回	相談援助活動における assessment 3 得た情報の整理と活用
第22回	支援介入 意義・着目点 方法 留意点
第23回	経過観察 (monitoring) 1 対象 方法・手順
第24回	経過観察 (monitoring) 2 状況分析 から re-assessmentへ
第25回	相談援助活動の有効性・効果性の検証・評価 サービス開発
第26回	面接 内在する構造の意識 目的と展開
第27回	記録をする 1 意義と目的 種類
第28回	記録をする 2 記録業務と IT化 倫理的配慮
第29回	交渉 多職種支援チーム連携
第30回	1年間のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などいろいろな背景・needsをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようとして下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずで、ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、2015年度の案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(100%)で理解度を評定します。なお、欠席が後期授業回数の1/3を超えた場合は、評定を受ける資格を失います。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法 I 第2版 新・社会福祉士養成講座 7 中央法規 2010年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	case management 集団力動 coordination 地域福祉 社会資源				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 clientは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、clientの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてclientと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、clientその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

- 1) 相談援助活動の対象を適切に認識することができる。
- 2) 適切なcare planに至るcase managementの過程・各段階を説明できる。
- 3) clientが属する各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べることができる。
- 4) 地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのcoordinationとnetworkingの主旨を説明できる。
- 5) 各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べるができる。

■授業の概要

2 年次Ⅰから引き続き、1) 相談援助の対象を包括的に理解する視点を解説し、2) case managementの過程およびcare plan作成・実践について説明します。さらに、3) 相談援助におけるgroup workの有用性を理解したのち、4) 支援活動における関与・関係者間のcoordinationの重要性や社会資源の活用について言及します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 福祉援助活動の考え方 福祉needsの多様性
第2回	相談援助の対象 個人・家族・集団・地域
第3回	case management 1 目的 構成要素
第4回	case management 2 実践過程概要
第5回	case management 3 assessmentとcare plan
第6回	相談援助活動における集団の活用 clientにとっての集団経験
第7回	各集団の特性
第8回	group workの展開過程
第9回	地域福祉関係者間のcoordination(連携・協働) 専門職と地域住民
第10回	地域福祉実践とnetworking
第11回	地域ケアシステム
第12回	社会資源 1 定義と目的
第13回	社会資源 2 活用と調整
第14回	社会資源 3 開発 social action
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・needsをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようとして下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずですが、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、2015年度の案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(100%)で理解度を評定します。なお、欠席が前期授業回数の1/3を超えた場合は、評定を受ける資格を失います。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法Ⅱ 第2版 新・社会福祉士養成講座8 中央法規 2010年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実践モデル・アプローチ supervision case conference 個人情報 事例研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業目的〕 clientは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、clientの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてclientと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、clientその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

- 1) 相談援助活動の基盤となる各種実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べるができる。
- 2) supervisionの意義について説明できる。
- 3) case conference開催の意義と参加する際の望ましい姿勢について延べるができる。
- 4) 個人情報の利用と管理について説明できる。

■授業の概要

- 1) 相談援助活動の基本的な考え方の変遷をたどり、現代的にふまえるべき実践モデル・アプローチの主旨を理解します。
- 2) 社会福祉士としての成長に欠かせないsupervisionのあり方を解説します。
- 3) case conferenceを開催する意義と支援チーム連携について学びます。
- 4) 相談援助活動に不可欠な個人情報の保護と活用について理解を深めます。
- 5) I・IIの総括として、clientを支援し、caseとしての関わりの過程から、社会福祉士が学ぶ意味について考えます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	ガイダンス 前期の復習
第17回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 1 治療モデル 生活モデル ストレングスモデル
第18回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 2 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ
第19回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 3 課題中心アプローチ 危機介入アプローチ 行動変容アプローチ
第20回	相談援助活動に基盤としての実践モデル 4 empowerment approach narrative approach その他のアプローチ
第21回	supervision supervisor supervisee supervisory process consultation-liaison
第22回	supervisionの機能・目的・実施形態 supervision関係
第23回	case conference 1 目的・実施形態 clientの現状のsurveillance case study/case reportとしての共有・教育的効果
第24回	case conference 2 構成員と役割 展開過程・運営
第25回	case conference 3 conference例の読み解き conferenceの評価と普遍化
第26回	相談援助活動にともなう個人情報の保護
第27回	福祉情報 ICT
第28回	事例研究 事例分析
第29回	相談援助の実際 事例の読み解き
第30回	1年間のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・needsをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、2015年度の案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(100%)で理解度を評定します。なお、欠席が前期授業回数の1/3を超えた場合は、評定を受ける資格を失います。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法Ⅱ 第2版 新・社会福祉士養成講座8 中央法規 2010年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	乳児保育	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	乳児保育 3歳未満児 発達 健康と安全 保育所保育指針				

■授業の目的・到達目標

保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育(3歳未満児の保育)の知識を獲得することを目指します。乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを目標とします。

■授業の概要

乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 「乳児」とは?グループワーク
第2回	「乳児保育」について
第3回	乳児と保育園の一日① 乳児の発達について
第4回	おおむね6か月未満の保育について①
第5回	おおむね6か月未満の保育について②
第6回	おおむね6か月～1歳3か月の保育について①
第7回	おおむね6か月～1歳3か月の保育について②
第8回	おおむね1歳3か月～2歳未満の保育について①
第9回	おおむね1歳3か月～2歳未満の保育について②
第10回	おおむね1歳3か月～2歳未満の保育について③
第11回	おおむね2歳の保育について①
第12回	おおむね2歳の保育について②
第13回	おおむね2歳の保育について③
第14回	乳児と保育園の一日② 現役保育士による講話
第15回	乳児保育の環境について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

講義内でのレポート・小テスト(30%) 提出物(10%) 定期試験(60%)

■教科書

「やさしい 乳児保育」 早川悦子 池田りな 伊藤輝子 編著 青踏社

■参考書

「保育所保育指針」

科目名	乳児保育	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	乳児保育 3歳未満児 発達 健康と安全 保育所保育指針				

■授業の目的・到達目標

保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育（3歳未満児の保育）の知識を獲得することを目指します。乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを目標とします。

■授業の概要

乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	家庭における子育てについて①
第17回	家庭における子育てについて②
第18回	家庭における子育てについて③
第19回	グループワーク ～子育て支援について～
第20回	保育所における育児支援について①
第21回	保育所における育児支援について②
第22回	乳児保育の計画について①
第23回	乳児保育の計画について②
第24回	乳児保育における保健活動について①
第25回	乳児保育における保健活動について②
第26回	乳児保育と連携について①
第27回	乳児保育と連携について②
第28回	乳児保育の未来について①
第29回	乳児保育の未来について②
第30回	後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

講義内でのレポート・小テスト（30%）提出物（10%）定期試験（60%）

■教科書

「やさしい 乳児保育」 早川悦子 池田りな 伊藤輝子 編著 青踏社

■参考書

「保育所保育指針」

科目名	発達心理学 a	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生涯発達、発達段階、発達課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

この授業では、獲得や喪失を含めて生涯の中で起こる変化を発達と考える。発達現象を生涯発達という視点を持ってみると「発達では何が重要なテーマかを考える」「社会とともに生きている人間を考える」「新しい概念、枠組みに気づく」という3点に注目することが求められる。これらを考察し理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①人の発達の過程を理解できる。
- ②人の発達の過程を踏まえたうえで、各発達段階における人の心理的特性を理解できる。

■授業の概要

子どもが大人へと成長する発達の過程を理解し、出生時から幼児期までの子どもを対象に、子どもの心理的特性とその発達の過程をさまざまな角度から学習する。また、現代の高齢社会を鑑み成人期以降の発達についても学習を進める。この授業では人間の発達や行動の変化を乳幼児期から老年期までを、トピックスを踏まえながら考察していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション—生涯発達心理学とは
第2回	生命の誕生
第3回	人間の潜在能力
第4回	発達を規定する要因
第5回	発達の原理・発達心理学の研究手法
第6回	発達段階の区分・発達課題
第7回	乳児期の発達①身体機能の発達
第8回	乳児期の発達②認知的発達
第9回	愛着について
第10回	幼児期の発達①身体機能の発達
第11回	幼児期の発達②認知発達・ピアジェの理論
第12回	幼児期の発達③社会性の発達
第13回	児童期の発達①身体機能の発達
第14回	児童期の発達②社会的側面・認知的側面から見た発達
第15回	前期総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「心理学理論と心理的支援」および、「福祉心理学」を受講中、もしくは受講済みであることが望ましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中に入れておくこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)、出席状況、受講態度等(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

高橋一公・中川佳子編著 『生涯発達心理学 15講』 北大路書房 2014年

■参考書

松原達哉編 『発達心理学 健やかで幸せな発達をめざして』 丸善出版 2015年

科目名	発達心理学 a	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生涯発達、発達段階、発達課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

この授業では、獲得や喪失を含めて生涯の中で起こる変化を発達と考える。発達現象を生涯発達という視点を持つてみると「発達では何が重要なテーマかを考える」「社会とともに生きている人間を考える」「新しい概念、枠組みに気づく」という3点に注目することが求められる。これらを考察し理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①人の発達の過程を理解できる。
- ②人の発達の過程を踏まえたうえで、各発達段階における人の心理的特性を理解できる。

■授業の概要

子どもが大人へと成長する発達の過程を理解し、出生時から幼児期までの子どもを対象に、子どもの心理的特性とその発達の過程をさまざまな角度から学習する。また、現代の高齢社会を鑑み成人期以降の発達についても学習を進める。この授業では人間の発達や行動の変化を乳幼児期から老年期までを、トピックスを踏まえながら考察していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	思春期の発達①身体的特徴
第17回	思春期の発達②心理的特徴、生じやすい問題
第18回	青年期(成人初期)の発達①アイデンティティ
第19回	青年期(成人初期)の発達②キャリア発達
第20回	青年期・成人期の発達①恋愛・結婚における心理学的意義
第21回	青年期・成人期の発達②親になること
第22回	青年期・成人期の発達③親子関係の発達
第23回	青年期・成人期の発達④父親の役割
第24回	青年期・成人期の発達⑤さまざまな家族の問題について
第25回	中年期の発達①心理的危機を考える
第26回	中年期の発達②社会的側面と身体的側面
第27回	高齢期の発達①身体的側面
第28回	高齢期の発達②認知的側面
第29回	高齢期の発達③高齢者を理解するために
第30回	後期総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「心理学理論と心理的支援」および、「福祉心理学」を受講中、もしくは受講済みであることが望ましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中に入れておくこと。各自の諸事情により、机に出す必要がある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)、出席状況、受講態度等(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

高橋一公・中川佳子編著 『生涯発達心理学 15講』 北大路書房 2014年

■参考書

松原達哉編 『発達心理学 健やかで幸せな発達をめざして』 丸善出版 2015年

科目名	福祉科教育法	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術				

■授業の目的・到達目標

高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。

■授業の概要

「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解すると同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義・役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう(プロフィール票の作成・提出)
第2回	障害者と自立・ビデオ視聴(感想文を提出)
第3回	対人援助技術の原則(コミュニケーション技術)
第4回	コミュニケーションスキルを磨く・演習とビデオ視聴(コミュニケーション技術)
第5回	伝達について(コミュニケーション技術)
第6回	信頼関係を結ぶ面接技術とは
第7回	コンセンサス(合意)について(コミュニケーション技術)
第8回	家族について
第9回	社会福祉制度(身近な問題から)①
第10回	社会福祉制度(身近な問題から)②
第11回	正しい敬語の使い方
第12回	学習指導要領(福祉)
第13回	学習指導要領(福祉)
第14回	学習指導要領(課外活動)
第15回	学習指導要領(道徳教育)

■受講生に関わる情報および受講のルール

「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解すると同じような考え方が根底になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習・介護技術等の科目も併せて履修すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。
模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を提出すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート(50%)と学習指導案(50%)により評価する。

■教科書

社会福祉基礎(実教出版)後期開始時まで、群馬県教科書特約供給所にて各自で購入すること(詳しくは授業中に説明する)。

■参考書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版

科目名	福祉科教育法	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術				

■授業の目的・到達目標

高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。

■授業の概要

「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解すると同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義・役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	模擬授業について①指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数・内容等は受講者数によって変更があります）
第17回	模擬授業について②指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数・内容等は受講者数によって変更があります）
第18回	模擬授業① 社会福祉と日本国憲法
第19回	模擬授業② 現代の福祉理念
第20回	模擬授業③ 社会福祉をささえる諸原理
第21回	模擬授業④ 近代社会福祉の誕生・社会福祉の先覚者
第22回	模擬授業⑤ 地域福祉の先駆け
第23回	模擬授業⑥ 社会事業への着手
第24回	模擬授業⑦ 障害と障害者
第25回	模擬授業⑧ 障害の予防とリハビリテーション
第26回	模擬授業⑨ 障害者の自立支援
第27回	模擬授業⑩ 障害者の生活支援
第28回	模擬授業⑪ 障害者の施設福祉
第29回	模擬授業⑫ 障害者福祉の課題
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解すると同じような考え方が根底になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習・介護技術等の科目も併せて履修すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。
模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を提出すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート（50%）と学習指導案（50%）により評価する。

■教科書

社会福祉基礎（実教出版）後期開始時まで、群馬県教科書特約供給所にて各自で購入すること（詳しくは授業中に説明する）。

■参考書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版

科目名	福祉サービスの組織と経営	担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	社会福祉施設経営論				

■授業の目的・到達目標

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学、経営理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識を修得する。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えて基礎理解のため図・表等を板書する。また、随時補助資料のプリントを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。

初心者でも理解できるような講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション（社会福祉事業・社会福祉施設）
第2回	社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革
第3回	企業経営・経営理念
第4回	経営理論（伝統的管理論）
第5回	経営理論（人間関係論）
第6回	企業形態と株式会社
第7回	福祉サービスにおける組織・経営
第8回	法人とは
第9回	社会福祉法人
第10回	特定非営利活動法人
第11回	戦略
第12回	事業計画
第13回	組織論
第14回	管理運営の基礎理論
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

経営学や簿記会計学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。試験は「ノート持ち込み可」とするので講義内容をノートに良く整理すること。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施し、理解を深める。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、関連図書、インターネット等により授業に関わる項目については自主的に自ら調べ勉強すること。

■オフィスアワー

コメントカードの質問に次回返答する。

■評価方法

中間・期末試験（100%）を実施し、平均点で評価する。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	福祉サービスの組織と経営	担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉施設経営論				

■授業の目的・到達目標

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学、経営理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識を修得する。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えて基礎理解のため図・表等を板書する。また、随時補助資料のプリントを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。

初心者でも理解できるような講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	リーダーシップ
第17回	サービスマネジメント
第18回	サービスの質の評価
第19回	苦情対応とリスクマネジメント
第20回	人事・労務管理(1)
第21回	人事・労務管理(2)
第22回	労働法規
第23回	労働基準法(1)
第24回	労働基準法(2)
第25回	人材育成
第26回	会計管理・財務管理(1)
第27回	会計管理・財務管理(2)
第28回	社会福祉施設の建物・設備管理
第29回	情報管理
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

経営学や簿記会計学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。試験は「ノート持ち込み可」とするので講義内容をノートに良く整理すること。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施し、理解を深める。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、関連図書、インターネット等により授業に関わる項目については自主的に自ら調べ勉強すること。

■オフィスアワー

コメントカードの質問に次回返答する。

■評価方法

中間・期末試験(100%)を実施し、平均点で評価する。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育実習指導 I (施設)	担当教員 (単位認定者)	保育士課程教員	単位数 (時間数)	1 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の意義と目的、事前学習の重要性、実習施設の理解、実習書類の記載方法、実習の心構え				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

実習の意義・目的を理解し、実習が円滑かつ効果的に行われるように必要な知識と技術を身につける。

[到達目標]

- ①実習の意義と目的を理解する。
- ②実習施設の法的根拠、設置目的、業務内容、配置職員、子ども(利用者)の状況、1日の流れ等を理解する。
- ③施設の子ども(利用者)への支援の方法について理解する。
- ④実習目標・達成課題を理解するとともに、実習日誌等の実習関連書類の記載の意味について理解する。

■授業の概要

前期では、実習の意義・目的や実習の流れを理解するとともに、実習対象施設の法的根拠、設置目的、業務内容等を学ぶ。また、各学生の実習先を決定する。さらに、学生自身による実習施設へのボランティア活動や施設見学により、実習施設の運営状況、子ども(利用者)への保育(支援)の状況を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目(前期) オリエンテーション
第2回	実習の意義と目的
第3回	実習スケジュール
第4回	実習施設の理解と実習内容(1)(乳児院・児童養護施設)
第5回	実習施設の理解と実習内容(2)(福祉型障害児入所施設)
第6回	実習施設の理解と実習内容(3)(児童発達支援センター)
第7回	実習施設の理解と実習内容(4)(医療型障害児入所施設)
第8回	実習施設の理解と実習内容(5)(障害者支援施設・指定障害者福祉サービス事業所等)
第9回	実習施設の理解と実習内容(6)(児童相談所ならびに一時保護施設)
第10回	実習施設の選定方法と決定
第11回	実習施設への提出書類の作成指導(実習生紹介票・誓約書)
第12回	実習施設概要書の作成(1)
第13回	実習施設概要書の作成(2)
第14回	事前学習指導(前年度実習生の講話)
第15回	夏期休暇中の事前学習指導(実習施設でのボランティア活動・見学等)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

実習に係る書類や授業内で配布したプリント等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。また、関係書類の提出期限は厳守すること。予習・復習を行うこと。社会福祉施設の現状について常に留意し、実習にて実践したい支援や活動について考え、工夫すること。

[受講のルール]

実習は日頃の規則正しい学生生活を送ることにより効果的かつ適切に行われるものである。従って、当科目以外の科目の出席状況、身だしなみ及び礼儀作法において、実習を行うものとして相応しくないと認められた場合は、実習の意義や目的を理解していないものと判断し、実習が中止されることがあるので留意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習施設は各々の学生により異なります。それぞれの種別の施設の社会的な役割や機能についても深く勉強すること。特に自分が行う実習施設の概要や支援内容等については情報を収集し身につけておくこと。また、保育実技については、いつでも子ども(利用者)の前で実践できるよう、各学生独自の良点を活かした表現方法や技術を高めておくこと。教科書の内容を良く確認してから受講すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業内での提出物の提出状況・内容・発表・授業への取り組み姿勢(30%)、定期試験(70%)

■教科書

- ①群馬医療福祉大学 発行:実習へのガイドブック.群馬医療福祉大学.2012
- ②石橋裕子・林幸範編著:新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド.同文書院.2013

■参考書

社会福祉小六法

科目名	保育実習指導 I (施設)	担当教員 (単位認定者)	保育士課程教員	単位数 (時間数)	1 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の意義と目的、事前学習の重要性、実習施設の理解、実習書類の記載方法、実習の心構え				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

実習の意義・目的を理解し、実習が円滑かつ効果的に行われるように必要な知識と技術を身につける。

[到達目標]

- ①実習の意義と目的を理解する。
- ②実習施設の法的根拠、設置目的、業務内容、配置職員、子ども(利用者)の状況、1日の流れ等を理解する。
- ③施設の子ども(利用者)への支援の方法について理解する。
- ④実習目標・達成課題を理解するとともに、実習日誌等の実習関連書類の記載の意味について理解する。

■授業の概要

後期では、実習施設の概要や子ども(利用者)への支援等の内容を理解したうえで、実習計画書を作成する。また、実習中若しくは実習後に作成する実習日誌や実習報告書等の記載内容について学習する。さらに、実習施設でのオリエンテーションの対応方法や実習に当たっての心構え等を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目(後期) オリエンテーション
第17回	夏期休暇中の事前学習(実習施設でのボランティア活動・見学等) 内容のまとめと振り返り
第18回	夏期休暇中の事前学習実施状況報告書の作成
第19回	実習日誌の記載指導・作成(1)
第20回	実習日誌の記載指導・作成(2)
第21回	実習計画書の作成(1)
第22回	実習計画書の作成(2)
第23回	介護技術の基本(1)
第24回	介護技術の基本(2)
第25回	介護技術の基本(3)
第26回	職業倫理・守秘義務等について、実習記録の作成指導(実習報告書・実習のまとめ等)
第27回	実習直前指導(1)(実習先オリエンテーションの対応・腸内検査について)
第28回	実習直前指導(2)(前年度実習生の講話)
第29回	実習直前指導(3)(学長講話)
第30回	実習にむけてのまとめ、実習終了後の対応や留意点について

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

実習に係る書類や授業内で配布したプリント等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。また、関係書類の提出期限は厳守すること。予習・復習を行うこと。社会福祉施設の現状について常に留意し、実習にて実践したい支援や活動について考え、工夫すること。

[受講のルール]

実習は日頃の規則正しい学生生活を送ることにより効果的かつ適切に行われるものである。従って、当科目以外の科目の出席状況、身だしなみ及び礼儀作法において、実習を行うものとして相応しくないと認められた場合は、実習の意義や目的を理解していないものと判断し、実習が中止されることがあるので留意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習施設は各々の学生により異なります。それぞれの種別の施設の社会的な役割や機能についても深く勉強すること。特に自分が行う実習施設の概要や支援内容等については情報を収集し身につけておくこと。また、保育実技については、いつでも子ども(利用者)の前で実践できるよう、各学生独自の良点を活かした表現方法や技術を高めておくこと。教科書の内容を良く確認してから受講すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業内での提出物の提出状況・内容・発表・授業への取り組み姿勢(30%)、定期試験(70%)

■教科書

- ①群馬医療福祉大学 発行:実習へのガイドブック. 群馬医療福祉大学. 2012
- ②石橋裕子・林幸範編著:新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド. 同文書院. 2013

■参考書

社会福祉小六法

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	1 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育士 観察実習 部分実習 実習記録 指導案 保育実技				

■授業の目的・到達目標

保育実習Ⅰ（保育所）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育実習の流れ、依頼の仕方
第3回	保育実習の具体的内容と実習計画
第4回	実習施設の理解①実習園を知る
第5回	実習施設の理解②デイリープログラム
第6回	保育実技①集団遊び・リズム体操
第7回	保育実技②新聞紙遊び等
第8回	観察実習のポイント
第9回	実習課題の明確化
第10回	個人調書と自己紹介
第11回	実習の心構えと理解①守秘義務・個人情報等
第12回	実習の心構えと理解②実習生としての心構え
第13回	保育実技③読み聞かせについて
第14回	保育実技④紙芝居について
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

提出物（50％）授業内レポート（30％）小テスト（20％）の総合評価

■教科書

「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに

■参考書

「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」 石橋裕子 林 幸範 同文書院
「実習へのガイドブック」 群馬医療福祉大学

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	1 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育士 観察実習 部分実習 実習記録 指導案 保育実技				

■授業の目的・到達目標

保育実習Ⅰ（保育所）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期オリエンテーション
第17回	保育実技⑤（視覚的教材等）
第18回	部分・責任実習について
第19回	実習記録について①
第20回	実習記録について②
第21回	部分実習のポイント
第22回	部分実習のポイント 指導案について①
第23回	部分実習のポイント 指導案について②
第24回	服装と身だしなみ・持ち物・実習園が実習生に期待すること
第25回	オリエンテーションについて、実習関係書類について
第26回	保育実習Ⅰ（保育所）先輩の体験談
第27回	実習記録・部分実習について①
第28回	実習記録・部分実習について②
第29回	実習直前指導
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

提出物（50%）授業内レポート（30%）小テスト（20%）の総合評価

■教科書

「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに

■参考書

「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」 石橋裕子 林 幸範 同文書院
「実習へのガイドブック」 群馬医療福祉大学

科目名	保育の表現技術I（音楽）	担当教員 （単位認定者）	落合紀絵・田中輝幸・ 佃朋子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育や幼児教育の現場において求められている表現活動について理解し、すみやかに実践できるよう、知識や技術を習得する。音楽・楽譜に対する基礎知識やピアノ演奏についての基本技術を身につける。

〔到達目標〕

保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できるようになること。ピアノ演奏について、基本技術（楽譜の読み方や演奏法等）を学び、楽譜の内容を音楽として自力で表現できるようになること。ピアノ技術・能力は向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

（音楽）では、楽典の基本的な知識を身につけ、楽譜の理解を深める。また、手遊び等の保育実技を身につける。（ピアノ）では、6名前後のグループに分かれ、音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンを行い、各自の演奏技能を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	（音楽）科目（前期）オリエンテーション	（ピアノ）科目（前期）オリエンテーション
第2回	（音楽）楽譜について、手遊び（1）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（1）
第3回	（音楽）音名について、手遊び（2）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（2）
第4回	（音楽）ピアノ演奏法（1）演奏姿勢、指の使い方について	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（3）
第5回	（音楽）音符と休符について、手遊び（3）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（4）
第6回	（音楽）ピアノ演奏法（2）リズムの表現方法について	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（5）
第7回	（音楽）リズムと拍子について、手遊び（4）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（6）
第8回	（音楽）ピアノ演奏法（3）ペダルの使用方法について	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（7）
第9回	（音楽）音程（1）、手遊び（5）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（8）
第10回	（音楽）音程（2）、リズム遊び（1）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（9）
第11回	（音楽）音程（3）リズム遊び（2）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（10）
第12回	（音楽）ピアノ演奏法（4）暗譜について、制作（1）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（11）
第13回	（音楽）長音階（1）、制作（2）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（12）
第14回	（音楽）長音階（2）、制作（3）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（13）
第15回	（音楽）授業内試験、前期のまとめ	（ピアノ）前期実技試験について、前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。（ピアノ）では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

（音楽）50%、（ピアノ）50%。

■教科書

①新・幼児の音楽教育、朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200、チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200、チャイルド本社、2011 ④『フルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社（発行）、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社（発行）、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社（発行）を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術I（音楽）	担当教員 （単位認定者）	落合紀絵・田中輝幸・ 佃朋子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育や幼児教育の現場において求められている表現活動について理解し、すみやかに実践できるよう、知識や技術を習得する。音楽・楽譜に対する基礎知識やピアノ演奏についての基本技術を身につける。

〔到達目標〕

保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できるようになること。ピアノ演奏について、基本技術（楽譜の読み方や演奏法等）を学び、楽譜の内容を音楽として自力で表現できるようになること。ピアノ技術・能力は向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

（音楽）では、楽典の基本的な知識を身につけ、楽譜の理解を深める。また、手遊び等の保育実技を身につける。（ピアノ）では、6名前後のグループに分かれ、音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンをを行い、各自の演奏技能を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	（音楽）科目（後期）オリエンテーション	（ピアノ）科目（後期）オリエンテーション
第17回	（音楽）短音階（1）、手遊び（6）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（14）
第18回	（音楽）短音階（2）、手遊び（7）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（15）
第19回	（音楽）近親調・遠隔調について（1）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（16）
第20回	（音楽）近親調・遠隔調について（2）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（17）
第21回	（音楽）楽語・記号・略語について	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（18）
第22回	（音楽）パフォーマンスについて（1）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（19）
第23回	（音楽）パフォーマンスについて（2）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（20）
第24回	（音楽）パフォーマンスについて（3）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（21）
第25回	（音楽）パフォーマンスについて（4）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（22）
第26回	（音楽）パフォーマンスの発表（1）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（23）
第27回	（音楽）パフォーマンスの発表（2）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（24）
第28回	（音楽）パフォーマンスの発表（3）	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（25）
第29回	（音楽）楽典の振り返りと授業内試験	（ピアノ）学生それぞれの進度に応じたレッスン（26）
第30回	（音楽）後期のまとめ	（ピアノ）後期実技試験について、後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。（ピアノ）では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

（音楽）50%、（ピアノ）50%。

■教科書

①新・幼児の音楽教育、朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200、チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200、チャイルド本社、2011 ④『フルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社（発行）、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社（発行）、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社（発行）を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術I (図画工作①)	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	幼稚園教育要領 造形表現 スクラッチ 表出と表現 錯画期 象徴期 前図式期 図式期 擬実期				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

幼児の造形表現の概念、目的、内容、支援に関する基本的姿勢について学び、また、実技制作を通して自己の造形表現の能力を高めるとともに幼児への指導方法を習得する。

[到達目標]

- ①造形表現の概念、目的、内容、指導方法が理解できる。
- ②描画における子どもの発達段階、表現の傾向・類型、支援方法について理解できる。
- ③子どもの発達、実態に応じて、それに適した様々な造形遊びの活動を創造的に考えることができ、場に応じて臨機応変に指導する手だてが理解できる。
- ④子どもの絵の表現から敏感に感じ取り、子どもの自由な意欲を尊重した描画指導の方法が理解できる。

■授業の概要

幼児の造形表現について基本的な考え方、幼稚園教育要領解説、子どもの描画の発達段階、子どもの絵の見方、育て方、色彩の基礎理論等について学ぶ。また、実技製作ではスクラッチ「ピーマンの構成」や紙工作「お伽噺の世界」に取り組み、自己の表現技術を高めたり、幼児への指導方法を身に付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	幼児の造形表現の捉え方、ねらい、内容
第3回	子どもの造形遊びから「スクラッチ」の製作と指導方法
第4回	子どもの造形遊びから「スクラッチ」の製作と指導方法
第5回	子どもの造形遊びから「スクラッチ」の制作と指導方法
第6回	子どもの描画の発達段階(錯画期、象徴期、前図式期)
第7回	子どもの描画の発達段階(図式期、擬実期)
第8回	子どもの描画表現にあらわれる類型
第9回	子どもの描画表現にあらわれる傾向と問題点
第10回	紙工作の製作と指導方法
第11回	紙工作の製作と指導方法
第12回	紙工作の製作と指導方法
第13回	紙工作の製作と指導方法
第14回	色彩の基礎理論
第15回	子どもの絵の見方育て方

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・実技製作の日は、衣服を汚す心配があるので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を準備しておくこと。

[受講のルール]

- ・授業終了後簡易清掃を当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生に迷惑になるような行為は慎むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(50%)、実技製作作品(40%)、授業態度(10%)
保育の表現技術I(図画工作)は①と②で2単位

■教科書

「図画工作」長谷喜久一(著)建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術I (図画工作②)	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育の表現技術I (図画工作)				

■授業の目的・到達目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくりだす喜びを味う。造形的な創造活動の能力を培い豊かな情操を養う。

目標①美しいものや優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。②発想や構想の能力を高める。③日常での着実な研究心と探究心を培う。④日々の生活の中で何かを表す意識をもったときそれが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスのとれた指導計画等を学ぶ。又版画の歴史、流れを学び版画の種類、(ドライポイント・エッチング)等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 図画工作を考える
第2回	発想 表現 鑑賞について 描き 作ることの意味
第3回	美術の概念
第4回	新しい造形と教育
第5回	版画の歴史について考える
第6回	版画の種類について学ぶ ①
第7回	版画の種類について学ぶ ②
第8回	基本技法について ①
第9回	基本技法について ②
第10回	製版の準備 ①
第11回	製版の準備 ②
第12回	製版の実践 刷り ①
第13回	製版の実践 刷り ②
第14回	製版の実践 刷り ③
第15回	製版の実践 刷り ④

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し積極的に授業にとりくむこと。時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。工作室等できめられた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題作品 70% (作品の構成 (バランス・プロポーション・コントラスト) 等で評価します)、試験 (レポート) 30% 等の総合評価で行う。

保育の表現技術I (図画工作) は①と②で2単位。

■教科書

長谷喜久一 (著) 図画工作 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	担当教員 （単位認定者）	宗 幸子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	造形表現 造形材料 表現と表出 造形表現指導案 模擬保育 ポップアップカード 紙レリーフ デカルコマニー マーブリング				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育実践に必要な造形表現にかかわる知識と技能を修得し、幼児が楽しめるような造形表現活動を構想し実践できる力を身に付ける。

〔到達目標〕

- ① 幼児との造形活動に関する基礎的な知識が理解できる。
- ② 様々な実技製作を通して学生自身の表現力を高めるとともに幼児への指導方法が理解できる。
- ③ 造形表現の指導計画を立案し、模擬保育の実践を通して子どもへの指導能力を身に付ける。

■授業の概要

1年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ(図画工作)」の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を身に付ける内容となっている。年間指導計画、造形表現指導案の作り方、子どもの絵の見方・育て方を学ぶ。模擬保育を行うことにより、子どもへの指導の実践力を伸ばす。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	幼児期と表現の教育
第3回	領域「表現」のねらいと内容
第4回	紙素材「しかけのあるカード作り」
第5回	紙素材「しかけのあるカード作り」
第6回	紙素材「しかけのあるカード作り」
第7回	紙素材「しかけのあるカード作り」
第8回	造形表現の指導計画・方法・留意点
第9回	子どもの感性と表現①「幼児の絵の見方、育て方」
第10回	造形表現で保育環境を豊かに（壁面装飾の方法）
第11回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第12回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第13回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第14回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第15回	子どもが参加する壁面共同製作

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。
- ・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（50%）、実技製作作品（40%）、出席・授業態度（10%）

■教科書

「保育内容 造形表現の指導（第3版）」村内哲二編者 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	担当教員 （単位認定者）	宗 幸子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	造形表現 造形材料 表現と表出 造形表現指導案 模擬保育 ポップアップカード 紙レリーフ デカルコマニー マーブリング				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育実践に必要な造形表現にかかわる知識と技能を修得し、幼児が楽しめるような造形表現活動を構想し実践できる力を身に付ける。

〔到達目標〕

- ① 幼児との造形活動に関する基礎的な知識が理解できる。
- ② 様々な実技製作を通して学生自身の表現力を高めるとともに幼児への指導方法が理解できる。
- ③ 造形表現の指導計画を立案し、模擬保育の実践を通し子どもへの指導能力が身に付く。

■授業の概要

1年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ(図画工作)」の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を身に付ける内容となっている。年間指導計画、造形表現指導案の作り方、子どもの絵の見方・育て方を学ぶ。また、模擬保育を行うことにより、子どもへの指導の実践力を伸ばす。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第17回	指導の計画・方法・留意点
第18回	造形表現指導案作成
第19回	自然物を使って作る「松ぼっくりのクリスマスツリー」
第20回	模擬保育①「マーブリング」
第21回	模擬保育②「ドリッピング」
第22回	模擬保育③「デカルコマニー」
第23回	模擬保育④「スパッタリング」
第24回	模擬保育⑤「紙で作る動物たち」
第25回	模擬保育のまとめ
第26回	造形遊びの指導のあり方「ランチョンマット」
第27回	造形遊びの指導のあり方「折り染め」
第28回	材料・用具の種類と扱い方
第29回	子どもの感性と表現②「子どもの絵の見方育て方」
第30回	望ましい指導のあり方

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。
- ・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（50%）、実技製作作品（40%）、出席・授業態度（10%）

■教科書

「保育内容 造形表現の指導（第3版）」村内哲二編者 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	担当教員 (単位認定者)	落合紀絵・田中輝幸 奈良紀子・峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱、合奏、総合的なパフォーマンス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅰ(音楽)にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められている表現活動についてより深く理解し、すみやかに実践できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基本技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現指導技術を身につける。

〔到達目標〕

弾き歌いについて、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画的表現と合わせて総合的にとらえ、発表や指導ができるようになること。こどもの発達に即したパフォーマンスができるようになること。ピアノ技術・能力はより効果的に向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

(ピアノ)では、6名前後のグループに分かれ、学生それぞれの進度に応じてレッスンする。また、弾き歌いについて、基本的なピアノ伴奏法や歌唱法を授業する。(講義)では、総合的な表現の発表や指導ができるよう、こどもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入、手遊び等について学ぶ。又、グループ内において、個別に指導し、各自のパフォーマンス技能を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	(音楽)科目(前期)オリエンテーション	(ピアノ)科目(前期)オリエンテーション
第2回	(音楽)コードについて(1)、リズム遊び(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(1)
第3回	(音楽)コードについて(2)、リズム遊び(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(2)
第4回	(音楽)弾き歌いーピアノ伴奏法ーについて(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(3)
第5回	(音楽)弾き歌いーピアノ伴奏法ーについて(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(4)
第6回	(音楽)パフォーマンス・合奏について(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(5)
第7回	(音楽)パフォーマンス・合奏について(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(6)
第8回	(音楽)弾き歌いー歌唱法ーについて(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(7)
第9回	(音楽)弾き歌いー歌唱法ーについて(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(8)
第10回	(音楽)弾き歌いーピアノと歌のバランスーについて	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(9)
第11回	(音楽)パフォーマンスと合奏の発表(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(10)
第12回	(音楽)パフォーマンスと合奏の発表(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(11)
第13回	(音楽)パフォーマンスと合奏の発表(3)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(12)
第14回	(音楽)楽典の振り返りと授業内試験	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(13)
第15回	(音楽)前期のまとめ	(ピアノ)前期実技試験について、前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。(ピアノ)では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のために毎日計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について常に考え、一人ひとりのこどもに興味関心を持ち、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

(音楽)50%、(ピアノ)50%。

■教科書

①新・幼児の音楽教育 朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ④『ブルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社(発行)、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社(発行)、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社(発行)を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	担当教員 (単位認定者)	落合紀絵・田中輝幸 奈良紀子・峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱、合奏、総合的なパフォーマンス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅰ(音楽)にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められている表現活動についてより深く理解し、すみやかに実践できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基本技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現指導技術を身につける。

〔到達目標〕

弾き歌いについて、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画的表現と合わせて総合的にとらえ、発表や指導ができるようになること。こどもの発達に即したパフォーマンスができるようになること。ピアノ技術・能力はより効果的に向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

(ピアノ)では、6名前後のグループに分かれ、学生それぞれの進度に応じてレッスンする。また、弾き歌いについて、基本的なピアノ伴奏法や歌唱法を授業する。(講義)では、総合的な表現の発表や指導ができるよう、こどもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入、手遊び等について学ぶ。又、グループ内において、個別に指導し、各自のパフォーマンス技能を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	(音楽)科目(後期)オリエンテーション	(ピアノ)科目(後期)オリエンテーション
第17回	(音楽)総合的な表現—こどもの発達と表現—について(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(14)
第18回	(音楽)総合的な表現—こどもの発達と表現—について(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(15)
第19回	(音楽)総合的な表現—ストーリー—に即した選曲について(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(16)
第20回	(音楽)総合的な表現—ストーリー—に即した選曲について(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(17)
第21回	(音楽)総合的な表現—物語の創作—について(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(18)
第22回	(音楽)総合的な表現—物語の創作—について(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(19)
第23回	(音楽)総合的な表現—総合的なパフォーマンス—について(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(20)
第24回	(音楽)総合的な表現—総合的なパフォーマンス—について(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(21)
第25回	(音楽)総合的な表現—グループ発表(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(22)
第26回	(音楽)総合的な表現—グループ発表(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(23)
第27回	(音楽)総合的な表現—グループ発表(3)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(24)
第28回	(音楽)総合的な表現—グループ発表(4)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(25)
第29回	(音楽)楽典の振り返りと授業内試験	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(26)
第30回	(音楽)後期のまとめ	(ピアノ)後期実技試験について、後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。(ピアノ)では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のために毎日計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について常に考え、一人ひとりのこどもに興味関心を持ち、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

(音楽)50%、(ピアノ)50%。

■教科書

①新・幼児の音楽教育、朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200、チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200、チャイルド本社、2011 ④『フルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社(発行)、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社(発行)、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社(発行)を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	担当教員 (単位認定者)	落合紀絵・田中輝幸 奈良紀子・峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱、リトミック、合奏、オペレッタ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し、実践できるよう、知識や技術を習得する。特に、リトミック教育の理解、歌唱及び楽器演奏能力を高め、絵画的表現を合わせて総合的な表現指導技術を身につける。

〔到達目標〕

弾き歌いについて、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、移調唱(奏)を理解し、模範唱(奏)を通して発表や指導ができるようになること。こどもの発達に即した表現活動指導ができるようになること。保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できるようになること。ピアノ技術・能力は効果的に向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

(音楽)では、コード、即興的な伴奏法の基本的な知識・技術を身につける。また、リトミック教育の理解を深め、実践力を身につける。(ピアノ)では、6名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度にあわせて個別にレッスンをを行い、各自の表現活動指導力を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	(音楽)科目(前期)オリエンテーション	(ピアノ)科目(前期)オリエンテーション
第2回	(音楽)コードについて(1)、リズム遊び(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(1)
第3回	(音楽)コードについて(2)、リズム遊び(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(2)
第4回	(音楽)コード奏について	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(3)
第5回	(音楽)移調奏について	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(4)
第6回	(音楽)リトミック(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(5)
第7回	(音楽)リトミック(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(6)
第8回	(音楽)打楽器の基礎技能と合奏について(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(7)
第9回	(音楽)打楽器の基礎技能と合奏について(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(8)
第10回	(音楽)合奏の発表(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(9)
第11回	(音楽)合奏の発表(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(10)
第12回	(音楽)合奏の発表(3)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(11)
第13回	(音楽)楽典の振り返りと授業内試験(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(12)
第14回	(音楽)楽典の振り返りと授業内試験(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(13)
第15回	(音楽)前期のまとめ	(ピアノ)前期実技試験について、前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。(ピアノ)では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のために毎日計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について常に考え、一人ひとりのこどもに興味関心を持ち、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

(音楽)50%、(ピアノ)50%。

■教科書

①新・幼児の音楽教育 朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ④『ブルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社(発行)、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社(発行)、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社(発行)を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	担当教員 (単位認定者)	落合紀絵・田中輝幸 奈良紀子・峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱、リトミック、合奏、オペレッタ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し、実践できるよう、知識や技術を習得する。特に、リトミック教育の理解、歌唱及び楽器演奏能力を高め、絵画的表現を合わせて総合的な表現指導技術を身につける。

〔到達目標〕

弾き歌いについて、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、移調唱(奏)を理解し、模範唱(奏)を通して発表や指導ができるようになること。こどもの発達に即した表現活動指導ができるようになること。保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できるようになること。ピアノ技術・能力は効果的に向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

(音楽)では、コード、即興的な伴奏法の基本的な知識・技術を身につける。また、リトミック教育の理解を深め、実践力を身につける。(ピアノ)では、6名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度にあわせて個別にレッスンをを行い、各自の表現活動指導力を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	(音楽)科目(後期)オリエンテーション	(ピアノ)科目(後期)オリエンテーション
第17回	(音楽)ドミナント進行について(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(14)
第18回	(音楽)ドミナント進行について(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(15)
第19回	(音楽)即興的な伴奏法(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(16)
第20回	(音楽)即興的な伴奏法(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(17)
第21回	(音楽)伴奏づけと移調について	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(18)
第22回	(音楽)こどもの表現とオペレッタについて(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(19)
第23回	(音楽)こどもの表現とオペレッタについて(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(20)
第24回	(音楽)こどもの表現とオペレッタについて(3)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(21)
第25回	(音楽)オペレッタの発表(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(22)
第26回	(音楽)オペレッタの発表(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(23)
第27回	(音楽)歌唱についての振り返りと授業内試験(1)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(24)
第28回	(音楽)歌唱についての振り返りと授業内試験(2)	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(25)
第29回	(音楽)楽典の振り返りと授業内試験	(ピアノ)学生それぞれの進度に応じたレッスン(26)
第30回	(音楽)後期のまとめ	(ピアノ)後期実技試験について、後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。(ピアノ)では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のために毎日計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について常に考え、一人ひとりのこどもに興味関心を持ち、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

(音楽)50%、(ピアノ)50%。

■教科書

①新・幼児の音楽教育 朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ④『ブルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社(発行)、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社(発行)、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社(発行)を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)	担当教員 (単位認定者)	落合 紀絵	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱、弾き歌い、パフォーマンス				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場にて有意義な活動として実践できるよう、さらに知識や技術を高める。

[到達目標]

保育現場において音楽が担っている重要な役割について深く理解し、即戦力を身につける。弾き歌いやピアノの演奏技術・能力が向上するよう個別に指導する。

■授業の概要

有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動 指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個別にレッスンをを行い、各自の表現活動指導力を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目(前期)オリエンテーション
第2回	ピアノ演奏技術の向上(1)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(1)
第3回	ピアノ演奏技術の向上(2)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(2)
第4回	ピアノ演奏技術の向上(3)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(3)
第5回	ピアノ演奏技術の向上(4)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(4)
第6回	歌唱技術の向上(1)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(5)
第7回	歌唱技術の向上(2)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(6)
第8回	歌唱技術の向上(3)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(7)
第9回	歌唱技術の向上(4)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(8)
第10回	弾き歌い技術の向上(1)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(9)
第11回	弾き歌い技術の向上(2)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(10)
第12回	弾き歌い技術の向上(3)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(11)
第13回	弾き歌い技術の向上(4)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(12)
第14回	前期試験曲決定、学生それぞれの進度に応じたレッスン(13)
第15回	前期実技試験について、前期のまとめ、学生それぞれの進度に応じたレッスン(14)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

[受講のルール]

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、こどもの表現についての知識を高めておくこと。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業内の評価(40%)、実技試験の評価(60%)。

■教科書

①新・幼児の音楽教育 朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ④『フルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社(発行)、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社(発行)、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社(発行)を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)	担当教員 (単位認定者)	落合 紀絵	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、音楽、歌唱、弾き歌い、パフォーマンス				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場にて有意義な活動として実践できるよう、さらに知識や技術を高める。

[到達目標]

保育現場において音楽が担っている重要な役割について深く理解し、即戦力を身につける。弾き歌いやピアノの演奏技術・能力が向上するよう個別に指導する。

■授業の概要

有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個別にレッスンをを行い、各自の表現活動指導力を高められるよう進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目(後期)オリエンテーション
第17回	理論と実際について(1)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(15)
第18回	理論と実際について(2)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(16)
第19回	理論と実際について(3)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(17)
第20回	理論と実際について(4)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(18)
第21回	理論と実際について(5)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(19)
第22回	総合的な表現技術の向上(1)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(20)
第23回	総合的な表現技術の向上(2)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(21)
第24回	総合的な表現技術の向上(3)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(22)
第25回	総合的な表現技術の向上(4)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(23)
第26回	総合的な表現技術の向上(5)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(24)
第27回	保育現場の実際と表現活動指導について(1)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(25)
第28回	保育現場の実際と表現活動指導について(2)、学生それぞれの進度に応じたレッスン(26)
第29回	後期試験曲決定、学生それぞれの進度に応じたレッスン(27)
第30回	後期実技試験について、後期のまとめ、学生それぞれの進度に応じたレッスン(28)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

[受講のルール]

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、こどもの表現についての知識を高めておくこと。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業内の評価(40%)、実技試験の評価(60%)。

■教科書

①新・幼児の音楽教育 朝日出版社、2014 ②小林美実 編：こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ③小林美実 編：続 こどものうた 200. チャイルド本社、2011 ④『フルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社(発行)、『ソナチネ アルバム』全音楽譜出版社(発行)、『ソナタ アルバム』全音楽譜出版社(発行)を中心に授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	LD等教育総論	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	LD、ADHD、高機能自閉症、発達障がい、困り感、LD通級指導教室				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域の小・中学校に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握し、一人一人がもつ「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。

〔到達目標〕

- LD、ADHD、高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握できる。
- LD、ADHD、高機能自閉症等、発達障害のある子ども達もつ「困り感」に寄り添う指導・支援ができる。
- LD通級指導教室の実際の指導の様子をみて、一人一人に合った教材・教具を作成することができる。

■授業の概要

- 特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD、ADHD、高機能自閉症といわれる発達障がいのある子どもたちの学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。
- LD通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障がいのある子どもにとって有効な指導・支援方法を探る。学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）	特殊教育から特別支援教育へ
第2回	特別支援教育の意義・目的	
第3回	LDとは	LDの定義-アメリカにみる歴史的な背景-
第4回	ADHDとは	ADHDの定義
第5回	高機能自閉症と自閉症	自閉症の定義
第6回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	①
第7回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	②
第8回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	③
第9回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	④
第10回	LD通級指導教室の指導の実際	①
第11回	LD通級指導教室の指導の実際	②
第12回	LD通級指導教室の指導の実際	③
第13回	LD通級指導教室の指導の実際	④
第14回	LD通級指導教室の指導の実際	⑤
第15回	保護者との関わり/まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。
- 授業中に課したミニレポート・振り返りシートを必ず提出すること。
- 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートと振り返りシートにまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・振り返りシート（30%）、発表（20%）、試験またはレポート（50%）を総合して評価する。

■教科書

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』、東洋館出版、2005年

■参考書

佐藤暁著 『見てわかる 困り感に寄り添う支援の実際』 学習研究社、2008年

科目名	音楽概論	担当教員 (単位認定者)	島村 武男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	音楽概論				

■授業の目的・到達目標

移調を含め任意の和音をつけ、基本的なひきがたりの出来る事。

■授業の概要

基礎理論から移調、和音づけから、基本的な歌唱方法を学び、ひきがたりの出来る迄の授業。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	授業の受け方からオリエンテーション	
第2回	基礎理論	
第3回	"	
第4回	"	
第5回	応用和音のつけ方	
第6回	応用和音のつけ方から移調	
第7回	"	
第8回	"	
第9回	リトミックにおける腹式呼吸	
第10回	"	1・2
第11回	"	3・4
第12回	"	5・6
第13回	リトミックをつかった複式呼吸からの声の出し方の確認	
第14回	弾き語り	
第15回	集大成	

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語の厳禁。必ず静かに受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の授業はその都度理解できるように教授します。

■オフィスアワー

水曜日12時から

■評価方法

毎回の課題における評価を加味し集大成でS・A・B・Cで評価する。

■教科書

声力 リトミック

■参考書

特になし

科目名	カウンセリング(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	カウンセリングマインド、関係性、積極的傾聴、共感的理解、明確化				

■授業の目的・到達目標

[授業の目標]

対人援助職として必要となる援助技法としてのカウンセリングについて、その基本的技能と意義について理解する。

[到達目標]

- ①カウンセリングの考え方について説明できるようになる。
- ②カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得する。
- ③自分の「聴き方」の特徴を把握し、振り返り・反省ができるようになる。

■授業の概要

対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き、その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉えることは極めて重要な課題である。本講義では、カウンセリングの基本的な考え方について学んだ上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」の基礎的なトレーニングを行う。講義は座学と演習によって進める予定であり、受講生間でのロールプレイと記録の作成、またボランティア学生に対する模擬カウンセリング等を通じて技能の習得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	初回面接：守秘義務と自己紹介
第3回	面接における観察
第4回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第5回	感情に触れる(1) 自分の基準
第6回	〃 (2) 感情と行動
第7回	〃 (3) 感情とストレス反応
第8回	カウンセリングの技法(1) カウンセリングマインドと場の設定
第9回	〃 (2) 積極的傾聴
第10回	〃 (3) 共感的理解
第11回	〃 (4) 明確化と促し
第12回	模擬カウンセリングに向けた課題設定
第13回	研究課題発表①
第14回	研究課題発表②
第15回	研究課題発表③

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・演習や発表を含む講義であるため、欠席/遅刻等については厳密に連絡を行うこと。
- ・受講生の構成にも左右されるが、ボランティア学生の協力の下で模擬カウンセリングを行う予定である。計画的に日程等を確認しながら参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・模擬カウンセリングを行う場合、教員・協力者・受講生間で授業時間外に調整を行う必要があるため留意すること。

■オフィスアワー

初回到説明

■評価方法

授業への出席 35%、研究課題発表 30%、各回の提出物 35% (詳細は初回到説明)

■教科書

大谷 彰:「カウンセリングテクニック入門」二瓶社,2004

■参考書

ジェラード・イーガン(著)福井・飯田(訳):「カウンセリング・ワークブック」創元社,1994

科目名	カウンセリング(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	カウンセリングマインド、関係性、積極的傾聴、共感的理解、明確化				

■授業の目的・到達目標

[授業の目標]

保育・教育分野の専門家として必要となる援助技法としてのカウンセリングについて、その基本的技能と意義について理解する。

[到達目標]

- ①カウンセリングの考え方について説明できるようになる。
- ②カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得する。
- ③自分の「聴き方」の特徴を把握し、振り返り・反省ができるようになる。

■授業の概要

対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き、その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉えることは極めて重要な課題である。本講義では、カウンセリングの基本的な考え方について学んだ上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」の基礎的なトレーニングを行う。講義は座学と演習によって進める予定であり、受講生間でのロールプレイと記録の作成、またボランティア学生に対する模擬カウンセリング等を通じて技能の習得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	初回面接：はじめて出会う子どもと保護者に何を話すか
第3回	面接における観察/プレイにおける観察
第4回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第5回	感情に触れる(1) 自分の基準
第6回	〃 (2) 感情と行動
第7回	〃 (3) 感情とストレス反応
第8回	カウンセリングの技法(1) カウンセリングマインドと場の設定
第9回	〃 (2) 積極的傾聴
第10回	〃 (3) 共感的理解
第11回	〃 (4) 明確化と促し
第12回	模擬カウンセリングに向けた課題設定
第13回	研究課題発表①
第14回	研究課題発表②
第15回	研究課題発表③

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・演習や発表を含む講義であるため、欠席/遅刻等については厳密に連絡を行うこと。
- ・受講生の構成にも左右されるが、ボランティア学生の協力の下で模擬カウンセリングを行う予定である。計画的に日程等を確認しながら参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・模擬カウンセリングを行う場合、教員・協力者・受講生間で授業時間外に調整を行う必要があるため留意すること。

■オフィスアワー

初回到説明

■評価方法

授業への出席 35%、研究課題発表 30%、各回の提出物 35% (詳細は初回到説明)

■教科書

大谷 彰：「カウンセリングテクニック入門」二瓶社, 2004

■参考書

ジェラード・イーガン(著) 福井・飯田(訳)：「カウンセリング・ワークブック」創元社, 1994

科目名	学習指導と学校図書館	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校図書館 司書教諭 図書館活用 情報リテラシー 学習指導				

■授業の目的・到達目標

この科目は、文科省学校図書館司書教諭講習規程で指定されている5科目のうちの一つです。
〔授業の目的〕学校図書館法および学習指導要領に示されているように、諸学校における学習展開に学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、基礎を身につけます。
〔到達目標〕
1) 学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べるができる。
2) 情報リテラシー育成の諸段階を具体的に説明できる。
3) 児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。

■授業の概要

1) 図書館および図書館員の役割・業務について概観したのち、2) 学校図書館という館種の機能特性、3) 学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4) 司書教諭の役割、5) 学校図書館というインフラの整備・経営、6) レファレンスサービス業務の実際 について学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 社会における図書館とは何か 図書館員の役割・業務概説 学校図書館の位置づけと司書教諭・学校司書
第2回	学校図書館の意義・目的 教育課程の編成と学校図書館 児童・生徒の発達段階と学校図書館資料の選択
第3回	学校図書館利用指導 図書館活用教育・情報リテラシー教育 読書センター機能と学習情報センター機能
第4回	学校図書館というインフラの整備と経営
第5回	学習/教育活動を支援する情報サービス;レファレンスサービス等
第6回	教科学習と学校図書館活用
第7回	総合的な学習と学校図書館活用
第8回	特別支援教育と学校図書館
第9回	情報リテラシー教育の理論的背景
第10回	情報リテラシー教育の過程
第11回	情報リテラシー育成の実際 1 テーマの設定 情報探索
第12回	情報リテラシー育成の実際 2 情報・資料の収集と活用・まとめと評価
第13回	レファレンスサービス各論
第14回	レファレンスサービス演習
第15回	まとめ 司書教諭という仕事

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講学生の多くは、初めて図書館学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらかじめ通読する、ノートを見返すことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。なお、例年教育実習期間と重なるので、複数回数の補講を別途設定する予定です。これについては後日案内しますが、欠席しないように注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談・調整が必要となります。

■オフィスアワー

第1回授業時に、2015年度の案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(100%)で理解度を評定します。なお、欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評定を受ける資格を失います。

■教科書

堀川照代 新訂 学習指導と学校図書館 放送大学振興協会 2010年

■参考書

図書館ハンドブック編集委員会編 図書館ハンドブック 第6版補訂版 日本図書館協会 2010年

科目名	学習心理学	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理学、学習、条件づけ、観察学習、記憶、社会的学習				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

社会福祉士受験のための基礎知識習得を目的とする。

[到達目標]

古典的条件付け・オペラント条件付け・観察学習についての概念説明ができる。

学習心理学に関連した用語、学習のプロセスについての知識を得る。

■授業の概要

本講義では、初学者が対象であることを念頭に、学習心理学で見いだされた研究の解説を体系的に行うことになる。内容としては、学習の基本的メカニズム、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、概念学習、社会的学習、記憶と学習を取り上げる。理解をより深化させるために、簡単な実験や小テスト、アンケートの実施を予定している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	心理学における学習とは 研究の方法と応用
第2回	馴化(じゅんか)と鋭敏化 日常例と研究例の紹介
第3回	古典的条件づけ(1) 研究紹介と基本的特徴
第4回	古典的条件づけ(2) 信号機能
第5回	古典的条件づけ(3) 学習の内容と発現システム
第6回	オペラント条件づけ(1) 研究紹介と基本的メカニズム
第7回	オペラント条件づけ(2) 強化・制御
第8回	オペラント条件づけ(3) 強化・制御
第9回	概念学習・観察学習・問題解決(1) 研究紹介
第10回	概念学習・観察学習・問題解決(2)
第11回	概念学習・観察学習・問題解決(3)
第12回	記憶と学習(1)
第13回	記憶と学習(2) 実験 到達テスト内容告知
第14回	記憶と学習(3)
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

講義の際に10分程度の小テストが行われる場合がある。実験・アンケート実施に伴い準備等の協力が求められることがある。

[受講のルール]

ノートをかみならず冊子としてまとめておくこと。理解度把握のため、ノートのチェックが行われる場合がある。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

小テスト・アンケートの提出(40%)、授業内発言・コメント(20%)、到達テスト(40%)

■教科書

実森 正子・中島 定彦(著) 学習の心理—行動のメカニズムを探る(コンパクト新心理学ライブラリ 2) サイエンス社 2000

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	学校経営と学校図書館	担当教員 (単位認定者)	井ノ口 雄久	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校経営 学校図書館				

■授業の目的・到達目標

学校図書館は学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。学校図書館はいかなるものか、全体像を描くことを試みる。

■授業の概要

学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を、制度化される課程と実際の学校図書館活動の実際を通して理解することを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	教育と学校図書館
第3回	学校図書館の発達と役割
第4回	制度としての学校図書館
第5回	教育課程と学校図書館
第6回	学校経営と学校図書館
第7回	学校図書館メディア
第8回	学校図書館の施設・整備
第9回	学校図書館経営のための諸施設
第10回	学校図書館の会計
第11回	学校図書館経営
第12回	学校図書館活動
第13回	学校図書館活動の実際
第14回	学校図書館の評価と改善
第15回	学校図書館の課題と展望・まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストの該当部分は事前に読んでおくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中に参考図書を紹介するので、各自読書すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業の参加態度(40%)、レポート提出(2回-各30%)

■教科書

司書教諭テキストシリーズ01『学校経営と学校図書館』古賀節子編 2011 樹村房

■参考書

授業で、適宜紹介。

科目名	学校図書館メディアの構成	担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校図書館メディア、情報資源組織法、資料組織法、目録法、分類法				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

司書教諭として、学校図書館メディアの構成(選択・収集・組織・保存等)ができるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。
- ②「日本目録規則 1987年版 改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。
- ③「日本十進分類法 新訂9版」により学校図書館メディアの分類ができる。

■授業の概要

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、学校図書館メディアの教育的意義及び役割
第2回	学校図書館メディアの種類と特性
第3回	学校図書館メディアの選択と構成
第4回	学校図書館メディアの組織化(1)分類の意義と機能
第5回	学校図書館メディアの組織化(2)日本十進分類法の使い方①
第6回	学校図書館メディアの組織化(3)日本十進分類法の使い方②
第7回	学校図書館メディアの組織化(4)日本十進分類法の使い方③
第8回	学校図書館メディアの組織化(5)日本十進分類法の使い方④
第9回	学校図書館メディアの組織化(6)日本十進分類法の使い方⑤
第10回	学校図書館メディアの組織化(7)件名標目の概要、目録の意義と機能
第11回	学校図書館メディアの組織化(8)日本目録規則の使い方①
第12回	学校図書館メディアの組織化(9)日本目録規則の使い方②
第13回	学校図書館メディアの組織化(10)日本目録規則の使い方③
第14回	学校図書館メディアの組織化(11)目録の電算化
第15回	多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・指定した予習・復習は必ず行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

『日本十進分類法 新訂9版』の第2次区分表(教科書にあり)を暗記すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』第一法規(最新版)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	家庭科概論	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	家族、衣・食・住・家庭管理、生活科学、生活文化				

■授業の目的・到達目標

小学校「家庭科」の教育内容に基づきながら、根底にある生活（衣・食・住・家庭管理）に関する基本的な知識を身につける。その際、各生活事象の背景にある原理・原則を根本的に理解し、家庭科教育の現場で児童の様々な発語や行動にも対応できるようになる。さらに、食と家庭経済・衣と住などのように、複合分野にわたる授業を実施できるようにする。

■授業の概要

“生活を科学する”という立場に立ちながら、家族と家庭生活、衣生活、食生活、住生活、家庭経済（金銭の管理）の各分野についての基礎知識を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス：「生活科学チェックテスト」の実施（生活者としての習熟度チェック）
第2回	家庭科とは：実践的・体験的教科としての家庭科 家庭科と家政学
第3回	家庭生活と家族（家庭生活の経営と管理）：家族・家庭生活の現状 家族周期と生活設計 生活時間
第4回	家庭生活と家族（家庭生活の経営と管理）：家庭経済と消費生活 消費生活の課題
第5回	食事への関心（食生活）：身体の機能と栄養 食品の成分と保存・保管 食品の安全
第6回	食事への関心（食生活）：献立作成と調理 食材の選び方
第7回	食事への関心（食生活）：食材の調理法 調理操作の概要
第8回	衣服への関心（衣生活）：衣服の役割と機能 衣服の選択
第9回	衣服への関心（衣生活）：被服素材と品質表示 被服の衛生
第10回	衣服への関心（衣生活）：被服の管理
第11回	洗淨理論
第12回	住まいへの関心（住生活）：住居の役割と機能 快適な室内環境
第13回	住まいへの関心（住生活）：住居の安全と管理 バリアフリーとユニバーサルデザイン
第14回	生活文化：日本の生活の中の文様・色彩
第15回	まとめ：生活を統合する（総合科学としての家庭科）

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中に発言を求めたりディスカッションを取り入れたりするため、積極的・能動的に受講すること。また、板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、食材や生活用品の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験（50%） 提出物（30%） 授業における積極性（発言・発表等）（20%）

■教科書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）2004年 『小学校学習指導要領解説家庭編』

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	家庭支援論	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	家族 社会的養護 家庭支援に係る法 子育て支援				

■授業の目的・到達目標

- ・社会的養護の目的と実践を学ぶ。
- ・現代の家族の特性とその支援を具体的に知る。
- ・地域における家庭支援に係る根拠法や体制を知る。

■授業の概要

テキストを軸にして、家族支援、子育て支援に関して、広い視野でつかんでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	現代社会と家庭
第3回	家庭支援の意義と役割1
第4回	家庭支援の意義と役割2
第5回	家庭支援と法制度
第6回	家庭を支援する技術1
第7回	事例検討
第8回	家庭を支援する技術2
第9回	家庭支援の形態
第10回	家庭支援に関わる社会資源
第11回	子育て支援政策
第12回	保育所の子育て支援機能
第13回	保育所における子育て支援サービス
第14回	特別な配慮の必要な家庭への支援
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習、復習をすること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで必要に応じて伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで必要に応じて伝える。

■評価方法

期末試験 80% 出席等受講内容 20%

■教科書

小野・田中・大塚編「家庭支援論」ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで必要に応じて伝える。

科目名	教育課程論	担当教員 (単位認定者)	江島 正子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育と教育の実際 日案作り 教育課程とカリキュラム カリキュラムの意義				

■授業の目的・到達目標

保育所保育を含む幼児教育に関する教育課程・カリキュラムについて学習する。幼児期の教育と教育課程の基礎的・基本的理念を知る。その上で具体的に教育課程の編成、指導計画の作成を行う。この教育課程の作成は単なる技術論ではない。幼児教育の本質に根ざしていなければならない。保育者はこども一人ひとりの特性と発達の課題に即した教育環境を構成する。

■授業の概要

世界とわが国における幼児教育の歴史を振り返り、現状の諸問題点を探る。入園から卒園までのこどもの生活を総括的に知り、保育所の保育計画を含めたカリキュラム、教育課程、指導案について考察を加える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	自己紹介と授業の進め方
第2回	幼稚園教育の歴史を知る
第3回	幼稚園教育の目的と意義を知る
第4回	幼稚園教育要領の理解 基本・目標
第5回	幼稚園教育要領の理解 ねらい・内容
第6回	保育と教育方針 保育の実際と指導計画
第7回	年間計画 月案計画 日案計画(基本的事項と手順)
第8回	教育課程の編成と指導経過の作成
第9回	教育課程の意義
第10回	教育課程と指導経緯の評価の実例 長期指導計画
第11回	演習問題 ディベート
第12回	日案作成 環境の構成・再構成
第13回	日案作成 指導計画 カリキュラム
第14回	指導の必要性 指導の評価
第15回	幼稚園と保育所および小学校の連携

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席や遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。授業中は私語を慎む。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容に関係する内容をレポートでまとめる課題が課せられたら、必ず指定日までに提出すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験 レポート 授業出席 ディベートなどで総合的に判断する。

■教科書

岸井勇雄他著 『あたらしい幼児教育課程総論』 同文書院

■参考書

マリア・モンテッソーリ著 『子ども—社会—世界』 ドンボスコ社 授業中にもそのつど紹介する。

科目名	教育社会学	担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会化、家族集団、仲間集団、地域社会、学校集団、マスコミ、ニューメディア、ジェンダー、生涯学習				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察することができる。

[到達目標]

- ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に理解できる。
- ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。

■授業の概要

- ・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。
- ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 一子どもの発達と社会化
第2回	家族集団と子どもの社会化
第3回	仲間集団と子どもの社会化
第4回	地域社会と子どもの社会化
第5回	学校の構造と組織
第6回	学校集団の社会化機能
第7回	教育の病理現象—いじめ問題を中心に
第8回	子どもの社会化と逸脱行動
第9回	マスコミュニケーションと社会化環境
第10回	ニューメディアと子どもの社会化
第11回	教育におけるジェンダーをめぐる諸問題
第12回	学校から社会・職業への移行
第13回	学歴社会の変貌
第14回	生涯学習社会の展望
第15回	グローバル時代における社会化の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず用意し、予習・復習に活用する。
- ・配布資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努める。
- ・教育に関するニュースなどに関心を持ち、常に問題意識を持ちながら受講する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に関する新聞報道等に関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努める。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ・筆記試験の成績の結果を主とする(90%)
- ・受講後の感想や質問の内容を加味する(10%)

■教科書

住田正樹・高島秀樹(編著)「子どもの発達社会学—教育社会学入門」北樹出版、2012

■参考書

- 加野芳正・越智康詞(編著)「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房、2012
- 岩永雅也・稲垣恭子(編著)「新版 教育社会学」放送大学教育振興会、2007

科目名	教育心理学	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発達段階と発達課題、学習過程とその理論的背景、教育評価、動機づけ、教育プログラム、適応と不適応				

■授業の目的・到達目標

[授業の目標]

学校教育における学習指導をはじめ、「教える」という活動を効果的に行うための教育心理学的な理論と方法について理解すること。また、教員採用試験および社会福祉士国家試験心理科目に対応するための知識を習得する。

[到達目標]

- ①発達段階に応じた適切な教育方法の選択を行うための知識を得る。
- ②効果的な教育活動に必要な工夫の背景にある心理学の知識を得る。
- ③近年の教育現場における諸問題について心理学的な観点から理解できるようになる。

■授業の概要

教育心理学の主要領域である「発達」「教授・学習」「評価・測定」「適応・不適応」に関する理解を深め、実際に『誰かに何かを教える』場面で心理学の理論に基づいた工夫を行うことができるようになるための知識を紹介する。また、受講生の関心に応じ、「いじめ」「不登校」「特別支援教育」「教員のメンタルヘルス」等の話題も紹介する予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、発達段階と発達課題(1)：青年期
第2回	発達段階と発達課題(2)：乳幼児期～思春期
第3回	“(3)：成人期～老年期
第4回	教授・学習(1) 遺伝と環境、成熟論
第5回	“(2) 学習と行動主義
第6回	“(3) 認識の発達段階(ピアジェの認知発達段階説)
第7回	“(4) 記憶と学習方略
第8回	“(5) 周囲とともに学ぶ(社会文化的アプローチ)
第9回	評価・測定(1) 教育効果の測定・評価
第10回	“(2) 知的能力の測定・評価
第11回	“(3) 教育評価の背景(動機づけ、評価バイアス)
第12回	“(4) 教育評価の活用(教育プログラム)
第13回	適応・不適応(1) 学級/学校という集団の理解、適応の視点
第14回	“(2) 教育現場における様々な不適
第15回	“(3) 事例の紹介

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・欠席/遅刻等については大学規定の手続きで事前に連絡を行うこと。
- ・講義内で課したレポートについては、提出期限を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義内で課すレポートの提出は任意であるが、成績に反映されるものである。また、教員採用試験および社会福祉士国家試験心理科目に対応した内容を予定している。教科書や講義内で紹介する参考資料を活用し、積極的な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回到説明。

■評価方法

授業への出席 35%、定期試験 40%、提出物/レポート課題 25% (詳細は初回到説明)

■教科書

櫻井茂男(監修)：「実践につながる教育心理学」北樹出版 2012.

■参考書

授業内で適宜紹介

科目名	教育相談論	担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育相談論				

■授業の目的・到達目標

予習課題（個別学習）や話し合い・講義・実習等をとおして、教師として児童生徒の悩みや諸課題の解決への援助ができる能力や人間としての心の痛みを理解できたり、一人ひとりの児童生徒の能力を引き出すことができたりする資質の育成を図る。

■授業の概要

教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について個別学習（予習課題）や話し合い等をとおして学ぶとともに、カウンセリング実習をとおして教育相談の基礎的技法を身に付け、教師としての必要な教育相談的資質や能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、班編制、教育相談の意義と目的
第2回	教育相談の心理的基礎①
第3回	教育相談の心理的基礎②
第4回	教育相談の心理的基礎③
第5回	教育相談の進め方①
第6回	教育相談の進め方②
第7回	教育相談の進め方③
第8回	心理アセスメント①
第9回	心理アセスメント②
第10回	教育相談の技法①
第11回	教育相談の技法②
第12回	教育相談（カウンセリング）実習①
第13回	教育相談（カウンセリング）実習②、教育相談の技法③
第14回	問題行動の理解と指導①
第15回	問題行動の理解と指導②、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。状況によっては、退席を求めます。班編成をします。班の中で自己決定による座席指定をします。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

中間試験・定期試験（80%）、予習課題の予習状況（10%）及び自己達成度評価（10%）を総合して評価します。

■教科書

江川びん成編著 教育相談=その理論と方法― 学芸図書株式会社 定価 1400円+税

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	江島 正子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育と保育の指導方法 教師の援助の仕方 幼児の発達 発達の個人差				

■授業の目的・到達目標

幼い子どもに対する基本的な指導のあり方と保育と教育の現場における実技を学ぶ。保育と教育の環境構成の重要性を知り、それに伴う教師の心構えについて理解する。教師主導ではなく、学生主体で学習する方法を身につける。

■授業の概要

幼児期の教育は、こどもの身体と精神に生涯にわたって影響を与える。幼児の成長・発達の基本的特徴を教育といかに有効に連携させるかを追及し、可能な限りの最高で最善な教育方法を探究する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 自己紹介とアンケート 保育と教育の基本
第2回	アンケート結果の紹介 フランスの幼稚園のDVDに学ぶ
第3回	教育と保育の方法論上の基本 環境・生活の展開・遊び・こどもの発達の特性 幼稚園や保育所
第4回	幼児についての理解とその方法 幼児理解とは何か 幼児理解を深める大人の注意点
第5回	人間の進化・発達 発達のとらえ方 その姿
第6回	環境構成と活動の展開 環境としての教師 こどもの楽しさとの共有 こどもの活動の充実
第7回	一人ひとりに応じた援助 個人差 一人ひとりの興味・関心の違い 大人の温かな援助の仕方
第8回	生活の指導 基本的な生活習慣の指導とこどもの自立 集団の中で生きる内的な喜び
第9回	自己主張と自己抑制 幼稚園・保育所と家庭との連携 具体的な場面での援助の仕方
第10回	専門職としての保育者 保育の基本の理解 こどもの理解 発達・一人ひとりの育ち 保育者の役割
第11回	学びの場所 縦割り保育と横割り保育 一人ひとりのクラス作り 学びへの環境のあり方
第12回	こどもの援助の形態 ささまざまな保育形態 グループ活動・個別活動・一斉保育
第13回	園内外の環境を生かした保育 園内環境にかかわる 保育室 園外環境にかかわる 散歩
第14回	保育環境に求められること 幼稚園・保育所・小学校との連携 保護者と地域社会との連携
第15回	ディベート まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。授業中に課したレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる者として授業中の私語を慎む。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験 レポート 授業出席 ディベートなどで総合的に判断する。

■教科書

神長美津子編著 『保育方法』 光生館

■参考書

江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社 そのつど授業中に紹介する。

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育諸活動に意欲的な取り組みができるために				

■授業の目的・到達目標

- ・教育方法についての学びを深め、教師としての実践に生かす力を養う。
- ・教育方法に関する基礎的概念を習得する。
- ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげる。

■授業の概要

- ・教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	・オリエンテーション(講義方法、内容と評価) ・授業と学びの世界へ(教室の思い出・教室の風景・授業の世界・学びの世界)
第2回	・変貌する教室(転換期の学校・世界の教室と日本の教室・21世紀の教室の風景)
第3回	・変貌する教室・フィンランドの教育の特徴 授業の形式(考えるという行為の2つの意味 他)
第4回	・授業の歴史(日本)(近代学校と授業の成立・新教育の展開と学びの改革・戦後新教育と授業の改革)
第5回	・教育の技術(教育技術の特質とは・集団づくりの意義と方法)
第6回	・授業のデザイン(授業の組織・授業の構造・授業をデザインし創造する)
第7回	〃
第8回	・学習指導案の意義と作成手順 ・授業(教)目標づくりとは(構造・種類と性格) ・教師に必要な資質5
第9回	・教材研究と教材解釈 ・展開のある授業とは ・教師の姿勢と心構え
第10回	・仮説実験授業とは ・発問のある授業とは ・教師の表現(伝え方)
第11回	・授業における説明の役割と方法 ・学習集団の意義と方法 ・違いを認め合い補い合う
第12回	・体験的学習の意義と課題 ・練習の意義と方法 ・自分のキャラクターを分析する
第13回	・「いじめ防止対策推進法」の論説をもとに、ディスカッション(まとめ)
第14回	・学習活動の個別化と個性化
第15回	・「教えるということ」(大村はま著)より教師像を描く

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・意欲的な学習態度であること。
- ・教師としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関するニュースや専門的事柄について興味関心を持って積極的に受け止め、分析し、どうあるべきかを考えること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ・提出物、討議・発表態度、定期試験による評価。 いずれも60%を超えていること。

■教科書

- ・授業内で適宜紹介する。

■参考書

- ・授業において紹介する。

科目名	教職概論	担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	カリキュラム、授業力、生徒指導、学級経営、学校経営、服務義務、キャリア教育、学校評価				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解できる。

[授業の目標]

- ・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について理解できる。
- ・各回の学校教育に関する事象に関心を持ち、具体的な事例をあげることができる。
- ・自分自身の理想的な教師像についてイメージすることができる。

■授業の概要

- ・学校教育の概要を理解し、そこにおける教員の使命や服務義務について理解する。
- ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。
- ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えを構築する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 一教師とは何か
第2回	学習指導(1) 一カリキュラムを作成する
第3回	学習指導(2) 一授業力をつける
第4回	生徒指導一子どもの心理と行動
第5回	学級経営一集団で指導する
第6回	学校の組織
第7回	学校の運営
第8回	教員の養成と任用
第9回	教師の資質向上と研修
第10回	教員の服務制度と勤務条件
第11回	時代の流れと教師像の変遷(1) 一戦前期の学校教育と教師像
第12回	時代の流れと教師像の変遷(2) 一戦後教育改革と教育の普及
第13回	教育の今日的課題(1) 一道德教育、キャリア教育等
第14回	教育の今日的課題(2) 一開かれた学校経営と学校評価
第15回	教育の今日的課題(3) 一学校・家庭・地域社会の役割と連携

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず用意し、予習・復習に活用する。
- ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努める。
- ・学校教育に関する報道等に関心を持ち、常に問題意識を持って受講する。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努める。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ・筆記試験の成績の結果を主とする(90%)
- ・受講後の感想や質問の内容を加味する(10%)

■教科書

佐藤徹(編著)「教職論—教職に就くための基礎・基本—」東海大学出版, 2013

■参考書

秋田喜代美・佐藤学(編著)「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ, 2013

科目名	教職実践演習（小学校）	担当教員 （単位認定者）	時田 詠子	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教師に求められる力量、教育判例、現代的な教育課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

今までの大学での学習を振り返り、次年度、教職にスムーズにつけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①履修カルテにより、自己の学習履歴を振り返り、自己課題を見つけることができる。
- ②教師に求められる力量、教育判例、自己課題、現代的な教育課題等について、考えることができる。

■授業の概要

- 1 次年度、教育現場にたつことを踏まえ、既習の知識技能を総動員して、教師に求められる力量、教育判例、学校制度、学級経営、現代的な教育課題等について、課題解決学習を行う。
- 2 まとめや発表方法として、現場で活用できる効果的なKJ法、ポスターセッション、グループワーク、パワーポイント、板書等について学ぶ。
- 3 自己の学びの軌跡を「履修カルテ」により確認し、次年度、教師として教壇に立つ意欲を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、履修カルテ
第2回	教師に求められる力量①（KJ法、ポスターセッション）
第3回	教師に求められる力量②（KJ法、ポスターセッション）
第4回	教育判例（校長の授業参観、学校教育法第37条）
第5回	公教育の概念と原理（公教育と私教育の比較、関係法）
第6回	日本の学校制度①（歴史）
第7回	日本の学校制度②（現状）
第8回	小学校教育実習報告会（後輩に向けて）
第9回	教育行政制度（教育委員会のしくみ）
第10回	学級経営（実践例、学級通信等）
第11回	校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい）
第12回	特別支援学校について知ろう（学校教育コースとの交流会）
第13回	現代的な教育課題①（いじめ、体罰など）
第14回	現代的な教育課題②（教師のメンタルヘルス、特別支援教育など）
第15回	魅力的な指導者を目指して（児童理解、保護者対応、感じのいい話し方・聞き方など）、履修カルテのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

・初回の授業で明示する。

■評価方法

・授業中の発表・態度（50%）、話し合いの司会・板書（30%）、提出物（20%）

■教科書

・授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用する。

■参考書

・講義の中で、随時紹介する。

科目名	教職実践演習(中・高)	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共生社会、教師に必要な資質、心の問題、法規範				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

それまでに履修した教職に関する科目の状況を踏まえて、教員としての必要な実践的指導力を確認し、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- 履修カルテを通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことができる。
- 急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けることができる。
- 教師に求められる規範意識を確認することができる。

■授業の概要

- 講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が、社会的規範、福祉、スクールカウンセラーの立場から、広い視野をもって将来、教員を目指す学生の資質の向上を図る。
- 教師としての使命感や責任感、教育的愛情がもてるようにする。
- 社会性や対人関係能力を養う。
- 教科内容等の指導力が身につくように、授業設計と模擬授業を取り入れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明)	共生社会を生きる
第2回	「障害児」教育を考える	
第3回	子どもの世界	
第4回	教職について考える ①	
第5回	教職について考える ②	
第6回	教職について考える ③	
第7回	教職について考える ④	
第8回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ①	
第9回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ②	
第10回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ③	
第11回	教育法規-教師がよってたつべき法規範-①	
第12回	教育法規-教師がよってたつべき法規範-②	
第13回	授業設計と模擬授業 ①	
第14回	授業設計と模擬授業 ②	
第15回	「教職実践演習」のまとめ:改めて教師とは-使命感・責任感、教育的愛情等を確認する	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。
- 授業中に課したミニレポート・振り返りシートを必ず提出すること。
- 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したレポート・小テスト、発表等(80%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

各担当教員が準備する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教職対策講座	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	0 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員採用試験、願書、教職教養、専門教養、自己アピール、面接試験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

全国の自治体で実施される教員採用試験に向けて、願書の書き方、自己アピール文・小論文の作成、面接試験対策を行う。一般教養・教職教養、専門教養の予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験合格を目指す。

〔到達目標〕

- 1 願書、自己アピール文、小論文の作成ができる。
- 2 各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。
- 3 面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。

■授業の概要

- 1 3年次の後期から開講している教員採用試験対策講座を教職教養、専門教養を中心に継続して行う。
- 2 外部講師を招くなどして、面接試験対策を行う。
- 3 願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験対策を行い、教員採用試験合格に向け取り組む。
- 4 学内模擬試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明 教員採用試験対策 ① (教員採用試験の概要説明))
第2回	教員採用試験対策 ② (願書の書き方、自己アピール文の作成方法・解説)
第3回	教員採用試験対策 ③ (主に教職教養・専門教養科目)
第4回	教員採用試験対策 ④ (主に教職教養・専門教養科目)
第5回	教員採用試験対策 ⑤ (小論文の書き方)
第6回	教員採用試験対策 ⑥ (主に教職教養・専門教養科目)
第7回	教員採用試験対策 ⑦ (主に教職教養・専門教養科目)
第8回	教員採用試験対策 ⑧ (主に教職教養・専門教養科目)
第9回	教員採用試験対策 ⑨ (主に教職教養・専門教養科目)
第10回	教員採用試験対策 ⑩ (主に教職教養・専門教養科目)
第11回	教員採用試験対策 ⑪ (主に教職教養・専門教養科目)
第12回	教員採用試験対策 ⑫ (主に教職教養・専門教養科目)
第13回	教員採用試験対策 ⑬ (面接試験対策)
第14回	教員採用試験対策 ⑭ (集団面接試験対策)
第15回	教員採用試験対策 ⑮ (集団面接試験対策)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で単位認定を認めない)や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求めます。
- 2 教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時間内に提示する。

■評価方法

授業中に実施した試験・レポート(50%)、提出物(授業中に行った問題のまとめ)(50%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 3 東京教友会編著 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店
- 4 『教職課程 3月臨時増刊号 2016年度の教員採用試験に必ず出る問題』、共同出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	権利擁護と成年後見制度	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	憲法、行政法、民法、成年後見制度、裁判所、社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。

- ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。
- ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。
- ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。

■授業の概要

相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ(人権)
第2回	権利擁護と憲法Ⅱ(統治)
第3回	権利擁護と行政法Ⅰ(行政組織、行政活動)
第4回	権利擁護と行政法Ⅱ(行政救済)
第5回	権利擁護と民法Ⅰ(契約など)
第6回	権利擁護と民法Ⅱ(親族・相続)
第7回	成年後見の概要
第8回	保佐の概要、補助の概要
第9回	法定後見制度の手続等
第10回	任意後見制度、日常生活自立支援事業
第11回	成年後見制度利用支援事業、権利擁護にかかわる組織、団体
第12回	権利擁護にかかわる専門職の役割
第13回	権利擁護活動の実際Ⅰ(成年後見活動の実際)
第14回	権利擁護活動の実際Ⅱ(権利擁護活動の実際)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度(新・社会福祉士養成講座19)」中央法規,2014年

■参考書

六法(例:「ポケット六法」有斐閣,平成27、ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房,2015年)
森長秀 編著「法学入門」光生館,2015年

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公衆衛生学				

■授業の目的・到達目標

公衆衛生学の概要を説明できると共に公衆衛生学を基礎に社会福祉専門職(又は医療専門職としての)各自の将来の進路にその学んだ知識・責任・自覚をどう活かしていくか述べるができる。
併せて将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形式できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。

■授業の概要

社会福祉専門職(又は医療専門職)として必要な医学の根源をなす健康の学問である公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	公衆衛生学概論	公衆衛生学の目的・範囲等	教科書・オリジナルプリントに筆記した内容を整理し予習復習すること
第2回	保健統計	公衆衛生学における人口問題		人口静態・人口動態・生命表
第3回	衛生行政	機構・業務等及び地域保健・保健活動		
第4回	社会保障制度	概念・医療保障・医療供給システム		
第5回	環境衛生	大気・住居・振動・衣服・飲料水・産業廃棄物・公害等		
第6回	国民栄養と食品衛生	栄養学・食品衛生・食中毒		
第7回	母子保健	意義・歴史的背景・現状・出生率・母性保護		
第8回	成人保健・老人保健	成人病・高齢化社会・老人保健		
第9回	学校保健	目標・目的・内容・発育・保健管理・学校給食・衛生教育・学校体育		
第10回	産業衛生	作業環境・労働時間と形態・職業病・産業災害		
第11回	(1)疫学と感染症 (2)優生学と精神衛生	感染症 伝染病 遺伝・精神障害		
第12回	医療福祉コミュニケーション	医療福祉及び各専門職に役立つコミュニケーション		
第13回	医療福祉危機管理	医療福祉及び各専門職に不可欠な問題解決発想法		
第14回	口腔ケア	口腔ケア・オーラルリハビリテーション		
第15回	総括	まとめ		

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書の上に依存することなく、口述・板書した内容は、必ず教科書又は配布するオリジナルプリントやノートに必ず筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。
講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。
教科書・オリジナルプリントは書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。
〔受講のルール〕
初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノート整理を行っておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(80%) その他オリジナルプリントへの書き込み状況やノートの点検(20%)

■教科書

『シンプル衛生公衆衛生学』最新版 南江堂 15・6・8・12・13・14・15に関してはオリジナルプリントを配布します。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	更生保護制度	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共生社会 保護観察 社会内処遇 犯罪被害者 犯罪予防				

■授業の目的・到達目標

更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。

■授業の概要

相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	仮釈放等
第3回	保護観察
第4回	生活環境の調整
第5回	更生緊急保護・犯罪被害者対策
第6回	恩赦・犯罪予防活動
第7回	保護観察官・保護司
第8回	更生保護施設・民間協力者
第9回	裁判所との連携
第10回	検察庁・矯正施設との連携
第11回	公共職業安定所・福祉事務所との連携
第12回	医療観察法に基づく処遇、生活環境の調査・調整
第13回	地域社会における処遇、関係機関との連携
第14回	社会復帰調整官等の業務の実際
第15回	更生保護の今後の展望

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
 国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。
 5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

各授業内容の重要項目は、予備知識を得ておく。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分

■評価方法

定期試験、小論文、小テストを総合的に評価する。(目安)定期試験結果70%、小論文・小テスト30%

■教科書

新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	高等学校教育実習（公民科）	担当教員 （単位認定者）	江原 京子	単位数 （時間数）	2 （80）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習、教員採用試験対策講座、教科または教職に関する科目、教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるいは履修中であること
- 6 2年次の教員採用試験対策講座及び3年次後期、4年次前期の教採対策講座を必ず受講する者
- 7 1年次より実施する夏期集中講座を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、80時間（2週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校の両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席（10%）
- 2 実習校の評価（50%）
- 3 教育実習の記録の評価（40%）

科目名	高等学校教育実習（福祉）	担当教員 （単位認定者）	江原 京子	単位数 （時間数）	2 （80）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習、教員採用試験対策講座、教科または教職に関する科目、教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、介護概論、介護技術Ⅰ、福祉科教育法を履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 2年次の教員採用試験対策講座及び3年次後期、4年次前期の教授対策講座を必ず受講する者
- 7 1年次より実施する夏期集中講座を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、80時間（2週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校の両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず連絡すること

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席（10％）
- 2 実習校の評価（50％）
- 3 教育実習の記録の評価（40％）

科目名	国語科概論	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導要領、学習指導案、模擬授業				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

小学校国語科学習指導要領の目標・内容を理解し、国語科の基本的な指導法を理解する。

[到達目標]

- ①国語科学習指導要領及び解説について理解することができる。
- ②国語科の基本的な指導方法を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導要領の内容が実際の教科書にどのように具体化しているか理解することができる。
- 2 学習指導要領解説を読み、教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付けることができる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、アンケート、採用試験までの道のり、教師の体験談①
第2回	国語科指導の基礎基本①(心構え、範読、学習指導要領及び解説)、教師の体験談②
第3回	国語科指導の基礎基本②(板書法、配当漢字、ワークシート)、教師の体験談③
第4回	国語科指導の基礎基本③(教材の配列・系統、書写)
第5回	学習指導案の作成方法(主な項目)
第6回	教材研究の仕方(「2年かたかなで書く言葉」言語事項)
第7回	学習指導案の作成(「2年かたかなで書く言葉」言語事項)
第8回	模擬授業の準備(「2年かたかなで書く言葉」言語事項)
第9回	模擬授業①、授業研究会①(「2年かたかなで書く言葉」言語事項)
第10回	模擬授業②、授業研究会②(「2年かたかなで書く言葉」言語事項)
第11回	学習指導案の作成(「2年すみれとあり」説明文)
第12回	模擬授業の準備(「2年すみれとあり」説明文)
第13回	模擬授業③、授業研究会③(「2年すみれとあり」説明文)
第14回	模擬授業④、授業研究会④(「2年すみれとあり」説明文)
第15回	教員採用試験(国語領域)、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関する情報]

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・国語や教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等に目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

- ・初回の授業で明示する。

■評価方法

- ・学期末試験(50%)、授業中の発表・態度(30%)、提出物(20%)

■教科書

- 1 文部科学省:小学校学習指導要領「国語編」東洋館出版社、2008年8月。
- 2 田近洵一他:小学校児童用教科書「ひろがる言葉 1年上、2年上、3年上、4年上、5年上、6年上、計6冊」教育出版

■参考書

- ・講義の中で、随時紹介する。

科目名	国際福祉論	担当教員 (単位認定者)	岡田 修一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉の国際比較、世界各国の社会と福祉、国際社会福祉、国際ボランティア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

世界各国の福祉を検証するとともに国際社会福祉を理解して、国際的な視野・知見を、福祉・介護・保健・教育・保育・行政の現場で活かせるようにする。

〔到達目標〕

- ①国際社会福祉の意義と活動を理解できる。
- ②世界各国の福祉の知見を仕事・実務に活かすことができる。
- ③社会福祉士試験対策や国際社会理解についての知識・情報を得ることができる。
- ④グローバルな視点で現代社会を多面的に分析できる。
- ⑤コミュニケーション能力・表現力・文章力を高められる。

■授業の概要

国際社会福祉論及び世界各国の福祉について講義を行う。社会福祉士試験対策や国際理解について特別講義・実践報告をする。授業は、社会情報学・都市地理学・地域政策学をベースとし、世界の思想史・法制度・経済・生活文化などから、解りやすく行う。学生個人及びグループで発表を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション(自己紹介・授業の進め方)	国際社会福祉とは
第2回	国際社会福祉の位置づけ・沿革・課題	
第3回	国際社会における支援活動 I. 国際社会における展開	
第4回	国際社会における支援活動 II. 国内・在外社会における展開	
第5回	社会福祉の国際比較(個人・グループ発表)	アメリカ、スウェーデン
第6回	社会福祉の国際比較(個人・グループ発表)	デンマーク、イギリス
第7回	社会福祉の国際比較(個人・グループ発表)	フランス、ドイツ
第8回	社会福祉の国際比較(個人・グループ発表)	オーストラリア、ニュージーランド
第9回	社会福祉の国際比較(個人・グループ発表)	中国、韓国
第10回	世界の社会・生活・福祉(フィジー)、国際ボランティア(JICA)活動から	[実践報告・特別講義(英語)]
第11回	世界各国の福祉 I. 欧米の福祉政策を中心に	[社福士試験対策を含む]
第12回	世界各国の福祉 II. アジア諸国の福祉政策を中心に(その1)	
第13回	世界各国の福祉 II. アジア諸国の福祉政策を中心に(その2)	
第14回	世界の社会・生活・福祉(ドイツ・スイスほか)、教育現場から	[実践報告・特別講義(ドイツ語)]
第15回	まとめ(諸外国の福祉) 試験について	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業時に配布するレジュメ・資料を理解すること。
- ・質問や意見また要望について、積極的に行うこと。
- ・発表は、順番を守ること。学生相互の質疑応答を能動的に行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

発表について、役立つ情報・解り易い内容・楽しい話題に心掛け、十分に準備すること。また、オリジナリティを発揮すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席・受講態度:20点、発表:30点、試験(レポート提出):50点

■教科書

「国際社会福祉論」(川村匡由 ミネルヴァ書房)

■参考書

「世界の社会福祉年鑑」(旬報社)、「世界国勢図会」(公財・矢野恒太記念会)、「社会福祉のあゆみ」(金子光一 有斐閣アルマ)、世界地図(成美堂出版)

科目名	子どもの食と栄養	担当教員 (単位認定者)	梅山 節子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもの食と栄養				

■授業の目的・到達目標

人間形成の上で小児期の持つ意味は非常に大きい。
小児には「遊ぶ」ことを通しての発達とやらんで「食べる」ことを通しての体力作り・人間形成が極めて重要である。
小児の状況や保育園・幼稚園・児童施設の現状をふまえ小児の健康と食事のかかわり、食事の位置づけ、食事の与え方などに重点をおき、自らの食生活を確立できるよう指導する。

■授業の概要

調理すること、バランスの摂れた栄養を摂取する事を考えつつ実際の保育の場で必要とされるクッキング保育・食育について食物アレルギー・食中毒のこわさなどを考慮して授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	教科オリエンテーション 実習室の利用・服装・ノートの整理について 手指の汚れ検査			
第2回	調乳について	離乳準備	3～4ヵ月	講義・実習
第3回	離乳初期	5～6ヵ月		〃
第4回	離乳食中期	7～8ヵ月		〃
第5回	〃 後期	9～11ヵ月		〃
第6回	〃 完了期	12～15ヵ月		〃
第7回	幼児の食事			〃
第8回	幼児食（和食）			〃
第9回	幼児食（洋食）			〃
第10回	幼児食（間食）			〃
第11回	幼児食（弁当）			〃
第12回	幼児食（行事食）			
第13回	カルシウム・鉄の多い食事			
第14回	各班毎に手作りおやつを2品作るための打ち合わせ			ノート・レポート提出
第15回	200円で出来るおやつ 実習室の整理			

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中は周りの受講生の迷惑にならないよう私語は厳禁。
実習中はエプロン。三角巾。ハンドタオルを必ず身につける。
長つめ・マニキュア・アクセサリーは禁止 髪はたばねる。
解らない点は時間内で解決するよう努力する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 50% 実習態度（出席・身支度・ノート提出） 50%で評価

■教科書

子どもの食と栄養（医歯薬出版）2400+税 新食品成分表（東京法令出版）760円

■参考書

授業時に指示する。

科目名	子どもの保健Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発育、発達、保育、養護、病状の観察、看護、救急処置、安全環境の確保				

■授業の目的・到達目標

- ①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。
- ②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。
- ③保育における安全な環境を提供することができる。

■授業の概要

子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、日常の保育における健康観察、発育の観察
第2回	発育の観察
第3回	生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価
第4回	子どもの健康増進と保健環境
第5回	健康的な生活習慣形成のための支援技術(1)食事、排泄
第6回	健康的な生活習慣形成のための支援技術(2)衣服着脱、清潔
第7回	子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケア
第8回	子どもの疾病と適切な対応
第9回	事故防止および健康安全管理
第10回	保育の場における救急蘇生法
第11回	子どもにおける一次救命処置
第12回	起こりやすい事故と応急手当
第13回	予防すべき感染症
第14回	予防接種、保育の場で行う感染の予防
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリントを使用して講義をする。ノートをきちんととること。実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込むこと。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(80%)、受講態度(20%)

■教科書

今井七重 編著 子どもの保健Ⅱ (株)みらい 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	肢体不自由教育Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育、肢体不自由				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援教育における肢体不自由教育の基礎を学び、肢体不自由児に対する基本的な教育実践ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①肢体不自由の概念を知る。
- ②肢体不自由教育の歴史を知る。
- ③特別支援教育としての肢体不自由教育の内容を理解できる。
- ④肢体不自由教育の現状と課題を理解できる。

■授業の概要

肢体不自由特別支援学校の現状を学ぶことで特別支援教育の中身を知る。特別支援教育の中で使われるキーワードを学ぶ中で、それを文章化したり小テストで整理することで特別支援教育の基礎を学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	肢体不自由児の学ぶ学校
第3回	肢体不自由教育の歴史
第4回	主な疾患の変遷と肢体不自由教育の課題
第5回	肢体不自由児の病理
第6回	肢体不自由児の心理1
第7回	教育課程の編成
第8回	個別の指導計画・教育支援計画
第9回	自立活動の指導1
第10回	自立活動の指導2
第11回	肢体不自由教育と関係機関、保護者との連携
第12回	肢体不自由児の授業の実際1
第13回	肢体不自由児の授業の実際2
第14回	高等部の教育
第15回	肢体不自由教育の現状 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

遅刻、欠席は必ず届け出る。積極的な受講態度を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

特別支援教育に関する情報に、普段から触れておくこと。

■オフィスアワー

授業時に伝えます。

■評価方法

- ・定期筆記試験（80％） 再試験あり
- ・平常授業におけるレポート課題（期限内に提出、課題に則し考察が述べられている、使用文献が示されている）（20％）

■教科書

筑波大学附属桐が丘特別支援学校編著「肢体不自由教育の理念と実践」ジヤース教育新社

■参考書

授業時に紹介します。

科目名	肢体不自由教育Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育、肢体不自由				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

肢体不自由教育の仕組みを学び、肢体不自由教育が直面している今日的課題を理解する中で、肢体不自由児に対する教育方法の実践を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①肢体不自由教育の仕組みが理解できる。
- ②教育課程の特徴が理解できる。
- ③肢体不自由児の基本的な接し方や介助の仕方を理解し実践できる。
- ③自立活動の内容や方法が理解できる。
- ④障害者福祉と進路指導の接点や課題を理解できる。

■授業の概要

肢体不自由教育の実際的課題、社会福祉とのかかわりを学んでいく。肢体不自由教育や特別支援教育の中で使われるキーワード等を学ぶ中で、文章化したり、テストで整理することで特別支援教育としての肢体不自由教育を学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	肢体不自由教育の実際
第3回	個別の指導計画
第4回	自立活動の指導
第5回	重度・重複児の指導
第6回	肢体不自由児の教科指導
第7回	肢体不自由児の教科指導(国語、算数、社会)
第8回	肢体不自由児の教科指導(理科、美術、音楽)
第9回	肢体不自由児の教科指導(保健体育、技術・家庭科、英語)
第10回	視覚に障害のある肢体不自由児の指導
第11回	子どもの気持ちに寄り添うということ
第12回	肢体不自由児の心理2
第13回	教育支援計画
第14回	高等部の進路指導
第15回	肢体不自由教育の今後の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

遅刻、欠席は必ず届け出る。積極的な受講態度を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

特別支援教育に関する情報に、普段から触れておくこと。

■オフィスアワー

授業時に伝えます。

■評価方法

- ・定期筆記試験(80%) 再試験あり
- ・平常授業におけるレポート課題(期限内に提出、課題に則し考察が述べられている、使用文献が示されている)(20%)

■教科書

日本肢体不自由教育研究会監修「肢体不自由教育の基本とその展開」慶応義塾大学出版

■参考書

筑波大学附属桐が丘特別支援学校編著「肢体不自由教育の理念と実践」ジアース教育新社

科目名	肢体不自由者（児）の心理生理病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	原因疾患の定義、病因、疫学、分類、症状、検査と診断、治療、予後、予防、看護、心理特性とケア				

■授業の目的・到達目標

- ①肢体不自由をきたす疾患について説明することができる。
 ②肢体不自由者（児）の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

肢体不自由者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。肢体不自由者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、肢体不自由者（児）の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	脳性麻痺
第3回	二分脊椎
第4回	筋ジストロフィー
第5回	ベルテス病
第6回	骨系統疾患
第7回	手足の先天奇形
第8回	先天性多発性関節拘縮症
第9回	ダウン症の整形外科の合併症
第10回	先天性股関節脱臼
第11回	リハビリテーション
第12回	看護
第13回	療育上とくに留意すべき事項（1）
第14回	療育上とくに留意すべき事項（2）
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

肢体不自由者(児)の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（80%）、受講態度（20%）

■教科書

篠田達明監修 肢体不自由児の医療・療育・教育 金芳堂 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	社会科概論	担当教員 (単位認定者)	梅山 文秀	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生きる力 考えたことを表現する力 伝統・文化教育の充実 公正に判断する力 問題解決能力 事例学習				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

小学校社会科は、社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情とを育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目標としていることを理解し、各学年ごとの指導内容を体系的につかむことができるようになること。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領のポイント・特色を理解すること。
- ②教科の目標及び各学年の目標を理解すること。
- ③各学年の学習目標と学習内容を理解すること。
- ④基礎となる考え方を理解すること。

■授業の概要

「生きる力」という理念をもとにした学習指導要領の主なポイント・特色について学ぶ。
指導要領の見方を学び、各学年の目標及び学習内容をワークシートにまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領のポイント
第2回	学習指導要領のポイント、小学校社会科指導要領の特色
第3回	特色を活かすためのポイント
第4回	社会科の目標
第5回	小学校社会科指導要領の見方
第6回	小学校社会科学習指導要領の学年別目標
第7回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容①
第8回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容②
第9回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容③
第10回	第5学年の学習目標と学習内容①
第11回	第5学年の学習目標と学習内容②
第12回	第5学年の学習目標と学習内容③
第13回	第6学年の学習目標と学習内容①
第14回	第6学年の学習目標と学習内容②
第15回	第6学年の学習目標と学習内容③

■受講生に関わる情報および受講のルール

小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。
教育関係の報道等に留意し、自らの考えを明確に持つようにしておくこと。
地理・歴史・公民の基礎知識について確認しておくこと。
配付資料やワークシートは必ず保管すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞を毎日読むこと。博物館や資料館等を利用すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験にて評価する。

■教科書

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版社 2008

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	社会心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自己意識、社会的比較、印象形成、態度、ヒューリスティックス、社会的アイデンティティ他				

■授業の目的・到達目標

人の心と社会の関係を心理学的視点でとらえる視点を学習する。そのことにより、自己と他者の心をより深く理解し、よりよい関係づくりができるようにする。同時に、人が生きる社会の状況を、心理学的に把握するための知識を学ぶ。

■授業の概要

人は“社会”に生まれ“社会”に育ち、“社会”の中で生きている。それゆえ、社会的状況や対人関係に大きく影響を受けながら存在している。社会心理学では、そうした社会的状況における人の心理や行動に注目し、そこに見られる一定の法則性や傾向について明らかにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、社会的認知①
第2回	社会的認知②
第3回	感情
第4回	態度と説得
第5回	自己の成り立ち①
第6回	自己の成り立ち②
第7回	公正さに関わる問題
第8回	対人行動① 援助行動
第9回	対人行動② 攻撃行動
第10回	対人関係
第11回	受容と排斥
第12回	集団の中の個人①
第13回	集団の中の個人②
第14回	集団間関係①
第15回	集団間関係②

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる上方] 選択科目ではあるが、社会福祉士等国家試験に関連する基礎知識も扱う予定
[受講のルール] 授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話の使用等)は退席を命じます。その場合は、欠席扱いとします。

- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象となりますので、必ず提出してください。
- ・受講においては積極的な授業参加と授業準備に心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

指示がない場合は、シラバスに基づき教科書中の、次回該当部分を予習すること。課題がある場合は、次の授業までに提出すること。

■オフィスアワー

キャリアサポートセンター在室中に声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30%(30÷提出回(予定5回)=1提出物得点(1回6点満点:提出により得点))

■教科書

脇本竜太郎編著(2014) 基礎からまなぶ社会心理学 サイエンス社

■参考書

適宜指示

科目名	社会調査の基礎(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	量的調査、質的調査、データ分析、エクセル、記述統計				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]
社会福祉士受験のための知識習得をを目的とする。
[到達目標]
社会調査の手続きを理解する。
量的調査・質的調査についての知識を得る。
調査における倫理について理解する。

■授業の概要

本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会調査の理論とその分析手法について解説を行う。
講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポートの作成方法についての解説がなされることになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	授業ガイダンス インTRODクシヨン・社会調査の意義と目的
第2回	社会調査の対象
第3回	社会調査における倫理および個人情報保護
第4回	量的調査の方法 全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査
第5回	量的調査の方法 全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査
第6回	量的調査の方法 測定
第7回	量的調査の方法 質問紙作成の留意点 調査票の配布と回収
第8回	データ分析
第9回	データ分析
第10回	データ分析
第11回	質的調査の方法 観察法 参与観察・非参与観察
第12回	質的調査の方法 面接法 自由面接法、構造化面接法、半構造化面接法
第13回	質的調査における記録の方法と留意点 コード化の問題について
第14回	質的調査のデータ整理と分析
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]
PC室・LL教室での講義・実習が主体となる。
[受講のルール]
データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。
マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識(if関数等)を前もって習得しておくことが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

・エクセルとワードが不得手の学生は1年次の情報処理のテキストを持ってくること。教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

コメント評価(20%)、レポートの提出(30%)、到達テスト(30%)、小テスト(20%)

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 第5巻 社会調査の基礎 第3版 中央法規 2010

■参考書

向後 千春・富永 敦子 統計学がわかる(ファーストブック) 技術評論社(購入義務はない) 2007

科目名	社会調査の基礎(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計調査				

■授業の目的・到達目標

社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学び、実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに、将来、保育士・幼稚園教諭のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける。

■授業の概要

本講義では、種々の社会現象(e.g.、社会問題、流行)について調べ、解明するための理論と統計的方法について解説を行う。講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の2本立てから成るが、単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく、適宜、多様な具体例を提示しながら、事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 社会調査を学ぶにあたって
第2回	社会調査の目的 社会調査と社会福祉調査
第3回	社会調査のプロセス 社会調査研究の手順とプレゼンテーション
第4回	社会調査の種類「社会調査」の歴史の変遷とその大別
第5回	標本抽出法Ⅰ 無作為標本抽出法と有意抽出法
第6回	標本抽出法Ⅱ 無作為標本抽出法の演習
第7回	データの収集法 質問紙調査法、参与観察法、生活史法 ほか
第8回	質問紙調査票(アンケート)の作成方法 質問項目の執筆における留意点を中心に
第9回	データの処理・集計 データの数値化、単純集計・クロス集計
第10回	統計分析Ⅰ 記述統計量(代表値、散布度、分布型)
第11回	統計分析Ⅱ ピアソンの積率相関係数
第12回	統計分析Ⅲ 統計的検定とは
第13回	統計分析Ⅳ カイ2乗検定の実際
第14回	質的調査法 質的データによる研究方法
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

アンケート(調査票)による統計調査の方法とその分析法に関する授業です。社会問題や世論などについてデータ(根拠)に基づいて考える視点を学びたい受講生を望みます。また、受講にあたっては恒常的に出席してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(60%)・課題レポート(20%)の結果に、平常点(20%)(出席率及び受講態度)を加味した総合評価を行います。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会(編)「新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎 第3版」中央法規出版,2013年

■参考書

黒田宣代・東 巧(著)「新版 よくわかる社会調査法 -基礎から統計分析まで-」大学教育出版,2008年 ほか適宜紹介

科目名	社会的養護Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	矢嶋 衛	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会的養護・児童虐待・要保護児童・子どもの権利・施設養護				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

社会的養護について何かを理解し、要保護児童およびその家庭に対する支援方法についての基本を学んでいく。

[到達目標]

児童虐待等要保護児童が増加している現状を認識し、社会的養護の課題及び対応策について考察していく。

■授業の概要

急増している児童虐待をはじめとする要保護児童を取り巻く社会環境、歴史的経過、法整備状況、社会的養護の現状、課題及び児童の権利に関する条約に基づいた要保護児童の権利擁護等社会的養護の総論について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	・オリエンテーション・社会的養護とは何か
第2回	・現代社会に暮らす子どもと家庭
第3回	・子どもの権利
第4回	・子どもの養護の歴史
第5回	・社会的養護の体系 → 家庭・施設・里親
第6回	・社会的養護の制度
第7回	・施設養護の特質
第8回	・施設養護の基本原則
第9回	・施設養護の実際 → 日常生活支援・自立支援
第10回	・施設養護の実際 → 治療的・支援的援助
第11回	・施設養護の実際 → 親子・地域との関係調整
第12回	・社会的養護とソーシャルワーク
第13回	・児童福祉施設の運営管理
第14回	・児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理
第15回	・社会的養護のあるべき姿(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・日頃の日常生活のなかで児童虐待等要保護児童に関する情報に関心をもって授業に望まれない。

[受講のルール]

・出席時間の厳守、授業の流れや雰囲気乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・社会的養護に関する法令について、日頃から社会福祉小六法の活用を億劫がらずに習慣づけること。
- ・予習復習に努め、わからない内容があった時は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。

■オフィスアワー

・質問事項等ある場合にはコメントカードに記述すること。次回授業時にインフォメーションします。

■評価方法

- ・筆記試験 70%および授業中の課題(小テスト等実施) 30%。
- 総合評価は筆記試験が 60%を超えていることが前提となる。

■教科書

・ミネルヴァ書房:新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著

■参考書

・社会福祉小六法(授業時に持参すること)

科目名	社会的養護Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	矢嶋 衛	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会的養護の理念・社会的養護のニーズ・社会的養護の実践を支える機関・施設				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

児童虐待を主とした「要保護児童」の支援策について学び、将来児童福祉の専門職としての実践力を養う。

〔到達目標〕

要保護児童を取り巻く社会的背景、関連する法制度を理解し、児童の権利擁護を基本理念とする要保護児童の保護、自立を支援していく専門機関・児童福祉施設の組織、機能を学び社会的養護の課題、対応策について考察力を養う。

■授業の概要

急増している児童虐待は子どもの心身の成長に深刻な影響を与えており、虐待の予防、早期発見、子どもの権利侵害への介入支援および社会的養護の基本理念、法制度、実践にかかわる技術等将来保育現場や児童養護施設等児童福祉の専門職員を目指す者に対して現場で役に立つ実践的な知識の取得と支援力を内容としている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	・オリエンテーション・子どもと家族に対する社会的サポート
第2回	・社会的養護の意義と役割について
第3回	・社会的養護ニーズの変遷
第4回	・社会的養護ニーズの変遷から考察される要保護児童問題と対応策について
第5回	・児童養護の体系 → 家庭養護・社会的養護
第6回	・地域における社会的養護 → 家庭・地域社会と子育て支援
第7回	・児童養護の実施機関 → 児童相談所
第8回	・家庭的養護(里親制度)・施設養護
第9回	・施設における児童養護Ⅰ → 施設養護の基本原則
第10回	・施設における児童養護Ⅱ → 治療的支援
第11回	・児童福祉施設で実践を支える専門技術Ⅰ → 相談援助・ケアワーク
第12回	・児童福祉施設で実践を支える専門技術Ⅱ → 自立支援・家族支援
第13回	・児童福祉施設の運営管理Ⅰ → 社会福祉における運営管理のもつ意味・措置制度
第14回	・児童福祉施設の運営管理Ⅱ → 最低基準・入所児童の人権擁護等
第15回	・社会的養護の課題・将来像

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・児童虐待等「要保護児童」や子育て支援等社会的養護に関する情報の把握について日々努めること。

〔受講のルール〕

・出席時間の厳守、授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・ボランティア、施設実習等の児童福祉の専門教科と関連付けてこの授業内容を理解する視野の広い勉強に努めること。
・予習復習に努め、わからない内容があった時は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。

■オフィスアワー

・質問事項等についてはコメントカードに記述すること。次回の授業時にインフォメーションします。

■評価方法

・筆記試験 70%及び授業中の課題(小テスト等実施) 30%。

■教科書

・同文書院:保育教育ネオシリーズ松原康雄編著「養護原理」

■参考書

・社会福祉小六法を授業時に持参すること。

科目名	社会的養護内容	担当教員 (単位認定者)	吉野 芳郎	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育を取り巻く社会環境 女性の就労の増大 保育ニーズの多様化 各施設の養護特性				

■授業の目的・到達目標

保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、都市化は地域生活の有り様に影響を与え、女性就労の増大、核家族化や少子化は家庭生活を根本から問い直しが求められる。豊かな人間性を持った子どもを育てることが保育の特性である。本演習では、総体的に社会的養護の内容を理解し、考察していく。

■授業の概要

施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要であり、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的とした。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、社会的養護の内容とは(総論)
第2回	児童福祉施設入所の意義について
第3回	児童福祉施設の社会的養護について
第4回	子どもの権利の特徴について 子どもの心の理解
第5回	生存と発達の保障について
第6回	児童福祉施設における援助・支援の理念
第7回	保育士の倫理及び責務について
第8回	児童福祉施設における子どもの心の理解について
第9回	各施設における具体的な養護の援助内容 (乳児院・母子生活支援施設)
第10回	各施設における具体的な養護の援助内容 (児童養護施設・児童自立支援・里親委託)
第11回	各施設における具体的な養護の援助内容 (知的障害児施設・肢体不自由施設・重症心身児施設)
第12回	ファミリーホーム・自立援助ホーム・家庭支援センターの課題と将来像
第13回	児童福祉施設の援助者の役割について 施設人員配置の課題と将来像
第14回	家庭支援の基本とその内容について
第15回	児童福祉施設における社会的養護の課題と将来像について まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人との出会いを大切に学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
- ・欠席・遅刻者の代返は認めない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業に取り組む姿勢 *レポート *提出物(提出期日厳守)

■教科書

養護内容 福永博文編者 北大路書房

■参考書

指定しない。

科目名	社会福祉史	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉の歴史的視点				

■授業の目的・到達目標

社会福祉の歴史的変遷を見ながら、現代に至るまでの歴史的事実を学ぶ。
日本および各国の福祉史を見ることで、現在の福祉（社会保障）の問題点を探れるようになる。

■授業の概要

日本および主要各国の福祉の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷1
第3回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷2
第4回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷3
第5回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷4
第6回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷5
第7回	日本の社会福祉の歴史的変遷1
第8回	日本の社会福祉の歴史的変遷2
第9回	日本の社会福祉の歴史的変遷3
第10回	日本の社会福祉の歴史的変遷4
第11回	日本の社会福祉の歴史的変遷5
第12回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷1
第13回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷2
第14回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷3
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習復習を行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気やを乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで必要に応じて伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで伝える。

■評価方法

期末試験 80% 出席等受講内容 20%

■教科書

清水・朴 編著「よくわかる社会福祉の歴史」 ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで適宜伝える。

科目名	社会福祉特講Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。

〔達成目標〕

社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。

■授業の概要

既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション(授業ガイダンス、国家試験の傾向と対策)
第2回	学習目標、学習計画の立案
第3回	人体の構造と機能および疾病
第4回	心理学理論と心理的支援
第5回	月例テスト
第6回	福祉行財政と福祉計画
第7回	相談援助の基盤と専門職
第8回	高齢者に対する支援と介護保険制度
第9回	月例テスト
第10回	保険医療サービス
第11回	社会理論と社会システム
第12回	月例テスト
第13回	1年次の復習①
第14回	1年次の復習②
第15回	月例テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

試験またはレポート 40%、月例テスト 30%、課題への取り組み・提出物など 30%

■教科書

最新の国家試験問題。該当科目のテキスト、ノート、用語辞典、参考書など該当科目問題の解説作りに活用できるもの全て。

■参考書

授業にて適宜紹介する。

科目名	社会福祉法制	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	寡婦条、目盲条、社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、障害者自立支援法				

■授業の目的・到達目標

社会福祉は、憲法 25 条にその根拠を置くが、その多くは、憲法 25 条を具体化した福祉 6 法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。

- ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。
- ②六法で条文を調べることができる。
- ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ④法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉 6 法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第 1 回授業にて説明します。

第 1 回	科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系
第 2 回	社会福祉の法と行政のあゆみ
第 3 回	日本国憲法と社会福祉
第 4 回	社会福祉法Ⅰ(理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など)
第 5 回	社会福祉法Ⅱ(社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など)
第 6 回	生活保護法Ⅰ(目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など)
第 7 回	生活保護法Ⅱ(保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など)
第 8 回	児童福祉法
第 9 回	母子及び寡婦福祉法
第 10 回	身体障害者福祉法Ⅰ(目的、定義、実施機関と専門職務者など)
第 11 回	身体障害者福祉法Ⅱ(更生援護、事業および施設など)
第 12 回	知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
第 13 回	障害者総合支援法
第 14 回	老人福祉法、介護保険法
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・船水浩行 編著「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房,2010 年

■参考書

社会福祉六法(例:ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房,2013 年)

科目名	住環境福祉論	担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	バリアフリー、住宅改修				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

福祉・医療・建築について体系的に幅広い知識を身につけ、高齢者や障害者に対する住環境整備のあり方を理解し、在宅生活においては実際に問題解決を提案できる能力を養う。

[到達目標]

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②在宅生活において、生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ③基本的な建築用語を理解でき、設計図面から簡単な情報を読み取ることができる。

■授業の概要

高齢者や障害者をとりまく住環境の問題点を抽出し、福祉・医療・建築など多方面から解決方法をアプローチする。福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級のテキストに準拠する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・住環境整備の必要性・介護保険制度における住宅改修
第2回	高齢者の特性と住環境整備(1)
第3回	高齢者の特性と住環境整備(2)
第4回	高齢者の特性と住環境整備(3)
第5回	小テスト①と問題解説。障害者の特性と住環境整備(1)
第6回	障害者の特性と住環境整備(2)
第7回	住宅建築の基礎知識(1)
第8回	住宅建築の基礎知識(2)
第9回	住環境整備の進め方
第10回	小テスト②と問題解説。住環境整備の共通基本技術(1)
第11回	住環境整備の共通基本技術(2)
第12回	生活行為別住環境整備の手法(1)
第13回	生活行為別住環境整備の手法(2)
第14回	生活行為別住環境整備の手法(3)
第15回	小テスト③と問題解説。バリアフリーとユニバーサルデザイン

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中のノート筆記は必ず行う。小テスト(テキスト準拠・テスト前回の講義時に範囲を提示する)は必ず受ける。

■授業時間外学習にかかわる情報

住宅、街、道路、交通など、自分の身の回りの生活環境を、授業で学習した住環境整備の視点で観察し、発見や疑問を授業内で確認、質問する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験で100%の評価をする。

■教科書

東京商工会議所編・出版:福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト 改訂 3 版

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	就職指導	担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数 (時間数)	0 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	就職指導				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

望ましい職業観、社会人としての心構えや基本的なマナーを身につけ、就職及び進路に対する意識の高揚を図る。

〔到達目標〕

1. 自己の適性について理解できる。
2. 自己を振り返り、自己課題を見つけることができる。
3. 自己理解、自己覚知を行い、自分自身の進路選択ができる。

■授業の概要

学生一人ひとりが、建学の精神やボランティア活動を踏まえた中で、実社会において自分の力を存分に発揮できる『適職』を見つけることができるような指導を行う。また社会に貢献できる能力を高めるために、大学生活をより深化するための計画化の徹底を図り、人間にとって職業が重要であることを踏まえた「職業に就くことを志す→職業を見つける→必要な訓練を行う→職業に適応していく」という個人の一連の過程全体を支援する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	就職に対する考え方・キャリアデザイン・指導年間計画・進路希望調査
第3回	自己理解・志望先の決定
第4回	応募から内定までの流れ・基本原則・就職関係書類
第5回	求人票の見方・就職情報システム①
第6回	求人票の見方・就職情報システム②
第7回	マナー指導
第8回	履歴書作成
第9回	応募の基本的事項(電話対応・求人依頼等)
第10回	就職試験・採用側が望む人材とは
第11回	面接の基本・成功する面接
第12回	就職試験・採用側が望む人材とは
第13回	面接の基本・成功する面接
第14回	面接ロールプレイ
第15回	試験前日の心得・採用試験当日の心得・内定後の心得

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・本科目は就職を希望する学生全員が受講すること。
- ・すべての講義に出席すること。
- ・自分自身の適性について理解を深め積極的に就職活動を行う意識を高揚させ講義を受けること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を確認し積極的に授業に望むこと。
- ・他の学生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に適宜指示する。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

なし

■教科書

『進路の手引き』（群馬医療福祉大学キャリアサポートセンター発行）を資料として使用する。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	就労支援サービス	担当教員 (単位認定者)	宮本 雅央	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	就労支援、労働、地域生活				

■授業の目的・到達目標

障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。

到達目標:

- ①労働の権利性について理解し、言語化できる。
- ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。
- ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。
- ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。
- ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法についてイメージした事を言語化できる。

■授業の概要

労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。

この授業では、1) 就労と就労支援の意義 2) 労働市場の動向 3) 労働法規の概要 4) 就労支援制度の概要 5) 就労支援サービスの実施体制 6) 就労支援を取り巻く各分野(労働、福祉、教育など)における連携と実際

これらの内容を中心に、「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション	講義の目的、到達目標、評価方法等の理解
第2回	労働の意義	働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割
第3回	現代の労働を取り巻く状況	労働市場の変化
第4回	労働に関する法律と制度	
第5回	障害者と就労支援 1	障害者の就労の現状
第6回	障害者と就労支援 2	障害者福祉施策における就労支援
第7回	障害者と就労支援 3	障害者雇用施策における就労支援
第8回	障害者と就労支援 4	障害者に対する就労支援における専門職の役割
第9回	障害者と就労支援 5	障害者に対する就労支援における民間の取り組みと諸外国の取り組み
第10回	低所得者と就労支援 1	支援の対象像
第11回	低所得者と就労支援 2	低所得者の就労の現状と就労支援制度
第12回	低所得者と就労支援 3	組織や団体、専門職の役割
第13回	連携とネットワーク 1	就労支援とケアマネジメント
第14回	連携とネットワーク 2	ネットワークを活用した就労支援の実際①
第15回	連携とネットワーク 2	ネットワークを活用した就労支援の実際②

■受講生に関わる情報および受講のルール

この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。なお、小テスト等の課題を毎時間実施し、評価対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援法」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

定期試験50%、小テスト等の提出物30%、レポート20% とする。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス」中央法規(最新版)

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	障害児教育総論	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害児教育総論				

■授業の目的・到達目標

障害児教育総論の目的は、日本及び世界の障害児が置かれた状況を理解し、「その人らしい人生を送る事が出来ること」を保障するために、何が必要か?どのように支援すべきか?等調査・研究し、私たちが国民皆教育に向けて何を努力すべきか?を学びます。

■授業の概要

障害児教育総論は、障害児の置かれた社会状況や実際の家庭生活状況を調査・研究する。そのため、国連のユネスコ委員会の答申及びそれを受け入れたわが国政府による文部行政にまで視野を拡げて学びます。更に、身近な障害児の状況(障害種別・程度)を調べたり、特別支援学校でのボランティア活動を通じて、障害児を支援し、実態を知ることである。わが国の社会情勢を見極めながら、何が求められているのか?どうすれば障害児が地域の学校教育を受けられるのか?実践的に調査・研究し、対策等を考える講義である。最後に、障害児に関する「レポート」を課する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション:この講義の狙い ~特別支援教育体制とは?~
第2回	講義1:「障害児」とは? 重複障害とは??知的障害とは? Etc.
第3回	講義2:障害児の置かれた歴史的状況について ~有史以来の状況~
第4回	講義3:わが国の障害児教育について。その1 ~特殊教育から特別支援教育へ~
第5回	講義4:わが国の障害児教育について。その2 ~特殊教育から特別支援教育へ~
第6回	講義5:「障害児の何が問題なのか?」 ~特別支援教育体制確立に向けて~
第7回	講義6:「障害児教育問題の根底とは何か?」 ~家庭の経済的問題や障害の種別とその発生(発症)原因は~
第8回	討論1:「身近に感ずる障害児問題とは?」 ~遊び・交友・交通問題など~
第9回	調査・発表1:「身近な障害児について」 ~親族及び障害児の通学問題など~
第10回	調査・発表2:「身近な障害児について」 ~親族及び障害児の通学問題など~
第11回	調査・発表3:「身近な障害児について」 ~親族及び障害児の通学問題など~
第12回	講義7:「わが国の障害児対策について」その1 ~公的補助とは?~
第13回	講義8:「わが国の障害児対策について」その2 ~就学支援対策について~
第14回	講義8:「わが国の障害児対策について」その3 ~就業問題等に関する施策について~
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

身近な障害児に対する支援活動を通して、実際の障害児問題を把握し、その解決の為に何が必要かを自ら考え行動しなければならない。従って、単純に受講すればよいという態度では、この講義の目的を修得することは困難である。「障害児を知る」これがポイントである。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

障害児に対する意識及び実際の支援活動(ボランティア活動等)を通じて、自分なりの障害児感を確立すること。それがこの講義の評価ポイントである。事例発表(レポート)40%、出席60%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	障害児(者)心理学	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障がい特性、障がいの受容、家族支援				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

本講義では、障がい者(児)の心理的特性について学ぶとともに、様々な障がい特性についても理解する。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 障がいとその心理的影響 ⇒ 障がい者への対応」という道筋で、障がい者への心理面の援助アプローチについても考え、理解する。

〔到達目標〕

- ①色々な障がいの様々な心理的特性について、理解できる。
- ②障がいをお持ちの方の心理的特性を理解した上で、どのようなサポートが大切か考えることができる。

■授業の概要

人間の成長発達と心理的理解を礎として、障がいをもつこととそのことによる心理的影響を理解した上で、障がい者への心理面の援助アプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 障がいとは何か、障がいの及ぼす影響
第2回	障がいのとらえ方
第3回	視覚障がいと心理的特性
第4回	聴覚障がいと心理的特性
第5回	運動障がいと心理的特徴
第6回	知的障がいと心理的特徴
第7回	発達障がいと心理的特徴(自閉症)
第8回	発達障がいと心理的特徴(学習障がい、ADHD)
第9回	精神の障がいと心理的特徴
第10回	コミュニケーションの障がいと心理的特徴
第11回	その他の障がいと心理的特徴
第12回	障がい者のおかれている環境と心理的援助について
第13回	障がいの受容
第14回	障がいの受容と家族の問題
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「福祉心理学」、「心理学理論と心理的支援」を受講済みであることがのぞましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)、出席状況、受講態度等(40%)
 - ②学期末試験(60%)
- ①～②を総合的に評価する。

■教科書

田中新正・古賀精治 著 『新訂 障害児・障害者心理学特論』 放送大学教育振興会 2013年

■参考書

和田和弘、福屋靖子編 『障害者の心理と援助』 メヂカルフレンド社 1997年

科目名	障害児保育	担当教員 (単位認定者)	吉野 芳郎	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害の理解 人間の尊厳 分離保育 統合保育 親の思い				

■授業の目的・到達目標

まず、障害を理解することから出発。早期発見、早期治療は発達を促す上で重要です。各種の施設で、障害を持つ幼児の指導や訓練が活発に展開されて、発達援助を日常化させています。保育の現場でも受入れが進む中で、子供たちの発達に有効な保育実践が求められます。本演習では、実践に役立つ保育の在り方とその方法論について演習考察していく。

■授業の概要

障害を理解すること、すなわち、頭で理解し、障害の質と広がりを感じ、障害の本質を探究、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的とした。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、障害児保育とは(総論)
第2回	障害児福祉の理念について 障害を持つ子の保育について
第3回	障害の概念について ノーマライゼーションに辿り着くまで
第4回	心身の障害とその理解(1) 障害の種類について(知ること・理解すること・慣れること)
第5回	心身の障害とその理解(2) 障害の発見について 障害の原因について
第6回	障害児保育の歴史と現状(1) 社会福祉事業の発端 障害児保育の変遷
第7回	障害児保育の歴史と現状(2) 福祉の医療と教育について
第8回	関係機関との連携について
第9回	障害児に起こりやすい病気について
第10回	健康と発達について 基本的な生活習慣の意義について
第11回	治療教育の考え方 保育・教育の場から社会へ
第12回	保育・療育での関わりと育ちについて
第13回	地域・家庭での育ちについて
第14回	障害児保育の形態について 分離・交流・統合保育の特質について
第15回	親の願い 家族の抱える問題 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人との出会いを大切にする学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
- ・欠席・遅刻者の代返は認めない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業に取り組む姿勢 *レポート・提出物(提出期日厳守)

■教科書

指定しない

■参考書

指定しない

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	担当教員 (単位認定者)	松永 尚樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	尊厳 共生・共存 施策の多様性 支援 実践				

■授業の目的・到達目標

ノーマライゼーションを基調に命の尊厳および自立支援を基本理念に障害者の障害児者施策・制度の現状および公私の実践を障害児者関係法と関連させながら明らかにし理解させる。これらを通じて、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応できる能力を身につけさせること。

■授業の概要

障害児者施策は、社会福祉分野のみならず、医療・保健・教育・労働など関係分野も幅広く存在するので、これらの現状を含めて学習する。さらに、今日的課題となっている社会福祉基礎構造改革による措置から選択・契約へとこの経過を基調に社会福祉施策と障害児者施策について関係法を基調に学習し、今後の展望や課題を示唆するなど総合的な学習も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 障害児者福祉の史的な展開過程を明らかにする	教科書
第2回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態をめぐって(1)	〃
第3回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態をめぐって(2)	〃
第4回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態をめぐって(3)	〃
第5回	障害者にかかわる法体系をめぐって(1)	〃
第6回	障害者にかかわる法体系をめぐって(2)	〃
第7回	障害者にかかわる法体系をめぐって(3)	〃
第8回	障害者自立支援制度(1-1)	〃
第9回	障害者自立支援制度(1-2)	〃
第10回	障害者自立支援制度(2)	〃
第11回	組織・機関の役割	〃
第12回	専門職の役割と実際(1)	〃
第13回	専門職の役割と実際(2)	〃
第14回	多職種連携・ネットワーキング(1)	〃
第15回	多職種連携・ネットワーキング(2)	〃

*以上に、第2回目から第15回まで「ミニ問題」を与え、解答させた上で解説し、国家試験に備える。また、合わせて『新聞の切り抜き』記事の紹介、『良書紹介』として優良図書を紹介する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習・復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

提供される「ミニ問題」は必ず事前学習し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験 40%、小テスト 20%、リアクションペーパー 30%、提出物 10%

■教科書

新・社会福祉士養成講座第14版 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」 (株)中央法規出版発行

■参考書

福祉小六法編集委員会「福祉小六法」2014年版 (株)みらい発行

科目名	小学校教育実習	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	4 (160)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童理解、教科指導、生活指導、使命感				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習を通して得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、実習指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能を修得することができる。
- 2 教科指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養うことができる。
- 3 「実習へのガイドブック」を活用し、自ら実習準備やまとめができるようにする。

■実習履修資格者

本学における小学校教育実習を履修できる者は、原則として教育職員免許法に定める「小学校教諭一種免許状」取得を目指す4年次の学生で、次に掲げる要件を全て満たす者である。

- ①将来、小学校教諭として小学校の現場で働く意思を強く持っている者
- ②心身の健康状態が、実習を行うのに適当である者
- ③上記免許状取得に必要な教育実習事前事後指導、各教科概論、各教科教育法等の単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ④基礎演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱの単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ⑤1～3年次の東京アカデミー夏期集中講義を受講する者
- ⑥2年次の教員採用試験対策講座を受講する者
- ⑦3年次の教育実習事前事後指導で行われる教員採用試験対策講座を受講する者
- ⑧実習後に各自自治体で実施している小学校教員採用試験を必ず受験する者

■実習時期及び実習日数・時間

原則として第4学年の6月中に、160時間(20日間)の実習を行う。

■実習上の注意

- 1 教育実習に参加する要件を備えていること(必修単位取得)
- 2 事前ガイダンスの受講及び「教育実習の記録」の提出を必須とすること。

【実習中止の措置】

本学指導教員及び実習校指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。また、実習中、不適切な言動があった場合は、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。

■評価方法

- 実習報告会(10%)
- 実習校の評価(50%)
- 「教育実習録」の評価(20%)
- 授業中の発表・態度(20%)

科目名	情報メディアの活用	担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報メディア、情報検索、 データベース、 インターネット				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。
- ②データベースの構造を理解できる。
- ③情報検索の理論と技法を習得する。
- ④著作権法を理解できる。

■授業の概要

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、メディア専門職としての司書教諭
第2回	高度情報通信社会と学校図書館
第3回	情報メディアの発達
第4回	情報メディアの特性と選択
第5回	視聴覚メディアの活用
第6回	教育用コンテンツの活用
第7回	データベースと情報検索(1) データベースの構造
第8回	データベースと情報検索(2) 情報検索の技法
第9回	インターネットによる情報活用(1) 概説
第10回	インターネットによる情報活用(2) 情報検索演習
第11回	インターネットによる情報発信・情報共有と情報モラル
第12回	著作権とメディア(1) 著作権法概説①
第13回	著作権とメディア(2) 著作権法概説②
第14回	著作権とメディア(3) 学校図書館と著作権
第15回	著作権とメディア(4) インターネットと著作権、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・指定した予習・復習は必ず行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末レポート(試験) 60% 授業中の小レポート 40%

■教科書

井口磯夫編「情報メディアの活用」樹村房(司書教諭テキストシリーズ05)(最新版)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	初等教育実習事前・事後指導(4年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習の準備と整理、教員採用試験の準備、授業省察				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

教育実習の準備、実施、省察を行い、「実践的指導力」を身に付けることを目的とする。

[到達目標]

- ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の詳細を理解することができる。
- ②教員採用試験に合格する力量を身に付けることができる。
- ③小学校現場で、学習指導・生活指導の実際を学ぶ。

■授業の概要

- 1 現場での学習指導、生活指導、学級経営の実際について学ぶ。
- 2 教員採用試験の詳細について理解し、第一次試験・第二次試験の出題傾向を理解することができる。
- 3 模擬授業、授業研究等、自己課題について互いに学び合うことができる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、教育実習の理解と手続き①(実習の心構え)、教員採用試験対策①
第2回	教育実習の理解と手続き②(実習計画、オリエン日の決定)、教員採用試験対策②
第3回	教育実習の理解と手続き③(参観授業、授業実践、研究授業)、教員採用試験対策③
第4回	教育実習の理解と手続き④(実習校の理解)、教員採用試験対策④
第5回	教育実習の理解と手続き⑤(児童、先生方への対応)、教員採用試験対策⑤
第6回	教育実習の理解と手続き⑥(実習録の記入の仕方)、教員採用試験対策⑥
第7回	教育実習の理解と手続き⑦(トラブルの対応)、教員採用試験対策⑦
第8回	外部講師による対策講座(面接)
第9回	教育実習
第10回	教育実習
第11回	教育実習
第12回	教育実習
第13回	教育実習報告会①
第14回	教育実習報告会②
第15回	教育実習報告会③

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

・初回の授業で明示する。

■評価方法

・教育実習報告会(50%)、提出物(30%)、授業中の発表や態度(20%)

■教科書

・群馬医療福祉大学:「実習へのガイドブック」2012年

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	人格心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	類型論、特性論、力動論、構成主義、歴史的自己アイデンティティ、自我体験、ナラティブ、ライフストーリー、生育史心理学、TEM、アイデンティティと暴力				

■授業の目的・到達目標

誰かの「人格」に関わる心理学理論や「人格」に関わる心理的、社会的諸問題を考える際、それを多面的に扱うことのできる基礎知識と視点を習得し、人間を見る目を深めていく。

■授業の概要

人が誰かのことを分かったという時、いったい何をわかっているのだろうか。人は自分が関わる誰かに対して、「この人はこんな人だ」という理解抜きには、関係を作り、共に生きることさえ難しい。生きている限り、それが精確かどうかは別にして、人はその人なりの仕方誰かを理解し、違う誰かに対して、その人のことを説明しようとする。では、いかに人は人を理解し、何をもって、その人のことを判断しているのだろうか。本講義では、まず、「ある人がどのような人であるか」を説明する見方にはどのようなものがあるかを、古今の人格心理学者の説を見ながら考えていく。本講義のもう一つの重要テーマは、人間形成やライフサイクルという観点から、ある人が、どのようにして「そのような人」になったのかを考えることである。人は自分だけで自分となるわけではない。多くの人や関係に影響を受け、時には、親や他者の生きる問題と深く関わりながら成長をしていく。従って、目に映る姿だけでは伺い知れない、人生の背景や歴史という目に見えないものを視野に入れる力を磨き、人格がいかに生成し変容するかについての視点、人格形成の視点を学んでいく。講義を通して、「ある人がその人らしく生きる」事に潜む課題を見つめ、よい意味で人格の変容を支援する視点が学生の中に生まれることを期待する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、人格はどのように理解することが可能か?
第2回	人格概念の登場とその背景 人格を理解する観点と理論① 類型論
第3回	人格を理解する観点と理論② 特性論
第4回	人格を理解する観点と理論③ 力動論
第5回	人間とロボットは何が異なるか 構成されるものとしての人格
第6回	人格と関係性 社会的状況とパーソナリティ
第7回	人格と身体・遺伝・脳
第8回	人格のはじまりと育ち
第9回	人格が閉じる時 その1 中年期とその危機
第10回	人格が閉じる時 その2 老年期
第11回	ライフサイクル論から見る人格形成およびその変容 伝記分析の実際
第12回	偉い人とはどういう人か
第13回	TEM図とTEMによる人格分析について①
第14回	TEM図とTEMによる人格分析について②
第15回	ある人格が他の人格を否定するという事について

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる上方]

・国家試験対策には関わらないが、実際の人間を心理学的に分析したいという姿勢のある学生の受講を希望する。

[受講のルール]

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話の使用等)は退席を命じます。その場合は、欠席扱いとします。

・国家試験対策等で授業に集中できないと考える学生はあらかじめ受講しないこと。伝記を読んで分析する課題を出すので、よくそのことを理解して受講すること。

・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象となりますので、必ず提出してください。

・受講においては積極的な授業参加と授業準備に心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

指示がない場合は、シラバスに基づき教科書中の、次回該当部分を予習すること。課題がある場合は、次の授業までに提出すること。

■オフィスアワー

1号館事務局在室中に声をかけてください。

■評価方法

・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S

・期末試験(レポート)70%、小レポート・感想文等提出物30%(30÷提出回(予定5回)=1提出物得点(1回6点満点;提出により得点))

■教科書

大山泰弘(2009) 新版 人格心理学 放送大学教育振興会

■参考書

適宜指示

科目名	人権教育論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人権、人間は社会的な動物、対話と愛、人間疎外、差別、経済至上主義				

■授業の目的・到達目標

旧約聖書にはエバがアダム（人間の意）に紹介される場面がある。エバを見たアダムは「これこそ私の骨の骨、私の肉の肉である」と言ったと記されている。すなわち、エバはアダムと同じ人間であるという意味である。これは人間の基本的な事実を表している。すべての人は、共通の人間性が認められなければならないということである。

■授業の概要

人間は性の違い、人種、文化等を越えて平等である。共通の人間性があるからこそ、私達は対等に自分の権利等を主張することが出来るのである。私達が人と出会えば必ず同じ人間に出会っているのである。人類は一つなのである。だからこそ、人権宣言が可能となった。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	(オリエンテーション)人間お互いの人権の自覚
第2回	人間関係での様々な姿とそこで生じる問題の原因
第3回	基本的人権
第4回	人間は社会的な動物である
第5回	人格は手段として扱われるのではなく、いつも目的として遇されなければならない
第6回	対話と独語
第7回	利他的な愛と自己中心的な愛一愛には色々の意味がある一
第8回	集団生活で生じる問題
第9回	個人主義・集団主義・人格主義
第10回	人間疎外と精神の拠り所を求める日本
第11回	現代の家庭に見られる諸問題
第12回	イスラームの結婚観
第13回	階級と差別
第14回	生活保障とボランティア活動
第15回	仕事・余暇・宗教と人との関わり

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

人権問題と関わる日本及び世界のニュースに、いつも関心を持って頂きたい。

■オフィスアワー

リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業時にお答えします。

■評価方法

最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。

科目名	人体の構造と機能及び疾病	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人体の構造と機能及び疾病				

■授業の目的・到達目標

社会福祉専門職(又は医療専門職)に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解できる。
 人体の構造と機能及び疾病を説明することができる。疾病・障害とその支援について説明することができる。
 併せて、将来医療福祉分野に携わる者として、ふさわしい人格を形成できる。
 生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。
 医療、福祉分野においてのコミュニケーション力、危機管理能力の形成がなされる。
 また、他者への伝達技法を学び取ることができる。

■授業の概要

社会福祉専門職(又は医療専門職)に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 人体の成長・発達・老化 (身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化に伴う身体的・精神的変化)	教科書を予習・筆記した内容を整理し復習すること
第2回	心身機能と身体構造の概要(1) 人体各部位の名称と方向用語	〃
第3回	心身機能と身体構造の概要(2) 各器官の構造と機能1)	〃
第4回	心身機能と身体構造の概要(3) 各器官の構造と機能2)	〃
第5回	心身機能と身体構造の概要(4) 各器官の構造と機能3)	〃
第6回	健康の捉え方 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要	〃
第7回	疾病の概要(1)	〃
第8回	疾病の概要(2)	〃
第9回	疾病の概要(3)	〃
第10回	疾病の概要(4)	理解度を判断しつつ配分を行ない進めていく
第11回	障害の概要(1)	〃
第12回	障害の概要(2)	〃
第13回	障害の概要(3)	〃
第14回	障害の概要(4)	〃
第15回	リハビリテーションの概要 リハビリテーションの概念と範囲	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書のみ依存する事なく、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。
 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。
 教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連、前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。

[受講のルール]

初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノート整理を行っておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(80%)、その他教科書への書き込み状況やノートの点検(20%)

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集
 『新・社会福祉養成講座Ⅰ 人体の構造と機能及び疾病—医学一般』最新版 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学研究法	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	因果と相関関係、実験法、調査法、観察法、面接法				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

国家試験での心理学研究法に関連した問題を容易に解答できるようになることを目的とする。

[到達目標]

実験・調査法・観察法の内容・長所・短所を理解する。

実験手続きのロジックを理解する。

検査法の信頼性・妥当性を理解する。

■授業の概要

本講義では、心理学における研究法としての実験、調査、観察の概要を紹介する。また、その研究方法を用いた比較的研究を紹介する。また、授業中に、実験や調査などの実施も行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 実証 科学と実証
第2回	実験と観察 その長所と短所
第3回	実験的研究の紹介1
第4回	実験的研究の紹介2
第5回	実験的研究の紹介3
第6回	実験的研究の紹介4
第7回	振り返り 実験の用語の整理
第8回	観察的研究の紹介1 調査法
第9回	観察的研究の紹介2 調査法
第10回	観察的研究の紹介3 調査法
第11回	観察的研究の紹介4 観察法
第12回	観察的研究の紹介5 観察法
第13回	観察的研究の紹介6 観察法、到達テストの告知
第14回	振り返り・到達テストの解説
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講のルール]

メールによるコメントカードの提出が義務付けられている。開始時に小テストへの回答が求められる場合があるため、早めに着席していることが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

小テスト・コメントカードでの評価合計(65%)、到達テスト(35%)

■教科書

高野 陽太郎・岡 隆(編) 心理学研究法—心を見つける科学のまなざし 有斐閣アルマ 2004

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	質問紙、実験レポート、量的データ、質的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

調査研究に関する知識・技術を習得し、調査レポートを作成できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

実験、量的・質的調査研究に関する知識・技術を習得する。

実験・調査レポートを作成できるスキルを身につける。

客観的にレポートを採点できるスキルを身につける。

■授業の概要

心理学実験実習Ⅱでは、質問紙法を利用した人間理解の方法を学ぶ。その基礎として質問紙の作成に関する項目作成、回答方法選択、フェイスシートの作成および倫理の問題、データ分析について触れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス
第2回	レポートの構成と書式
第3回	レポートの構成と書式
第4回	調査Ⅰ社会的影響
第5回	調査Ⅰ社会的影響
第6回	調査Ⅰ社会的影響
第7回	データマイニング(レシートからの分析)
第8回	データマイニング(レシートからの分析)
第9回	質問紙の作成の仕方
第10回	質問紙の作成の仕方
第11回	推測統計による分析(t検定)
第12回	推測統計による分析(t検定)
第13回	推測統計による分析(相関分析)
第14回	推測統計による分析(相関分析)
第15回	推測統計による分析(相関分析)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

PC室もしくはLL教室での課題作成が主体となる。

〔受講のルール〕

事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。各テーマごとにミニ課題、レポートの提出が義務付けられている。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内課題(40%)、レポート(40%)、コメント評価(20%)

■教科書

鎌原雅彦, 宮下一博, 大野木裕明, 中澤 潤 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房 1998 新しい版を買うこと。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理査定、心理検査法、パーソナリティ検査、知能検査				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

対人援助職に求められる心理査定に関する知識と目的、意義について理解し、代表的なパーソナリティ検査・知能検査等の特徴を理解すること。

〔到達目標〕

- ①心理査定の意義、目的について説明できるようになる。
- ②代表的なパーソナリティ検査、知能検査の背景とその運用について説明できるようになる。
- ③事例について考える際に、どういった心理査定が必要かについて考えることが出来るようになる。

■授業の概要

心理査定とは「個人に対して何らかの課題を与え、それに対する解答や反応をもとに、その人の心理的特性を測定する行為」と定義される。本講義では「信頼性・妥当性が確かめられた検査を使用して個人差を測定する行為」と捉え、具体的には、実際に相談機関等で使用される知能検査やパーソナリティ検査を用いて、①基礎知識の説明 ②心理検査の実施と採点 ③解説 ④振り返りとレポート課題の構成で講義を進める予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	心理検査とは何か
第3回	実習(1) 知能検査①グッドイナフ人物画知能検査
第4回	実習(2) パーソナリティ検査①:主要5因子性格検査
第5回	知能検査の種類と特徴
第6回	実習(3) 知能検査②-1ウェクスラー式知能検査
第7回	〃 知能検査②-2ウェクスラー式知能検査
第8回	実習(4) 知能検査③ビネー式知能検査
第9回	パーソナリティ検査の種類と特徴
第10回	実習(5) パーソナリティ検査②質問紙法:TEGもしくはY-G検査
第11回	実習(6) パーソナリティ検査③投影法:P-FスタディもしくはSCT
第12回	実習(7) パーソナリティ検査④作業検査法:内田クレペリン検査
第13回	症状/病理を測定する検査の種類・特徴
第14回	実習(8) 症状/病理の検査:長谷川式簡易知能評価スケール,Rey - Osterrieth複雑図形など
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・欠席/遅刻等については大学規定の手続きで事前に連絡を行うこと。
- ・講義内で課したレポートについては、提出期限を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業外の時間でレポート作成が求められる。図書館やコンピューター室の利用が可能な状態にしておくこと。

■オフィスアワー

初回到説明

■評価方法

授業への出席 35%、提出物/レポート課題 65% (詳細は初回到説明)

■教科書

講義内で使用する心理検査については各自で購入する(1人1000円程度)。初回到説明。

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	心理療法	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神分析的アプローチ, 行動療法的アプローチ, 来談者中心療法的アプローチ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

対人援助職として、心理療法の種類と各々の援助技法の特徴について理解する。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に対応するための知識を習得する。

〔到達目標〕

- ①心理療法の理論的背景と治療観、効用と限界について説明できるようになる。
- ②「～療法」「～的アプローチ」といった単語や言葉から、そこで行われている働きかけの特徴について理解し、ある程度の説明が出来るようになる。
- ③各々の心理療法における特徴的な技法について説明が出来るようになる。

■授業の概要

心理療法は、臨床心理学の知見を応用した援助技法の総称であり、各々の背景には理論・歴史、特徴、効果と限界、特徴的な技法が存在します。この講義で「心理療法」の実施ができるようになることではなく、これまでの講義で学んできた「心理療法」に関する理解を深め、対人援助職を目指す/対人援助職として活躍する中で、知識を活用できるようになることを目指します。そのため、講義では出来る限り演習形式や疑似体験を含めた体験的な学びを行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	フロイトの諸理論と精神力動的心理療法
第3回	行動主義と行動療法
第4回	ABC理論と論理療法/認知療法
第5回	認知行動療法
第6回	ロジャースの人間観と来談者中心療法
第7回	遊戯療法と表現療法
第8回	一般システム理論と家族療法
第9回	研究課題の設定
第10回	集団に対する心理療法
第11回	わが国独自の心理療法(森田療法, 動作法)
第12回	新しい心理療法(EMDR)
第13回	課題発表①
第14回	課題発表②
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・演習や発表を含む講義であるため、欠席/遅刻等については厳密に連絡を行うこと。
- ・講義内で各自の興味/関心に応じて研究課題を設定・発表を行うことを求める。初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また、やむを得ない理由で欠席した場合には後日報告にすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・各回の中で課題(主に予習/復習に関する調べ学習)を設定する。図書館やコンピューター室を活用して積極的に参加すること。

■オフィスアワー

初回到説明。

■評価方法

授業への出席 35%、研究課題発表 35%、各回の提出物 30% (詳細は初回到説明)

■教科書

皆藤 章(編):「よくわかる心理臨床」ミネルヴァ書房 2007.

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	数学概論	担当教員 (単位認定者)	星野 吉也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	小学校における数概念・図形概念の指導原理、集合論〔有限集合と無限集合、関数、集合と論理〕、プール代数、群論				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕算数教育の背景となる数学の基礎的知識を身につけるとともに、数学的見方・考え方の指導の基礎となる集合・論理に関する理解を深め、小学校教師としての基本的知識・技能を養うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①算数指導の基本原則を理解し、算数指導に役立てることができる。
- ②算数における記号活用の意義や方法を理解し、それらを算数の指導に活用できる。
- ③ものの集まりとしての集合の概念を理解し、論理的な推論ができる。
- ④無限の概念を理解し、これをもとに数直線や曲線の本質が理解できる。
- ⑤数学の基礎的知識を理解し、教員採用試験（一般）の解答に役立てる。

■授業の概要

テキスト「数学概論」に基づいて、小学校算数教育の背景となる数学の内容について講義をし、数学に関する基礎的な知識理解を深めるとともに、算数指導法の基盤となる内容の基本的な理解を深める。授業中は、テキストに書かれた講義内容や課題について考え、その結果や講義内容をテキストの空白や自由記録ノートに書き、学期末のレポートの提出に備える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、後期の学習内容や学習上の留意点について				
第2回	2. 講義・演習	○数学における具象と抽象 ○数の概念の指導			
第3回	3. 講義・演習	○算数教育と水道方式 ○素過程とは ○集合の基礎基本			
第4回	4. 講義・演習	○記号の活用と数学 ○三角形の決定条件と求積 (EXCEL)			
第5回	5. 講義・演習	○数学概念と集合 ○集合の定義 ○集合の表現			
第6回	6. 講義・演習	○集合に関する記号と演算			
第7回	7. 講義・演習	○全体集合と部分集合 ○集合の演算 ○集合の濃度			
第8回	8. 講義・演習	○有限集合と無限集合の概念			
第9回	9. 講義・演習	○集合に関する記号と演算			
第10回	10. 講義・演習	○任意の要素とは ○集合の包含関係 ○集合と論理			
第11回	11. 講義・演習	○一対一対応と集合の濃度 ○すべての線分は半直線と対等等			
第12回	12. 講義・演習	○プール代数と証明問題			
第13回	13. 講義・演習	○群の公理とその意義			
第14回	14. 講義・演習	○環の公理と数の構造			
第15回	15. 講義・演習	○環・体と算数における数と計算の構造			

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ及び、USBメモリーは、常に持参すること。
- ・毎時間テキスト「数学概論」を持参すること。
- ・講義は、小学校の授業を想定し、授業の前後は起立・礼をし、受講中は私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。課題の解答を積極的に発表しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・毎時間テキストに課題があり、その解答も講義中に説明するので、板書等を記録し復習に役立てよう。
- ・教員採用試験問題に関する資料を配付するので、これに市販の参考書などを参考にして教員採用試験の準備をしておこう。

■オフィスアワー

- ・質問・要望は毎時間の最後に配布する「学習カード」に記入し、後日回答します。また放課後、1階の講師室でも説明可能。

■評価方法

- 毎時間の学習ノートを含むレポート（50%）、授業への積極性等の参加態度（30%）、数学演習（20%）
- 総合評価は60%を超えていることが前提となる。

■教科書

※基本的には配布したテキストを中心に進めます。◎授業への参加態度は積極性を重視し、遅刻、私語、居眠りなどが減点の対象になります。

■参考書

- テキスト「数学概論」〔講師が作成し配布〕
- 文部科学省検定済算数教科書〔講師持参〕
- 公立学校教員採用試験の準備資料〔講師持参〕

科目名	生活科概論	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然(植物・生きもの・気象) 行事 文化				

■授業の目的・到達目標

身の回りの自然や社会について、子どもに関心を持たせるために必要な知識と技術を幅広く習得する。また、日本の文化についても理解し、国際社会にはばたく子どもたちに対して「文化の伝承」ができるよう、教養を身につける。

■授業の概要

四季をとおしての自然と人事を概説するとともに、背景にある生活文化についても言及する。この講義をふまえ、各自が『生活科ずかん』の製作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス:生活科とは 生活科のめざすものと内容
第2回	身近な自然と文化のとらえ方 「ドリル」をやってみよう
第3回	春の自然と文化: 「生活科ずかん」作成にあたっての調べ方と諸注意
第4回	春の自然と文化: 春の植物・生き物
第5回	春の自然と文化: 春の気象・あそび
第6回	春の自然と文化: 春の行事
第7回	夏の自然と文化: 夏の植物・生き物
第8回	夏の自然と文化: 夏の気象・あそび
第9回	夏の自然と文化: 夏の行事
第10回	秋の自然と文化: 秋の植物・生き物
第11回	秋の自然と文化: 秋の気象・あそび
第12回	秋の自然と文化: 秋の行事
第13回	冬の自然と文化: 冬の植物・生き物・気象
第14回	冬の自然と文化: 冬の行事
第15回	日本の文化: 日本の文様

■受講生に関わる情報および受講のルール

『生活科ずかん』の製作に関し、以下のルールを守ること。

- ・各季節ごとの概説を聴いたら、即座に自分が取り上げる事柄を決定して調べ学習と製作を行うこと。
- ・製作物には既成のキャラクターは使わないこと。
- ・計画的に製作を行うこと。
- ・図書館利用のマナーやルールを厳守すること(コピー機使用時の手続・貸し出しと返却の手続・書架への本の戻し方など)

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の時間以外にも、時間を見つけて調べたり製作を進めること。計画性を身につけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

提出物(『生活科ずかん』)(70%)・・・各季節とも、植物・生き物・気象・行事・あそびの項目を入れ、“楽しくわかりやすい”図鑑が丁寧に作成できているか。 授業への取り組み方(30%)・・・発言・調べ学習・製作活動に対する積極性があるか。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	青少年の理解と援助	担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	青少年と現代社会の問題点、教えることと学ぶこと、家庭教育と学校教育、少年期と青年期				

■授業の目的・到達目標

現代の社会問題の一つになっている青少年について、家庭教育・学校教育・社会教育の視点から分析できるようにする。また、最近の事件をテーマにした話し合いを通して、成熟した青少年のあるべき姿を理解するとともに、学生自身の問題としても意識しながら、青少年の正しい見方ができ、的確に援助することができるような力を身につける。

■授業の概要

不登校・ひきこもり・少年犯罪・児童虐待・いじめ・キレる青少年・親殺などといったことが社会現象になって久しい。そこで、青少年を取り巻く社会環境や学校教育、家庭教育、地域社会教育の実態について教育学的視点から分析し、わかりやすく概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方を説明する。
第2回	青少年と教育の現状について。
第3回	教育学の復習：教育とは何か。教えることの意味について。
第4回	学習の意味。
第5回	青少年の人間形成の過程。
第6回	青少年の教育環境。
第7回	DVD鑑賞『昭和の子どもたち』
第8回	家庭教育の限界と学校の成立。
第9回	少年期とは。
第10回	少年のころとは：無邪気に遊ぶことの意味。
第11回	青少年の事件簿について話し合う。
第12回	DVD鑑賞『禁じられた遊び』（前篇：戦争の悲惨さと少年、少女の純粋性）
第13回	DVD鑑賞『禁じられた遊び』（後編：子ども心と大人の現実性）
第14回	青年期とは。
第15回	青少年の理解援助のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し授業態度を評価するので、積極的な授業参加や鋭敏な反応を期待する。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃から青少年に関する事件や情報、文化活動、社会活動等に興味関心を示す態度で生活すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出・小テストなど20%で評価する。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい青少年の理解と援助』あるふあ出版、2008

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	精神障害者の生活支援システム	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地域生活支援				

■授業の目的・到達目標

これまでの精神保健福祉士養成科目の総まとめ。精神障害者の生活支援に焦点をあて意義と特徴について包括的に理解する。

■授業の概要

精神障害者の居住支援、就労支援、相談支援活動を精神保健福祉士の係わりを通して理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	精神障害者の概念
第3回	パラダイムの転換としての一般性
第4回	精神障害者の生活の実際
第5回	地域生活支援システムの概念
第6回	精神障害者の自立と社会参加のための生活支援システム
第7回	相談支援援助
第8回	ソーシャルサポートネットワーク
第9回	クライシスケアシステム
第10回	居住支援①
第11回	居住支援②
第12回	雇用・就労支援①
第13回	雇用・就労支援②
第14回	行政における相談援助①
第15回	行政における相談援助②

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)小テスト、国家試験模擬問題を適宜行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

精神保健福祉の外部情報も連絡する。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他放課後6時過ぎ

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポートによる評価(100%)。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

(注意)中央法規出版 精神障害者の生活支援システム

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉援助実習	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士・精神障害者の理解・アイデンティティ				

■授業の目的・到達目標

- ① 精神保健福祉援助実習をとおして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活をするを具体的に理解および把握し、援助実践の具体的な技術を体得する。
- ② 精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を修得する。
- ③ 精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は原則として「精神保健福祉士法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。

- ① 将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。
- ② 精神保健福祉の学習および実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。
- ③ 精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。
- ④ 「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。
- ⑤ 実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。
- ⑥ 実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。実習は23日間以上かつ210時間（相談援助実習履修者は180時間）（休憩時間を除く総実習時間）とする。

■実習上の注意

- ① 実習へのガイドブック（学生用）学校法人昌賢学園 2015を参照し、遵守すること。
- ② 精神保健福祉援助実習の教科書を熟読し、精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を十分に事前学習すること。
- ③ 群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則を熟読すること。

【実習中止の措置】群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則による。

- ① 重大なルール違反（実習先就業規則ならびにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき。
- ② 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③ 心身の事由により精神保健福祉援助実習の継続が困難なとき。
- ④ 守秘義務違反及び信用失墜行為をおこなったとき。
- ⑤ 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥ 実習施設・機関の長または実習指導者より精神保健福祉援助実習中止の申し出があったとき。
- ⑦ 実習担当教員が実習生に行った指摘および指導に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑧ その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- ① 実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合的評価（40%）
- ② 巡回および帰学日および実習中の指導状況と実習態度（15%）
- ③ 実習記録（10%）
- ④ 実習後の振り返りをとおした実習報告会を含めた実習のまとめ（15%）
- ⑤ 実習報告書（10%）
- ⑥ その他事前提出の実習計画書および事後提出の実習関係書類の内容および提出状況（10%）

注意 1: 実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。

注意 2: 精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者の理解、精神保健福祉実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

実習先機関の特徴を学びながら、精神保健福祉士の役割、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度を理解する。また学びをとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にしていくことを目的とする。

〔到達目標〕

①実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。②学習をとおして精神疾患を抱えている人間を理解する。③実習機関の役割を学び、そこで行われていることを理解して、希望実習先について考える。④精神保健福祉士としてのアイデンティティを明確にする。⑤実習の意義について考え、理解する。

■授業の概要

実習先機関の学習をとおして精神障害者や精神保健福祉援助実習についての理解を深め、グループワークをとおした活動により、精神保健福祉士の活動する機関の役割および自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立をめざす。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	本講義のオリエンテーション
第2回	各実習先種別の学習 ① 精神科医療機関
第3回	各実習先種別の学習 ② 精神科医療機関
第4回	各実習先種別の学習 ③ 精神科医療機関
第5回	各実習先種別の学習 ④ 障害福祉サービス事業所
第6回	各実習先種別の学習 ⑤ 障害福祉サービス事業所
第7回	各実習先種別の学習 ⑥ 障害福祉サービス事業所
第8回	各実習先種別の学習 ⑦ 行政機関
第9回	各実習先種別の学習 ⑧ 行政機関
第10回	各実習先種別の学習 ⑨ 行政機関
第11回	各実習先種別の学習 ⑩ その他
第12回	倫理と秘密保持について ① 精神保健福祉士の倫理綱領
第13回	倫理と秘密保持について ② 精神保健福祉士の倫理綱領
第14回	自らの課題検討
第15回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを徹底して実施してください。②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、課題に取り組む実践的行動への努力を重視します。③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、居眠り等）は謹んでください。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

3年生春休み期間中に精神科病院事前見学実習を実施します。精神障害者及び実習機関の理解を深めるために、受入れ可能機関等の状況により随時現場での体験学習活動を実施予定です。①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。②授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

①授業への取り組み（授業への参加状況）25% ②授業レポート（内容および提出状況含む）35% ③定期試験および課題レポート40% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015 及び「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2015 / 実習生必携ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011

■参考書

「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉相談援助の基盤				

■授業の目的・到達目標

精神保健福祉と社会福祉の共通点・相違点を明確にし両、国家試験受験資格が取得できる福祉系の大学の特色を生かし福祉の多方面の視点を養う。ここでは精神保健福祉の基本を忠実に学ぶ。

■授業の概要

総合的かつ包括的相談援助の理念と方法に関する知識と技術と精神科医療との協働・連携する方法に関する知識と技術を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	体験学習①
第2回	精神保健福祉士制度の歩み	体験学習②
第3回	精神保健福祉の専門性	体験学習③
第4回	精神障害者理解、精神医学的見方から	体験学習④
第5回	相談援助の定義、相談援助活動の定義と概念	
第6回	エンパワーメントとリカバリー	
第7回	相談援助における権利擁護の概念と範囲	
第8回	ソーシャルワークの源流と形成過程	
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク	
第10回	イギリスでの展開、アメリカでの展開、日本での展開	
第11回	精神保健福祉分野における相談援助活動の現状と今後の課題	
第12回	精神保健福祉士概念	
第13回	総合的・包括的援助を支える理論	
第14回	総合的・包括的援助の機能と概要	
第15回	多職種連携(チームアプローチ)の意義と概要	

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

3分の2以上の出席、試験・レポートによる評価(100%)。遅刻3回を欠席1回とカウントし6回以上欠席した場合は単位を認定しない。

■教科書

精神保健福祉相談援助の基盤「基礎」「専門」 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	生徒指導論	担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生徒指導論				

■授業の目的・到達目標

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について学び、生徒指導に関する基礎・基本を身に付け、教師として必要な基礎的な資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について個別学習（予習課題）や話し合いや講義やグループ協議等をとおして、教師としての生徒指導に関する基礎・基本を身に付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、班編制、話し合い学習法①、生徒指導の意義と課題①（生徒指導の目的と必要性）	予習課題
第2回	生徒指導の意義と課題②（生徒指導の領域・内容、生徒指導の今日的課題）	予習課題
第3回	生徒指導と教育課程との関連①（生徒指導と教科との関連）	予習課題
第4回	生徒指導と教育課程との関連②（生徒指導と道徳・特別活動との関連）	予習課題
第5回	生徒指導の原理（生徒指導に関する人間観）	予習課題
第6回	生徒指導の組織と計画	予習課題
第7回	児童生徒理解の考え方	予習課題
第8回	児童生徒理解の方法	予習課題
第9回	生徒指導の方法①（集団指導の意味と意義、集団指導の形態）	予習課題
第10回	生徒指導の方法②（集団活動の指導、集団の評価、集団指導の観点）	予習課題
第11回	生徒指導の方法③（個別指導、教育相談の意義と目的、学校教育相談の特質）	予習課題
第12回	いじめ問題の基本的理解（いじめの定義、形態、実態、事例の考察）	予習課題
第13回	いじめ問題の指導の在り方、いじめの予防対策	予習課題
第14回	進路指導の目的と内容（目的、定義、進路指導の分野と内容、進路情報、進路相談、啓発的体験等）	予習課題
第15回	まとめ	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度や私語を慎んで下さい。状況によっては、退席を求めます。班編制をします。班の中で自己決定による座席指定をします。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験（80%）、予習課題の予習状況（10%）、自己達成度評価（10%）を総合して評価します。

■教科書

江川びん成編 生徒指導の理論と方法 三訂版 学芸図書株式会社 定価 1200 円+税

■参考書

文部科学省 生徒指導提要 教育図書株式会社 定価 290 円

科目名	青年心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アイデンティティ、第二次性徴、自立、友人関係、家族関係、ジェンダー、恋愛と結婚、道徳性、ロストジェネレーション、死生観、大学生論、夢				

■授業の目的・到達目標

単に青年心理学に関連する知識を吸収するのではなく、まさに今青年期を生きる者として、学んだ用語や事柄を手がかりに自己洞察を深め、同時に他者への共感と理解を深めていく視点を得ることを大きな目的とする。

■授業の概要

子どもとおとなの間であって、そのどちらにもなれない青年期。この数年間のあり方は、その後の人生を左右するのと同時に、それまでの人生の意味を決定する時期ともなる。人生の十字路口というのにふさわしいこの時期、何が彼らの課題となり、それはどのような意味・意義をもつのか。授業では、青年期に大きく浮かび上がる様々なテーマを「問い」の形で整理しながら、その一つ一つについて、青年心理学の知見を通して学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、青年心理学概説
第2回	身体の発達 からだとこころ
第3回	青年の自立 家族との関係
第4回	友人関係の発達
第5回	恋愛・結婚
第6回	道徳性の発達
第7回	レポート課題指示、「自分さがし」と「アイデンティティ拡散」、そして「生きがい感」
第8回	大学生が見た大学生 大学生心理学
第9回	青年の死生観 「死ぬ」とは？
第10回	青年期と精神疾患
第11回	大学生論 過去と現在
第12回	ロストジェネレーションから青年期を考える
第13回	物語を通して見る青年の人格の変容
第14回	(大学の) 授業と青年
第15回	青年と夢

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる上方〕

ある知識を“覚える”科目というより、「理解」し、「問い直す」ための視点を提供することが中心となる。考えることや振り返ることが多いので、自己と自分が生きる世界について考えることに興味がある学生に受講をしてもらいたい。

〔受講のルール〕

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は、欠席扱いとします。

- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象となりますので、必ず提出してください。
- ・受講においては積極的な授業参加と授業準備に心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

指示がない場合は、シラバスに基づき教科書中の、次回該当部分を予習すること。課題がある場合は、次の授業までに提出すること。

■オフィスアワー

キャリアサポートセンター在室中に声をかけてください。

■評価方法

・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S・期末試験（レポート）70%、小レポート・感想文等提出物 30%（30÷提出回（予定5回）=1提出物得点（1回6点満点；提出により得点））

※授業時小レポートがない場合は、インタビュー・レポート&分析（「二十歳の頃」）70%とポートレートの提出 30%により評価。

■教科書

宮下一博監修（2009） ようこそ！青年心理学 ナカニシヤ出版

■参考書

適宜指示

科目名	相談援助演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤充 宮本雅史・松永尚樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自己覚知、他者理解、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉における相談援助の実践は、単なるサービス提供やサービスマネジメントにとどまらず、利用者の全体性やストレングスに着目した援助を行うとともに、家族や近隣、地域など総合的に支援する視点が要請される。本演習では、ジェネリックソーシャルワークの視点の習得とそれを展開できる力量の習得を目指すための基礎固めとして、「自分を知り、他人の話をよく聴け、ソーシャルワークの価値や倫理を理解する」ことなどについて演習を通して学ぶことを目的とする。また、本演習によって相談援助実習等と理論との融合を目指し、実習において必要な知識・技術の基礎を理解し、説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①福祉専門職として、自己覚知することの重要性を理解し、説明できる。
- ②価値観の多様性について知るとともに、他者を理解するための方法論を学び、援助技術の活用の仕方を説明できる。
- ③言語的及び非言語的コミュニケーションについて理解し、福祉専門職として他者との関わり方を想定して行動することができる。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 相談援助演習の意義・目的及び位置づけ、授業の進め方、授業に参加する上での注意事項
第2回	社会福祉の基本的姿勢・定義（IFSWのソーシャルワークの定義、社会福祉士の定義等）
第3回	社会資源の理解、社会福祉施設・機関、福祉専門職の把握
第4回	自己覚知（1）
第5回	自己覚知（2）、ジェノグラム
第6回	自分の性格の把握
第7回	自己開示、他者理解
第8回	他者理解
第9回	多様な価値観
第10回	コミュニケーション技法（1）コミュニケーションの基本
第11回	コミュニケーション技法（2）言語的コミュニケーション①
第12回	コミュニケーション技法（3）言語的コミュニケーション②
第13回	コミュニケーション技法（4）非言語的コミュニケーション①
第14回	コミュニケーション技法（5）非言語的コミュニケーション②
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- （1）履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。
- （2）学習上の助言 福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。
- （3）予備知識や技能 「相談援助の基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。

■授業時間外学習にかかわる情報

演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える

■評価方法

試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典（「相談援助の基盤と専門職」にて指定されたもの）

科目名	相談援助実習	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤充 宮本雅史・松永尚樹	単位数 (時間数)	4 ()
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

〔到達目標〕

- ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。
- ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。
- ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。
- ④実習機関・施設に関連する他職種との役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。
- ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要

■実習履修資格者

群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。

相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。

- 1 将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者
- 2 社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者
- 3 健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者
- 4 3年次までに哲学、倫理学、道徳教育研究、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育研究、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者）
- 5 3年次において専門演習Ⅰ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（編入生においては、4年次に専門演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者）
- 6 社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者
- 7 ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者
- 8 相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者
- 9 相談援助実習資格履修試験に合格している者
- 10 学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者

■実習時期及び実習日数・時間

相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。

相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。

実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。

■実習上の注意

群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準及び実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

〔相談援助実習中止の措置〕

相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。

- 1 重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき
- 2 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき
- 3 心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき。
- 4 守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき
- 5 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 6 実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき
- 7 実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 8 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- ①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%）
- ②実習施設の概要の記載内容（10%）
- ③相談援助実習記録の記載内容（15%）
- ④実習のまとめの記載内容（10%）
- ⑤実習報告書の記載内容（10%）
- ⑥その他提出物の提出状況（15%）

※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。

※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。

科目名	相談援助実習指導 I	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤充 宮本雅史・松永尚樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士 根拠法令				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助実習の意義について理解する。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔到達目標〕

- ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。
- ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。
- ③相談援助実習資格履修試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。
- ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。

■授業の概要

相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション(シラバス説明、授業方法及び留意事項・相談援助実習資格履修試験について)
第2回	相談援助実習の意義と目的の理解
第3回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解(社会福祉士に求められる職業倫理)
第4回	実習先機関・施設の理解(行政機関)
第5回	実習先機関・施設の理解(行政機関)
第6回	実習先機関・施設の理解(社会福祉協議会、地域包括支援センター)
第7回	実習先機関・施設の理解(高齢者施設)
第8回	実習先機関・施設の理解(高齢者施設)
第9回	実習先機関・施設の理解(児童福祉施設)
第10回	実習先機関・施設の理解(児童福祉施設)
第11回	実習先機関・施設の理解(障害者支援施設)
第12回	実習先機関・施設の理解(障害者支援施設、医療福祉関連施設)
第13回	実習先機関・施設の理解(その他の機関・施設)
第14回	事前学習の意義・目的・方法の理解(実習先希望調査票の提出)
第15回	実習開始までの取り組み(まとめ、レポート課題)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。
- ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学(027-253-0294)に連絡を入れること。
- ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉士実習部会で対応を協議する。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。

■オフィスアワー

各実習担当教員により異なるため、各教員に確認すること。

■評価方法

相談援助実習資格履修試験(50%)、課題やグループワークへの取り組み(40%)、提出物の提出状況及びその内容(10%)を総合して評価する。但し、相談援助実習資格履修試験に合格しなければ単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版 2012年

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版 2009年/
社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料

科目名	相談心理学	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談心理学、対人援助、相談関係				

■授業の目的・到達目標

[授業の目標]

対人援助職を目指す者/対人援助を学んだ個人として、相談援助場面(受ける/行う)で求められる心理学的知識を学ぶ。

[到達目標]

- ①これまでに学んだ正常心理/異常心理、定型発達/発達の異常に関する知識を、生活場面/相談援助に応用できるようになる。
- ②相談援助における困難場面への対応方法の一般原理に関する知識を得る。
- ③相談援助場面や生活場面においてサービスを提供する側/受ける側として、相談援助に基づく配慮と工夫について説明できるようになる。

■授業の概要

相談援助場面で「相談を受ける/相談を行う」際の心理学について、これまで学んできた異常心理学・心理査定・心理療法といった本学における臨床心理学領域の集大成としての位置づけを持つ講義として、架空/公開済の相談事例や場面を設定し、援助を行う者/援助を受ける者の関係の中で生じるさまざまな現象について、講義と演習を通じて紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	相談援助場面における二者関係(相談をする側の心理/相談を受ける側の心理)
第3回	幼児期～児童期における相談
第4回	思春期における相談:身体の成熟に伴う心理的变化と相談
第5回	青年期における相談①アイデンティティの模索に伴う心理的反応と相談
第6回	②パートナーとの関係に伴う問題と相談
第7回	成人期における相談①妊娠～出産(産褥期)の心理と相談(自身の妊娠/パートナーの妊娠)
第8回	②親の心理と相談(保護者を支援する/保護者として支援を受ける)
第9回	研究課題発表①
第10回	相談援助関係/対人関係における難しさ①転移と逆転移の理解
第11回	②強い怒りの表出(攻撃/クレーム)の理解
第12回	③「死にたい」という訴え
第13回	④行動化(アクティング・アウト)
第14回	⑤適応的/病的な防衛機制の理解
第15回	研究課題発表②

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・受講生の興味関心や進路に応じて、取り上げる相談状況が大きく異なるため、受講の際は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また、やむを得ない理由で欠席した場合には後日報告にすること。
- ・履修年次と開講時期を鑑みて、講義内での提出物や課題作成等を求める場合が多い。図書館の活用、コンピューター室の利用が可能なようにしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・講義内で紹介したトピックに関する報道等を確認する習慣をつけること。

■オフィスアワー

初回到説明。

■評価方法

授業への出席 35%、研究課題発表 40%、講義内で作成する提出物等 25% (詳細は初回到説明)

■教科書

なし

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	専任教員	単位数 (時間数)	6 ()
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	卒業研究				

■授業の目的・到達目標

大学での学習の集大成として、自身の専門領域に関する研究を行い、各自の専門性を高める。

■授業の概要

卒業研究は各自が特定のテーマを決め、それについて調査等を行い、資料や文献を集め、学識を深めることを目的とし、最終的に論文としてまとめることになる。なお、研究目的、方法、結果等を述べ、先人の業績や意見と自分のそれを比較して論ずるので、単なる事例報告は認められないので注意すること。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	卒業研究であるので、個別的に指導を行う。卒業研究を担当できる教員は社会福祉学部所属の専任教員である必要があるため、3年次に各自の研究課題などを考慮し、指導を受けたい担当教員とコンタクトをとり、研究内容と指導方法等について十分に話し合うこと。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し、十分な指導を受けること。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①3年生は各自の研究課題などを考慮し、指導を受けたい担当教員とコンタクトをとり、研究内容と指導方法等について十分に話し合うこと。
- ②4年生は適宜指導を受け、指導教員の指示の通り、論文(またはそれに代わるもの)を作成すること。論文の場合は、最終提出は後期終了日までとし、原稿用紙20枚以上の論文を作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

最終的に提出された論文(またはそれに代わるもの)の内容によって評価します。(100%)

■教科書

必要に応じて紹介する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	体育概論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心と体、健康と安全、体育とスポーツ、発育発達、運動に親しむ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

初等科体育の教材研究と授業の基礎・基本を学び、実践できることを目的とする。

[到達目標]

- ①生涯スポーツの基礎づくりになる理論と実技を理解する。
- ②児童の発達段階に応じた教材の特性と内容を身につける。
- ③児童が自ら運動に親しみ実践できるような指導・助言がおこなえる。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材内容を習得しながら、児童が各種の運動に親しみ自ら進んで体力を高めることができるような工夫を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 体育概論とは(初等科体育の教材と取扱内容)
第2回	体気づき、体ほぐしの運動(体操、ストレッチ運動、動きづくり)
第3回	力試しの運動(一人運動、組運動、用具利用運動)
第4回	表現運動(リズム運動、模倣運動)
第5回	器械運動①(マット、跳び箱)
第6回	器械運動②(鉄棒、平均台)
第7回	陸上運動①(走る、跳ぶ、投げる)
第8回	陸上運動②(野外走)
第9回	ボール運動①(バスケットボール型)
第10回	ボール運動②(ベースボール型)
第11回	ボール運動③(サッカー型)
第12回	水泳運動①(基本泳法)
第13回	水泳運動②(応用泳法・安全指導)
第14回	保健(安全管理とグループ活動)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関する情報]

・水泳運動は夏季集中講義で実施する。運動着、運動靴の準備。実技でもメモの用意をする。

[受講のルール]

- ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。
- ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

小学校のボランティア活動を積極的に実施、野外活動やプール指導等で、子ども達の状況を理解しておく。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験・レポート(50%)実技試験(50%)総合評価で60%以上とする。

■教科書

文部科学省:小学校学習指導要領解説 体育編:東洋出版社平成20年 下山真二:体育の教科書:山と溪谷社:平成23年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域子育て支援論	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子育て支援 社会的支援				

■授業の目的・到達目標

子育て家庭に対する社会的支援の意味、および支援のあり方についての理解を深め、具体的かつさまざまな支援方法を知る。

■授業の概要

テキストを基盤にして、広い観点からさまざまなアプローチを示していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	子育て支援の理念
第3回	子育て支援の歴史文化的諸相
第4回	幼稚園における子育て支援の取り組み
第5回	幼稚園による地域の子育て支援
第6回	保育所における子育て支援
第7回	子育てセンターの活動と課題
第8回	事例検討
第9回	地域子育て支援活動1
第10回	地域子育て支援活動2
第11回	子育て支援の効果
第12回	父親の子育て支援活動
第13回	事例検討
第14回	子育て支援活動の展望と課題
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習復習を行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで適宜伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで伝える。

■評価方法

期末試験 80% 出席等受講内容 20%

■教科書

子育て支援プロジェクト研究会編「子育て支援の理論と実践」 ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで必要に応じて伝える。

科目名	地域福祉の理論と方法	担当教員 (単位認定者)	社会福祉士課程教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	発展過程 ソーシャルサポート 社会資源 住民参加				

■授業の目的・到達目標

社会福祉基礎構造改革の名のもとにそれまでの社会福祉関係法を見直して改正し、地方分権化と並行して市町村がほとんどの場合実施主体へと推移した。これらの動向は、地域福祉の充実・強化が課題となるに至った。これらの学習を通じて、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応できる能力を身につけさせること。

■授業の概要

福祉関係法の見直しと改正、それに地方分権化の推進により地域福祉施策の一層の推進が期待されるに至った。このことは、これまでの地域福祉の理論や方法論をさらに発展させることが課題となっている。そこで歴史的にも俯瞰しながら 21 世紀にふさわしい地域福祉のあり方を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配布します。

第 1 回	科目オリエンテーション 地域福祉の史的な展開過程を明らかにする	教科書
第 2 回	地域福祉の発展過程と行政と住民の協働	〃
第 3 回	地域福祉の基本的考え方	〃
第 4 回	地域福祉の主体と福祉教育	〃
第 5 回	行政組織と民間組織の役割りと実際	〃
第 6 回	コミュニティソーシャルワークの考え方及びその展開システムと方法	〃
第 7 回	専門他職種チームアプローチなどと専門職と住民の関係	〃
第 8 回	住民の参加と方法	〃
第 9 回	ソーシャルサポートネットワーク	〃
第 10 回	地域における社会資源の活用・調整・開発	〃
第 11 回	地域における福祉ニーズの把握と実際	〃
第 12 回	地域トータルケアシステムの考え方	〃
第 13 回	地域トータルケアシステムの展開方法や事例など	〃
第 14 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際	〃
第 15 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方	〃

*以上に、第 2 回から第 15 回まで「ミニ問題」を与え、解答させた上で解説し、国家試験に備える。また、合わせて『新聞の切り抜き』記事の紹介、『良書紹介』として、優良図書を紹介する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習復習は必ず行うこと。

[受講のルール]

・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

提供される「ミニ問題」は必ず事前学習し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末定期試験 85%、出席状況 15%の比率で評価する。また、私語等まわりに迷惑をかけ退席させた場合、100%の評価のうち 70%の評価とする。

■教科書

新・社会福祉士養成講座第 14 版 第 9 巻「地域福祉の理論と方法-地域福祉論」= (株)中央法規出版発行

■参考書

編集=日本地域福祉学会編「地域福祉辞典」=(株)中央法規出版発行

科目名	知的障害教育Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	知的障害 歴史的背景 教育課程 個別の教育支援計画 生活単元学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

特別支援教育では最も対象者の多い障害種である知的障害について理解し、その教育の基本的な事項が理解出来る。

〔到達目標〕

- ①知的障害児の特性について理解する。
- ②知的障害教育の基本的な教育課程や考え方、指導形態、指導方法などを理解する。
- ③特別支援学校学習指導要領について理解する。

■授業の概要

授業を通して知的障害児の行動特性を理解する。また、学習指導要領の変遷、知的障害教育の歴史や現状について学習することにより、知的障害教育について幅広く理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 知的障害児とは
第2回	知的障害児の心理と行動傾向について 発達障害について
第3回	知的障害教育の歴史 学習指導要領の変遷について
第4回	法に基づく障害児教育について 学習指導要領について
第5回	知的障害児の教育課程について
第6回	教科別の指導について
第7回	教科別の指導について
第8回	領域・教科を合わせた指導について ①日常生活の指導 ②遊びの指導
第9回	領域・教科を合わせた指導について ③生活単元学習
第10回	領域・教科を合わせた指導について ④作業学習 他
第11回	自立活動 養護・訓練 6領域
第12回	特別支援学校について 知的障害 授業 知的障害教育
第13回	個別の教育支援計画 個別の指導計画について
第14回	学校卒業後の進路問題について
第15回	知的障害児の教育の展望と課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①知的障害特別支援学校の現地視察が出来れば、授業の一環として計画する。実施出来ない場合は各地の特別支援学校の実態を知る。
- ②講義の回数に応じて授業内容が必ずしも一致しない場合がある。

〔受講のルール〕

- ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。
- ②予習、復習は必ず行うこと。参考書にも目を通し熟知することが大切である。
- ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回に対応。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ①発表（取り組みと内容）20% ②レポート（内容、適切さ）30% ③筆記試験（客観 論述）50%
総合評価は①②③の合計が60%を超えていること

■教科書

本保恭子、中内みさ他：「知的障害児の教育 第2版」 大学出版 2010

■参考書

- ①文部科学省：「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領」 海文堂出版 2009
- ②文部科学省：「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」教育出版 2009
- ③文部科学省：「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（高等部）」海文堂出版 2009
- ④文部科学省：「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」海文堂出版 2009

科目名	知的障害教育Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アヴェロンの野生児 ことば・文字・数 教材・教具				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

知的障害教育の基本的知識を基に、障害の重度化・重複化している実態を考慮しながら、人間行動の成り立ちや基本的行動、また、概念行動などの概要を理解できる。個々の障害児の学習指導法について考察できる。

〔到達目標〕

- ①アヴェロンの野生児から学習の様子を知る。
- ②様々な学習停滞での支援の仕方が理解出来る。
- ③特別支援教育の学習の仕方が理解出来る。

■授業の概要

知的障害教育の原点である「アヴェロンの野生児の記録」から知的障害教育について学び、知的障害児には難しいとされている教科的な学習についても、実践事例から考察する。また、知的障害児に使用する教材・教具を見たり、製作したりしながら知的障害教育の在り方を考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 知的障害教育Ⅰの復習 他
第2回	知的障害教育の原点と言われる「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ①
第3回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ②
第4回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ③
第5回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ④
第6回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」①
第7回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」②
第8回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」③
第9回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」④
第10回	知的障害児の教材・教具見学
第11回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」⑤
第12回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」⑥
第13回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」⑦
第14回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」⑧
第15回	知的障害児の教育の可能性と展望

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①知的障害児の指導している現場の視察が出来れば、授業の一環として計画する。出来ない場合は学習に使う教材・教具の見学をし、検討を行う。
- ②講義回数と講義内容が一致しない場合がある。

〔受講のルール〕

- ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。
- ②予習、復習は必ず行うこと。
- ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回に対応。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

①レポート（内容、適切さ）40%②筆記試験（客観 論述）60% 総合評価は①②の合計が60%を超えていること

■教科書

進 一鷹:<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法 明治図書 2005

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	知的障害者の生理・病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	定義、疫学、原因、症状、分類、検査、診断、治療、予後、予防、支援方法				

■授業の目的・到達目標

- ①知的障害者（児）をきたす疾患について説明することができる。
- ②知的障害者（児）の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

知的障害者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。知的障害者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、知的障害児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	周産期に生じる脳障害
第3回	染色体異常
第4回	先天性風疹症候群
第5回	二分脊椎
第6回	脳炎、髄膜炎
第7回	先天性代謝異常
第8回	頭部外傷、脳血管障害
第9回	てんかん
第10回	先天性筋ジストロフィー
第11回	胎児性アルコール症候群、水俣病
第12回	発達障害総論
第13回	自閉症
第14回	注意欠陥多動性障害、学習障害
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

知的障害者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（80%）、受講態度（20%）

■教科書

なし

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	中学校教育実習（社会科）	担当教員 （単位認定者）	江原 京子	単位数 （時間数）	4 （120）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習、教員採用試験対策講座、教科または教職に関する科目、教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰを履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 2年次の教員採用試験対策講座及び3年次後期、4年次前期の教採対策講座を必ず受講する者
- 7 1年次より実施する夏期集中講座を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、120時間（3週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校の両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席（10%）
- 2 実習校の評価（50%）
- 3 教育実習の記録の評価（40%）

科目名	重複障害教育	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	重複障害 重度・重複障害 ヘレン・ケラー 視覚・聴覚障害 人間行動の成り立ち 行動の自発				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

(重度)重複障害児の実態の理解、重複障害教育の理解、個々の重複障害児に応じた指導の工夫や障害に対応した教材・教具の工夫が出来る。

〔到達目標〕

- ①ヘレン・ケラーの学習の様子が理解出来ている。
- ②日本で行われた重複障害児の学習と指導方法が理解出来ている。
- ③重複障害児の実践事例を読み込んで学習の方法がわかる。

■授業の概要

(重度)重複障害児の指導について、ヘレン・ケラーや日本での重複障害教育実践事例から考察する。また、(重度)重複障害児一人一人に応じた支援の工夫や教材・教具の工夫について十分な理解を得る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 重度・重複障害児とは、重複障害児の世界について理解する。
第2回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その1)
第3回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その2)
第4回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その3)
第5回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その4)
第6回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その5)
第7回	(重度)重複障害児の理解 実地見学
第8回	重複障害教育の実践事例検討② Y盲学校における指導事例
第9回	重複障害教育の実践事例検討③ G盲学校における指導事例
第10回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その1)
第11回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その2)
第12回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その3)
第13回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その4)
第14回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その5)
第15回	重複障害教育の展望と課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①知的障害教育Iの受講済みであることが望ましい。
- ②重複障害児理解のため特別支援学校か入所施設訪問を計画する。

〔受講のルール〕

- ①予習・復習を必ず行うこと。教科書は授業前に熟読すること。
- ②将来自分が重複障害児の担任になったつもりで課題を明確にすること。
- ③受講中に他の学生に迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回に対応。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

①レポート(内容、適切さ)40% ②筆記試験(客観 論述)60% 総合評価は①②の合計が60%を超えていること。

■教科書

アン・サリバン:「ヘレン・ケラーはどう教育されたかーサリバン先生の記録ー」 明治図書 2010
進 一鷹:「重度・重複障がい児の発達と指導法」 明治図書 2010

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	低所得者に対する支援と生活保護制度				

■授業の目的・到達目標

貧困・低所得者が直面している生活問題の把握に努め、その対応策としての制度概要及び動向を理解する。

■授業の概要

“ソーシャルワーク実践”を考慮し、生活保護法の内容・動向について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション（シラバスに対する概要・授業の進め方・本科目における国家試験出題傾向等を伝達）
第2回	公的扶助とは：公的扶助の概念、社会保険と公的扶助
第3回	公的扶助の歴史
第4回	生活保護法の目的・基本原理
第5回	生活保護法の基本原則
第6回	生活保護の種類（内容及び方法）①
第7回	生活保護の種類（内容及び方法）②
第8回	生活保護基準と最低生活保障水準
第9回	保護施設（分類・設置主体等）
第10回	被保護者の権利義務
第11回	生活保護の動向①
第12回	生活保護の動向②
第13回	他の低所得者対策
第14回	自立支援プログラム等の最近の政策動向
第15回	総括及び国家試験頻出箇所確認

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、積極的に受講すること。国家試験を考慮して、授業内に小テスト・確認テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験（100%）による。

■教科書

『公的扶助論 ～低所得者に対する支援と生活保護制度～』 光生館

■参考書

福祉小六法

科目名	読書と豊かな人間性	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	読書と豊かな人間性				

■授業の目的・到達目標

学校図書館は、単に学校教育の一部ではない。読書教育は、豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。総合的な読書指導の方法としてのブックトークの理論と技術を身に付けることを目指す。

■授業の概要

<読み書き>は、人間にとってもっとも根源的な情報価値である。学校図書館は、そうした読書する児童・生徒が、いわば成長させていることを考える。読書指導の方法については、ブックトークを試演し、その評価を試みる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス 読書の勧め 「お勧めの一冊」
第2回	学校図書館法と学習指導要領
第3回	学校図書館の役割 読書とは何か
第4回	図書館利用の指導
第5回	読書指導の方法①
第6回	読書指導の方法②
第7回	読書指導の方法③
第8回	学修情報センターとしての学校図書館
第9回	ブックトークについて
第10回	ブックトークの実践①
第11回	ブックトークの実践②
第12回	ブックトークの実践③
第13回	読書会①
第14回	読書会②
第15回	学校図書館とは(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

提出物(読書ノート・学習指導案・レポート) 40%、ブックトーク実技60%。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	特別活動研究	担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別活動研究				

■授業の目的・到達目標

特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（HR）活動・児童（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を理解し、小・中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（HR）活動・児童（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を個別学習（予習課題）や話し合い、講義等をとおして理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、班編制、話し合い学習法① 特別活動の内容構成と教育的意義	予習課題
第2回	特別活動の目標と基本的性格①	予習課題
第3回	特別活動の目標と基本的性格②	予習課題
第4回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質①（学校教育からみた特質）	予習課題
第5回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質②（特別活動からみた特質）	予習課題
第6回	特別活動と他の教育内容・方法との関連	予習課題
第7回	学校の教育課程の編成・実施と特別活動の授業時数	予習課題
第8回	特別活動の各内容ごとの特質（学級活動・HR活動の活動内容と特質）	予習課題
第9回	特別活動の各内容ごとの特質（児童会・生徒会・クラブ活動の活動内容と特質）	予習課題
第10回	特別活動の各内容ごとの特質（学校行事の活動内容と特質）	予習課題
第11回	特別活動の評価	予習課題
第12回	特別活動の指導（実際の進め方）（指導計画の作成）①	予習課題
第13回	特別活動の指導（実際の進め方）（指導案の書き方等）②	予習課題
第14回	特別活動を支え、充実・発展させるために①	予習課題
第15回	特別活動を支え、充実・発展させるために②、まとめ	全体まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度・私語を慎んで下さい。状況によっては退席を求めることもあります。班編制をします。班の中で自己決定による座席指定をします。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験（80%）、予習課題の予習状況（10%）、自己達成度評価（10%）を総合して評価します。

■教科書

高橋哲夫、原口誠次、井上裕吉、今泉紀嘉、井田延夫、倉持博編 特別活動研究第三版 教育出版株式会社 2000円 + 税

■参考書

小・中・高等学校学習指導要領 特別活動編 文部科学省

科目名	特別支援学校 (肢体不自由・知的障害・病弱)教育実習	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳 足立 勤一	単位数 (時間数)	2 (80)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害のある児童生徒の指導の実践、指導計画、学習指導案、特別支援学校の組織や仕組み				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

障害児の一人一人の実態に即し、教育的ニーズを把握し、指導計画を立て、児童生徒が主体的に活動し、全人的発達を促せる支援ができるような実践的能力・技術を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・障害のある児童生徒の実態把握の方法を知る。
- ・個別の支援計画を理解し、それに基づいた指導計画を立てることができる。
- ・指導計画に基づいた学習指導案を立てることができる。
- ・学習指導案に基づき児童生徒の主体性を生かした授業を実践することができる。
- ・チームティーチングの仕組みを理解し、活用できる。
- ・児童生徒の実態に即した教材教具の開発や工夫ができる。
- ・特別支援学校の組織や仕組み、保護者理解や地域と学校との関連を理解できる。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- ①将来教員として学校現場で働く意思を強くもっている者。
- ②小学校・中学校・高等学校の教員免許状を取得可能な単位をもっている者。
- ③特別支援教育とその教育課程の学習に熱意と意欲をもっている者。
- ④健康状態が教育実習を行うのに適当と認められる者。
- ⑤実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、知的障害教育Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、肢体不自由教育Ⅱ、重複障害教育総論、LD等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、病弱教育、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。
- ⑥ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に行い、体験した者。
- ⑦実習後都道府県で実施する教員採用試験あるいは私立学校主催の適性試験を必ず受検する者。

■実習時期及び実習日数・時間

- 1 教育実習は、原則として4年次で実施する。
- 2 教育実習は、80時間(2週間)を原則とし、実習校の都合で120時間(3週間)になることもある。事前指導が計画されている場合は、実習校の指示に従うこと。

■実習上の注意

教育実習事前ガイダンスの受講及び「教育実習録」の提出を必須とする。

〔実習中止の措置〕

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指示に従えない者。
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの出席(10%)
- 2 実習校の評価(50%)
- 3 教育実習録の評価(40%)

科目名	人間関係論	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会的相互作用、社会学的社会心理学、適応論				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

人と人との関わりについて、より科学的な見地から分析できることを目的とする。

[到達目標]

社会心理学におけるキーワードを理解する。

囚人のジレンマ、社会的ジレンマ、集団意思決定、社会的影響過程についての知識を得る。

社会現象を解明する上で重要な分析視座を理解する。

■授業の概要

本講義では、社会的相互作用をキーワードに、主に社会心理学の重要なテーマについて触れる。
具体的には囚人のジレンマ、社会的ジレンマ、集団決定、社会的認知といったテーマを紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス・殺人・暴力の適応論的研究
第2回	殺人・暴力の適応論的研究
第3回	社会的影響過程
第4回	社会的影響過程
第5回	社会的影響過程
第6回	囚人のジレンマ
第7回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ
第8回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ
第9回	集団意思決定
第10回	集団意思決定
第11回	集団意思決定・まとめ
第12回	集団による知、無知
第13回	集団による知、無知
第14回	研究紹介(進化心理学・文化心理学)
第15回	研究紹介(進化心理学・文化心理学)・到達確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

教室での講義が主体であるが、LLもしくはPC室で作業を行う場合がある。

[受講のルール]

メールでのコメントカード記入を毎回実施する。

各トピックごとに小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内コメントカード(20%)、小テスト(40%)、到達テスト(40%)

■教科書

亀田達也・村田光二 複雑さに挑む社会心理学(改訂版):適応エージェントとしての人間 有斐閣アルマ
(2010年改訂版) 2010

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	認知心理学	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	知覚、注意、記憶、言語				

■授業の目的・到達目標

認知心理学の知識を習得するとともに、

- ①国家試験での心理学（認知心理学関連）問題に全問答えられるようになること。
- ②社会福祉の場面において、その知識をどう活用できるか吟味する能力を得ること。

■授業の概要

認知心理学は、思考や記憶、理解や推論といった人間の認知活動について研究する幅広い学問である。本講義では、認知心理学の分野で行われた実験研究を紹介しながら、やさしく人間の認知機能について紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	認知心理学の誕生と変貌——情報工学から機能的生物学へ
第2回	認知心理学の誕生と変貌——情報工学から機能的生物学へ
第3回	知覚の基礎——環境とのファーストコンタクト
第4回	知覚の基礎——環境とのファーストコンタクト
第5回	高次の知覚——見ることから理解することへ
第6回	高次の知覚——見ることから理解することへ
第7回	注 意——情報の選択と資源の集中
第8回	注 意——情報の選択と資源の集中
第9回	記 憶——過去・現在・未来の自己をつなぐ
第10回	記 憶——過去・現在・未来の自己をつなぐ
第11回	言 語——成長する心の辞書システム
第12回	言 語——成長する心の辞書システム
第13回	問題解決と推論——普遍性と領域固有性の間で
第14回	問題解決と推論——普遍性と領域固有性の間で
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各章ごとに確認小テストを実施する予定である。メールでのコメントの提出が求められる。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（206研究室）を予定している。

■評価方法

授業内小テスト 50%、授業内コメントや発言 20%、到達テスト 30%。

■教科書

道又 爾・北崎 充晃・大久保 街亜・今井 久登・山川 恵子・黒沢 学（2011）認知心理学 - 知のアーキテクチャを探る 新版 有斐閣アルマ

■参考書

適宜指示する。

科目名	発達心理学（保育の心理学Ⅰ）	担当教員 （単位認定者）	島内 晶	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発達過程、ピアジェ、愛着				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

子どもが大人へと成長する発達の変化の過程を理解し、それをふまえて主に出生時から幼児期までの子どもを対象に、子どもの心理的特性とその発達の変化の過程をさまざまな角度から学習し、理解する。また、現在の高齢社会においては、エイジングが人間におよぼす影響も決して無視することができない状況から、成人期以降の発達についても学習する。

〔到達目標〕

- ①人の発達の変化の過程を理解できる。
- ②各発達段階における人の心理的特性を理解できる。

■授業の概要

胎生期から青年期までを中心に、各発達段階の特徴を具体的に挙げながら講義を進める。また、成人期以降の加齢変化についても概観する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、発達心理学とは
第2回	発達心理学の方法と考え方
第3回	発達の理論
第4回	受胎から誕生まで
第5回	乳児期の発達（1）身体機能の発達
第6回	乳児期の発達（2）認知的発達
第7回	愛着について
第8回	幼児期の発達（1）身体機能の発達
第9回	幼児期の発達（2）認知発達・ピアジェの理論
第10回	幼児期の発達（3）社会性の発達
第11回	児童期の発達
第12回	青年期の発達
第13回	成人期の発達
第14回	中年期・老年期の発達
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題（小レポート等）、出席状況、受講態度等（40%）
 - ②学期末試験（60%）
- ①～②を総合的に評価する。

■教科書

青木紀久代 編 『新時代の保育双書 実践・発達心理学』 みらい 2012年

■参考書

山本利和 編 『現代心理学シリーズ7 発達心理学』 培風館 1999年

科目名	発達心理学特講	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢者、百寿者、障がい				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもが大人へと成長する発達の変化の過程を理解した上で、発達の最終段階である高齢者の心理的特性とその加齢変化をさまざまな角度から学習する。また、障がいをもつということに関して、心理的特性を理解した上で、その心理的援助について、様々な視点から捉えられるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢期に生じるさまざまな問題について、発達心理学的視点にたつて考えることができる。
- ②「障がい」を持つということについて理解した上で、様々な視点にたつて、その支援を考えることができる。

■授業の概要

本講義では、生涯発達の視点から受胎から老年期までの人間の一生における発達上の問題点や発達と障がいの関係について、応用的な側面も含めて考えていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 障がいをもつとはどういうことか、加齢とはなにか
第2回	「障がい」のとらえ方
第3回	障がい者に対する支援とは
第4回	障がい者を理解するために必要なことは①
第5回	障がい者を理解するために必要なことは②
第6回	高齢者の特性①
第7回	高齢者の特性②
第8回	百寿者が生きた世界①
第9回	百寿者が生きた世界②
第10回	認知症①
第11回	認知症②
第12回	若年性認知症①
第13回	若年性認知症②
第14回	認知症高齢者と家族
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し「発達心理学a」、「福祉心理学」、「障害児（者）心理学」、「老人心理学」を受講済みであることがのぞましい。
- ・これまで学習してきた内容を基礎として応用的な側面をとりあげるため、予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・この授業では、様々なテーマに対して、視覚教材（VTRなど）や著書を提示する。受講生は、それらに対して、各自の視点や目的意識をもち、考えることが重要となる。そのため、受講する際、積極的な態度で授業に臨むことが大前提である。
- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①受講態度、授業時に課す課題、小レポート、出席状況等（40%）
 - ②学期末試験（もしくはレポートにする場合もある）（60%）
- ①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤眞一著『認知症「不可解な行動」には理由がある』ソフトバンク新書 2012年

■参考書

昇地勝人 藺香代子 長野恵子 吉川昌子 『障害特性の理解と発達援助 教育・心理・福祉のためのエッセンス第2版』ナカニシヤ出版 2001年
NPO法人生活・福祉環境づくり21・日本応用老年学会 編著 『ニッポンのネクストステージ 高齢社会の「生・活」事典』社会保険出版社 2011年

科目名	美術概論	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ルソー 自然主義の教育観 ルネサンス マニエリスム バロック ロココ ロマン主義 印象主義 後期印象主義 琳派				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

図画工作科の指導者に必要な幅広い美術教育基礎理論を身に付け、また教育内容が知的なものよりも感性的であることから、感性を豊かにする教育方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①自然主義の教育観で表現の意味の発見がなされ、今日もその精神を受け継いでいる図画工作科教育の目的、内容が理解できる。
- ②西洋美術の流れ日本の美術を概観することにより、美術文化に深い関心を持ち、作品から受け取った感覚を自分の知識と結びつけ第三者に伝えることができる。

■授業の概要

5つのセクションからなる。①芸術・美術の概念、②造形教育の理念と構造、③図画工作科教育の歴史、④西洋美術史と日本の美術、⑤鑑賞教育。西洋美術史はDVD視聴も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	芸術・美術の概念、芸術のジャンル、造形教育の理念
第3回	自然主義の教育観と表現の意味の発見、無意識と表現
第4回	現代美術教育理念の展開
第5回	西洋美術史 中世、ルネサンス、マニエリスム
第6回	バロック、ロココ、新古典主義、ロマン主義
第7回	写実主義、印象主義、象徴主義、
第8回	後期印象主義
第9回	現代の絵画
第10回	日本の美術 琳派
第11回	現代の日本画
第12回	図画工作科教育の歴史
第13回	図画工作科の目的、内容
第14回	美術鑑賞教育の目的・内容・方法
第15回	造形教育指導者の教師像、図画工作科教育の今後の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

毎回授業終了時に絵画鑑賞用コメントカードを提出すること。

〔受講のルール〕

授業の流れや雰囲気なを乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 60%、レポートまたは課題提出物 30%、出席・態度 10%

■教科書

「西洋美術史」高階秀爾監修 美術出版社

■参考書

授業内で適宜指示する。

科目名	病弱教育	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	病弱・虚弱 子どもの病気 病気の子どもの気持ち 子の不安 親の不安 学校の対応 配慮事項				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

病弱教育は特別支援教育の中では普通教育に近い学習をすることも求められている。近年からの病気以外にも心に問題を抱えている児童生徒も入ってきている。病弱教育のこのような様々の現状とその対応について理解する。

〔到達目標〕

- ①病弱児の主な病気についての理解が深まる。
- ②病弱教育に係わる教員の専門性について理解出来る。
- ③病気の子や保護者の気持ちが理解出来る。

■授業の概要

病弱教育は対象の児童生徒が罹っている主な病気について理解を深めるとともに、病弱教育の教員として問われる資質について考えながら、病弱教育の専門性と基本的な知識を習得出来る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 病弱教育とは
第2回	病弱教育の変遷と現状
第3回	病気の理解と指導について～例：色素性乾皮症 膠原病 血管腫
第4回	病気の理解と指導について～例：腎疾患 胆道閉鎖症 等
第5回	学校視察 出来ない場合は全国の病弱教育特別支援学校について資料調査
第6回	病気の理解と指導について～例：アレルギーとぜんそく クロウン病 等
第7回	病気の理解と指導について～例：肥満 糖尿病 等
第8回	病気の理解と指導について～例：筋ジストロフィー 潰瘍性大腸炎 等
第9回	病気の理解と指導について～例：心疾患 ペルテス病 等
第10回	病気の理解と指導について～例：もやもや病 ムコ多糖症 等
第11回	病気の理解と指導について～例：白血病 血友病 等
第12回	病気の理解と指導について～例：脳腫瘍 悪性リンパ腫 高次脳機能障害 等
第13回	病気の理解と指導について～例：てんかん 心の病気 他
第14回	病気の理解と指導について～例：その他の病気
第15回	病弱教育の展望と課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①病弱教育の現地視察が出来れば、授業の一環として計画する。この場合は見学者の健康管理も出来ていないと実施出来ないので十分健康に注意すること。
- ②病弱教育は病気に関することを扱うきわめて教師の専門性や倫理観が求められる。そこで児童生徒の知り得た個人情報の取り扱いなどには十分注意すること。
- ③学校参観の日程などは不確実な面があることと、病気について発表してもらうので、講義の回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。

〔受講のルール〕

- ①予習復習を必ず行うこと。
- ②自分が病弱の担任になったつもりで受講する。
- ③受講中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回に対応。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ①発表（取り組みと内容） 20%
 - ②レポート（内容、適切さ） 30%
 - ③筆記試験（客観 論述） 50%
- 総合評価は①②③の合計が 60%を超えていること。

■教科書

全国特別支援学校病弱教育校長会編：「病気の子どもの理解のために」より引用するのでプリントアウトする。<http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html>

■参考書

授業中紹介する資料、本など

科目名	病弱児の心理・生理・病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	定義、疫学、原因、症状、分類、検査、診断、治療、予後、予防、支援方法				

■授業の目的・到達目標

- ①病弱児の疾患について説明することができる。
- ②病弱児の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。病弱児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、病弱児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害
第3回	知的障害を伴わない発達障害と二次障害
第4回	循環器疾患の理解と支援
第5回	呼吸器疾患の理解と支援
第6回	悪性腫瘍の理解と支援
第7回	腎・泌尿器疾患の理解と支援
第8回	成長障害、内分泌疾患の理解と支援
第9回	消化器疾患の理解と支援
第10回	神経系疾患の理解と支援(1)
第11回	神経系疾患の理解と支援(2)
第12回	病気、障害の受容とセルフケア
第13回	病気、障害の子どもの心理的特性
第14回	教育・医療・保健・福祉の連携と支援
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(80%)、受講態度(20%)

■教科書

病弱児の生理・病理・心理 小野次朗ら 編著 ミネルヴァ書房 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	福祉行財政と福祉計画	担当教員 (単位認定者)	新木 恵一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	福祉サービス推進の基本事項の習得				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

・社会福祉の実践の基礎となる福祉に関する行政と財政及び福祉計画について学ぶ。

[到達の目標]

- ①国・地方自治体の財政と福祉関係予算について理解をする。
- ②国・地方自治体の福祉推進組織とインフォーマルな関係機関等について学ぶ。
- ③福祉計画の必要性とその内容、及び専門職としてのかわり方を理解する。

■授業の概要

福祉サービスの必要性とともにそのサービスを実現するために必要な財源はどのようにになっているのか。

また、推進体制については理念と共に実体としての地方自治体の状況を知る。さらに、これまで対処療法的であった福祉サービスを体系化し今後のあり方についての基本となる福祉計画について研鑽する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、福祉と制度の総論的説明
第2回	福祉の法制度の展開について
第3回	福祉計画の概要
第4回	福祉行政の組織
第5回	福祉財政
第6回	社会福祉基礎構造改革とサービス手続き
第7回	福祉サービスの専門諸機関と専門職
第8回	福祉計画の目的と意義
第9回	福祉計画の理論と技法(基本的視点)
第10回	福祉計画におけるニーズの把握
第11回	福祉計画の実際(分析と枠組み)
第12回	〃 (老人福祉計画・介護保険事業計画)
第13回	〃 (障害者計画・障害福祉計画)
第14回	〃 (次世代育成支援行動計画)
第15回	〃 (地域福祉計画・地域福祉行動計画)、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスに基づき、予習復習を必ず行うこと。
- ・日常生活において家族、地域等を福祉の視点から観察すること。
- ・福祉専門職として他人を思いやる心をもって日常生活をおくこと。
- ・授業中は真摯に取り組み、積極的に質問等を行い貴重な時間を大切に使うこと。
- ・私語、携帯電話等については厳に慎み、反した場合は出席を認めないこともある。
- ・始礼、終礼挨拶と返事は若者らしくハキハキとする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・平日頃から福祉関連のマスコミ情報に興味を示し、関連データや事件・事案等について切り抜きやメモ等を行うこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%。 60 点以上を及第点とする。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画」(中央法規)

■参考書

- ・社会福祉の動向編集委員会編「社会福祉の動向 2015」(中央法規)

科目名	福祉事務所運営論	担当教員 (単位認定者)	社会福祉課程担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	福祉事務所運営論				

■授業の目的・到達目標

この授業は社会福祉制度等の勉強が進んでいる4年生に『福祉事務所』の制度・実態等について行うものです。行政組織の仕組みやそこで働く専門職の実態を承知することによって特にこれから社会福祉士等の国家資格取得に参考となるものにしていく。

■授業の概要

学習において理論の習得は大事なことです。併せて現場がどのように動いているか等を体験するために福祉事務所訪問なども取り入れていく予定です。授業はパワーポイント等で資料説明しながら問題点の把握、今後の学習の狙い等を深めていきます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	社会保障と税の一体改革
第3回	第1章 福祉社会と福祉事務所の運営
第4回	第2章 福祉事務所の成立と歴史的展開
第5回	「福祉事務所訪問」
第6回	第3章 福祉事務所をめぐる法制度
第7回	第4章 福祉事務所の業務と組織
第8回	「福祉事務所訪問」
第9回	第5章 福祉事務所と関連社会資源との連携
第10回	第6章 福祉事務所の運営と民生委員の役割
第11回	第7章 福祉事務所の専門職員とその役割
第12回	第8章 社会福祉主事の専門性と倫理
第13回	第9章 社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開
第14回	第10章 福祉事務所における自立支援の事例とその現状
第15回	第11章 福祉事務所の運営をめぐる課題と動向 (授業のまとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

特にないが、学生が自主的に学ぶことの大切さを自覚すると共に、予習・復習を欠かさず、授業に出席して積極的に取り組んでほしい。

■授業時間外学習にかかわる情報

疑問点等はいつでも照会してほしい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート(100%)

■教科書

宇山勝儀・船水浩行編著『福祉事務所運営論』(ミネルバ書房)

■参考書

- ①『国民の福祉と介護の動向』(厚生労働統計協会)
- ②『社会保障の手引』(中央法規)
- ③『福祉6法』(各社)

科目名	福祉心理学	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童虐待、問題行動、障がい特性、高齢者、認知症				

■授業の目的・到達目標

[目的]

現代社会においては福祉専門職を目指す人でなくても、福祉に関する知識・理解は必須のものである。この科目は、福祉に関連すると考えられる心理学的知見を幅広く学習することを目的とする。具体的には、ライフサイクルから見た乳幼児～高齢者の理解、障がい者の心理理解、援助行動・コミュニケーションの問題について知見を広めることを目的とする。

[到達目標]

- ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について、理解できる。
- ②さまざまな障がいについて、その特性を理解できる。
- ③高齢者の基本的な心理的特性や、認知症についての基本的な特徴について、理解できる。

■授業の概要

福祉心理学は実際の学問分野において体系づけられた領域が確立されているわけではない。しかし、現代社会においては実際に必要とされている領域ともいえる。そこで、人の精神的な悩みや、様々な心理的な困難の解決を心理学的な知見と技法によって援助する福祉活動と考えれば「福祉心理学」の一側面がみられる。障がい者(児)、高齢者の心理的特性を理解し、援助的な関わりを学ぶことを目的とし、授業は総論的な視点から授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション — 福祉心理学とは	
第2回	家庭問題の心理学	児童虐待の現状とその背景について概観する
第3回	問題行動の心理学	青少年期の問題行動の種類と特徴、不適応の行動について考える
第4回	問題行動に対する心理学的な援助	様々な心理的な問題に対する援助方法について触れる
第5回	「障がい」理解に向けて	障がいのとらえ方、障がい特性とはなにかについて考える
第6回	感覚障がい者(児)の理解	視覚障がいや聴覚障がいの特徴と心理的問題について考える
第7回	肢体不自由者(児)の理解	肢体不自由(運動障害)の特徴、心理的問題について考える
第8回	知的障がい者(児)の理解	知的障害の発生と特徴について考える
第9回	発達障がい児の心理的理解(1)	広汎性発達障がいについてその種類と特徴について考える
第10回	発達障がい児の心理的理解(2)	広汎性発達障がいについてその種類と特徴について考える
第11回	精神障がい者の理解	精神障害の定義やその特徴、心理的問題について考える
第12回	高齢者の理解(1)	高齢者の心理的特徴や行動特性、加齢の影響について理解を深める。
第13回	高齢者の理解(2)	認知症の種類と特徴、認知症高齢者の理解について考える
第14回	障がい者(児)や高齢者を抱える家族への対応	介護に当たる家族の問題、家族支援の方向性について考える
第15回	総括	

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・ 受講に際しては、「心理学理論と心理的支援」の講義を受講済みであることが望ましい。
- ・ 予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・ 各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

[受講のルール]

- ・ 授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・ 他の受講生の迷惑になる行為(私語など)はしないこと。
- ・ 授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)、出席状況、受講態度等(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤泰正・山根律子 編著 『福祉心理学 改訂版』 学芸図書 2008年

■参考書

適宜、授業時に紹介します。

科目名	保育教職実践演習	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育職 教職 保育実践 保育内容の指導力 園行事 企画・実践				

■授業の目的・到達目標

- ①保育職・教職に対する使命感、責任感を高める。
- ②多様な子ども、保護者に対応できるよう社会性や対人関係力を高める。
- ③多様な子どもを理解し、保育内容の指導力を身につける。
- ④保育内容の指導力、及び学級経営力を身につける。

■授業の概要

卒業後に保育現場に立つ前の総まとめとして、4年間、講義や実習で学んだ様々な体験をもとに、実践的指導力を有する保育者としてのスキルを高める学習としてグループ活動を実施する。グループごとに園行事を企画・運営・実践し、その後、振り返り及び意見交換を行う。また保育職・教職の意義や役割・責任感などをテーマに、保育現場より外部講師を迎えることにより、より幅広い保育実践力の向上を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育職・教職の意義や役割について
第3回	特別な支援を必要とする子どもの保育に関する理解
第4回	保育内容の指導力①園行事について(講義)(グループ活動①)
第5回	保育内容の指導力②園行事について(グループ活動②)
第6回	保育内容の指導力③園行事について(グループ活動③)
第7回	保育内容の指導力④園行事について(グループ活動④)
第8回	保育内容の指導力(グループ発表①)
第9回	保育内容の指導力(グループ発表②)
第10回	保育内容の指導力(グループ発表③)
第11回	保育職・教職に就くものとしての責任感について①
第12回	保育内容の指導力(グループ発表④)
第13回	保育内容の指導力(グループ発表④)
第14回	保護者とのよりよい関係を目指して(講義)
第15回	保育職・教職に就くものとしての責任感について②

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・幼児教育に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
実習やボランティアでの体験をまとめておくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

グループ活動への参加状況(30%)グループ発表(20%)提出物・レポート(50%)の総合評価。

■教科書

講義の中で適宜指示します。

■参考書

参考書は随時紹介していきます。

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育 保育士 乳幼児の発達 観察実習 参加実習 部分実習				

■授業の目的・到達目標

- ①保育所の役割と機能を理解する。
- ②乳幼児を観察し理解する。
- ③保育士の役割と仕事内容を理解する。
- ④多様な保育内容を理解する。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」取得を目指す第3年次の学生で次に掲げる者とする。

- ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。
- ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。
- ③「保育実習指導Ⅰ（保育所）」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は原則として3年次において実施する。
実習は12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。

【実習中止の措置】

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により、実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
 - ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
 - ③指導計画、実習日誌（10%）
 - ④実習のまとめ（10%）
 - ⑤実習報告書（10%）
 - ⑥その他の提出物の提出状況（10%）
- ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育 保育士 乳幼児の発達 指導案 参加実習 責任実習				

■授業の目的・到達目標

- ①乳幼児の発達を理解し、保育を計画・実践する。
- ②保育士としての資質・能力・技術を習得する。
- ③多様な保育内容に参加する。
- ④家庭と地域の子育て支援について具体的に学ぶ。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」取得を目指す第3・4年次の学生で次に掲げる者とする。

- ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。
- ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。
- ③「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（保育所）」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は原則として3・4年次において実施する。
実習は12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。

【実習中止の措置】

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により、実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
 - ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
 - ③指導計画、実習日誌（10%）
 - ④実習のまとめ（10%）
 - ⑤実習報告書（10%）
 - ⑥その他の提出物の提出状況（10%）
- ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位を習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習（施設）	担当教員 （単位認定者）	保育士課程担当教員	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	実習課題、実習目標、実習記録、実習、実習評価				

■授業の目的・到達目標

- ①大学で習得した教科目全体の知識・技能やボランティア体験等で得た知識・技能を基礎とし、実習現場で理論と実践を主体的・実践的に結び合わせ理解する。
- ②保育士としての総合的に実践する応用能力を養うため、利用者やその保護者に対する理解を通じて、保育技術やその他の支援技術の理論と実践の関係について総合的に学ぶ。
- ③実習の体験を通して児童観、障害者観及び福祉観の形成に結びつけるとともに、自分自身の理論や知識の不十分さ、学習不足を認識し、今後の学習や研究の課題を明確化させる。

■実習履修資格者

- ①将来、保育士として児童福祉施設等の社会福祉施設の現場で働く意思を持っている者。
- ②児童福祉等の関連教科目の学習及びボランティア活動等の実践活動に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うに当たって適当と認められる者。
- ③保育士の資格取得に必要な教科目の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。
- ④「保育実習指導Ⅰ（施設）」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

- ①実習は2年次において実施する。
- ②実習時間は、12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則及びそれに準ずる実習上のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習担当者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
- ②巡回指導時における実習担当者からの指導状況及び実習態度（10%）
- ③実習目標の達成状況（10%）
- ④実習日誌等記録の内容（10%）
- ⑤実習報告書の内容（10%）
- ⑥その他提出物の提出状況（10%）

*実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は、実習の単位は認定しない。

*保育実習指導（施設）の単位を同一年度において取得できなかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習指導I(施設)事後指導	担当教員 (単位認定者)	保育士課程担当教員	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の振り返り、教員によるスーパービジョン、実習レポートの作成、実習報告会、職業倫理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

実習を振り返ることにより保育士になるための課題を明確化する。また、保育士としての職業倫理を身に付ける。

〔到達目標〕

- ①社会福祉施設の役割や機能を理解する。
- ②子ども(利用者)とのかかわりを通して子ども(利用者)を理解する。
- ③子ども(利用者)への支援内容の理解や支援技術を身につける。
- ④保育士としての職業倫理を理解する。

■授業の概要

前半では、実習報告書等の作成や自己評価を行うことにより問題点や課題を明確化したうえでグループ単位(同一施設種類)で実習を振り返る。後半では、実習の総括として個々に実習レポートを作成するとともに、個々のスーパービジョンを行ったうえで、実習報告会を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	実習記録・評価の理解(実習日誌、実習報告書、実習のまとめと反省、評価、講評等について)
第3回	実習の振り返り(1)(事前学習の意義、自己理解、自己覚知、保育士の倫理等についてのグループ討論)
第4回	実習の振り返り(2)(子ども(利用者)や職員との関わりについてのグループ討論)
第5回	実習の振り返り(3)(振り返り(1)(2)の発表)
第6回	個別スーパービジョン(1)、実習レポートの作成(1)
第7回	個別スーパービジョン(2)、実習レポートの作成(2)
第8回	個別スーパービジョン(3)、実習レポートの作成(3)
第9回	個別スーパービジョン(4)、実習レポートの作成(4)
第10回	実習の総括(1)(実習報告会①)
第11回	実習の総括(2)(実習報告会②)
第12回	実習の総括(3)(実習報告会③)
第13回	実習の総括(4)(実習報告会④)
第14回	実習の総括(5)(実習報告会⑤)
第15回	実習の総括(6)(今後の実習へ向けての課題や抱負について)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

実習に係る書類や授業内で配布したプリント等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。また、関係書類の提出期限は厳守すること。予習・復習を行うこと。社会福祉施設の現状について常に留意し、今後の実習やボランティア活動にて実践したい支援や活動について考え、工夫すること。

〔受講のルール〕

実習で会得した規則正しい生活と社会人としての必要なマナーを今後の学生生活で活かすことにも実習の意義がある。従って、規則正しい生活、清潔な身だしなみ及び適切な礼儀をもって積極的に授業に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習の振り返りより明確化された個々の課題に対応するための学習を行うこと。実習施設を就職先の選択肢の一つとして考えるのであれば、ボランティア等を継続的に行うこと。また、保育実技については、いつでも子ども(利用者)の前で実践できるよう、各学生独自の良点を活かした表現方法や技術を高めておくこと。教科書の内容を良く確認してから受講すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業内での発表・授業への取り組み姿勢(30%)、実習関係書類の提出状況(20%)、実習レポートの内容(50%)

■教科書

- ①群馬医療福祉大学 発行:実習へのガイドブック.群馬医療福祉大学.2012
- ②石橋裕子・林幸範編著:新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド.同文書院.2013

■参考書

社会福祉小六法

科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育士 参加実習 責任実習 指導案				

■授業の目的・到達目標

保育所実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育所実習Ⅱ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育実習Ⅰ（保育所）振り返り
第3回	実習記録について①
第4回	実習記録について②
第5回	責任実習のポイント 指導案について①
第6回	責任実習のポイント 指導案について②
第7回	責任実習のポイント 指導案について③
第8回	保育実技について（手作り教材等）
第9回	オリエンテーションについて
第10回	実習中の注意事項について
第11回	保育実習直前指導①
第12回	保育実習直前指導②
第13回	保育実習Ⅱ（保育所）事後指導①
第14回	保育実習Ⅱ（保育所）事後指導②
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

提出物（50%）授業内レポート（30%）小テスト（20%）の総合評価

■教科書

「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに 実習へのガイドブック 群馬医療福祉大学

■参考書

参考書は随時紹介していきます。

科目名	保育内容（環境）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育内容 5領域 教科との違い 環境構成 人的環境 物的環境 保育者				

■授業の目的・到達目標

今日、多様化した環境の中で成長している子ども達を保育するうえで、保育者にはそれらの環境に対して総合的かつ高度な知識と視野が要求されている。本講義では、環境に関する基礎的な知識を習得するとともに、子どもを取り巻く環境を様々な面から捉え、保育者として子どもにとって好ましい環境を創出していくために必要な考え方と能力を身につけることを目標とする。

■授業の概要

子ども達は身の回りの環境に働きかけ、かつその影響を受けて育っていく。本講義では、子ども達を取り巻く環境について考え、保育者が適切な環境をどう整備し、どう提供するか、どう援助すればよいか、それによって子どもの伸びる力を引き出すかなどを考察し学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション～この授業で何を学ぶのか
第2回	保育の基本とは
第3回	領域「環境」の位置づけ
第4回	子どもと環境とのかかわり（1）①
第5回	子どもと環境とのかかわり（1）②
第6回	子どもと環境とのかかわり（2）①
第7回	子どもと環境とのかかわり（2）②
第8回	子どもと環境とのかかわり（3）
第9回	さまざまな保育環境について【DVD学習】
第10回	園庭の自然や遊具とのかかわり
第11回	室内の遊具・教材・設備とのかかわり
第12回	飼育・栽培・園外保育
第13回	領域「環境」と保育の実際（1）
第14回	領域「環境」と保育の実際（2）
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・身近な環境・自然に興味を持ち授業に臨むこと。
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領を参照すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

筆記試験（60%）授業内レポート・小テスト（40%）の総合評価

■教科書

演習 保育内容 環境 柴崎 正行 編著 建帛社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育内容（健康）	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	遊び、健康、発育・発達				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

健康な心とからだを育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養えることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 幼児教育の基本や領域「健康」を理解できる。
- ② 「健康」をめぐる現状と課題を見出すことができる。
- ③ 「健康」と遊び、環境構成、生活習慣、安全教育の態度や技能を身に付けることができる。

■授業の概要

子どもの発育・発達段階に沿って、心とからだの両面から理解を深め、幼児教育における子どもの健康の保持・増進を図るうえで、必要な知識・技能とともに教育環境、教育条件を整えるのに必要な資質を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 幼児教育の目標と領域
第2回	幼児教育の基本とさまざまな役割
第3回	領域「健康」と運動能力の発達
第4回	生活習慣の形成と安全への心構え
第5回	最近の子どもの運動能力の傾向
第6回	乳幼児期をとおしての運動能力の発達
第7回	ルールや道具を使った遊び
第8回	固定遊具やさまざまな遊び
第9回	戸外での興味ある遊具の配置
第10回	総合遊具の整備と保育の工夫
第11回	遊びの中で育む生活習慣
第12回	生活習慣を育む保護者の役割
第13回	遊びの中で育む安全の意識
第14回	安全の意識と事故が起きた場合の対応
第15回	幼稚園・保育所・小学校の連携 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・幼児教育を目指す学生の自覚を持って受講・事例を中心に授業を展開する。

〔受講のルール〕

・講義形式であるので、授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話等の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動で、特に幼児の遊びや行動を意識して観察する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（80%）レポート（20%）総合評価 60%以上

■教科書

倉持清美：事例で学ぶ保育内容 領域「健康」改訂版：萌文書林 2010

■参考書

黒井信隆：0～5歳児のたのしい運動遊び：いかだ社：2010

科目名	保育内容（総論）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育内容 5領域 保育ニーズ 保育者の専門性 あそび				

■授業の目的・到達目標

- ・多岐にわたる保育ニーズに対応するために保育内容はどうあるべきか自分なりの考えを持てるようにする。
- ・保育内容を実践するために必要な保育観や保育の援助方法について理解し、より良い保育実践を目指す。

■授業の概要

- ・保育所・幼稚園における保育内容について総合的かつ具体的に理解する。
- ・保育内容を展開するプロセスを理解する。
- ・「保育」の課題を理解し、解決方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	子どもの理解と保育内容
第3回	「あそび」から捉える保育内容①
第4回	「あそび」から捉える保育内容②
第5回	「生活」から捉える保育内容①
第6回	「生活」から捉える保育内容②
第7回	「環境」から捉える保育内容
第8回	「発達」から捉える保育内容
第9回	「行事」をめぐって
第10回	様々な保育形態とその背景としての「保育内容の捉え方」
第11回	保育内容の捉え方とその背景
第12回	様々な配慮を必要とする子どもの園生活と保育内容①
第13回	様々な配慮を必要とする子どもの園生活と保育内容②
第14回	保育内容と保育者の専門性
第15回	保育内容の今日的課題と保育者の専門性

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞・ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと。（レポート提出を予定しています）
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領を参照すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

筆記試験（60%）授業内レポート・提出物（40%）の総合評価

■教科書

演習 保育内容総論 金子 妙子 佐伯 一弥 編著 建帛社

■参考書

保育所保育指針・幼稚園教育要領

科目名	保育内容（人間関係）	担当教員 （単位認定者）	廣池 利邦	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育内容（人間関係）の意味、保育所保育指針、幼稚園教育要領、保育者と親の人間関係、幼稚園教諭と親の人間関係				

■授業の目的・到達目標

幼児が保育者や親との人間関係の発達の中で、どのように成長していくのかをしっかりと捉え、分析し、理解したうえで保育者としての適切な行動ができるようにする。現場の事例などを参考にしながら学習するので、実習に生かせるような学習効果が期待できる。

■授業の概要

法律に基づいた保育内容（人間関係）の分析と解釈を通して、保育者としての正しい在り方について、事例の説明やグループディスカッションをしながら、幼児や親との人間関係について理解させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方の説明。
第2回	保育内容の『ねらい』の解説
第3回	保育所保育指針の解説（1）、保育所保育指針の解説（2）
第4回	観察記録の分析：幼児と親の人間関係の観察記録について。
第5回	保育所保育指針の解説（3）、保育所保育指針の解説（4）
第6回	保育所保育指針の解説（5）、保育所保育指針の解説（6）
第7回	遊びに関する分析：集団活動に見る人間関係演習について。
第8回	保育所保育指針の解説（7）、保育所保育指針の解説（8）
第9回	保育所保育指針の解説（9）、保育所保育指針の解説（10）
第10回	親子で遊ぶこととは：意味と意義について考える。
第11回	保育所保育指針の解説（11）、保育所保育指針の解説（12）
第12回	保育所保育指針の解説（13）、保育所保育指針の解説（14）
第13回	保育内容の取扱い：保育実施上の配慮事項について。
第14回	幼稚園教育要領について解説する。
第15回	保育内容（人間関係）のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し、授業態度を評価するので、積極的な授業参加と俊敏な反応を期待する。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃から子どもの行動に興味関心を持ち、特に親子や友達の関係における子どもの動きや反応を観察するように心がけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出・小テストなど20%で評価する。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい保育内容（人間関係）』あるふあ出版、2009

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	保育内容（表現）	担当教員 （単位認定者）	落合 紀絵	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	幼児音楽教育、音楽、表現活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「領域 表現」について学び、保育の基本や他の領域との相互的なかわりを理解する。又、「表現」の担う役割と重要性について考え、保育現場にて求められている表現指導技術を身につける。

〔到達目標〕

幼児の発達に即した表現指導法を習得し、保育現場においてすみやかに実践できるようになること。

■授業の概要

幼児の発達と音楽的成長、保育現場における表現活動の指導法、指導計画の立案とその考え方や音楽の基本的な理論と技能等を中心に進行する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	保育の基本と保育内容「表現」について、楽典（1）、手遊び（1）
第3回	音楽教育の変遷について、楽典（2）、手遊び（2）
第4回	幼児の発達と音楽について、楽典（3）、手遊び（3）
第5回	保育現場における音楽的な活動について、楽典（4）、手遊び（4）
第6回	こどもの遊びと身体表現について、指揮法（1）
第7回	こどもの感性と表現について、指揮法（2）
第8回	お話と音楽について、コードネームの基礎（1）、指遊び（1）
第9回	こどもの歌唱について、コードネームの基礎（2）、指遊び（2）
第10回	こどもの音遊びについて、即興的な伴奏法（1）、指遊び（3）
第11回	打楽器の基礎技能と指導について、即興的な伴奏法（2）、リズム遊び（1）
第12回	オルフの音楽教育について、即興的な伴奏法（3）、リズム遊び（2）
第13回	コダーイの音楽教育について、移調について（1）、リズム遊び（3）
第14回	ジャック=ダルクローズの音楽教育について、移調について（2）
第15回	指導計画の立案とその考え方について、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

手遊びや指遊び等の実技については、いつでもこどもたちの前で実践できるよう、各学生独自の良点を活かした表現方法や技術を高めておくこと。教科書の内容を良く確認してから受講すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業内での発表・授業への取り組み姿勢（30%）、定期試験（70%）

■教科書

井口太 代表編著：新・幼児の音楽教育 幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導。朝日出版社。2014

■参考書

- ①桶谷弘美・吉良武志・熊谷新次郎・齊藤正義・杉江正美・高橋悦枝共著：[音楽表現]の理論と実際。音楽之友社。2004
- ②平田智久・小林紀子・砂上史子編：最新保育講座 11 保育内容「表現」。ミネルヴァ書房。2011 他、講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の心理学Ⅱ(教育心理学)	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発達段階と発達課題、学習過程とその理論的背景、動機づけ、発達障害、適応と不適応				

■授業の目的・到達目標

[授業の目標]

保育・幼児教育場面における「教える」という活動を効果的に行うための教育心理学的な理論と方法について理解すること。また、保育士試験・幼稚園教員資格認定試験・社会福祉士国家試験の関連科目に対応するための知識を習得する。

[到達目標]

- ①発達段階に応じた適切な保育・教育方法の選択を行うための知識を得る。
- ②効果的な「保育・教育」に必要な工夫の背景にある心理学の知識を得る。
- ③近年の保育・幼児教育の現場における諸問題について心理学的な観点から理解できるようになる。

■授業の概要

教育心理学の主要領域の中でも「発達」「教授・学習」「評価・測定」「適応・不適応」に関する理解を深め、実際に幼児や学齢期の児童に『教える』場面で心理学の理論に基づいた工夫を行うことが出来るようになるための知識を紹介する。また、ボランティア活動等を通じて受講生が実際に子どもと接する機会を利用し、講義内で学んだ知識を用いた課題研究を行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、発達段階と発達課題(1)：青年期
第2回	発達段階と発達課題(2)：乳幼児期～思春期
第3回	教授・学習(1) 遺伝と環境、成熟論
第4回	“ (2) 学習と行動主義
第5回	“ (3) 認識の発達段階(ピアジェの認知発達段階説)
第6回	“ (4) 記憶と学習方略
第7回	“ (5) 周囲とともに学ぶ(社会文化的アプローチ)
第8回	研究課題発表①課題設定と準備
第9回	評価・測定(1) 教育効果の測定・評価
第10回	“ (2) 知的能力の測定・評価
第11回	“ (3) 教育評価の背景(動機づけ、評価バイアス)
第12回	適応・不適応(1) 適応/不適応の視点
第13回	“ (2) 発達障害の基礎的な理解
第14回	研究課題発表②発表
第15回	教育現場における諸問題の紹介

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・欠席/遅刻等については大学規定の手続きで事前に連絡を行うこと。
- ・講義内で課すレポート課題(主に予習/復習にあたる調べ学習)や研究課題発表等が評価の対象となるため、授業への参加が重要となる。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・レポート課題や研究課題を行う上で、ボランティア活動や図書館やコンピューター室の利用が必要になるため、関連科目で得た知識を活用すること。
- ・疑問点についてはコメントカード等を活用して質問を行うこと。

■オフィスアワー

初回到説明。

■評価方法

授業への出席 35%、定期試験 40%、提出物/研究課題の発表等 25%(詳細は初回到説明)

■教科書

櫻井茂男(監修):「実践につながる教育心理学」北樹出版 2012.

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	保育の表現技術I(体育)	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	遊び、健康、発達・発育				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

乳幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを学び、実践できることを目的とする。

[到達目標]

- ①乳幼児期の運動遊びの意味、内容、支援・援助の方法を理解できる。
- ②健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。
- ③さまざまな運動遊びの体験を通して支援・援助技法がおこなえる。

■授業の概要

乳幼児期の発育・発達段階に応じた運動遊びの教材研究と、授業の内容の基礎・基本を習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に、且つ安全に遊べるかを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 運動遊びの必要性と目的
第2回	乳幼児期の心身の発達
第3回	運動遊びの指導の実際
第4回	「歩く」「跳ぶ」運動遊び
第5回	「走る」運動遊び
第6回	「ボール」を使った運動遊び
第7回	「縄」を使った運動遊び
第8回	「マット」を使った運動遊び
第9回	伝承遊び
第10回	鬼遊び
第11回	課題研究①
第12回	課題研究②
第13回	課題研究発表①
第14回	課題研究発表②
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・幼児教育を目指す学生の自覚を持って受講する。運動着、運動靴、メモ用紙の準備をする。

[受講のルール]

・グループ学習を中心に実施・グループ単位の課題研究を実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動で乳幼児の遊びを意識して観察する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実技・発表試験(60%)、レポート(40%)総合評価60%以上

■教科書

岩崎洋子:「体育あそび120」:チャイルド本社:2010

■参考書

黒井信隆:0～5歳児のたのしい運動遊び:いかだ社:2010

科目名	保健医療サービス	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保健医療サービス				

■授業の目的・到達目標

保健・保険制度の概要・医療施設・保健医療専門職の役割を説明できると共に、他専門職との連携・協働に際して求められる広範な知識を身につけることができる。
併せて将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。

■授業の概要

社会福祉士専門職(又は医療専門職)として患者(利用者)のQOL(生活の質)の向上に寄与・支援できる広範な知識を身につけられるように進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 保健医療サービス・保健医療対策の概要	教科書・オリジナルプリントを予習・ 筆記した内容を整理し復習すること
第2回	医療保険制度 医療保険制度の概要 医療費に関する政策動向	〃
第3回	診療報酬 診療報酬制度の概要	〃
第4回	介護保険制度・自立支援医療を含む公費負担医療制度	〃
第5回	医療施設等の概要 (1) 医療法による医療施設 (2) 保険医療政策による医療施設 (3) 診療報酬における医療施設	〃
第6回	介護保険法における施設/在宅支援システム	〃
第7回	生命倫理学 インフォームド・コンセント等	〃
第8回	保健医療サービスにおける専門職の役割(1) 医師・看護師・保健師制度・医療系療法士 等	〃
第9回	保健医療サービスにおける専門職の役割(2) 社会福祉専門職 等	〃
第10回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(1) 医療ソーシャルワーカー業務指針	〃
第11回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(2) MSWと業務の内容 -理論編-	〃
第12回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(3) MSWと業務の内容 -応用編-	〃
第13回	保健医療サービス関係者との連携と実際(1) 医師・看護師・保健師との連携と実際	〃
第14回	保健医療サービス関係者との連携と実際(2) 地域の社会資源との連携と実際	〃
第15回	医療福祉コミュニケーション・医療福祉危機管理 総括	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書のみ依存する事なく口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事、又そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関する確認テストを行う。

講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。
教科書の通読のみでは正しく十分な理解は困難である。全体像との関連・前後の脈絡も踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容・資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。

[受講のルール]

初回の20分間で詳細な説明を実施する。必ずノート整理を行っておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(80%)、その他教科書への書き込み状況やノートの点検(20%)

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』最新版 中央法規出版
15-15に関してはオリジナルプリントを配布します。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	幼児理解	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもを理解する、保護者を理解する、保護者との関係				

■授業の目的・到達目標

子どもの援助を行うためには、子どもの成長・発達のプロセスを理解するとともに子どもを取り巻く家族の理解も必要である。子どもおよびその家族を支援することができる援助方法や関わり方を学び、子どもおよび家族への援助を考えていく。

■授業の概要

〔授業の目的〕人間の成長・発達を学び、その過程における子どもや家族の課題を理解したうえで、子どもを対象とした援助者として必要な子どもおよび家族を理解し、支援できる具体的方法を考え、実践できるようになることを目的とする。

- ① 子どもを含む人間の成長・発達過程における課題について学び、理解する。
- ② 子どもを取り巻く環境について学び、理解する。
- ③ 保護者について学び、理解する。
- ④ 保護者からの相談を受けることについて学び、理解し、実践できるようになる。
- ⑤ 対人援助専門職として自己理解および他者理解の方法を学び、実践できるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	本講義のオリエンテーション 講義の進め方および対人援助専門職における自己覚知
第2回	子どもを理解する ①絵本をとおして子どもを理解する
第3回	子どもを理解する ②子どもを理解する方法
第4回	子どもを理解する ③子どもの視点
第5回	子どもを理解する ④子どもの内なる視点
第6回	子どもを理解する ⑤子どもの成長と発達
第7回	子どもを理解する ⑥援助の必要な子ども
第8回	子どもを理解する ⑦援助の必要な子ども
第9回	保護者を理解する ①子どもにとっての環境
第10回	保護者を理解する ②保護者からの訴え
第11回	保護者を理解する ③保護者との関わり方
第12回	子どもと家族を支援する ①
第13回	子どもと家族を支援する ②
第14回	子どもと家族を支援する ③
第15回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

①資格取得にかかわる講義のため、授業参加状況(講義への取り組み、授業態度や欠席等も含む)を重視します。②自ら具体的に考え、工夫し、現場における子どもの援助についての視点が持てることを目標に積極的な授業参加を期待します。③授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は謹んでください。④欠席をした場合、授業配布プリント等は次週自ら申し出てください。欠席者の分を出席者が受け取ることはできません。⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。②授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

①授業への取り組み(授業への参加状況)20% ②授業レポート(内容および提出状況含む)40% ③定期試験および課題レポート40% 上記①から③までを総合的に評価します。

■教科書

最新保育講座 こども理解と援助 高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011

■参考書

①新・保育講座3 幼児理解と保育援助 森上史朗+浜口順子編 ミネルヴァ書房 2003 ②新時代の保育双書「子どもの理解と保育・教育相談」小田豊・秋田喜代美編(株)みらい 2009 ③「子ども理解と保育実践 子どもを知る・自分を知る」塚本美知子編著 萌文書林 2013 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	理科概論	担当教員 (単位認定者)	初等教育コース教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	初等科理科、理科の授業、化学、物理、理科教育				

■授業の目的・到達目標

身近にみられる現象や物質を題材として取りあげ、その科学的な原理を理解し、自然現象を科学的にとらえる能力を身につけると共に、小学校教師として必要な知識・技能・思考力・判断力・指導力の養成も目標とする。

■授業の概要

小学校教員免許の取得を目的とする学生のための授業であるので、小学校教科教育法（理科）で扱う題材の中のA区分「エネルギー」と「物質」の分野（物理と化学）を主として取り上げる。この授業では超高倍率・超スローモーション、超高速カメラ等による映像を活用するので学習内容の理解が深まる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション：理科を学ぶ意義	学習：燃焼とは	指導法：教材、小6「ものを燃やすもの」
第2回	学習：元素記号、元素の周期律		
第3回	学習：酸化数、無機化合物の命名法		
第4回	学習：化学変化と化学反応式の書き方		
第5回	学習：2族元素、酸素・二酸化炭素・酸化カルシウムの反応、	指導法：教材、小6「燃えると出るのは」	
第6回	学習：小学校理科、化学分野の構成と内容、	学習：その2 花火の科学1 花火の仕組み	
第7回	学習：花火の科学2 実例		
第8回	学習：乱用される薬物の化学	指導法：教材、小4「水と水蒸気」、「水の状態変化」	
第9回	学習：静電気と電流、電流の担い手、雷		
第10回	学習：電気の計り方	指導法：教材、小3「電気の通り道」、小4「電気の働き」	
第11回	学習：電気で動かす	指導法：教材、小3「磁石の性質」、小5「電流の働き」	
第12回	学習：電磁誘導、発電のしくみ	指導法：教材、小6「電気の利用」、小3「おもちゃの国」	
第13回	学習：力のモーメント	指導法：教材、小5「てこの規則性」、小5「天秤のつりあい」	
第14回	学習：運動と力①落下運動	指導法：教材、小5「ふりこの運動」	
第15回	学習：運動と力②無重力状態、③放物運動		

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度を望む。

■授業時間外学習にかかわる情報

配布された講義資料（プリント）に沿って復習を十分に行う。

■オフィスアワー

授業開始前の1時間と授業終了後の1時間

■評価方法

受講態度 15%、定期試験 85%、欠席回数が5回を超えた時点で失格となる。

■教科書

教科書：毎回講義資料を配布する。その他、梅木信一 編著 小学校指導法 理科 玉川大学出版会

■参考書

鈴木智恵子著「身近な現象の物理と化学」東海大学出版会（図書室に用意してある）、その他、授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床心理学（社会福祉専攻）	担当教員 （単位認定者）	大島 由之	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	異常心理、病因論、ストレスとストレス反応、臨床心理査定、心理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

対人援助職に求められる臨床心理学の基礎内容を理解する。異常心理（こころの病理）、心理査定（アセスメント）、心理療法の概要について理解し、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に対応するための知識を習得する。

〔到達目標〕

- ①異常心理学の観点から、こころの異常/失調の基礎的な内容について説明できるようになる。
- ②臨床心理行為における査定の目的と意義、方法に関する基礎的な内容について説明できるようになる。
- ③代表的な心理療法の理論的背景とその技法、効果と課題について説明できるようになる。

■授業の概要

臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、応用・実践との関連を紹介する予定である。講義は、主に座学となるが、可能な限り著名な事例の紹介や、疑似体験など含めて行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、「こころの異常/失調」と臨床心理学
第2回	こころの異常/失調 ①異常とは何か
第3回	” ②ストレスとストレス反応、対処方略
第4回	心理療法①精神分析/精神力動的心理療法
第5回	こころの異常/失調③防衛機制
第6回	心理療法②行動主義と行動療法
第7回	こころの異常/失調④不安/恐怖の問題
第8回	” ⑤発達障害
第9回	心理療法③来談者中心療法
第10回	心理査定①面接法
第11回	心理療法④家族療法とシステムズアプローチ
第12回	” ⑤表現療法
第13回	心理査定②観察法
第14回	” ③検査法
第15回	臨床心理学における倫理

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・欠席/遅刻等については大学規定の手続きで事前に連絡を行うこと。
- ・講義内で課したレポートについては、提出期限を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義内で課すレポートの提出は成績に反映されるものである。また、社会福祉士国家試験の関連科目に対応した内容を予定している。教科書や講義内で紹介する参考資料を活用し、積極的な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回に説明。

■評価方法

授業への出席 35%、定期試験 40%、提出物/レポート課題 25%（詳細は初回に説明）

■教科書

下山晴彦（編）：「よくわかる臨床心理学 [改訂新版]」 ミネルヴァ書房 2009.

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	臨床心理学（子ども専攻）	担当教員 （単位認定者）	大島 由之	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	異常心理、病因論、ストレスとストレス反応、発達障害、臨床心理査定、心理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に求められる臨床心理学の基礎内容を理解する。これまで学んだ定型発達に関する理解を基礎に、各発達段階での目立つ心身の異常/失調、発達障害等を心理学の観点から理解し、根拠に基づいた対応を行うための知識を習得する。

〔到達目標〕

- ①異常心理学と発達心理学の観点から、子どものこころの異常/失調の基礎的な内容について説明できるようになる。
- ②臨床心理行為における査定の目的と意義、方法に関する基礎的な内容について説明できるようになる。
- ③心理療法の理論的背景とその技法、効果と課題について説明できるようになる。

■授業の概要

臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、子どもとその保護者に対する対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協働できるようにするための基礎知識を広く取り上げ、応用・実践との関連を紹介する予定である。講義は、主に座学となるが、可能な限り著名な事例の紹介や、疑似体験など含めて行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、「こころの異常/失調」と臨床心理学
第2回	こころの異常/失調①異常とは何か
第3回	” ②ストレスとストレス反応、対処方略
第4回	” ③発達障害
第5回	” ④各発達段階において懸念されるこころの失調/異常
第6回	心理査定①面接法
第7回	” ②観察法
第8回	” ③検査法
第9回	心理療法の理論①精神分析/精神力動的心理療法
第10回	こころの異常/失調⑤防衛機制
第11回	心理療法の理論②行動療法的アプローチ
第12回	事例検討①：環境調整とスキルトレーニング
第13回	心理療法の理論③来談者中心療法と遊戯療法
第14回	” ④家族療法とシステムズアプローチ
第15回	事例検討②：不登校へのアプローチ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・欠席/遅刻等については大学規定の手続きで事前に連絡を行うこと。
- ・講義内で課したレポートについては、提出期限を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義内で課すレポートの提出は成績に反映されるものである。実習やボランティア活動での体験を踏まえ、積極的な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回到説明。

■評価方法

授業への出席 35%、定期試験 40%、提出物/レポート課題 25%（詳細は初回到説明）

■教科書

山口勝己：「子ども理解と発達臨床」北大路書房 2007.

■参考書

授業内で適宜紹介

科目名	臨床心理学特講	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	異常心理学、ローカル・セオリー、ゼネラル・セオリー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

対人援助職として、異常心理学に関する知識とそれに基づいた事例の個別性や臨床心理学的援助における留意点について理解を深める。

〔到達目標〕

- ①各発達段階で代表的な「こころの失調/異常」の特徴と対応について説明できるようになる。
- ②「こころの失調/異常」の背景に存在する個別性と一般性について検討を行うことができるようになる。

■授業の概要

異常心理学とは、「行動や人格(パーソナリティ)に認められる異常な現象を研究する対象とする分野の総称」と定義され、『病的障害としての異常(精神疾患や精神障害)』や『正常者における異常状態(催眠状態や物質による幻覚、ストレス反応)』が内容に含まれる。本講義では、これらについて発達段階ごとに一般論としての異常心理学の知識を紹介した上で、演習としてそれぞれの背景を検討することで対人援助職に求められる「個別性」に関する理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	病因論から見た事例の捉え方(外因・内因・心因)
第3回	乳幼児期における異常心理学①愛着の問題
第4回	乳幼児期における異常心理学②発達障害の早期療育
第5回	研究課題発表①
第6回	学齢期における異常心理学①心身症状の理解
第7回	学齢期における異常心理学②不登校といじめ被害
第8回	研究課題発表②
第9回	思春期・青年期における異常心理学①自傷行為と摂食障害
第10回	思春期・青年期における異常心理学②依存の問題
第11回	研究課題発表③
第12回	成人期・老人期における異常心理学①不適切な養育
第13回	成人期・老人期における異常心理学②性格/パーソナリティの病理
第14回	成人期・老人期における異常心理学③妄想や幻覚(統合失調症, 認知症)
第15回	研究課題発表④

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・演習や発表を含む講義であるため、欠席/遅刻等については厳密に連絡を行うこと。
- ・講義内で各自の興味/関心に応じて研究課題を設定・発表を行うことを求める。初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また、やむを得ない理由で欠席した場合には後日報告にいくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・各回の中で課題(主に予習/復習に関する調べ学習)を設定する。図書館やコンピューター室を活用して積極的に参加すること。

■オフィスアワー

初回到説明。

■評価方法

授業への出席 35%、研究課題発表 35%、各回の提出物 30%(詳細は初回到説明)

■教科書

なし

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	老人心理学	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢期、高齢期の発達課題、認知症				

■授業の目的・到達目標

[目的]

高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。具体的には、加齢が及ぼす様々な心理的影響について理解し、それを踏まえた上で、高齢者の心理的側面への対応について考えることができるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①高齢期における様々な心理的特性について、理解できる。
- ②高齢期の心理的特性を理解した上で、どのようなサポートが大切か考えることができる。

■授業の概要

本講義では加齢が及ぼす心理的影響について論じるとともに、高齢者の心理への対応について考察する。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 老化とその心理的影響 ⇒ 高齢者への対応」という道筋で、高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 高齢者とは
第2回	発達心理学の方法と考え方
第3回	老化のとらえ方、老いの自覚
第4回	高齢者の感覚と知覚①
第5回	高齢者の感覚と知覚②
第6回	高齢者の知的機能とその特徴
第7回	高齢者の記憶機能とその特徴①
第8回	高齢者の記憶機能とその特徴②
第9回	高齢者のパーソナリティの特徴とその変容
第10回	生きがいについて
第11回	高齢者と死の受容
第12回	高齢期の精神医学的特徴
第13回	認知症
第14回	認知症高齢者と家族の問題
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・ 受講に際し、「福祉心理学」、「発達心理学a」、「心理学理論と心理的支援」を受講済みであることがのぞましい。
- ・ 予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・ 各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

[受講のルール]

- ・ 授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・ 他の受講生の迷惑になる行為(私語など)はしないこと。
- ・ 授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)、出席状況、受講態度等(40%)
 - ②学期末試験(60%)
- ①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤眞一・高山緑・増本康平著 『老いのころ 加齢と成熟の発達心理学』 有斐閣アルマ 2014年

■参考書

佐藤眞一 著 『ご老人は謎だらけ 老年行動学が解き明かす』 光文社新書 2011年
権藤恭之 編 『高齢者心理学』 朝倉書店 2008年

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（基礎教養科目）

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		学校教育C		児童福祉C		初等教育C		福祉士	精保士	認定心理	中学校	教(公認)	教(備)	教(特)	教(保)	児・初	児・初	初
				必修	選択																			
1	哲学	1	2	●		●		●		●		●					●	●			●			
2	倫理学	2	2	●		●		●		●		●					●	●				●		
3	心理学理論と心理的支援	1	2	●		●		●	●	●		●		●	●	●		●				●		
4	社会理論と社会システム	1	2	●			●	●		●		●	●	●			●	●						
5	日本国憲法	2	2		●		●	●		●		●					●	●	●				●	●
6	道徳教育研究	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●					●
7	健康論	1	2	●		●		●		●		●										●		
8	スポーツ・レクリエーション実技 (体育及びレクリエーション実技)	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●			●	●	●
9	情報処理演習	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●				●	●
10	福祉情報処理	3	2		●		●	●		●		●												
11	英語Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●			●	●	●
12	英語Ⅱ	1	2	●		●		●		●		●						●	●				●	
13	英語Ⅲ	2	2		●		●	●		●		●											▲	
14	英語Ⅳ	2	2		●		●	●		●		●											▲	
15	韓国語Ⅰ	2	2		●		●	●		●		●												
16	韓国語Ⅱ	2	2		●		●	●		●		●												
17	中国語Ⅰ	2	2		●		●	●		●		●												
18	中国語Ⅱ	2	2		●		●	●		●		●												
19	英会話	4	2		●		●	●		●		●											▲	●
20	経済学	2	2		●		●	●		●		●					▲	●						
21	政治学Ⅰ	4	2		●		●	●		●		●					●	●						
22	政治学Ⅱ	4	2		●		●	●		●		●					●	●						
23	人間と宗教	4	2		●		●	●		●		●						●						
24	生涯学習概論	4	2		●		●	●		●		●												
25	児童文学	3	2		●		●	●		●		●											▲	
26	読書指導と文芸	4	2		●		●	●		●		●											▲	
27	マスメディア論	4	2		●		●	●		●		●					▲	▲						
28	レクリエーション活動援助法	3	2		●		●	●		●		●												
29	特設科目・論語	4	2	●		●		●		●		●					●							
30	教育原理	1	2		●		●	●		●		●					●	●	●			●	●	●
31	日本史Ⅰ	2	2		●		●	●		●		●					●							
32	日本史Ⅱ	2	2		●		●	●		●		●					▲							
33	世界史	2	2		●		●	●		●		●					●							
34	地理学	2	2		●		●	●		●		●					●							
35	基礎演習Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●										●		
36	基礎演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●										●		
37	専門演習Ⅰ	3	2	●		●		●		●		●										●		
38	専門演習Ⅱ	4	2	●		●		●		●		●										●		
39	ボランティア活動Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●				●	●
40	ボランティア活動Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●					●	●	●				●	●
41	ボランティア活動Ⅲ	3	1		●		●	●		●		●												▲
42	ボランティア活動Ⅳ	4	1		●		●	●		●		●												▲

※配当年次変更中の科目があり、記載された配当年次と、今年度開講年次が異なる科目があります。履修ガイダンスで確認してください。

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（専門科目）

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉 C		福祉心理 C		学校教育 C		児童福祉 C		初等教育 C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高教(公)	高教(福)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択																		
1	人体の構造と機能及び疾病	1	2	●		●		●		●		●		●	●					●			
2	保健医療サービス	1	2	●		●		●		●		●		●	●					●			
3	現代社会と福祉	2	4	●		●		●		●		●		●	●					●		●	
4	高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4	●		●		●		●		●		●	●					●			
5	障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2	●		●		●		●		●		●	●					●			
6	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4	●		●		●		●		●		●	●					●		●	
7	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4	●		●		●		●		●		●	●					●			
8	相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4	●		●		●		●		●		●	●					▲			
9	相談援助演習Ⅰ	1	1	●		●		●		●		●		●	●					●		●	
10	相談援助演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●		●	●					▲		●	
11	相談援助演習Ⅲ	3	2	●		●		●		●		●		●	●					▲			
12	相談援助実習指導Ⅰ	2	1	●		●		●		●		●		●	●					●			
13	相談援助実習指導Ⅱ	3	2	●		●		●		●		●		●	●					●			
14	相談援助実習	3	4	●		●		●		●		●		●	●					●			
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2	●		●		●		●		●		●	●								
16	地域福祉の理論と方法	3	2	●		●		●		●		●		●	●				●	●			
17	社会福祉特講Ⅰ	1	1		●		●		●		●		●		●								
18	社会福祉特講Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●		●								
19	社会福祉特講Ⅲ	3	2		●		●		●		●		●		●								
20	社会福祉特講Ⅳ	4	2		●		●		●		●		●		●								
21	社会保障	2	4	●		●		●		●		●		●	●				●	●	▲		
22	権利擁護と成年後見制度	4	2	●		●		●		●		●		●	●				▲	▲			
23	更生保護制度	4	2	●		●		●		●		●		●	●				▲	▲			
24	社会調査の基礎	2	2	●		●		●		●		●		●	●					▲			
25	相談援助の基礎と専門職	1	4	●		●		●		●		●		●	●								
26	福祉行政と福祉計画	1	2	●		●		●		●		●		●	●								
27	福祉サービスの組織と経営	3	4	●		●		●		●		●		●	●								
28	就労支援サービス	4	2	●		●		●		●		●		●	●								
29	福祉心理学	1	2	●		●		●		●		●		●	●				▲		●	●	
30	社会福祉史	1	2	●		●		●		●		●		●	●					▲			
31	福祉事務所運営論	4	2	●		●		●		●		●		●	●								
32	精神疾患と治療	3	4		●		●		●		●		●		●								
33	精神保健の課題と支援	4	4		●		●		●		●		●		●								
34	精神保健福祉相談援助の基礎(専門)	1	2		●		●		●		●		●		●								
35	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	2	8		●		●		●		●		●		●								
36	精神保健福祉に関する制度とサービス	4	4		●		●		●		●		●		●								
37	精神障害者の生活支援システム	3	2		●		●		●		●		●		●								
38	精神保健福祉援助演習(基礎)	3	2		●		●		●		●		●		●								
39	精神保健福祉援助演習(専門)	4	2		●		●		●		●		●		●								
40	精神保健福祉援助実習指導	3・4	3		●		●		●		●		●		●								
41	精神保健福祉援助実習	4	4		●		●		●		●		●		●								
42	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		●		●		●		●		●		●								
43	心理学研究法	1	2		●	●		●		●		●		●	●								
44	学習心理学	1	2		●	●		●		●		●		●	●				▲				
45	発達心理学 a	1	4		●	●		●		●		●		●	●				▲		▲		
46	発達心理学 b(保育の心理学Ⅰ)	1	2		●		●		●		●		●		●							●	●
47	心理統計学	2	4		●	●		●		●		●		●	●								
48	老人心理学	2	2		●	●		●		●		●		●	●					▲		●	
49	障害児(者)心理学	2	2		●	●		●		●		●		●	●					▲		●	
50	教育心理学(保育の心理学Ⅱ)	1	2		●	●		●		●		●		●	●					●	●	●	●
51	認知心理学	3	2		●	●		●		●		●		●	●					▲			
52	社会心理学	3	2		●	●		●		●		●		●	●					▲			
53	臨床心理学	3	2		●	●		●		●		●		●	●					▲			
54	カウンセリング	4	2		●	●		●		●		●		●	●					▲		▲	
55	青年心理学	2	2		●		●		●		●		●		●								
56	公衆衛生学	2	2		●		●		●		●		●		●								
57	心理療法	3	2		●		●		●		●		●		●					▲			
58	人間関係論	2	2		●	●		●		●		●		●	●					▲			
59	国際福祉論	4	2		●		●		●		●		●		●								
60	人格心理学	3・4	2		●		●		●		●		●		●					▲			
61	住環境福祉論	4	2		●		●		●		●		●		●								
62	社会福祉法制	3	2		●		●		●		●		●		●								

※配当年次変更中の科目があり、記載された配当年次と、今年度開講年次が異なる科目があります。履修ガイドンスで確認してください。

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉 C		福祉心理 C		学校教育 C		児童福祉 C		初等教育 C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高教(公)	高教(備)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択																		
63	相談心理学	4	2		●		●		●							▲							
64	介護技術Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●						●				
65	介護技術Ⅱ	3	2		●		●		●		●		●						▲				
66	卒業研究	3・4	6		●		●		●		●		●										
67	心理学実験実習Ⅰ	2	4			●										●							
68	心理学実験実習Ⅱ	3	2			●										●							
69	心理学実験実習Ⅲ	3	2			●										▲							
70	発達心理学特講	4	2				●									▲							
71	臨床心理学特講	3・4	2				●									▲							
72	教職概論	2	2					●			●	●					●	●	●			●	●
73	教育社会学	2	2					●			●	●					●	●	●			●	●
74	社会科教育法Ⅰ	3	4						●								●						
75	社会科教育法Ⅱ	3	4						●								●						
76	公民科教育法	3	2						●									●					
77	福祉科教育法	2	2						●										●				
78	特別活動研究	3	2					●			●		●				●	●	●				●
79	教育方法論	2	2					●			●	●					●	●	●			●	●
80	生徒指導論	3	2					●			●		●				●	●	●				●
81	教育相談論	3	2					●			●		●				●	●	●				●
82	教職実践演習(中・高)	4	2						●								●	●	●				
83	教育実習事前・事後指導(高校)	2・3	1						●								●	●	●				
84	高等学校教育実習	3	4															●	●				
85	学校経営と学校図書館	3	2						●		●		●										
86	学校図書館メディアの構成	3	2						●		●		●										
87	学習指導と学校図書館	3	2						●		●		●										
88	読書と豊かな人間性	3	2						●		●		●										
89	情報メディアの活用	3	2						●		●		●										
90	障害者教育総論	2	2						●											●			
91	障害児教育総論	2	2						●											●			
92	重複障害教育総論	2	1						●											●			
93	知的障害教育Ⅰ	2	2						●											●			
94	肢体不自由教育Ⅰ	2	2						●											●			
95	知的障害者の心理・生理・病理	3	2						●											●			
96	肢体不自由者の心理・生理・病理	3	2						●											●			
97	知的障害教育Ⅱ	3	2						●											●			
98	肢体不自由教育Ⅱ	3	2						●											●			
99	病弱者の心理・生理・病理	4	2						●											●			
100	病弱教育	4	2						●											●			
101	L D等教育総論	4	2						●											●			
102	教育実習事前・事後指導(特支)	3・4	1						●											●			
103	特別支援学校教育実習	4	2						●											●			
104	中学校教育実習	3	4						●								●						
105	幼児理解	4	2								●	●										●	
106	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	4	2								●	●										●	
107	幼稚園教育実習	4	4								●	●										●	
108	生活科概論	2	2								●		●									▲	●
109	地域子育て支援論	4	2								●		●									▲	
110	青少年の理解と援助	4	2								●		●									▲	
111	人権教育論	4	2								●		●									▲	
112	保育原理Ⅰ	1	4							●		●									●	●	
113	社会的養護Ⅰ	2	2							●			●								●		
114	家族援助論	4	2							●			●								●	●	
115	保育内容 総論	4	1							●		●									●	●	
116	保育内容 健康	1	1							●		●									●	●	
117	保育内容 人間関係	2	1							●		●									●	●	
118	保育内容 環境	1	1							●		●									●	●	
119	保育内容 言葉	2	1							●		●									●	●	
120	保育内容 表現	3	1							●		●									●	●	
121	乳児保育Ⅰ(演習)	3	2							●			●								●		
122	障害児保育(演習)	2	1							●			●								●		
123	保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	2							●			●								●	●	
124	保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2							●			●								●	●	

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉 C		福祉心理 C		学校教育 C		児童福祉 C		初等教育 C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高教(公認)	高教(備)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校	
				必修	選択																			
125	保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1							●	●										●	●		
126	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3	1							●												●		
127	保育実習指導Ⅰ(施設)	2・3	1							●												●		
128	保育原理Ⅱ	3	2							●	●											●	●	
129	社会的養護Ⅱ	2	2							●		●										●		
130	乳児保育Ⅱ(演習)	4	1							●		●										●		
131	児童文化(演習)	4	2							●		●										●		
132	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	2	2							●	●											●	●	
133	保育の表現技術Ⅱ(幼児美術指導法)	3	2							●	●											●	●	
134	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2							●	●											●	●	
135	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4	2								●	●										▲	▲	
136	国語科概論	2	2									●												●
137	社会科概論	2	2									●												●
138	数学概論	2	2									●												●
139	理科概論	2	2									●												●
140	音楽概論	2	2									●												●
141	美術概論	2	2									●												●
142	家庭科概論	2	2									●												●
143	体育概論	2	2									●												●
144	小学校教育法(国語)	3	2									●												●
145	小学校教育法(社会)	4	2									●												●
146	小学校教育法(算数)	3	2									●												●
147	小学校教育法(理科)	4	2									●												●
148	小学校教育法(生活)	4	2									●												●
149	小学校教育法(音楽)	4	2									●												●
150	小学校教育法(図工)	3	2									●												●
151	小学校教育法(家庭)	4	2									●												●
152	小学校教育法(体育)	3	2									●												●
153	初等教育実習事前事後指導	3・4	1									●												●
154	小学校教育実習	4	4									●												●
155	教職実践演習(小学校)	4	2									●												●
156	保育実習Ⅰ(保育所)	3	2									●										●		
157	保育実習Ⅰ(施設)	2	2							●												●		
158	保育実習Ⅱ(保育所)	4	1							●		●										●		
159	子どもの保健Ⅰ	4	2							●		●										●		
160	子どもの保健Ⅱ	3	3							●		●										●		
161	社会的養護内容	2	1							●		●										●		
162	子どもの食と栄養	2	2							●		●										●		
163	保育者論	4	2								●													
164	保育課程論	3	2							●		●												

平成 27 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(社会福祉専攻・社会福祉コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会理論と社会システム	1	2		
日本国憲法	2		2	
道徳教育研究	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語 I	1	2		
英語 II	1	2		
英語 III (休講)	2		2	
英語 IV (休講)	2		2	
韓国語 I	2		2	
韓国語 II	2		2	
中国語 I	2		2	
中国語 II	2		2	
英会話	4		2	社会福祉専攻
経済学	2		2	社会福祉コースは
政治学 I	4		2	基礎教養科目にお
政治学 II	4		2	いては、必修科目
人間と宗教	4		2	17 科目 34 単位の
生涯学習概論	4		2	外に選択科目より
児童文学	3		2	8 単位以上履修
読書指導と文芸 (休講)	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1		2	
日本史 I	2		2	
日本史 II	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
基礎演習 I	1	2		
基礎演習 II	2	2		
専門演習 I	3	2		
専門演習 II	4	2		
ボランティア活動 I	1	2		
ボランティア活動 II	2	2		
ボランティア活動 III	3		1	
ボランティア活動 IV	4		1	

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法 I	2	4		
相談援助の理論と方法 II	3	4		
相談援助演習 I	1	1		
相談援助演習 II	2	2		
相談援助演習 III	3	2		
相談援助実習指導 I	2	1		
相談援助実習指導 II	3	2		
相談援助実習	3	4		
低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		
地域福祉の理論と方法	3	2		
社会保障	2	4		
権利擁護と成年後見制度	4	2		
更生保護制度	4	2		
社会調査の基礎	2	2		
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉行財政と福祉計画	1	2		
福祉サービスの組織と経営	3	4		
就労支援サービス	4	2		
福祉心理学	1	2		
社会福祉史	1	2		
福祉事務所運営論	4	2		
精神疾患とその治療	4		4	社会福祉専攻
精神保健の課題と支援	4		4	社会福祉コースは
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	1		2	専門科目において
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	2		4	は、必修科目の外
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II	3		4	科目 68 単位の外
精神保健福祉に関する制度とサービス	4		4	に選択科目より
精神障害者の生活支援システム	2		2	14 単位以上履修
精神保健福祉援助演習(基礎)	3		2	のこと
精神保健福祉援助演習(専門)	4		2	ただし、社会福祉
精神保健福祉援助実習指導 I	3		1	士受験資格を取得
精神保健福祉援助実習指導 II	4		2	しない者は、相
精神保健福祉援助実習	4		4	談援助演習 III (2
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	単位)、相談援助
心理学研究法	1		2	実習指導 I (1 単
学習心理学	1		2	位)、相談援助実
発達心理学 a	1		4	習指導 II (2 単
心理統計学	2		4	位)、相談援助実
老人心理学	2		2	習(4 単位)の計
障害児(者)心理学	2		2	9 単位分について
教育心理学	1		2	は、選択科目より
認知心理学	3		2	14 単位を超えた
社会心理学	3		2	分の単位数を充て
臨床心理学	3		2	ることができると
カウンセリング	4		2	とする。
青年心理学	2		2	
公衆衛生学	2		2	
心理療法	3		2	
人間関係論	2		2	
国際福祉論	4		2	
人格心理学	3~		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
相談心理学	4		2	
介護技術 I	2		2	
介護技術 II	3		2	
卒業研究	3		6	
卒業研究	4			
社会福祉特講 I	1		1	
社会福祉特講 II	2		2	
社会福祉特講 III	3		2	
社会福祉特講 IV	4		2	
介護体験実習 I	4		1	
介護体験実習 II	4		1	
介護体験実習指導	4		1	
社会福祉専攻社会福祉コース 最低履修単位	124	単位		

平成 27 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(社会福祉専攻・福祉心理コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
道徳教育研究	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			心理学研究法	1	2		
英語Ⅱ	1	2			学習心理学	1	2		
英語Ⅲ(休講)	2		2		発達心理学 a	1	4		
英語Ⅳ(休講)	2		2		心理統計学	2	4		
韓国語Ⅰ	2		2		教育心理学	1	2		
韓国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅰ	2	4		
中国語Ⅰ	2		2		心理学実験実習Ⅱ	3	2		
中国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅲ	3	2		
英会話	4		2	社会福祉専攻 福祉心理コースは 基礎教養科目にお いては、必修科目 16科目32単位の 外に選択科目より 8単位以上履修	認知心理学	3	2		
経済学	2		2		社会心理学	3	2		
政治学Ⅰ	4		2		臨床心理学	3	2		
政治学Ⅱ	4		2		カウンセリング	4	2		
人間と宗教	4		2		人間関係論	2	2		
生涯学習概論	4		2		老人心理学	2	2		
児童文学	3		2		障害児(者)心理学	2	2		
読書指導と文芸(休講)	4		2		青年心理学	2		2	
マスメディア論	4		2		心理療法	3		2	} 2科目4単位 以上選択必修
レクリエーション活動援助法	3		2		人格心理学	3~		2	
特設科目・論語	4	2			相談心理学	4		2	
教育原理	1		2		相談援助演習Ⅰ	1		1	
日本史Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2		2	
日本史Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
世界史	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
地理学	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
基礎演習Ⅰ	1	2			相談援助実習	3		4	
基礎演習Ⅱ	2	2			低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	社会福祉専攻 福祉心理コースは 専門科目において は、必修科目25 科目68単位の外 に選択必修科目よ り2科目4単位以 上、その他の選択 科目より12単位 以上履修のこと
専門演習Ⅰ	3	2			地域福祉の理論と方法	3		2	
専門演習Ⅱ	4	2			社会保障	2		4	
ボランティア活動Ⅰ	1	2			権利擁護と成年後見制度	4		2	
ボランティア活動Ⅱ	2	2			更生保護制度	4		2	
ボランティア活動Ⅲ	3		1		社会調査の基礎	2		2	
ボランティア活動Ⅳ	4		1		福祉行政と福祉計画	1		2	
					福祉サービスの組織と経営	3		4	
					就労支援サービス	4		2	
					社会福祉史	1		2	
					福祉事務所運営論	4		2	
					公衆衛生学	2		2	
					国際福祉論	4		2	
					住環境福祉論	4		2	
					社会福祉法制	3		2	
					発達心理学特講	4		2	
					臨床心理学特講	3~		2	
					介護技術Ⅰ	2		2	
					介護技術Ⅱ	3		2	
					精神疾患とその治療	4		4	
					精神保健の課題と支援	4		4	
					精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	1		2	
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2		4	
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3		4	
					精神保健福祉に関する制度とサービス	4		4	
					精神障害者の生活支援システム	2		2	
					精神保健福祉援助演習(基礎)	3		2	
					精神保健福祉援助演習(専門)	4		2	
					精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3		1	
					精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4		2	
					精神保健福祉援助実習	4		4	
					卒業研究	3		6	
					卒業研究	4			
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	4		1	
					介護体験実習Ⅱ	4		1	
					介護体験実習指導	4		1	
					社会福祉専攻福祉心理コース 最低履修単位	124		単位	

平成 27 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(社会福祉専攻・学校教育コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1		2	
社会理論と社会システム	1		2	
日本国憲法	2	2		
道德教育研究	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語 I	1	2		
英語 II	1	2		
英語 III(休講)	2		2	
英語 IV(休講)	2		2	
韓国語 I	2		2	
韓国語 II	2		2	
中国語 I	2		2	
中国語 II	2		2	
英会話	4		2	社会福祉専攻
経済学	2		2	学校教育コースは
政治学 I	4		2	基礎教養科目にお
政治学 II	4		2	いては、必修科目
人間と宗教	4		2	17 科目 34 単位の
生涯学習概論	4		2	外に選択科目より
児童文学	3		2	8 単位以上履修
読書指導と文芸(休講)	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1	2		
日本史 I	2		2	
日本史 II	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
基礎演習 I	1	2		
基礎演習 II	2	2		
専門演習 I	3	2		
専門演習 II	4	2		
ボランティア活動 I	1	2		
ボランティア活動 II	2	2		
ボランティア活動 III	3		1	
ボランティア活動 IV	4		1	

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法 I	2	4		
相談援助の理論と方法 II	3	4		
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉心理学	1	2		
教育心理学	1	2		
教職概論	2	2		
教育社会学	2	2		
心理学研究法	1		2	
学習心理学	1		2	
発達心理学 a	1		4	
心理統計学	2		4	
認知心理学	3		2	
社会心理学	3		2	
臨床心理学	3		2	
カウンセリング	4		2	
人間関係論	2		2	
老人心理学	2		2	
障害児(者)心理学	2		2	
青年心理学	2		2	
心理療法	3		2	
人格心理学	3		2	
相談心理学	4		2	
相談援助演習 I	1		1	
相談援助演習 II	2		2	
相談援助演習 III	3		2	
相談援助実習指導 I	2		1	
相談援助実習指導 II	3		2	
相談援助実習	3		4	
低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
地域福祉の理論と方法	3		2	
社会保障	2		4	
権利擁護と成年後見制度	4		2	
更生保護制度	4		2	
社会調査の基礎	2		2	
福祉行政と福祉計画	1		2	
福祉サービスの組織と経営	3		4	
就労支援サービス	4		2	社会福祉専攻
社会福祉史	1		2	学校教育コースは
福祉事務所運営論	4		2	専門科目において
公衆衛生学	2		2	は、必修科目 17
国際福祉論	4		2	科目 46 単位の外
住環境福祉論	4		2	に選択科目より
社会福祉法制	3		2	36 単位以上履修
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	のこと
介護技術 I	2		2	
介護技術 II	3		2	
社会科教育法 I	2		4	
社会科教育法 II	2		4	
公民科教育法	3		4	
福祉科教育法	2		4	
特別活動研究	3	2		
教育方法論	2	2		
生徒指導論	3	2		
教育相談論	3	2		
教職実践演習(中・高)	4		2	
教育実習事前・事後指導(中・高)	2-3		1	
高等学校教育実習	3		2	
学校経営と学校図書館	3		2	
学校図書館メディアの構成	3		2	
学習指導と学校図書館	3		2	
読書と豊かな人間性	3		2	
情報メディアの活用	3		2	
障害者教育総論	2		2	
障害児教育総論	2		2	
重複障害教育総論	2		1	
知的障害教育 I	2		2	
肢体不自由教育 I	2		2	
知的障害者の心理・生理・病理	3		2	
肢体不自由者の心理・生理・病理	3		2	
知的障害教育 II	3		2	
肢体不自由教育 II	3		2	
病弱者の心理・生理・病理	4		2	
病弱教育	4		2	
LD 等教育総論	4		2	
教育実習事前・事後指導(特支)	4		1	
特別支援学校教育実習	4		2	
中学校教育実習	3		4	
高等学校教育実習	3		2	
卒業研究	3		6	
卒業研究	4			
社会福祉特講 I	1		1	
社会福祉特講 II	2		2	
社会福祉特講 III	3		2	
社会福祉特講 IV	4		2	
介護体験実習 I	3		1	
介護体験実習 II	3		1	
介護体験実習指導	3		1	
社会福祉専攻学校教育コース 最低履修単位			124 単位	

平成 27 年度 群馬社会福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 (子ども専攻・児童福祉コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会理論と社会システム	1		2	
日本国憲法	2		2	
道徳教育研究	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語Ⅰ	1	2		
英語Ⅱ	1	2		
英語Ⅲ(休講)	2		2	
英語Ⅳ(休講)	2		2	
韓国語Ⅰ	2		2	
韓国語Ⅱ	2		2	
中国語Ⅰ	2		2	
中国語Ⅱ	2		2	
英会話	4		2	子ども専攻
経済学	2		2	児童福祉コースは
政治学Ⅰ	4		2	基礎教養科目にお
政治学Ⅱ	4		2	いては、必修科目
人間と宗教	4		2	16科目32単位の
生涯学習概論	4		2	外に選択科目より
児童文学	3		2	6単元以上履修
読書指導と文芸(休講)	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1		2	
日本史Ⅰ	2		2	
日本史Ⅱ	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
基礎演習Ⅰ	1	2		
基礎演習Ⅱ	2	2		
専門演習Ⅰ	3	2		
専門演習Ⅱ	4	2		
ボランティア活動Ⅰ	1	2		
ボランティア活動Ⅱ	2	2		
ボランティア活動Ⅲ	3		1	
ボランティア活動Ⅳ	4		1	

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法Ⅰ	2		4	
相談援助の理論と方法Ⅱ	3		4	
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉心理学	1	2		
教職概論	2		2	
教育社会学	2		2	
カウンセリング	4		2	
相談援助演習Ⅰ	1			
相談援助演習Ⅱ	2	1		
相談援助演習Ⅲ	3		2	
相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
相談援助実習	3		4	
低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
地域福祉の理論と方法	2		2	
社会保障	3		4	
権利擁護と成年後見制度	4		2	
更生保護制度	4		2	
社会調査の基礎	2		2	
福祉行財政と福祉計画	1		2	
福祉サービスの組織と経営	3		4	
就労支援サービス	4		2	
社会福祉史	1		2	
福祉事務所運営論	4		2	
公衆衛生学	2		2	
国際福祉論	4		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
幼児理解	4		2	
幼稚園教育実習事前事後指導	4		2	子ども専攻
幼稚園教育実習	4		4	児童福祉コースは
生活科概論	2		2	
地域子育て支援論	4		2	専門科目において
青少年の理解と援助	3		2	は、必修科目43科
人権教育論	4		2	目83単位の外に選
介護技術Ⅰ	2		2	択科目より3単位
介護技術Ⅱ	3		2	以上履修のこと
特別活動研究	3		2	ただし、保育士資
教育方法論	2		2	格を取得しない者
生徒指導論	3		2	は、保育実習Ⅰ(保
教育相談論	3		2	育所)(2単位)、
保育教職実践演習	4		2	保育実習Ⅰ(施設)
学校経営と学校図書館	3		2	(2単位)、保育実
学校図書館メディアの構成	3		2	習Ⅱ(保育所)(2
学習指導と学校図書館	3		2	単位)、保育実習
読書と豊かな人間性	3		2	指導Ⅰ(保育所)(1
情報メディアの活用	3		2	単位)、保育実習
保育原理Ⅰ	1		4	指導Ⅰ(施設)(1
社会的養護Ⅰ	2		2	単位)、保育実習
発達心理学(保育の心理学Ⅰ)	1		2	指導Ⅱ(保育所)(1
教育心理学(保育の心理学Ⅱ)	1		2	単位)の計9単位
子どもの保健Ⅰ	4		4	分については、選
子どもの保健Ⅱ	3		1	択科目より3単位
子どもの食と栄養	2		2	を超えた分の単位
家庭支援論	4		2	数を充てることが
保育内容 総論	4		1	できるものとする。
保育内容 健康	2		1	
保育内容 人間関係	2		1	
保育内容 環境	2		1	
保育内容 言葉	2		1	
保育内容 表現	2		1	
乳児保育Ⅰ	3		2	
障害児保育	4		1	
社会的養護内容	2		1	
保育の表現技術Ⅰ音楽	1		2	
保育の表現技術Ⅰ園芸工作	1		2	
保育の表現技術Ⅰ体育	1		1	
保育実習Ⅰ(保育所)	3		2	
保育実習Ⅰ(施設)	2		2	
保育実習Ⅱ(保育所)	4		2	
保育実習指導Ⅰ(保育所)	3		1	
保育実習指導Ⅰ(施設)	2・3		1	
保育実習指導Ⅱ(保育所)	4		1	
保育教職実践演習	4		2	
保育原理Ⅱ(休講)	3		2	
社会的養護Ⅱ	3		2	
乳児保育Ⅱ(休講)	4		1	
児童文化(演習)	1		2	
保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	2		2	
保育の表現技術Ⅱ(幼児美術指導法)	3		2	
保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3		2	
保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4			
臨床心理学	3		2	
保育者論	3			
保育課程論	3			
卒業研究	3			
卒業研究	4		6	
社会福祉特講Ⅰ	1		1	
社会福祉特講Ⅱ	2		2	
社会福祉特講Ⅲ	3		2	
社会福祉特講Ⅳ	4		2	
介護体験実習Ⅰ	3		1	
介護体験実習Ⅱ	3		1	
介護体験実習指導	3		1	
子ども専攻児童福祉コース 最低履修単位			124単位	

平成 27 年度 群馬社会福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 (子ども専攻・初等教育コース)

授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会理論と社会システム	1		2	
日本国憲法	2	2		
道徳教育研究	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語Ⅰ	1	2		
英語Ⅱ	1	2		
英語Ⅲ	2	2		
英語Ⅳ	2	2		
韓国語Ⅰ	2	2		
韓国語Ⅱ	2	2		
中国語Ⅰ	2	2		
中国語Ⅱ	2	2		
英会話	4	2		
経済学	2	2		
政治学Ⅰ	4	2		
政治学Ⅱ	4	2		
人間と宗教	4	2		
生涯学習概論	4	2		
児童文学	3	2		
読書指導と文芸(休講)	4	2		
マスメディア論	4	2		
レクリエーション活動援助法	3	2		
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1	2		
日本史Ⅰ	2	2		
日本史Ⅱ	2	2		
世界史	2	2		
地理学	2	2		
基礎演習Ⅰ	1	2		
基礎演習Ⅱ	2	2		
専門演習Ⅰ	3	2		
専門演習Ⅱ	4	2		
ボランティア活動Ⅰ	1	2		
ボランティア活動Ⅱ	2	2		
ボランティア活動Ⅲ	3		1	
ボランティア活動Ⅳ	4		1	

授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法Ⅰ	2		4	
相談援助の理論と方法Ⅱ	3		4	
相談援助の基礎と専門職	1	4		
福祉心理学	1	2		
教職概論	2	2		
教育社会学	2	2		
カウンセリング	4		2	
相談援助演習Ⅰ	1		1	
相談援助演習Ⅱ	2		2	
相談援助演習Ⅲ	3		2	
公衆衛生学	2		2	
国際福祉論	4		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
幼児理解	4	2		
幼稚園教育実習事前事後指導	4	2		
幼稚園教育実習	4	4		
地域子育て支援論	4		2	
青少年の理解と援助	3		2	
人権教育論	4		2	
国語科概論	2		2	
社会科概論	2		2	
数学概論	2		2	
理科概論	2		2	
生活科概論	2		2	
音楽概論	2		2	
美術概論	2		2	
家庭科概論	2		2	
体育概論	2		2	
小学校教科教育法(国語)	3		2	
小学校教科教育法(社会)	4		2	
小学校教科教育法(算数)	3		2	
小学校教科教育法(理科)	4		2	
小学校教科教育法(生活)	4		2	
小学校教科教育法(音楽)	4		2	
小学校教科教育法(図工)	3		2	
小学校教科教育法(家庭)	4		2	
小学校教科教育法(体育)	3		2	
初等教育実習事前事後指導	3-4		4	
小学校教育実習	4		1	
介護技術Ⅰ	2		2	
介護技術Ⅱ	3		2	
特別活動研究	3		2	
教育方法論	2	2		
生徒指導論	3		2	
教育相談論	3		2	
保育教職実践演習	4		2	
教職実践演習(小学校)	4		2	
学校経営と学校図書館	3		2	
学校図書館メディアの構成	3		2	
学習指導と学校図書館	3		2	
読書と豊かな人間性	3		2	
情報メディアの活用	3		2	
教育原理Ⅰ	1	4		
社会的養護Ⅰ	2		2	
発達心理学(保育の心理学Ⅰ)	1	2		
教育心理学(保育の心理学Ⅱ)	1		2	
子どもの保健Ⅰ			4	
子どもの保健Ⅱ	4		1	
子どもの食と栄養	3		2	
家庭支援論	2	2		
保育内容 総論	4	1		
保育内容 健康	4	1		
保育内容 人間関係	2	1		
保育内容 環境	2	1		
保育内容 言葉	2	1		
保育内容 表現	2	1		
乳児保育Ⅰ	2		2	
障害児保育	3		1	
社会的養護内容	4		1	
保育の表現技術Ⅰ 音楽	2	2		
保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2		
保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1		
保育実習Ⅰ(保育所)	1		2	
保育実習Ⅰ(施設)	3		2	
保育実習Ⅱ(保育所)	2		2	
保育実習指導Ⅰ(保育所)	4		1	
保育実習指導Ⅰ(施設)	3		1	
保育実習指導Ⅱ(保育所)	2-3		1	
保育原理Ⅱ(休講)	4	2		
社会的養護Ⅱ	3		2	
乳児保育Ⅱ(休講)	3		1	
児童文化(演習)	4		2	
保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	1	2		
保育の表現技術Ⅱ(幼児美術指導法)	2	2		
保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2		
保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)	3		2	
臨床心理学	4		2	
保育者論	3		2	
保育課程論	3		2	
卒業研究	3			
卒業研究	3		6	
介護体験実習Ⅰ	4		1	
介護体験実習Ⅱ	3		1	
介護体験実習指導	3		1	
子ども専攻初等教育コース 最低履修単位			124 単位	

教科書の購入について

各シラバスに記載されている教科書は必ず購読し、毎授業に持参することが大学生としての基本です。

文部科学省は『大学における教育内容・方法の改善等について』において以下のように答申している。

単位制度は、教室での授業と授業の事前・事後の準備学習・復習を合わせて単位を授与することを前提としており、各大学において1単位当たりの必要な授業時間を確保するとともに、学生には大学の教室で授業を受けるだけでなく、教室外においても自主的な学習を行うことが求められます。

つまり、大学において単位を取得するためには教室での授業及び授業の事前・事後の準備学習・復習が重要です。事前・事後の準備学習・復習のためには教科書の購入が必須であり、学校のロッカーに教科書を入れているという現状はこの準備学習・復習をしていないということを顕著に表しています。

今年度は必ず、教科書を購入するとともに自宅で準備学習・復習をする習慣を身に付けてください。

また、学習方法がわからない場合や学習内容でわからない場合は、教職員に聞いてみましょう。また、図書館で学習する習慣をつけることで、最終学年で受験するであろう社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験の受験対策にもつながります。

以下に専攻・コースにおける必携書籍を提示するので、必ず購入し授業及び準備学習・復習に役立ててください。

社会福祉学部及び短期大学部の学生

◆社会福祉6法（社会福祉小6法）

※出版社は指定しないが法改正があるため、毎年購入することが望ましい。

◆国語辞典

◆漢和辞典

◆英和辞典

※国語辞典、漢和辞典、英和辞典は高校等で使っていたものでかまわない。

◆社会福祉用語辞典